ひみとハンドボール

創立30周年 1984

氷見市ハンドボール協会

輝 く 栄 光

賞 状
第32回国民体育大会
秋季大会
ハンドボール競技
少年男子 第1位
富山県
昭和52年10月7日
第32回国民体育大会
会長 河野謙三

賞 状
第33回国民体育大会
秋季大会
ハンドボール競技
少年男子 第1位
富山県
氷見高校
監督 徳前啓人
昭和53年10月20日
第33回国民体育大会
会長 河野謙三

賞 状
第34回国民体育大会
秋季大会
ハンドボール競技
少年男子 第1位
富山県
昭和54年10月19日
第34回国民体育大会
会長 河野謙三

賞 状
第13回国民体育大会
秋季大会
昭和33年10月20日より4日間
ハンドボール
高校男子 第1位
富山県
氷見高等学校
昭和33年10月25日
第13回国民体育大会
会長 東龍太郎

賞 状
第36回国民体育大会
秋季大会
ハンドボール競技
少年男子 第2位
富山県
昭和58年10月18日
第36回国民体育大会
会長 河野謙三

表彰状
ハンドボール
読売新聞社

輝く栄光

あ　い　さ　つ

氷見市ハンドボール協会
会長　早崎幸一

氷見市ハンドボール協会が創立30周年を迎えるにあたり、記念誌「ひみとハンドボール」を刊行することになりました。戦後各種スポーツの急速な発展をとげてまいりましたが、氷見におきましても昭和22年、嶋田新太郎氏が当時の氷見高等女学校に着任、女子のハンドボール部が創立され、第２回石川国体に出場したのが氷見に於けるハンドボール競技の始まりであります。しかし、今日までの間幾多の苦難の道があった事は云うまでもありません。戦後の昭和20年台は物心両面に誠に貧困な苦難な時代にもかゝわらず、ひたすらハンドボールを愛し競技に打込んでこられた多くの先輩の方々の賜物であり、栄光への夢を果すべく後輩へと熱い血脈として受け継がれ、今日の発展を見ることの出来ますことは誠に喜ばしく、その努力に対し敬意と感謝の念にたえません。こゝに私は競技力の向上と普及発展は多くの人々のより良い理解と協力、そして支援がなくてはなりません。その展望にたって昭和29年、初代会長高沢清甫の元関係者の御尽力に依り協会が創立、県内大会、北陸三県大会、北信越大会の開催に可能な体制が出来たのであります。その後組織の強化と充実にともない昭和31年第６回中部日本総合選手権大会、昭和32年第９回全日本総合選手権大会と、昭和33年氷見高校ハンドボール優勝、比美クラブ（有磯ＯＧ）４位入賞と、氷見市民が感動と興奮に沸き立った第13回富山国体が開催されたのであります。その成功と大会運営の実績がみとめられ、昭和36年第27回全日本高等学校ハンドボール選手権大会が開催され名実共に全国に氷見の名を知らしめることが出来、氷見市におけるハンドボール競技の向上と普及発展に大きく寄与する事と成ったのであります。その施設、進行、運営に大きく手をお貸し下された当時の堂故市長、片折市長を始め、市教育委員会そして市当局あげての御支援御協力は大会成功への原動力となったことは今日のハンドボール関係者には決して忘れてはならない事実として知らねばなりません。今あらためて当時の御協力を戴きました関係者に対し厚く御礼を申し上げる次第であります。

近年急速なるスポーツの普及発展の中で特に地域スポーツの振興はめざましいものがあります。氷見市に於いても市民ぐるみのスポーツ振興と「健康都市」の宣言にあわせ、昭和51年第27回全日本高等学校ハンドボール選手権大会、又氷見市制30周年記念事業の一つとして、昭和57年第11回全国中学校ハンドボール大会が開催され、茶谷市長を始め市当局あげての大会成功への御協力と御支援は記憶に新しいところであります。「ハンドボールのひみ」、「ひみのハンドボール」、と今日全国のハンドボール愛好者はもちろん、多くの方々から云われるのも市と市民とハンドボール関係者の三位一体となった御支援御協力の賜物であります。いま競技力の向上と競技人口の増大そして底辺の拡大が少年少女までに及んだ事は誠に喜ばしい限りであります。西山選手のオリンピック出場、氷見高校チームの国体三連覇を筆頭に、それに準ずる各チームの栄光とその戦績は体力の限りをつくし不屈の精神と栄光への執念に燃え試練に打勝った選手諸君と指導者の御功績の賜物でありその栄誉と成果を往時を偲び記念誌にとゞめ、後世に伝えることの出来ます事は、心より敬意をもって感謝を申し上げるしだいであります。今後ハンドボール競技の普及発展が地域スポーツの振興に大きく寄与すべく決意を新たにいたし、関係者の一層の奮起を期待するものでありますれば関係各位の一層の御指導と御支援をお願い申し上げるしだいでございます。最後に記念誌の編集に御尽力下さいました編集委員並びに関係されました各位に対し、その御苦労に厚く御礼を申し上げごあいさつと致します。

氷見市ハンドボール協会
創立30周年を祝して

氷見市長　茶　谷　一　男

このたび、氷見市ハンドボール協会が設立30周年という輝かしい年を迎えられ、その記念誌を刊行されますことは、まことに意義深いことと心からお祝い申し上げます。

貴協会は、昭和29年４月県内他市に先がけて設立され、以来各種全国大会等に出場して優秀な成績をおさめられるとともに、後継者の指導育成に尽力され、また本市において開催された全日本総合選手権大会、国民体育大会ハンドボール競技、全国高等学校選手権大会、全国中学校ハンドボール大会等の際にはその受け入れに種々ご協力いただき、ハンドボール競技を通じて氷見市の名を広く全国的に知らしめられた功績は大きいものがあり、深く感謝申し上げる次第であります。

近代オリンピックの父といわれるクーベルタンは「筋肉のたくましい体の中で火のように燃える魂」とスポーツ精神を歌いあげておりますが、それはスポーツを実践することにより、体を鍛えることはもちろん、身に宿る精神を高揚せしめることにあることを強調した言葉であります。

最近の子どもは、とんだりはねたりする攻撃的な体力はあるが、物事に耐える防衛的な体力に劣っているといわれ、そうした忍耐力の欠如が近年における青少年非行化の原因の一つであるともいわれております。

与えられたルールの中で、自己のベストを尽くす集中力やがんばり精神を養うのがスポーツのよさであり、医学的にもスポーツが知力の向上に役立つことが証明されており、青少年の健全育成のためにもスポーツの奨励の必要性を痛感するものであります。

市といたしましても、市政の基本理念を「心豊かな健康都市」の創造において諸施策を推進しているところであります。なかでも皆様すでにご承知のとおり、市民待望の総合体育館は、本年３月完成を目途に着々と建設が進められており、これが完成の暁には真に市民のスポーツの殿堂として大きな役割を果たすものと確信するところでありますが、今後さらに、心身ともに健康で明るい市民生活が営めるスポーツ都市づくりに力を注いでまいりたいと念願いたしております。

どうか皆様方におかれましても30年という節目の年を契機に、これまでの実績を基盤として、今後一層協会の充実を図られハンドボールの普及向上につとめられますとともに、本市スポーツ界の一翼として健康文化都市の建設にご協力賜りますようお願い申し上げましてお祝いのことばといたします。

創立30周年を祝して

富山県ハンドボール協会
会長　高田義一

氷見市ハンドボール協会の創立30周年を心からお祝い申し上げます。氷見市協会の設立は第13回国体開催を機に氷見市が会場決定とともに昭和29年と聞き及んでおります。爾来今日まで富山県ハンドボールの歴史の中に常にリーダーシップ的の存在として活躍いたゞいた事は誰しも認めるところであり衷心より感謝致しております。

富山県の協会長は私が三代目でありますが、初代，二代ともに氷見市出身の江上，広瀬両氏であったことにも証明できるように，本県ハンドボール創生期から今日まで絶え間ない御協力は県協会の運営は勿論，技術の向上，人材の育成，或いは各種全国レベルの大会開催など，そして最近では小学校児童のスポーツ教室にあわせて他県との交歓大会の交流も欠かせない特筆事項かと存じております。富山県民体育大会のハンドボール競技のなかにママさんチームの出場で華をそえていたゞいたのも氷見市協会のお力添えのあった賜物と思っております。

氷見市技といわれるまでハンドボール競技が市民の皆さんに浸透することは，小矢部市のホッケーとともに富山県が誇る国体開催による大きな遺産であり，今日富山県が「県民１スポーツ」の実践を唱え，広く呼びかけている発想には氷見市や小矢部市の実績があったと思います。

氷見市ハンドボール協会の初代会長は故高沢清甫氏でありますが，二代の嶋田新太郎氏は日本のプレヤーであったと共に本県ハンドボール競技の草分けであり，県協会設立の大貢献者であります。嶋田氏の指導による立派なプレーヤー，優れた指導者によって育成された伝統は今尚受け継がれ今日の市協会の発展に大きく寄与されていると思います。氷見高校，有磯高校のＯＢ，ＯＧの皆さんによって構成され運営されている市協会の歴史はまた氷見市スポーツの顔であり，全国に誇り得る自慢の一つであろうかと思い，市長さんを始め議会の皆さん，或いは市民の方々の市の紹介で欠かす事のできない事柄と存じています。

氷見高校の国民体育大会少年の部で三連勝，四回の優勝と云う日本ハンドボール競技史上でも数少ない輝かしい業績，そして育ぐくまれた西山清君と云うロスオリンピック選手の輩出，有磯ＯＧの日本女子チームとして世界選手権に出場した竹本千恵子さん，最近では日本学生選抜チームの主将である金原理博君（日本大学）などの例に見るように数多くのジャパンプレィヤーが研を競い，そして後輩が続出している事も他に例を見ないのではないでしょうか。

氷見市協会の運営は現会長，早崎幸一氏の就任によって愈々充実され開花されたと思います。

献身的な御努力は今更申し上げるまでもございませんが，自からのプレー体験と社会的キャリアがうまく結合した統率力は高く評価されているところでありますが，その実績は氷見クラブの活躍であろうかと思っております。有磯OGで組織されている「比美クラブ」が32年の全日本総合選手権に３位入賞，富山国体では「氷見クラブ」として出場し見事４位入賞しており，以後男子の「氷見クラブ」は国体に数え切れない程の出場で，本県の成績にも貢献し，また全国クラブ大会での上位入賞など職場チームと違って，全てのハンディを克服しての活躍は，後輩に大きな励みと，技術の指導はもとより，県内のクラブチームに大きな切磋琢磨となっております。

伝統と云う輝かしい火を消すことは罪悪と云わねばなりません。アマチュアスポーツにとって，これ程困難なものはありません。組織があっても有名無実で人もいない，育っていない，或いは，優秀なプレイヤーがいても活躍する場の組織がなければこれも大きなロスと云わざるを得ません。加えて人がいて，組織があったとしても，運営をし，活動する財的に支障があれば一層の口惜しさがでてきます。一口に強い，立派だ，良くやっていると云われる程，その陰にはこうした苦労の数々が秘められており伝統を守ることのむずかしさは並大低ではないと思います。このことの認識を会長を始め役員の方々の力だけでは維持できないので，構成するメンバーの全員の認識として受けとめて，子から孫へと自分達の誇りを伝承していただければと念じております。愈々氷見市協会の自戒と自覚を深め，連帯意識を強化して，益々の御発展と充実を心からお祈りしております。

創立30年を祝して

氷見市体育協会
会長　倉田　卓

この度、氷見市ハンドボール協会が、めでたく創立30年を迎えられ、その祝賀の運びになりましたことは、本市体育史上における画期的なものとして誠に意義深く、心からお慶び申し上げます。

昭和21年４月、郡体育協会設立、次いで市体育協会設立以来１郡１市の合併によって２組織が新らたにまとまり、氷見市体育協会となり今日に及んでおります。そして、氷見送球協会も富山県送球協会援助のもと昭和24年に設立、準備の運びとなりました。そして、第２回県民体育大会は、ハンドボール競技として参加発足の年でありました。爾来昭和33年、第13回国民体育大会が本県で開催され、ハンドボール競技は一般男女が氷見市会場となり優秀なる成績を挙げ、立派に国民体育大会の成功を遂げ、いやが上にも氷見市民全体にその好評はゆきわたり、ハンドボール競技の普及と関心が一層高まり、スポーツの氷見市技にまで名声を博し、ハンドボールの街として認識されるにいたりました。

しかし、今日のハンドボール競技発展にあたり、関係機関は勿論、先輩の皆様、地元の方々の絶大なる協力とご支援によることは申すに及びませんが、氷見市ハンドボール協会の役員、そして後援者の皆々様が共に、市民の健康と体力増強のため、また健全な青少年の育成に、今後とも競技力の向上、技術の練磨、そして協会の充実と大なる飛躍を願い、本市ハンドボールの益々の発展をお祈り申し上げます。

創立30周年を祝して

氷見高校ハンドボール部ＯＢ会
会長　桶家　寛

氷見市ハンドボール協会が創立30周年の記念すべき佳日を迎えられますことを心よりお喜び申し上げます。

貴協会は昭和29年度に発足されて以来30年の長きにわたりハンドボール競技のため選手育成、数々の大会運営等にめざましい活動をなされ全国に氷見市ハンドボール協会ありと確固たる基盤を築いておられますことはまことに慶賀にたえないところであります。

同時にまた貴協会がこれまでに発展されるに至るまでの歴代の会長をはじめ役員の方々に秀れたリーダーシップとともに会員各位のハンドボールにかけられる変らぬ信念とたゆまぬご努力に対して深く敬意を表するものであります。

また、数多くの全国大会を開催されましたことは衆知の事です。又昨年のロスオリンピックには氷見市より初のオリンピック選手（西山清氏）が出場すると云う偉業をなされています。

又、氷見高校の国体三連勝と現役と云わずＯＢ諸兄の氷見クラブも過去に輝やかしい実績を残されていますし女子では有磯高校、ＯＧ会の皆様方の活躍や中学校も努力をしているし、最近ではジュニア対策として、小学校のハンドボールに対しても絶大なる御支援をなされ、益々貴協会の実績が確固たるものに成し遂げられようとしています。心からご期待申しあげるものです。

30周年を一つの節目となされまして今後益々の発展を心から祈念して止みません。どうか会長をはじめ会員各位におかれましては、一層の結束を固められまして協会の発展伸長にますますご貢献下さるようお願い申しましてお祝のことばといたします。

発刊によせて

氷見市ハンドボール協会

顧問　嶋田新太郎

氷見市ハンドボール協会が発足して30年を迎えられましたことに対してお喜び申し上げます。

昭和29年故高沢清甫氏を会長として発足した協会は、氷見市体育協会に加盟し、富山県ハンドボール協会の支部団体として県一番の名乗りをあげたのであります。

昭和31年中部日本総合ハンドボール選手権大会を開催することになり、市協会、市体協、市当局の絶大なる御世話により始めてのビッグゲームを開催することができたことを今思いをはせ感慨無量のものを感じております。

第13回国民体育大会が富山県で開催が決定され、前年全日本総合ハンドボール選手権大会が開催されることになり、高松宮妃殿下をお迎えしての大会だけに市協会全力投球で大会成功の地味な活動で切抜けることができました。勿論第13回国民体育大会ハンドボール競技会も八尾と２会場にはなったが、氷見高校が高校の部で初優勝、盛上りも最高のうちに国体を完了したことはまだ記憶に新しい出来ごとでありました。

以来氷見市にはハンドボールが定着し、高校の部ではインターハイ出場回数は氷見高校39回中22回、有磯高校は14回を占め、国体には氷見高校の連続優勝など氷見市ハンドボール協会を勇気づける材料が豊富の上、全国中学生大会の活躍も氷見西部中学、南部中学、北部中学と全国にその名を挙げるまでに至ったことは市協会の陰の力があったればこそと思います。それにもまして氷見高校ＯＢの氷見クラブの活躍が氷見市ハンドボール協会の強力なメンバーとなり、後輩の指導育成に大きな役割を果していることはいうまでもありません。

幸いにして私もこの協会の会長として７年間努めさせていただき、一体何をしてきたかなと考えてみると全く何も残っていないような気がします。

氷見市で第２回目のインターハイを迎えることになり現在の早崎幸一氏が就任、若さと熱意でこの大会を乗り切り得たことはその成績とともに氷見市に大きく貢献できたものと信じます。

これからの協会の使命は凡そ次の三つの大きな目標をもつのではないかと思います。

その１は氷見クラブの再建と強力なパワーアップであり、その２は男女地元高校チームの技術向上であり、その３は市民体力向上の援助であろうかと思います。

今しみじみと懐古するにハンドボールとは何んだったのか、そして自分の何だったか？。

何でもない。自分が選んだハンドボールだからそのまゝでよいのではなかろうか。47年目を迎えた自分のハンドボール歴を生きる限りすべてに向けて進むべきでなかろうかと思うのです。

伝統をつくった氷見市ハンドボール協会の今後益々の発展と躍進を祈ってお祝の詞といたします。

感無量。

私とハンドボール

富山県ハンドボール協会
理事長　金原　至

氷見の地にハンドボールが芽生えて30年、その間にハンドボールと氷見の地は切っても切れない固い絆のもと、ともに発展をみてきた。その足跡をふりかえってみたいと思う。

氷見の地にハンドボールという種子を播き、富山県のハンドボールの基礎を作った人、それが嶋田新太郎先生（元全国高体連ハンドボール部々長、現向陵高校教諭）

当時私は氷見中学に在籍し、そこでハンドボールと出会った。物質不足の時代であり、選手の中には、地下足袋やわらじばきの者がいたり、競技場も草原のようなグラウンドであり、またボールにしても使えばすぐ変形するようなものであったことを記憶している。

現在から思えば想像もできないくらいであるが反面、選手の練習意欲は高く、自分達でゴールポストを作り、グラウンドを整備し、ボールやスパイクなどはできるだけ自分たちで修理するというぐあいですっかりハンドボールにとりつかれていた。その時の球友達は何かに没頭し、ひたすら打ちこめるものを求めていたように思う。その対象としてハンドボールがそこに出現したのであった。

とにかく嶋田先生の投じられた一石の波紋は大きかった。ハンドボールの魅力にぐいぐいとひきよせられ、球友も増えていった。しかし、ハンドボールをきわめようとすればするほど、苦悩する部分がふくれていく。指導書などない時代である。手さぐりで練習方法や作戦を考え、文字どおり暗中模索の思いで日々の活動を行っていた。８千mから１万mもただがむしゃらに走ったりして人が見れば馬鹿としか言いようのない毎日であった。その中から生じたものが自主性、チームワーク、独創性であったように思う。ハンドボールの奥深さに半ば挫折しつつも、ハンドボールに対する情熱はそこなわれることもなかった。そして困難を克服していこうとする球友達との絆はより強固に、より親密なものになっていった。この球友達はその後、富山県内外にハンドボールを普及させ、ハンドボールを発展させる上での人的な核となっている。

中でもとりわけ印象深い人々は、徳前啓人氏（現、氷見高校教諭）と七名の球友である。

昭和31年、母校（氷見高校）に帰った私は、全国で勝ち抜くチームを作ることに目標をおき、日本一をめざし誓い合った選手達に対して当然のことながら（彼等に気狂い沙汰だと思われたにちがいない）練習内容は量的にも質的にも今までとはうって変って、選手達はもとより、学校の先生や生徒達にまで、はるかに常識を超越しているといわれ、“あれほどまでにやらなくても”とよく言われたことを記憶している。この８人の人達は本当によく頑張ってくれた。しかしその成果は結局、実を結ぶことはなかったのである。そういう結果に終った彼らではあるが、あくなき勝利への野望をもち、勝つ以外に何も受けつけないという心身の限界にまで挑戦する精神の素晴しさは絶大なものがあった。

この精神が現在の隆盛を極めたハンドボールの原動力であり、あの頑張りと粘りこそがハンドボールの伝統として今もなお生きつづけていることと思っている。

彼らの残してくれた力は、最大の記録なき記録であり、いわば捨て石となってくれた有志達である。本当に感謝の念にたえない。

一口に30年といってもその間には苦難の時代ともいうべき期間があった。投ぜられた一石の波紋が消えかけようとすることしばしばであった。昭和33年国体優勝の後、初期の熱意はあせりとかわり、突き破ることのできぬ全国の壁に苦悩する期間があった。そしてそれ以上に困難な問題に直面

せざるをえなくなったのである。

それは時代の激しい変化の中で、スポーツ活動そのものの在り方が随分と変わり，問い直されたことである。

もっとも変った点をみると、正規の体育以外の学校スポーツ、つまり放課後における部活動の面である。高学歴化の傾向がはっきりするにつれて、知育偏重に流れ、部活動に参加する生徒が年々減少しはじめ、野球部のような例外を除いて、どのスポーツ活動にも必要最低限の部員数をようやく確保しているにすぎない状況となった。

いうまでもなく，これは一つには大学受験勉強を考えたものであり、部活動より勉強第一と考える生徒が多くなったことに起因している。もう一つには運動部の厳しい練習を敬遠する生徒が増えたことによる。

ことにハンドボール部は減少が著しく，学年で一人か二人といったことが続き、チーム作りもできないような状態にまで至ったことがあった。

この現実は、私の立場から見れば厳しいというより寂しいということであった。しかしこのような中にあって私の救いとなったのは、少人数でありながら練習における選手の顔の明るさであり、練習の中味においても、むしろ厳しさを増し，一人一人の意識水準が高まっていったということだった。

いま一つの救いは、ＯＢで結成された氷見クラブの存在である。現役の減少とは逆に，氷見クラブは次第にチーム力をつけ，北信越大会は勿論，全国的大会においてもめざましい活躍をするようになったのである。部員数に悩む現役にとって，このＯＢチームの存在は本当にありがたかった。毎週土、日の練習又夜間の練習など互いに切磋琢磨しながら苦難の時代を耐え抜いたのである。又，私の中学・高校時代の球友であった、澤田英夫氏が中心になって東京ＯＢ会が結成され，会員は皆氷見高校グラウンドで苦楽をともにした人達の集りだけに結束は固く、現役が全国大会に出場するときなどにはわざわざ遠い会場の地まで激励にかけつけてくれるなど，物心両面に渡っての支援には頭の下る思いであった。それは来たるべき飛躍のためには必要欠くべからざる忍耐の時代であった。

昭和51年から始まる全国上位入賞，国体三連勝。

ついに飛躍の時が訪れた。30年前に投じられた一石はその後大きな波として，うねりとして氷見の地を歓喜の渦にまきこみ，大輪の花として咲きほこるに至った。氷見の人々の歓呼の声にこたえる選手達。あの市内パレードは私の一生忘れられない思い出である。

そしてその中から1984年のロサンゼルスオリンピックに日本のエースとして出場した西山清選手（現、日新製鋼）が生まれたのである。まさに至福に似た思いを感ぜずにはいられなかった。

これらの成果を上げることができたのは、氷見の地で行われたイベント（国体、インターハイ）であり，ＯＢの人々であり、とくに氷見クラブの人々であった。そして最大の尽力者は氷見市民の方々であった。

ここにイベントを開催するにあたり印象に残る人々を掲げてみよう。

ハンドボールでは私の旧制中学時代の先輩であり、長距離走に強かった早崎幸一現氷見市ハンドボール協会会長。氏の実行力，たくましさに敬服する点は大であり、この功績は計り知れない。

仕事と情熱と幸せとを体で教えてくださった角　勉氏（現、富山県ハンドボール協会副会長）。いつも心暖かく親身に相談にのってくださり、心配していただいた故、高沢清甫氏（初代氷見ハンドボール協会長）。 全国的大会の開催のことや，選手強化についてともに悩みあった 馳　悟氏(現伏木高校教諭，前有磯高校監督)。

第13回国体においては、いつもトランシットをのぞき込んで会場作りに専念していただいた施設担当の田中 譲氏(現氷見市建設部長）会場の完成を願って，熱心に視察しておられた 原田 三郎氏（現氷見市議会議員)。

第12回インターハイ開催に際しては、早くて確実な仕事を教えて下さった事務局担当の小伏脇良三氏（現石動高校小矢部分校教頭）　常に教育の理想を語りスポーツに熱心であった事務局担当の丸山義昌氏（現氷見市体育協会副会長)。

イベント開催たびごとに協力いただいた、理想に燃え、不言実行、情熱的であった脇方政美氏（現氷見市役所民生部長）。苦しい中にも常に心暖い、事務局担当の北野正治氏（現氷見市議会事務局長）。いつも朗らかで未来へと前進する事務局担当の大窪道美氏（現氷見市役所秘書課長）。

昭和51年インターハイで責任感あふれる施設係であった久保吉明氏（現氷見市役所水産漁港課）。

氷見市で開催された全国的イベント、全日本総合ハンドボール大会、国民体育大会、第12回、第27回全国高校ハンドボール大会、全国中学校ハンドボール大会などにおいて、上記の方々を中心に理解と協力を賜った、堂故敏雄、片折十次郎、堀埜豊一各前市長、茶谷一男現氷見市長には最大限の感謝をささげねばならない。

本当に魅力あふれる先輩の皆様であり、その出会いは忘れることはできないものである。

そして最後のイベントである昭和51年インターハイ氷見市開催での事務局長をつとめられた小島威彰先生（当時氷見高校長）は大会の大成功を次のような言葉で祝ってくださった。

「『当任不譲地』（任にあたって人に譲らず）会場をつくる人、宿舎を心配する人、輸送に当る人、またラインを引く人、テントを張る人、食事の心配をする人など、みんな、それぞれ『おれがやらねば、誰がやるか』といって頑張った人達ばかりであった。こんな素晴らしい仲間は見たことがない。本当にありがとう。御苦労様でした』といって喜んで下さったのだった。

ここに改めて関係して下さった方々、市民の人々に厚く御礼申し上げる次第である。

ここで今、私がしみじみ感じることは、青春の真只中を部活動、スポーツに熱中している子供たちはなんと幸せな連中だろうということである。

彼らの多くは日本一を目指すチャンピオンスポーツの中に身を置くが故に、確かにスポーツに身を入れすぎているのかもしれない。またそれゆえに失うものも少なくないかもしれないのである。

他方で、彼らはより多くのものを得ているであろう。先輩や仲間と火花を散らし、全身の力をこめて身体をぶつけ合うことで、彼らが体得していくものはなんであろうか。また自分のプレイの一つ一つが勝負のカギを握るという緊張の連続の中で体得していくものは何であろうか。さらには、それぞれが集団の一員として役割と責任を果たすために、自分でしかできない独創的なプレイをいかに身につけることができるか。苦しみ、悩み、汗水流してやっとそれを自分のものにしえた時の喜びと成功の体験の中で体得していくものは何であろうか。

いうまでもなく、チャンピオンスポーツなるがゆえに一人一人が独立したプレイをもち、しかも協調して相手チームとぶつかり合うという形をとる。当然一人一人に要求されることは、いかにして独創性を発揮し、みがき、高めるかということであって、ただ汗を流すだけでは、集団の一員としての役割、責任を果たすことはできない。

そこで彼らは先輩に教わり、先輩のプレイから“盗み”さらに仲間たちと火花を散らす議論の中で独創力をみがき、その上で身体をぶつけ合う毎日の練習の中で体得した汗と涙の結晶の全てを後輩達に引き継いでいくのである。

この先輩、後輩入り混じったスポーツ活動こそ、貴重な学習といってよいのではなかろうか。そしてこの中で体得しえたものは、厳しい現実を乗りきっていく力強い原動力となると確信するのである。

若者の内部から噴き上がって結晶したこの活力は、本人が熱中し、おのが身と心を鍛練していくなら一層重厚なものとなっていくのである。スポーツの大切さはここにあるのだといっても過言ではあるまい。

私は親子ほどの年のちがいをとび越えて生徒たちと共に泣き、喜び、抱き合い共感しうるスポーツの現場に30年もの間一貫しておれたことの幸せ、すばらしさをつくづく感じている。そして、それゆえに、スポーツのもつ深い意味を一人でも多くの人にご理解いただけたらと心から願ってやまないのである。

氷見のハンドボールの発展は人的構成の厚みが増すのとともにある。このハンドボールという波涛は今後とも幾多の問題点に迫り、挫折することもなく挑み続け、克服していくことであろう。

30年は今思えば一瞬の如き感もするが、氷見の地に生きる我々にとって、波頭白き水平線のかなたを臨むような、はるけき感慨を覚えるものである。

将来にわたり氷見のハンドボールが栄えんことを祈ってやまない。

歴代会長・副会長

初代会長
高　沢　清　甫

二代会長
嶋　田　新太郎

現会長
早　崎　幸　一

初代副会長
角　　勉

二代副会長
長谷川　富　久

現副会長
金　原　　至

現副会長
桶　家　　寛

現副会長
地　子　英　信

目　　次

氷見市ハンドボール協会30年のあゆみ …… 1

氷見高校ハンドボールＯＢ会のあゆみ …… 4

氷見高校ハンドボールＯＢ会 ―東京支部― …… 5

氷見クラブのあゆみ …… 7

ロス・五輪 ―フォートグラフ― …… 11

ロス・五輪まで …… 12

思い出（海外遠征・国際試合） …… 15

　思い出の珊瑚礁 …… 15

　ホンコン遠征に参加して …… 15

　ヨーロッパ遠征に参加して …… 16

思い出（国体・インターハイ） …… 19

有磯高校ＯＧ会のあゆみ …… 26

有磯高校ＯＧ会を顧みて …… 27

思い出 …… 28

氷見高校ハンドボール部のあゆみ …… 40

　氷見高校ハンドボール部主将 …… 41

有磯高校ハンドボール部のあゆみ …… 42

　有磯高校ハンドボール部主将 …… 42

中学校ハンドボール　―フォートグラフ―

中学校ハンドボールのあゆみ …… 45

　南部中学校ハンドボール部 …… 46

　八代中学校ハンドボール部 …… 47

　北部中学校ハンドボール部 …… 48

　西部中学校ハンドボール部 …… 49

　灘浦中学校ハンドボール部 …… 50

将来をになうスポ少の活躍 …… 51
スポーツ少年団のあゆみ …… 52
創立30周年記念式次第 …… 57
写真でつづる30年の歩み …… 59
——時代を築いた歴戦の勇姿——
氷見市10大ニュースでつづるハンドボール史 …… 74
思い出（国体・インターハイ・全中大会） …… 78
インターハイの思い出 …… 78
輝ける日々 —国体三連覇のころ— …… 79
人生意気に感ず …… 80
あの頃、あの時、あの人達と …… 81
ハンドボール協会との出合い …… 82
全国中学校ハンドボール大会をかえりみて …… 83
ハンドボールと私 …… 84
第13回国体の思い出 …… 85
第13回国民体育大会の思い出 …… 86
全日本総合と私 …… 87
ハンドボールで耐える心と身体 …… 88
全国中学校ハンドボール大会を回顧して …… 89
私とハンドボール …… 90
記　録　編
栄光のあしあと
大会記録 …… 91
昭和59年度氷見市ハンドボール協会役員名簿 …… 154
氷見市ハンドボール協会会員名簿（氷見高校卒業分） …… 155
氷見市ハンドボール協会会員名簿（有磯高校卒業分） …… 163

氷見市ハンドボール協会
30年のあゆみ

氷見市にハンドボール協会が設立されたのは、戦後嶋田新太郎氏が氷見高等女学校に赴任されハンドボール競技を普及され、急激な発展をとげたのを期として、協会設立の気運がかたまり、昭和29年に設立、氷見体育協会に加盟した。当時協会設立には、小伏脇良三氏を中心に氷見高校ＯＢ諸氏の努力があって、初代会長には故高沢清甫氏を、理事長には古田俊光氏があたり協会が発足しました。残った全員が役員として活躍し、そして翌昭和30年には、当時有磯高校に在職されていた、馳悟氏が古田氏の後を引継いで理事長として第13回国民体育大会開催のための基礎固めに入った、昭和31

年には中部日本総合ハンドボール大会が氷見市で開催され、わが協会も多忙な幕開けを迎えることとなった。日本ハンドボール協会より入江暢一氏を招き審判講習会を実施したり、選手強化指導等で東奔西走の毎日でした。翌昭和32年には国体リハーサル大会として全日本総合ハンドボール大会（７月27～30日）を開催するに当り、県当局のご指導、ご協力を得て全市あげて初めての試みに取り組んだのでした。この大会には地元チームとして出場した氷見高校（二回戦敗退）は強豪、芝浦工業大学を相手として延長戦となり、地元の観客から大きな声援を得たが13－12で惜敗した。又女子では有磯高校（１回戦敗退）と比美クラブが出場し、実業団、大学チームを相手に善戦し、比美クラブが第三位とかがやかしい成績を収めた。翌33年には第13回国民体育大会ハンドボール競技の一般の部の会場となり、全市あげての大会となりました。特に氷見会場へ天皇、皇后両陛下が行幸され、親しく競技を御覧になり、市民の歓迎ぶりは国体と言う環境もあったが大変なものであった。大会は大成功でとりわけ、各県チームには、私設応援団がついたり、激励文入りの慰問袋の配布等地方色を取り入れて喜ばれ後々の国体のハンドボール会場で話題となった。

地元出場チームは一般女子で、氷見クラブ（有磯高校ＯＧ）が第４位と、一方八尾会場の高校男子は11－８で強豪中京商（愛知県）を降し初優勝、その夕刻帰氷したチームの歓迎パレードには大勢の市民が沿道をうめつくす盛大なチョウチン行列となった。　選手紹介しよう。

氷見クラブ（監督馳悟選手、竹岸、岩坪、石崎、田中、太田、川野、川辺、小松、岩上）

氷見高校（監督金原至選手、飛田(故人)、坪之内、斉藤、西田、萩原、小林、河上、森谷、小谷内、野村、近藤、谷野）

協会設立４年にして国体開催、氷見高校優勝、氷見のクラブ第４位と協会の基礎の確立された年であった。その後インターハイ誘致の声がおこり、陳情の結果昭和36年の開催が決定された。市協会としては全国大会を受け入れるため早くもその準

備に取り組んだ。昭和36年８月１日～５日第12回全国高等学校ハンドボール選手権大会が、氷見高校、南部中学校の両会場で開催され、地元本市から男子氷見高校、女子有磯高校が出場した。氷見高校は準々決勝で清水商（静岡）に６－４で、有磯高校は三回戦で水海道（茨城）に５－１でそれぞれ惜敗した。大会期間中は夏の炎天下のもと、氷水、アイスクリームなどが婦人会の売店で飛ぶように売れ、小学校、中学校の児童生徒による県別に町内毎の応援も手作りの小旗、のぼりで熱狂し、あたかも町内毎の試合の観があった。こうして本市ハンドボール競技は漸く、一般市民にも理解され、氷見市はハンドボールの街として認識されるにいたった。全日本総合、国体、全日本高校選手権と三つの全国的大会を本市での大会開催を通じて氷見市の市技と言われるまでになった。ハンドボール競技を支えるため選手のレベルアップを計るべく、また底辺拡充するため中学生を対象に、スポーツ教室を開いたり、ゴールポストを協会で作り、それぞれの小中学校に配布し又一方では各種ブロック大会、県大会を開催し選手強化に努めた。

こうして、昭和36年のインターハイを無事終了させたのである。

又、この年に氷見高校ＯＢで結成された一般男子氷見クラブの誕生した年でもありました。その後氷見高校、有磯高校、氷見クラブ（男女共に幾度もの全国大会、国体、インターハイ、全日本給合）に出場し活躍したのである。特に、一般男子氷見クラブは国体出場　連続15回　通産17回）国体出場回数もさることながら、実業団チームに伍して立派な成績を残して来たことは衆知のとおりであります。市協会としては昭和49年には早崎幸一会長、角　勉、長谷川富久副会長，金原至理事長となり，中学生選手の強化を計るため、大会回数を増して試合感覚と試合経験をさせる意味から春季選手権大会（５月）室内選手権大会（２月）を設けたり、１年間を通じて優秀であった選手の表彰を行ったりしてきた。昭和51年度にインターハイが再び、本市で開催されることとなり、その準備階段に入ったのもこの年でありました。高体連事務局と市当局との２本立となったことから先行を案じられたが、その間に入った市協会はあくまでも大会を成功させるべきと有能な若い人材を投入、早崎幸一協会長金原至高体連事務局長の陣頭指揮の元に努力し、市当局もグランド整備等について万全のものとし、運動公園競技場を主会場として、氷見高校，有磯高校，北部中学校を会場に展開された。

大会期間中はかつてない悪天候となり運営に対しては非常な大会となったが、ここで又市協会、氷高ＯＢ会が一致協力して、スムーズにその困難な事態を克服したのである。

地元チームでは、有磯高校（３回戦水海道に抽選負け）、氷見高校が出場、特に氷見高校は決勝戦進出と永い間の低迷から脱出する様な活躍であったが実力No.１と定評のあった下関中央工業との対戦では１進１退のゲーム展開となったが，結局は力に差が見られ16－13と惜しくも第２位となったのである。しかし地元チームが最終日まで元気よく頑張ったことは大会の成功に大きく貢献した。

翌52年のインターハイは山口市で開催され氷見高校は昨年に続いて決勝戦進出をはたし、再び下関中央工業と対戦、氷見高校は上回る力を持ちながら全国の決勝の檜舞台で，優勝旗を目の前に見ながらまたも優勝を逸した。秋の青森国体では、成年男子氷見クラブと少年男子氷見高校が，現役ＯＢが共に出場し、氷見高校はエース西山君が決勝戦で１人で14点もたたき出す大活躍をし優勝の原動力となった。氷見クラブ員は氷見高校の応援後急ぎ帰氷、優勝パレード、祝賀会の準備と今度は，協会員として大変な苦労であった。　優勝経験とは怖いもので、翌53年の長野国体でも、氷見高校は，多彩なチームプレーで２連勝を飾り、３連覇の夢を宮崎国体に託し、金原至先生、徳前啓人先生の指導の基に猛練習。これにも勝ち、７人制ハンドボールになってから、国体少年の部で３連勝の偉業を成し得たのである。これは本協会が誇る

業績であると共に、金原、徳前、両先生初め選手諸君に最大級の拍手を送りたい。

氷見高校52年度青森国体（監督金原至、選手　西山、中浦、狩野、川井、大門、中山、糸、小久保、裏、関谷、布施、光安）

53年度長野国体（部長金原至監督徳前善人、選手　大門、中山、糸、小久保、関谷、裏、光安、山崎、水谷、松田、高西）

54年度宮崎国体（部長金原至　監督徳前啓人　選手　光安、山崎、沢武、浦、水谷、前、松田、高西、瀬戸、金原、矢田、中原）

昭和54年には世界ジュニア選手権大会に男子で西山清（日新製鋼氷見高ＯＢ）君が出場。世界の得点王となり、日本のハンドボールを世界に見せてくれました。未来の全日本のエースへと道を歩み、ロスアンゼルスオリンピック出場と決まり、氷見市では初のオリンピック選手の誕生をみました。その活躍は衆知のとおりであります。又それ以前には昭和31年の日独国際ハンドボール富山大会には金原至先生、桶家寛氏が出場。昭和36年には全日本大学選抜チームの一員として韓国へ派遣された、小林平八、安平久信（旧姓河上）両氏。翌37年には、竹本千恵子さん（有磯高ＯＧレナウン工業）が７月に第２回世界選手権大会に日本チームのメンバーとなりルーマニアへ、昭和40年には嶋田美代乃（有磯高）さん、関勝之（氷見高）君が沖縄（当時は国外）へ派遣と、又近年になっては高橋克己君（氷見高）が昭和58年香港国際ジュニア選手権大会へ出場と多くの方々の世界の舞台での活躍は本協会の業績でもあり喜ばしい限りです。又昭和33年の国体の時よりスタートした本市の中学校ハンドボールの歩みの顕著なものは昭和47年に第１回全国中学ハンドボール選手権大会が名古屋市で開催され初大会に初出場をはたした南部中学校（監督地子英信）が第３位と健闘、氷見市における中学校ハンドボールの幕明となりました。

又昭和51年の第５回全国中学校選手権には西部中学校が出場、又も第３位とかがやかしい成績を残した事が、昭和57年の第11回全国中学校ハンドボール選手権大会、氷見市開催の運びとなり、市協会としては、有島政一中体連理事長、市当局からは西田明雄氏と三者の協力体制の基に大会準備に入った。本市では中学校の全国大会は初めての経験でもあったが、一致協力して困難に当ったのである。８月21～23日まで北部中学校を主会場として開催され、地元チームとしては男子では、西部中学校、北部中学校、女子では北部中学が出場、特に西部中学校が準決勝戦で石川県の強豪芦城中学と対戦し、一進一対のゲーム展開となったが結局力の差が見られ（15－13）で惜敗、第３位となった。最終日までの地元チームの健闘で大会も盛り上り、中学校ハンドボールのレベルの高さに感心させられた大会であった。

又一方では、氷見高校の国体三連覇に刺激され、チビッ子ハンドボールの気運が高まり、山賀先生を中心にスポーツ教室が開かれることになり、男子３チーム、女子２チームで、小学校ハンドボールがスタートした。昭和54年、55年とスポーツ教室の苦労が実り、氷見市教育委員会のご支援もあり、第一回少年少女ハンドボール氷見大会が氷見高校で開催され、またスポーツ少年団も結成されチーム数も、男女約20チームを数えるに至りました。

今年度は、　名古屋市、　岐阜市、　小松市のスポーツ少年団チームを迎え４市によるスポーツ少年団ハンドボール交流大会を開催、協会員はもとより、スポーツ少年団の指導者の方々の全面協力の基に有磯高校を会場に、８月19～21日間熱戦が展開された。試合のみの大会でなく夜にはキャンプファイヤー、クラフト学習とレクリエーション協会の協力も有り、苦労もあったが、今までにない楽しい大会でありました。

このように歩み続けてきた氷見市ハンドボール協会は、市体育協会加盟団体の中でも異色な競技団体であろう。今後は、先輩諸氏が築かれた輝ける伝統と栄光を守り、更に発展させるため、早崎会長を中心に協会員の総力を結集し、精進していきたい。

氷見高校ハンドボール部ＯＢ会の歴史

わが氷見高校、ハンドボール部ＯＢ会も協会と共々に手を組んでまいって来たわけですが、氷見高校にハンドボール部が出来たのは昭和22年．それ以来今日まで多くのＯＢを輩出し，今では220余名のＯＢ会員を数えるに至っております。今回氷見市ハンドボール協会の記念誌の発刊にあたり氷見高校ハンドボール部ＯＢ会の歴史を年表式に記して見ました。

昭和27年　浜本茂雄、松井嘉男、矢崎峻作氏らが現役高校生の指導にあたる。
大学生では海津弘、牧正己氏らが現役高校生の指導にあたる。

昭和28.29年　池田信幸、早瀬弘氏（富山大学）が加わり練習指導と飲食の援助。

昭和30.31年　卒業生も多くなり、特に吉滝栄一氏が加わり、ユニフォーム・部旗（グレーの大きいもの）を作成し寄贈する。

昭和31年　第６回中部日本統合選手権大会開催。

昭和32年　富山国体開催前年度となりＯＢも各部門分野に活躍する。
第９回全日本総合選手権大会が開催される。

昭和33年　第13回国民体育大会が開催される（氷見市、八尾町）
「氷見高校国体初優勝」
優勝祝賀パレード行なう。

昭和36年　第12回全国高等学校選手権大会が開催される。

昭和45年　吉滝栄一先生が氷見高校ハンドボール部長となる。
ＯＢ諸兄に１口1000円の寄付金を募る。
世話役吉滝栄一
古田俊光、矢崎俊作、長谷川富久。
これを期にして、新規ＯＢ会設立の気運が上がり準備委員会が設けられる。

昭和46年　氷見高校ハンドボール部ＯＢ会設立準備委員会が開催される。
会　長　　早崎幸一
理事長　　吉田俊光

昭和49年　過去３年間の経緯により、会の活動、運営等を反省し、諸問題に対する討議がなされ今日のＯＢ会の基礎が確立され、会則・会費が決定され、現役支援体制が確立される。
東京ＯＢ会支部との合同会議が渋谷青少年国民研修会館で開かれ氷見ＯＢ会役員全員出席する。
会誌の発刊、会員章の作成等承認。
※役員選出　　会　長　　早崎幸一
副会長　　坂井哲郎
金原至、桶家寛
長谷川富久
第27回インターハイ開催の協力要請が県高体連ハンドボール部よりあり、県協会、市協会等と協力体制をとる。
協会と共に現役のバックアップを図る。

昭和50年　ＯＢ会報１号より発行する。

昭和51年　第27回インターハイが開催され、大会役員としてＯＢ全員が協力体制をとる。
「準優勝」
（本大会は雨天に見舞れ、大会運営が非常に困難を極めたが、ＯＢ等が努力奮闘して大会を大成功に終らせ全国に氷見高ＯＢ会の名を高める。）

昭和52年　「国体優勝」（通算２度目）
優勝パレード祝賀会に協力する。

昭和53年　金原先生の後を継ぎ徳前啓人（第９回卒）先生が氷見高校ハンドボール部監督となる。
「国体優勝」（２連勝　３度目）

昭和54年　「国体優勝」（３連勝　４度目）

昭和55年　富山県ハンドボール協会創立30周年記念式典が開催される。

昭和56年　全国中学校ハンドボール大会（氷見市開催）にむけて、協会・ＯＢ会が中学校への強化指導に活躍する。

昭和57年　氷見市制30周年記念第11回全国中学校ハンドボール大会が開催されＯＢが役員として活躍する。

昭和58年　役員改選により早崎幸一会長の後任に桶家寛会長が着任する。

燃えて張り切っています

――関東支部報告――

青　野　豊　作

関東支部は昭和60年１月現在，会員数も二十二名と少なく，人数の面では残念ながら氷見ＯＢ会に遠く及ばない。また，いかんせん会員数が少ないゆえに派手な活動もできないし，会員の居住地が関東一円に広がっていることもあって，たびたび会を開くということもむずかしい。

しかし，世帯が小さいから逆にまとまりもよいわけで，現在，沢田英夫会長（第三回の卒業）を中心に，折りにふれて集まっては歓談している。母校の現役諸君が関東地区で試合される折りや金原先生が上京される折りに相集い，楽しく杯をかたむけたりなどＯＢ会活動としては実にささやかなものだが，いつも電話一本で関東各地から会員が駆せ参じてくれるから，会はいつも相当に盛りあがる。たとえば村上千助君（第五回生）などは，わざわざ静岡市から上京してくるし，また関東地区の大学に学ぶ大学生ＯＢ諸君（大半が大学でもハンドボール部に所属して活躍している）も毎回参加してくれるものだから，自然に会も盛りあがるというものだ。また，わずか１回だけのことであったが，関東支部の面々が東京の名門校・明星学園の現役諸君と〝軽く〟汗を流したこともあったし，ゴルフコンペで〝沢田杯〟を競ったり等々，結束の固さ，チームワークの良さという面では，氷見のＯＢ会に決して負けないと考えている。

さて，われらが関東支部のもう一つの自慢されることとして，氷見高校同窓会関東支部における活躍ぶりをあげておきたい。ハンドボールＯＢ会関東支部あってはじめて同窓会を結成しえたと同窓会の役員諸兄姉に感謝されているように，十余年前にまず非公式の同窓会を結成した折りも，また58年10月に旧制氷見中学，旧制氷見高女の卒業生を含む総数一千五百余名にものぼる同窓生（氷見高校同窓会関東支部）を正式結成した時もわれらハンドボールＯＢ会は総がかりで縁の下の力持ち役を果たした。

むろん，これは母校の発展にいささかでも寄与したいと考えてのものだが，ごく率直に言うと，母校ハンドボール部の側面支援にも通ずると考えてのことであったから「またまたハンドボール部の世話になった」と同窓会の後，諸兄姉からねぎらわれた折に少々面はゆい思いもしたのであった。

ともかく，関東地方の同窓会活動では，もはやハンドボールＯＢ会は欠かせない存在で女性同窓生から折りにふれて，「ハンドボール部は本当に仲が良いのね」と言われる状態で，「他の部と一緒にしないでよ」と胸を張らせてもらっているが，そのわれらは，今一つの夢を抱いている。

ぜひ年代別に，同じデザイン，ちがう色のユニフォームを誂らえて，年代別チーム編成で関東の名門校ＯＢ会と一戦まじえようということである。そしてそのためにも〝合宿〟もして…。と大いに気勢をあげているが，果たして体力があるかどうかが疑問ということもあって現在のところまだ気勢をあげることのみ，という段階にとどまっている。

いずれにせよ，関東支部の面々に共通する思いは，朝日丘の母校グランド，あるいは体育館で，つちかったハンドボール熱をいつまでも持ち続け母校ハンドボール部の発展にいささかでも寄与したいということだ。同時に，会員相互の親睦をはかりながら関東支部としての活動も充実させていこうと考えているが，どれもこれも母校の現役諸君のめざましい活躍あればこそのことで，この機会に母校の現役諸君と，諸君を支えている氷見ＯＢ会の諸兄に心からの敬意を表します。

なお，母校の現役諸君は関東地区の大学に進学されたり，あるいは就職された場合は，〝自動的〟に関東支部の会員になられるのだから，その折にはぜひご一報下さい。関東支部一同，熱烈大歓迎いたします。

丸太のゴールポストで裸足の練習

沢　田　英　夫

昭和二十年八月二十日終戦、私は旧制中学一年生だった。政治・経済は混迷し、現在の経済大国日本からは想像出来ない貧困時代であった。戦時中さつまいも畑にしたグランドが元の姿に戻ったのは一年位たってからと思う。

二年過ぎると、平和というムードにより物資は無くとも人々の心は明るさをとり戻し、グランドにも明るい声が聞かれ元気に走り廻る生徒も多くなる。戦後のスポーツの幕開けである。伝統ある氷高ハンドボール部（当時送球部と言った）も、この時に誕生する。

予算も、用具も、ルールブックも無く、広いグランドとボール５個だけの部であった。

翌年嶋田新太郎先生が就任されて部活動も本格化してゆく。

高一の秋、上級生は抜けてオール一年生というフレッシュメンバーとなる（試合に行くと少年団と呼ばれた）、一年生 二十数名は兄弟同様仲良しでみんなやる気があった。

初めのゴールポストは丸太を組みネットがついて無かったので、ポストに当るきわどいシュートはゴールインかアウトかわからない、ネット無しだからボールはどこ迄も転がる。

それから、全員で鋸と斧を持ち本川さんの山へ行き、大きい杉の木を切り出し岸田製材で角材に加工し、組立の大工仕事は自分達でやった。ネットは海岸へ行き魚をとる古い網を頂戴しポストに何重にも掛けた。初めてのユニホームと胸の氷高マークはみんなのアンケートにより決め染め物屋で染色し、自作マークは徹夜で縫いつけた。半分紙のようなボールはすぐ変形し破れる。従って修理係をもうけ、手におえないボールは金沢靴店へ修理に出し直してもらった。

入部当時の練習スタイルはものすごい、古いアンダーシャツに黒の学生長ズボン、履く物が無いからマラソンランナーアベベ選手と同じ裸足だ。それで本気になって練習するのだから、数日で足指は破れて血まみれになり、小石が傷口に入って痛かった。一枚だけの練習着は穴があき、いつもそこに直射日光が当り金原至君は九州・坂井哲郎君は四国・矢後俊作君は北海道と、みんなの背中は地図を見るようだった。地下足袋の富山南部高校・わらじの長野県深志高校、みんな同じだったのだろう。

用具作りが一段落すると試合等で部費が必要となる。学校の部費予算編成は今思えば大人顔負けの裏工作よろしく、野球部と同額の最高額獲得。又祇園祭りには、学校のテント、机、椅子を御座町の空地に持ち込み、お母さん達には調理場を、女子学生にはウェートレスをお願いし氷あづきとジャム付コッペパンを売り遠征費不足等を補った。

現在の素晴しい環境、科学的練習、洗練されたパワーハンドに比べると幼稚なものであったと思うが、ハンドボールにとり組む情熱は一流だったと思う。「試合開始一分過ぎと、終了一分前が同じ体力、脚力であったならば大半は解決だ」と雨の日、雪の日、試験の日とにかく体力をつけるため走りまくった。高二の秋、新人戦で強豪富山南部高校（北信越で無敗の王者）を破って初優勝したあの感激は忘れられない。

氷見ハンドボール生活四年間から「生涯の友を得。勝利への厳しさを知り。情熱(79)＋実行力。」を身体で学んだ。

低成長時代の今、少年時代の体験に枝葉をつけて置き替えた時、立派に通用するのだから驚きであり素晴しい勉強をさせて頂いたものと感謝している。

氷見ハンドボール　ありがとう。

高校の同級生と

氷見クラブのあゆみ

稲　積　忠　勝

昭和32年に全日本総合ハンドボール選手権大会，翌昭和33年の国民体育大会が氷見市で開催され，氷見のハンドボール競技のレベルが全国的になった頃，昭和36年４月，当時日体大を卒業された徳前（旧姓越前）旅両先生を中心に，岡部氏，遠藤氏の両名，それに富山国体優勝のメンバー飛田（故人）氏，西田氏，萩原氏，坪之内氏と当時氷見高卒業の私の同級生 小島氏（旧姓池永），十二町氏，鏡宮氏，谷口氏，池田氏（故人）と私の14名に監督に桶家氏を向え氷見高ハンドボールのＯＢで構成された氷見クラブが結成されました。

当時はまだ11人制ハンドボールと７人制ハンドボールがあり，男子は11人制ハンドボールを行っていました。結成まもないチームながら若さを最大の武器として，県内大会はもとより北陸三県大会・国体北信越予選も見事優勝し，初の国体（秋田）出場権を獲得しました。試合に臨んでは，恐いもの知らずのように１・２回戦は走り勝ち，３回戦，準々決勝はチームワークの勝利と勢いにのり，準決勝に駒を進め桜丘会に惜敗しました。三位決定戦では大阪クラブ（大阪イーグルスの前身）に18：13で敗れましたが，氷見クラブ創立の年に輝しい成績を納めることができうれしい思い出として残っています。

昭和36年　秋田国体

翌37年度は県内大会，北陸三県大会，国体ブロック大会優勝，北信越には敵なしという強さを発揮。岡山国体に出場，この年には越田君（ゴールキーパー），山口君（フォーワード），岩見君（バックス）の三名の加入。又一段と戦力が強化されましたが，十二町君，鏡宮君が仕事の関係で出場できなくなり，準々決勝で敗れ，前年以上の成績を収めることができませんでした。

38年度はハンドボールも11人制から７人制に切替えられ全面的に７人制に統一された年であり，フォーワード出身者にはそれほどでもありませんでしたが，バックス出身者は大変な苦労でありました。それに国体に教員の部が設立され，徳前，旅両先生も教員の部へ行かれ，２～３名の方が仕事の関係でやめられ，残ったメンバーは桶家さんが監督及びゴールキーパー，藤田さんを主将に谷口十二町，鏡宮，山口，岩見，それに新たな卒業生山下君と私の実質９名でありました。それでも県大会，北陸三県大会優勝，国体ブロック予選会には北農クラブに敗れましたが国体出場権を得て，山口国体に出場いたしましたが２回戦で負けました。

39年度は山本君，ゴールキーパーには氷見高のＯＢではありませんが中野君の両名加入。県内大会，北陸三県大会，国体ブロック大会に優勝し新潟国体に出場いたしました。この年は東京オリンピックの関係上６月の国体でありました。少ない人員でしたが昨年の事もあり意欲的に練習し準々決勝まで駒を進めベスト８に入ることが出来ました。

40年度は，氷見高の現役が強くＯＢ（氷見クラブ）が現役に勝つことが出来ない年で，その現役に逆に引ばられる様に練習に練習と暇を見つけては学校へ足を運んだ年であり，その成果があり現役共々岐阜国体に出場し，準々決勝で宗方製作所（大阪準決勝チーム）に敗れ前年同様ベスト８まで進出することができ苦しい中でのうれしい年でありました。

翌昭和41年には，高橋氏，解田氏（旧姓森）関氏の３名の卒業生に加え，福田隆生氏（大阪八尾高―大阪大）の加入がありました。ここ１～２年クラブ員の減少に，苦しんでいた中での４名の加入は大変な戦力であり，期待も大きかった。県内大会，北三大会，国体ブロック大会と予想どおり

勝利をおさめ，第21回大分国体に出場，１～３回戦準々決勝と苦しい戦いがあったが勝ち進み準決勝に駒を進めました。前年同様，強豪宗形製作所（大阪）と対戦，前半は１進１退のゲーム展開となったが，後半は結局は力の差が見られ惜しくも敗れた。又当時宗形製作所には，久保勉氏，栗沢清次氏（氷見高ＯＢ）や柿谷（旧姓辻）氏（氷見八代中―小杉高）ら３名が活躍，対戦した事も何かの因縁といわざるを得なかった。

昭和41年　大分国体

42年度は芝工大を卒業，千代田印刷（実業団）でハンドボールをやっておられた先輩関盛氏（旧姓木田），それに芝工大卒業の森田君，そして待ちに待っていた名ゴールキーパー中山君の加入で氷見クラブ結成以来の最強のチームが出来あがりました。県内大会，北陸三県大会，国体北信越ブロック大会優勝と，楽勝で勝進み埼玉国体に出場。今年こそベスト４の壁を破る目標に向かって一段と熱の入った年でありましたが初戦で全神奈川と対戦。ゲームは一進一退の攻防となり同点で延長戦に入りその延長戦も決着がつかず第２延長戦に入り，タイムアップ寸前まで１点差で負けておりましたが敵のボールをカットインし速攻にうつり，関君のノーマークシュート。そのシュートをゴールキーパーに攻守され，タイムアップ。勝敗の厳しさを見せつけられた１戦であり，氷見クラブの歴史の中でもっとも印象に残った試合でありました。当時全神奈川は全日本級のメンバーを集め，優勝候補にあげられるチームであり，そのチームに対して，勝てなかったが，各人の持っている力を出しきった試合であり，後にすがすがしい気持の残ったゲームとして，今も思いでにのこっています。

昭和43年度は桶家さんが監督をやめられチーム責任者となられ，私がプレイングマネジャーとしてスタート。この年には庄地君，大野君，古野君の加入があり，県内大会，北陸三県大会，団体ブロック予選と勝ち進み，又その間全日本総合ハンドボール選手権大会に出場。中京地区の学生No.１の中京大と対戦，勝ちましたが２回戦で優勝チーム大崎電気と対戦，惜しくも敗れ，今年の国体はやれると言う気持で秋の福井国体に出場しましたが，１回戦で実業団の雄，三景チームと対戦善戦したものの初戦で敗れました。ここ2,3年はくじ運に恵まれず氷見クラブの苦しい時代が続いた時でした。

昭和44年度は新しい加入者もなく県内大会は勝つことができましたが，北陸三県大会，国体ブロック大会は，全福井，金沢市役所が力をつけてきて氷見クラブと互角の試合をする様になってきました。私達クラブ員も一段と練習に練習とがんばった結果があり，長崎国体に出場することができましたが，今年も初戦で全神奈川と対戦，今度こそと思いましたが初戦で敗れ苦しい時代が続きました。

昭和45年度は，これではいけないと監督に安平先生（氷見高ＯＢであり当時小杉高）を迎えて基礎から出直し過去の名声を捨て，安平先生を中心に強化をはかり，岩手国体に出場。この年も１回戦で実業団の雄本田技研工業チームと対戦，４年連続１回戦で敗れるという最悪の時代となった。この時よりクラブ内に国体に出場し，まず１回戦に勝とう，という言葉が合言葉になり，昭和46年はスタートしました。この年には日大を卒業の沢武君の加入があり，大学ハンドボールの新しい風を吹きこんでくれ，チームも明るいムードになり，加えて卒業生の海下君，坪川君（旧姓森），裏君の三名参加により戦力もアップした年でありました。県内大会優勝，北陸三県大会，国体ブロック大会は苦戦しました。和歌山国体にも出場しましたが，今度は中山君（ゴールキーパー）がソ連に出張中。加えて福田君の足のケガと言う最悪の国体出場になりました。この時私が12番ゴールキーパーで登録されており，素人ゴールキーパーと言うことになりました。それでも１回戦で函館有斗クラブに勝ち，念願の初戦に勝つことができ２回戦に駒を進め，栃木のＡＯＫと対戦。前半互角の戦いでしたが後半ゴールキーパーが素人であると言うことがわかり，どうする事もできず敗れました。この国体は，民

泊方式がとられ，例年の旅館宿泊とちがい地元の人達との暖いふれ合いが数多くあって，すがすがしい思い出として今も心に深く残っております。

昭和47年度は明大を卒業のポイントゲッター浦野君の加入があり，いままでの走るハンドボールに加えセットプレーを重点に練習，新しいハンドボールを目指し幅の広いハンドボールを合言葉に頑張った年でありました。県内大会，北陸三県大会，国体ブロック大会と勝ち進み，鹿児島国体に出場，１回戦で清商クラブ（静岡）と対戦。共に全国的にクラブチームとして名門チーム同志の顔合せとなりましたが，惜しくも敗れました。

昭和48年度はゴールキーパーに矢田部君の加入があり，中山君一人でゴールを守っていましたが新たな力に心強い気持でスタートしました。又この年は安平先生が監督をやめられ，私達の恩師金原先生に監督を引受けてもらい強化をはかり，千葉国体に出場しましたが又もや初戦で実業団の丸善石油に敗れ，昨年に続いて今年も又初戦で敗れると言う状態でチーム内のムードも悪くなり苦しい時でありました。

昭和49年度は原点にかえり基礎練習よりスタート。今年こそはと言う気持でがんばり，茨城国体に出場，初戦で実業団の神戸製鋼と対戦しひさしぶりに勝ち２回戦に進むことが出来，強豪大崎電気と対戦，前半一進一退のゲーム運びとなりましたが後半，体力，技術の差があらわれ敗退しましたが，ここ数年来一番充実した年で強く心に残っております。

昭和50年度は石山君の加入でセットプレーと走るハンドボールに一段と充実し，今年はクラブ創立15年の記念すべき年でもありました。又国体に出場すれば15年連続出場とファイトを燃やし，がんばった年でありました。

県内大会，北陸三県大会，国体ブロック大会に優勝。三重国体に出場し初戦でクラブチームの名門徳山クラブと対戦しました。敗れましたが国体連続15回出場と意義のある年でありました。

昭和51年度は氷見でインターハイが開かれる年であり現役の強化，インターハイの準備とＯＢ及び氷見クラブにとっては，忙しい年のスタートでありました。インターハイでは現役が準優勝とがんばってくれました。此年の国体には現役共々氷見クラブもがんばろうとハンドボール熱が一段と盛り上がった年でありましたが国体ブロック大会で敗れ，創立以来初めて国体に出場出来ない年であり，チーム内の年齢も高くなり，チーム創立以来の最大のピンチに立たされました。

昭和52年度は三国君，山貫君，姿君，上野君の４名の加入があり，若い人達の参加が心強い気持でスタートしました。昨年の雪辱と国体出場を合言葉に，練習又練習と強化を計り一段とハンドボールに打ちこんだ年でありました。その成果があり，県内大会，北陸三県大会と優勝，又国体は県大会で優勝すれば出場権があり，青森国体に出場することが出来ました。

１回戦では徳山クラブに勝ち，２回戦京都クラブに勝ち，３回戦日本リーグの雄三景KKチームに惜敗し準々決勝に進むことが出来ずベスト８への壁の厚さを痛感させられましたが，現役のインターハイ次勝，又国体２度目の優勝と私達ＯＢ及びクラブ員にとってはうれしい年でありました。

昭和52年　青森国体

昭和53年度は谷内口君（金大），松室君，狩野君，上野孝之君，角君などの新戦力を加えてチームも若手に切替えスタートしました。技術的に又試合運びにチームプレーにまだ未熟な点は体力的にカバーし走るハンドボールを目指しました。

国体ブロック予選大会には第２位でありましたが出場権を得て長野国体に出場，２回戦に駒を進めることができましたが，新チームとしては大変勉強になりました。又現役は昨年に続いてインターハイ次勝，国体優勝と輝しい成績を納めてくれた事は氷見クラブにとっては大変良い刺激になりました。

昭和54年は新たに堂尻君の加入があり，若手中心に切替えた２年目であり，コンビネーションプレイを基に強化しましたが北陸三県大会には初めての

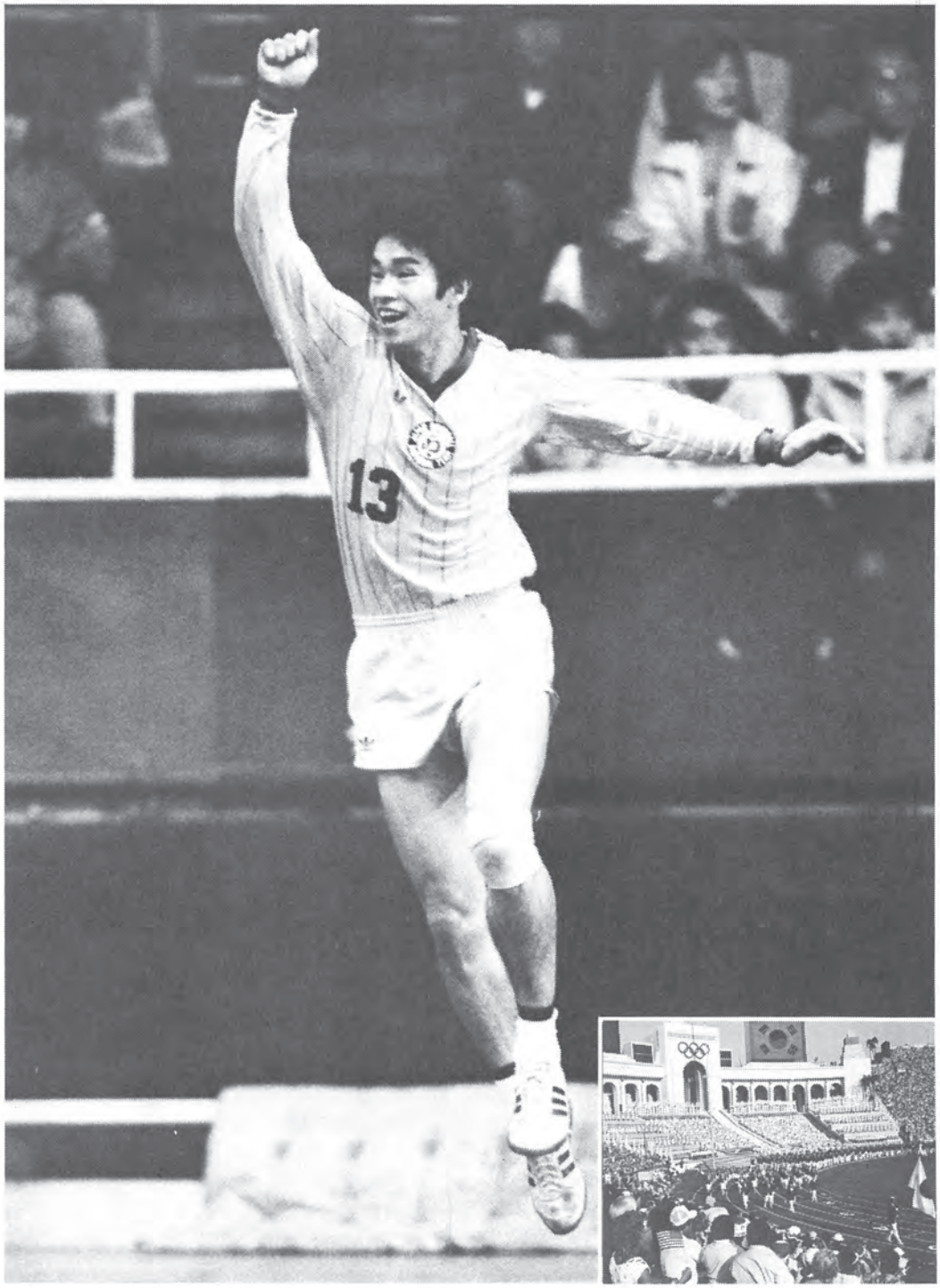
最下位，国体予選には富山教員に敗れ，過去19年間の内最悪の状態になりました。しかし国体出場は全富山チームを結成する事に決まり，氷見クラブより海下君，浦野君，谷内口君，上野君の４名が参加，宮崎国体で活躍してくれました。その後氷見クラブＯＢで単独チームを作ろうとムードが高まり，秋には氷見クラブの30歳以上で結成された氷見クラブシニアが出来上がり，秋の県内大会に出場，決勝で若手中心の氷見クラブと対戦，見事氷見クラブシニアが優勝しました。

翌昭和55年はクラブ結成20年と意義のある年でありました。この年には指崎氏（慶大）に加え国体優勝メンバーの松田氏，光安氏の３名の加入があり監督には私から中山重一氏に交替新なスタートを切りました。国体県予選には，氷見クラブシニア，氷見クラブが出場，共に決勝戦に勝ち進み過去に例のない，兄第チームの対戦となりました。ゲームは１進１退の緊縛した試合展開となりましたが，氷見クラブ若さが勝利を収め，団体出場と云うことになったですが，今年も又た，全富山チームを結成出場することとなり，氷見クラブより，監督に中山氏，選手には山貫氏，姿氏，谷内口氏，指崎氏，堂尻氏，上野氏，松田氏，光安氏の10名が参加，栃木国体に出場，初戦に千葉教員と対戦惜敗した。その後は県体育協会や県ハンドボール協会の指導などがあり，氷見クラブ単独で国体に出場することが出来なくなりました。

昭和56年には，山崎君，瀬戸君，吉井君（早大）の加入，又57年には森君，西山君，田中君，桜打君，中浦君の５名，翌58年には，大石君，魁君，中山君（日体大），裏君（日大），前君，糸君（日大）の６名，又今年は，吉木君，北山君，小久保君（法大），関谷君の加入と氷見クラブも若手中心の大世帯となりました。昭和56～59年の国体には全富山チームとして，吉井，松田，山崎，森，田中，中山，糸，指崎の諸君が出場活躍してくれました。又昭和56年から全国クラブ選手権大会が初まり氷見クラブ単独チームとして出場，毎年全国のトップレベルの試合展開でかがやかしい成績を残してきました。今では，クラブ員の数も40数名を数え，氷見クラブシニアは小中学校の指導、氷見クラブは，全国クラブ選手権大会優勝を合言葉に，おのおの分野に活躍の場をもとめ，努力，精進している今日です。氷見クラブ創立以来過去23年間の内，国体出場連続15回を含め17回出場，その内県内大会，北三大会，団体ブロック大会に数回は敗れましたが国体第４位２度，ベスト８進出４度と輝しい成績をおさめる事ができました。又個人として国体出場10回以上の県表彰を谷口君，鏡宮君，高橋君，関君，解田君（旧姓森），中山君，浦野君と私の７名を数えます。今後は山貫克郎監督と指崎主将を中心に新な気持でスタートを切り，新しい氷見クラブの歴史を作っていってくれる事を信じます。

ロスアンゼルスオリンピック

西　山　　清 選手



ロス、五輪まで

日新製鋼㈱
西　山　清

私が生まれ育った氷見市は、古くからハンドボールが盛んで、全国的にみても高いレベルにあります。そんな中で私が生まれて始めてハンドボールというスポーツを知ったのは中学校へ入学してからでした。しかし、何故かしら私がハンドボールをやってみようと思ったのは、小学校の時でした。今、理由を聞かれても、はっきりと答えられませんが、強いてその動機をあげるとしたら、自分にとって未知のスポーツだったことが大変魅力あるスポーツに見えたのかも知れません。とに角、私は中学入学前にハンドボール部へ入部を決めていましたが、私の入学した氷見市立西部中学にはハンドボール部が存在していなかったのです。さて、どの部に入ろうかと考えた末、小学校の先輩のたくさんいた体操部へ入ることにしました。努力のかいあってか、１年の春には、何とか試合に出させて貰いました。しかし、ハンドボールに対する魅力を断ち切れない毎日でした。そんな折(たしか夏ころ)新任の伊勢先生の努力により、ハンドボール部が新設されました。どの部活にも入部していない生徒や部員の多かった体操部の生徒を集めてハンドボール部の練習が始まったのです。それから数か月、ハンドボール部の練習を横目で見ながらの体操部の練習でした。そんな気持の入らない練習のためか、２年生の夏のある日、鉄棒から落ちて左腕を骨折してしまったのです。それからは左腕の治療に専念し、完治に近い状態のある日、左腕が真直ぐに伸びなくなっていることに気がついたのです。これは、体操をする者にとって致命的なものなのです。そのことで体操の目標を失った私は、ハンドボールに対する魅力がよみがえってきたのです。そして決断の日、体操部の顧問の先生と相談し、ハンドボール部に入部したのが、中学２年の12月のことでした。ハンドボールの動きは勿論、ルールさえよくわからなかった私でしたが、夢だけは心の中にもっていました。ハンドボール部に入部してからは、年に１、２回のテレビ放映はかかさずみ、放映のあった翌日は一線級プレーヤーのまねなどしたものです。私も日本のトッププレーヤーとしてプレーしてみたいと心の隅で思っていたのです。これは私の大きな夢だったのです。何事にも大きな夢をもつということは人間形成の上で重要な要素をもっていると思うし、人生の大きなささえになっていると思います。この夢を実現するためには、終局の結果だけを求めず、段階的な目標を立てる必要があると思います。私自身もハンドボールにおいて段階的に目標を立て練習に取り組んできました。当時、監督であった伊勢先生も基礎、基本の重要さを強調され、私達もその通り練習に励んできました。その結果、中学３年の時、県大会で優勝することができました。私のハンドボール人生はこうして好スタートを切ることができました。その後、先生のすすめもあって、県立氷見高校へ進むことになりました。

私の進学した氷見高校は、全国的に絶えずトップクラスのレベルを維持してきた古豪高校なのです。高校では、私の中学時代にみることのできなかったパワー、スピード、テクニックなど、そして何よりも勝負に対する執着心、つまり強い精神力、中学時代になかったハンドボールを学びました。また、ここでいくつも解決していかなければならない目標がでてきました。先ず、身体をつくることが大切と思い、腹のへりが早かったこともあり、１日５食位食べていたことを憶えています。夜間練習や合宿などは、監督や私達で食事を作ったり、とに角よく食べました。次に、基礎体力的なものは、自宅から学校までの10kmを自転車で通うことにより、特に帰りの10kmは半分近くが登り坂で、人よりも多くトレーニングができたように思います。また、自転車通学は、坂道など大変バランスがとりにくく、ボディコントロールや足、腰の鍛練になったと思います。こうして私はハンドボール部員としての練習の他に、それ程意識せず、自然を相手に練習していたのです。自然を相手に素晴らしい人達に囲まれて、私は順調に目標を克服していくことができました。そして忘れることのできない高校３年の最後のイベントである青森国体で〝全国優勝〟という栄冠を勝ち取ることができました。私の夢が一歩一歩と実現されていくように思われました。私がハンドボールというスポーツがいくらかわかってきたのかこの高校３年ぐらいからでした。

その後、私はいろいろな人の勧めもあって筑波大学に進学することになりました。そして、その年の７月に全日本のメンバーに選ばれたのです。私は有頂天になって喜びましたが、反面不安もありました。確かに全日本のメンバーに選ばれることは、私の念願の夢だったのですが、この時点で全日本についていけるような段階を踏んでいなかったことで、とてもではないが自信がなく、不安が高まるばかりでした。いろいろ悩んでいる折の大学２年の冬に世界ジュニア選手権大会、大学３年の冬には、世界学生選手権などの体験をしたことによって、何とか全日本でもやっていけるのでは、という気持になってきました。そして、全日本選手として本格的に活動しはじめたのが大学４年になってからでした。大学４年の終りに、世界選手権出場をはたし、海外遠征も４回体験することができました。

大学卒業後の進路については、いろいろな方々と相談した結果、日新製鋼で働きながらハンドボールを続けることになりました。日新製鋼という会社は、鉄鋼の製造、加工、販売及び各種建設工事の設計、請負やこれらに付帯する事業を行っています。また、日新製鋼は、全国に工場及び営業所をもち、海外にもいくつかの営業所、事務所をもっており、鉄鋼業でも第６番目に位置づけられている大きな会社です。この日新製鋼にあってハンドボール部は、一番期待されているスポーツクラブなのです。そういった意味で、トレーニング施設もゆきとどいており、全日本実業団としても現在、第三位の位置をキープしています。また、私自身も日新製鋼へ入社してからは、全日本での活動も盛んになり、会社の協力のもと積極的に参加させて貰っています。日新製鋼入社後の主なイベントとしては、インドで行われたアジア大会、韓国でのアジアハンドボール選手権大会、そして、ロスアンゼルスオリンピックと数多くのイベントを体験することができました。その中でも、特に印象的なのは、ロス・オリンピック予選があげられます。私達全日本チームがロスオリンピックに向けてスタートしたのが58年５月のことです。ロス・オリンピックに出場するには、何としてもアジア予選に勝たなければなりません。今までのアジア予選は、それ程意識しなくても勝てる相手ばかりだったのですが、ここ２、３年、中国や韓国が力をつけてきて、どのチームが予選に勝つか予想が立たない状態でした。現に57年のインドの大会では中国が優勝、58年のソウルの大会では韓国が優勝しており、全日本はこの二つの大会で準優勝に終っているのです。私達、全日本は窮地に立たされていたのです。こんな状況の中でロス・オリンピック予選に向けて、強化合宿と並行してミーティングをくり返し、過去の対中国戦、対韓国戦を分析していきました。そして私達全日本チームに今一番必要なものは、技術でも、体力でもない、「チャレンジ精神だ」という結論になったのです。このチャレンジの精神はスポーツをするものには不可決なものだとわかっていても、各選手個人のプライドや過去の栄光等が邪魔をして、なかなかその気持になり切れないものです。その後の合宿では、今までの栄光やプライドをかなぐり捨て、真のチャレンジャーとして、残された日程を死にものぐるいで消化していきました。そしていよいよ待望のオリンピック予選の日がやってきました。私達全日本チームは、かなりハードな合宿を行ってきたため、体はボロボロになっていましたが、〝やるだけのことはやった〟という充実感がありました。もう結果は二の次でそれを恐れる必要はなかったのです。

四日市の韓国対中国を皮切りに、ロス・オリンピック予選はスタートしたのです。今までの私達の練習と照し合せて観戦しました。試合を観ているだけで手の平に汗をかき、緊張が高まってくるのが自分自身で確認できるほどでした。この試合のあと私達全日本は台湾と戦い、無難に勝つことができました。第２戦はいよいよ宿敵韓国です。前日の中国戦でなかなかいい動きをしており、スピードで中国を圧倒しているだけに、私達一人一人が韓国戦に不安をもっていたのです。結果を恐れていたのです。確かに結果は大切ですが、結果

を恐れていては何もできません。このことが、チャレンジャー精神を弱めていく結果になったのです。このことが影響したのか、前半は何とか同点でしたが、後半に入ると一人一人の思い切ったプレーが見られず、各自がチームの一員としての役割を忘れ、韓国チームのスピード、気迫に圧倒されたのです。この試合、全日本のもっている力は全く出し切れず、終始、韓国チームのペースで行われました。この時、私だけでなく、チーム全体が崩れそうになりました。しかし、精神合宿を中心に行ってきたことで、試合後のミーティングで、今までやってきたことをもう一度考えさせられました。そして過去のことにこだわらず、前向きの姿勢で次の中国戦、そしてこの大会を戦いぬくことを誓い合いました。この敗北で、今まで以上にチームが、強い絆と信頼感で結ばれたような気がしました。私達全日本は、精神的にも立ち直り、このあとの試合は、今までに見たこともないような気迫とムードで劇的な逆転優勝を成し遂げたのです。実は、この予選中、殆んどの選手は針治療、痛み止めの注射などをして試合に出ていたのです。でも、中国戦に勝ちアジアの代表に決まった時、精神は勿論、合宿、試合等で酷使してきた身体も痛みを忘れ、自然に空中に飛び上がっていたのです。私達は劇的な勝利でロス五輪への切符を手に入れた訳ですが、私はこの予選の後、「フッ」と気がゆるんだのか、肘や肩、膝をも痛めてしまったのです。そんなことは関係なく、私には全日本のメンバーとしての練習、また、日新製鋼チームとしての活動が待っていたのです。私には治療の時期がなかったのです。特に、左膝と右肩は長期治療が必要にもかかわらず、ロス五輪に向けての強化合宿、遠征が続けられていきました。膝や肩の調子は一向によくならず59年７月を迎えました。

そして、いよいよロス・オリンピック。この時点では、体調不十分でしたが自分なりにもてる力を十分に発揮したと思っています。しかし、期待にそえず10位に終ったこと、それよりも、自分自身の体調をベストにもっていくことができなかったことに対しては不本意に思っています。でも後悔はしていません。ロス・オリンピックは、私にすばらしい財産を数えきれない程与えてくれたから……。

終りに、オリンピックを終えた今、私の思っていることを書いてみます。先ず、最初にいいたいことは、「小さいことから始めて、それを大切にしてほしい」ということです。何事も、最初からおもしろいものなんてないと思います。スポーツでも、最初から超人はいないものです。だから、見た目は楽しそうに見えても、実際に自分でやって見ると大変なことが多いようです。だから、段階的な目標をもって、小さなことから始めることが大切なのです。即ち、スポーツは、どんな理由があっても基礎から始めなければなりません。そうすればはじめしっかり見えていなかった目標も見えてくることがあると思います。

次に「自分に素直になろう」ということです。周りのムードに流されてはなりません。自分に打ち込むものがないと、周りの誘惑にまけたり、目移りするものです。例え、それがまちがっているとわかっていても……。だから、自分に素直になってほしいのです。身長の高い、低い、できる、できない、はそんなに大切だとは思いません。失敗しても後悔しない道、それが自分に対して素直な生き方をすることだと思います。「飾らずに生きよう」。自分をよく見られたい、飾りたいと意地を張ることによって、自分に一番大切なものを失う結果となることもあります。自分を認めてもらうために生きるよりも、それぞれの生き方、自分の花を咲かせればよいと思います。人間だれでも、何かが欠けているものです。それをかくす必要がないと思います。それよりも、自分の長所を見つけていくことが大切だと思います。

以上は、ロス・オリンピック出場という大役を終えた今の私なりの考えを述べさせてもらいましたが、とに角〝損をしてもやってみる〟ことが青春だと思います。そのことについては、きっと後悔しないと思います。

思　い　出

思い出の珊瑚礁

関　勝之

昭和40年暮と言えば，もう19年余りも前。フィーリングの悪い自分には当時の想い出も霞の彼方といった感もするが，今でも印象深く残っている珊瑚礁から辿って当時を思い起こしてみたい。

41年の正月を挟んでの10日間ではあったが関係者の善意から日沖親善全日本高校選抜ハンドボールチームの一員として沖縄に渡った。北信越代表として他に女子チームの定塚（高女）さん，そして女子チーム監督の島田先生がおられ共に県内で顔見知りであった事は非常に心強いものでした。

当時の沖縄はまだ日本に返還されておらずパスポートが必要な時代だっただけに海外遠征として扱われ仰々しいものであったが生れて初めて飛行機に乗れた事は田舎者の私にとって大変な感激であった。鹿児島から１時間位いだったかと記憶しているが，その時，空から見た沖縄の海は赤白青が自然の構図を生み出し，その色彩は楽園を感じさせるものであった。珊瑚さえもろくに知らなかったせいだろうか快晴も手伝って口では言い表わせないすばらしく強烈な衝撃を覚えた事が今でも印象深く残されている。

ところで肝心の試合の方はとなると本土に比べ男女共格差は大きく普及やレベルアップを目的とした様なものであって内容についてはほとんど記憶になく，ここで記すことができない有様です。しかし以後47年の本土復帰と共に沖縄の各スポーツレベルは大きく向上されてきている事は我々にとっても喜ばしい限りです。

又，当時の遠征メンバーの中には男子で大同の藤中，女子で旧太洋デパートの垂水といった後に全日本を代表する中心的選手もいた。

その様な時代背景の中での事もあって当地の人に接したり，戦跡等を見るにつけ子供心に皆，心底から一日も早い本土復帰を願っていた当時が改めて思い起こされ，そして今は沖縄の海がいつ迄も私の中に描かれているままであって欲しいと願っている。

ホンコン国際大会に参加して

高　橋　克　巳

ホンコン国際大会に参加して，九カ月になる。大学，実業団の一流プレーヤーをそろえた日本代表チームに，高校生で参加したのは，私唯一人であった。大変不安であった。キーパーとなってまだ半年という人間に，いきなり〝日の丸〟をつけて海外にいって戦って来いというのだから，喜びよりも驚きの方が大きかった。しかし，こんなチャンスは一生にそう何度もあるものではない。「経験・勉強」という意味で参加する決心をした。

合宿は大変厳しいものだった。ハッキリ言ってついていけなかった。イージーミスを繰り返してチームの人たちに，かなり迷惑をかけた。「スミマセン，スミマセン」と何度謝ったかわからない。高校生のシュートぐらいのボールが，パスとして飛んでくるのだから，たまったものではない。そんなわけで，ゴールに入っても緊張でコチコチになって，キーピングできるシュートもとれなかった。そんな私に，監督である本田洋先生（元全日本ゴールキーパ）の言われた言葉を私は一生涯忘れないだろう。「キャッチミスやキーピングのミスは，なにも君一人の責任ではない。キャッチミスは双方のタイミングの問題もあるし，キーパーの場合は，ディフェンスとのコンビもある。『失敗の責任は一人で』というのは，チームプレーの精神に反する。『喜ぶときも分かち合い，失敗の責任も分かち合う』これが理想のチームである」。よく言われるように，***"One for All , All for One"***（一人はみんなのために，みんなは一人のために）がチームプレーの基本精神である。その点から言っても，私はチームに溶け込んでいなかった。この言葉を聞いてから，練習中よく声を出すようになったし，ハンドボールについての自分の考えもいえるようになった。

大会は，日本・中国・韓国・シンガポール・ホンコンの五カ国で行なわれ，優勝は日・中・韓の三カ国で争われた。第一戦の中国戦は，警告・退場の乱れ飛ぶ激しい試合となったが，気迫で勝る日本代表チームが，少差ながら中国を振りきった。

全勝どうしの戦いとなった最終の韓国戦は、両チームで80点近く取り合う大乱打戦の末、サウスポーを四人も含む変則的な攻撃に幻惑され、あと一歩およばず敗れた。私自身は、ホンコンとシンガポール戦に出場することができた上、シンガポール戦では、ダイレクトシュートを一本決めるなど、まずまずの活躍ではなかったかと思う。

大会後のディナーパーティーは、本当に楽しいものであった。各国入り乱れて食事をし、方言の英語やゼスチャーでゲームのことなんかを語り合うのは、厳しい練習に耐えてきた男達だからこそ心から楽しめるのだと思う。パーティー中に各国の人々と交換し合ったバッヂやペナント、それに外国の人と一時でも友人になれたという思い出は、今でも私の最高の宝物である。

この大会に参加して、多くの経験を積むことができ、多くの人たちとふれ合うことができた。特に、いっしょにプレーしたチームメイトのみなさんとは、今でも大変親しくつき合っている。このチームメイトのみなさんと友人になれたことが、厳しい練習に耐えた私への〝贈物〟であったように思う。今後は自分自身をよりいっそう鍛えて、この大会のメンバーに選んでいただいたスタッフのみなさんの期待に答えられるように、より大きな国際的な舞台に立てるように精進していきたいと思います。

ヨーロッパ遠征に参加して

金　原　理　博

いつかは外国旅行をしてみたいと思っていたが、このたび図らずも関東学生選抜ハンドボールチームの一員に選ばれヨーロッパ遠征に参加することができました。私にとって初めて踏みしめるヨーロッパの土、そして初めて経験する外国人とのプレー、なにか不安な中にも大きな期待が満ちていました。

飛行機は北回りアンカレッヂ経由ドイツのフランクフルト行きで、夜の成田を９時に離陸。見おろす眺めは素晴らしく太陽に照りつけられた氷河と雲海がどこまでもつづき大自然の壮大さを十分に見せつけられ感動しました。18時間もの長い飛行で、全く機内に閉じ込められたブロイラーのようで身動きがつかず、ただ頻雑にでてくる機内食を片っ端から平らげるのが仕事でした。だから豚さながら体が鈍重になるのが気がかりでした。
いよいよ飛行機はフランクフルト上空にさしかかり着陸態勢に入った時、初めて見おろすヨーロッパの景色は今も鮮明に残っています。いよいよ期待の第一歩を地にする。濃い緑の中に点々とレンガ色の建物が続く。日本では見られない風景である。私達一行は疲れが飛んでしまい、見るもの、食べるもの、すべてが珍らしく、事前に聞いていた感じとは異なるし、それに体の調子もよく、食欲も旺盛でだれの表情も明明るかった。

一夜明ければいよいよ試合の第一日目である。一行を乗せたバスは世界唯一といわれる速度無制限道路（アウトバーン）を会場へと走った。地平線がどんどん延びて広大さということつくづく感じさせられる。道路の両側には延々と木々の緑がどこまでも沿っていて、その緑の中にポツン、ポツンと人家が建っている。１時間30分ほど走ったろう。会場にあてられたところは、いずれも氷見の町より小さく感じられる。辺りの風景はヨーロッパ特有の広大な自然とそこにひっそりと建つ、中世のなごりをとどめている建物、この両者の調和がいかにもヨーロッパの歴史を如実に語っているように思われた。

さて試合相手はクラブチームで、計６試合行う。全試合の体育館で、どの試合も観衆は場内満員なのにはおどろきました。観衆は敵味方なくいいプレーにはおしみなく手をたたくし、絶えず大声で声援をおくってくれました。そしてみんなよくハンドボールの技術に精通していて、審判に対するアピールも強く、さすがハンドボール発祥の地だなと感心しました。又対戦相手の各チームには必ずといっていいほどスタープレヤーがいて、その選手におくられる声援は一際大きく、ゲームの流れと一つになって興奮するといった雰囲気でした。日本では見ることのできない場面であり、いやが上にもこの国のハンドボールの強さと底辺の広さを痛感させられ、残念ながらわが国は当分追いつけそうもないと感じました。対戦成績は、２勝１敗３引分けでしたが、どの試合も一点を争うようなゲーム展開となり終始気の抜けない好ゲームでした。結局惜しいところで勝機を逸するの余り惜敗したゲームもあった。技術的には勝てない相手ではないと思うが、やはりなんといっても体格の違いは大きく、高さとパワーにはどうにもならないところがあります。

このたびの遠征で主将という大役を仰せつかりいろいろ悩みも多かった。一つには集団の力をつけるためのチームワーク、いま一つは練習内容の研究が不足していたということです。つくづく自分の未熟さを痛感させられました。一方プレー面で一番感じたことは、ヨーロッパの選手の体力の素晴らしいことです。先ず日本選手に比べ高さやパワーの差は歴然としており、これはどうすることもできません。やはり勝つためには日本人特有の技術とスピードを鍛え抜いて、それで勝負するよりほかはない。いわゆる高さとパワーに対してテクニックとスピードがより上回らなくてはならないということです。又とかく〝サボリ〟がちなデフェンスの強化を最優先しなくてはなりません。そして今までのデフェンス体形を見直す必要に迫まられていると思いました。特にデフェンスの個人技を高めるために、次のような練習を繰り返し実施しなくてはならない。いわゆる予測される攻撃の〝ツボ〟に対して素早く詰めることと、後方にさがるスピードである。このことを集団での技として確立することが大切になってくる。いわゆる移動することによってよりデフェンスエリアを大きくしなくては高さとパワーに対処できないのである。又オフエンスにおいてはパスとキャッチ、特にトップスピードで走りながらの正確なパスキャッチが基本である。そのポイントはデフェンスを外してキャッチするための移動である。動きのないプレヤーは攻撃者としての資格がないものと強く意識しなければならない。又シュートは思い切りよく振り抜く、特にノーマークシュートは体を捨てて飛び込んで打ち込む、これらのことは小さい選手が大きい選手に勝つための絶対条件であると思う。西ドイツのナショナルチームと練習試合をさせていただいたときの私の経験ですが小さい選手でも相手を抜くことはできる、それは得意な距離とタイミングで勝負すれば勝機が生まれるということです。しかしなんといっても一番鍛えなくてはならないものは体力（持久力）です。いつも同じ運動単位での練習では彼等に勝てない。一試合を十分走りこなせる力を身につけなくてはなりません。以上のことが私の体験的実感です。

試合はすべて親善試合でしたので必ずレセプションが設けられました。からっきし語学に弱い私は苦労しました。しかし、たとえ外国語はうまくできなくても、同じハンドボールをするもの同志で通じ合えるものが多くあったと信じています。又彼等は日本人と異って底抜けに陽気で人なつっこく、会もなかばを過ぎると、歌う者、踊る者、やがて参会者全員が輪になってテーブルのまわりを踊りあるくほどになり、予定時間をはるかにオーバーしてしまうほど、楽しく思い出深いものでありました。

西ドイツを出発して、イタリヤのローマとフランスのパリを観光しました。

古代ローマの発祥の地、パラティーノの丘を皮

切りにして遺跡を見学。いずれもそのスケールの大きさと美しさには、唯々感嘆するばかり。中でも最大のものは、バチカン市国のサン・ピエトロ寺院である。巨大なドームの高さ132cm直径42cmにはおどろきである。人間の創造力の偉大さに驚嘆するとともに当時の法王の権力の大きさも偲ばれるほどでした。ローマの街はどこへ行っても多くのゴミが散らばっている〝これさえなければ本当に素晴らしい〟の一言に尽きるのだが……。フランスでは一日の観光でしたが、あの有名な凱旋門やエッフェル塔などを見学し、感銘するところは少なくありませんでした。

今回の遠征で多くのことを体験させていただきました。私はこの新しい体験と発見によって少しでもハンドボールの奥の深みに迫ることができたのではないかと思っています。これはすべて諸先生方やＯＢの方々のよき御指導と御支援をいただいたお陰だと思っております。本当に有難うございました。これからますます氷見のハンドボールが発展することを祈ってやみません。

思　い　出

私とハンドボール

氷見クラブ主将 山崎祐治

〝ピー〟試合開始のホイッスルが鳴る。勝つか負けるか、自分たちの力が出せるか出せないか、自分のプレーが出来るか出来ないか、不安と緊張の時である。大きな大会になればなるほど、強い相手になればなるほど、その不安と緊張は大きくなっていく。しかし、その不安と緊張が大きくなるほど、心の半分でそういう相手と試合ができる喜びや楽しみ、それに『やるぞ』という闘志が湧いてくる。今まで一緒に苦しい練習をし、一緒に汗も涙も流したチームメイトの顔がコートにもベンチにもある。それに、今まで指導して下さった先生やＯＢの人たちの顔も見える。一瞬心が安らぐ……しかしすぐに戦いの中に掻き消されてしまう。もうチームメイトを信じ、自分の力を信じプレーするしかない。『やった。一点取ったぞ』『くそー。また取られたぞ』『よし。オレにボールをかせ。決めてやる』『たのむ。決めてくれ』　……そして〝ピー〟と試合終了のホイッスルが鳴る。

試合が終わる度に、自分たちの力を出し切って勝った喜び、勝ったが力を出し切れなかった悔しさ、力を出し切れずに負けた辱しさを何度も味わい、勝って泣き、負けて涙を流したこともあった。こんな気持ちになれるのは、今まで自分たちがそして自分が、月光りの中古くて黒くなったボールに石灰をまぶして夜八時すぎまで練習した日々、雨の日排水口が詰まり水びたしのグランドで、泥だらけになって練習した日々、冬雪を踏み締めて長ぐつで練習した日々、真夏の太陽の下で反吐をはいて練習した日々など、苦しい練習の日々の積み重ねによって味わえる貴重なものだと思う。

試合に出て一点でも決めたいから、試合に勝ちたいから、そして仲間の励ましがあったから、苦しい練習にも堪えてやってこれたと思う。そしてそんな中からこそ、チームメイトのつながり、先生やＯＢとのつながりが強いものになっていくと思う。だからこそ私は、ハンドボールによって出来たこのつながりを、最高のものだと思うし生涯大切にしていきたいと思う。

私は社会人となり、今も氷見クラブと全富山でハンドボールを続けている。そして氷見クラブのキャプテンになって思うに、問題の一つとして、どこの一般クラブチームも同じだと思うが、練習にも試合にも人が揃わないということがある。氷見クラブ員の３分の２以上が交替勤務のため仕方がないが、富山県内そして全国のクラブチームの実力アップにより、ますます大変になってきている。しかし、富山県内では一位、そして全国クラブハンドボール選手権大会では三位入賞を目指し、今後一層の皆の努力と協力で、一致団結して練習し試合につないでいきたいと思う。氷見クラブが強くなれば、氷見高校も強くなると思うし、富山県のハンドボールレベルを少しでも上げられると思う。そこで氷見クラブ員の皆にお願いしたいのだが、仕事はもちろん一番大切だが、情熱とクラブチーム日本一を目指し、練習に試合にがんばってほしい。私も自分の体が続くかぎり、ハンドボールに対し情熱と目標を持って、がんばっていきたいと思う。

私のハンドボール部の思い出

赤萩賢良

昭和三十六年四月入学以来、思えば先輩の単なる誘いに、ハンドボールという全く知らない競技を、三年間頑張る身になってしまったというのが、率直な実感である。なぜならば入部した特別の理由もなく、又期待されるような器でもなく、後日にはよく残ったものだと、よく先輩に言われたものだ。しかし、この間、私が体で感じとった有形無形の教訓は、甚だ大きいと自負できます。多くの同輩が入部して、そして退部していった。三年生になって残ったのは、山本君と私の二人だけだった。

当時は十一人制の競技であり、あの広いグランドで二年生の秋頃迄、金原先生の熱っぽい指導と、先輩方の厳しい指導のもと、幾つかの大会を経験してきました。

ところが、その年、七人制の競技に変ったのです。一番困ったことは、練習方法の要領が、これまでの輝かしい伝統にささえられてきた方法とは、少し変ってきたということです。

今日では、皆さん方は多くの体験や研究で、効率よく練習している様ですが、当時は本当に面くらったものです。涙と汗の結晶を、あのグランドの砂の中にしみこませ、耐えることの辛さ、喜び、尊さを、ハンドボールの球を追いかけて一生懸命に励んでいる姿が素晴らしい。

ところで、私の最も脳裏に焼きついていることがらを記してみたい。

当時は、雨が降ってもグランドでの練習や試合があったので、私のようなメガネをかけている者には、絶えずハンディがあり辛かった。よくメガネを壊し、母に頼むから部をやめるようにと言われたものだった。

夏の合宿練習は、やはりきつかった。炎天下のもと、汗が出てこなくなる程の、体力の消耗の中から培かわれた精神とは、何なのか。それはやはり克己心であろう。やめることは簡単なことでやめないで続けることが、むづかしく大切なことなのであろう。冬の基礎体力をつける練習も、重いボールでのキャッチボール、腹筋、うさぎ飛び、肩車、階段をかけ上がり持久力をつける一方で、狭い体育館での、長い時間をかけての基礎練習には、閉口しました。又、上級生の洗濯物が、乾かず授業中、練習着など手にもって乾かしていて、ある先生にののしられたことなど、数多くのエピソードがあります。七人制になって部員が少なくても、何とか乗り越えられたということです。言うなれば、私の時のハンドボール部は、後輩達につなぐための橋渡しだったのです。そのための努力は、私なりにしてきた様にも思えます。ボールにくらいつき、離さずゴールへ向かって飛び込む、あの倒れ込みシュートの意気込みは、本当に、祈るような、又信念のような、戦いのようなものでした。傷だらけの身体に、むち打って、励んだチームメートが懐しい。

インターハイ（富士吉田）、国体（山口）と出場することができましたが、その中でも、国体予選の北信越大会での長野県の上田高校の対戦が忘れられません。

ＯＢの氷見クラブの応援を受けながら、残り時間が全くない時点、一点差で負けていましたが、無我夢中の私のシュートで同点になり、延長戦の末、15対14で競い勝ちしたことです。

最後の一秒まで、あきらめぬ貴重な教訓と、私にとって初めての国体出場となった試合でした。ハンドボールを通しての精神的な訓話も、金原先生はじめ、多くの諸先輩方から感受しました。けれども、その中で最も尊いことは、素直であるかということであります。社会人としても、これが原点だと思います。素直とは、受け入れたことを、積極的に行動するということです。

最後に、余談ですが、一年の夏の合宿の際に行われた度胸だめし（夜中、本川の山のお墓迄、名前を取りに行く）に、道に迷い、何時間も山中を走りまわり、先生や先輩方に、ご心配をかけたできごとは、私の忘れえぬ思い出であり、今だにどこを走っていたのか定かではないのです。

とりとめもないことを綴りましたが、その後、後輩諸君の素晴らしい戦績にうれしく思い、私達の時代に一生懸命やってきたことに深い感慨を覚えます。

私　と
ハンドボール

指　崎　泰　利

私のハンドボール歴は浅く、大学時代の４年間と氷見クラブに所属してからの４年間で、合計８年間ということになります。高校時代は柔道をやっていましたが、ハンドボールの名門氷見高校ということもあり、体育の授業や球技大会等で、よくハンドボールと接していました。自分自身もハンドボールが大好きで、金原先生にすすめられる毎に、ハンドボール部への転向を考えたものでした。慶應義塾に入学した私は、まよわず体育会ハンドボール部に入部しました。しかし、そこには私の考えていた程簡単なハンドボールはなく、そのパワーとスピードに圧倒されてしまいました。しかも、私は高校時代にハンドボールをやっていなかった為に、その驚きは人一倍大きかったといえます。ここから私のハンドボール人生が始まったのです。他の部員よりも１時間早くグランドに出てトレーニングし、練習が終わってからも、１人残ってボールが見えなくなるまで練習しました。慶應には専任のコーチがいない為、練習方法も自分で考えてやったわけですが、通学の時は電信柱に向ってフェイントをかける練習をしたり、ボールに慣れる為に、ニューボールを買ってきて、電車の中であろうと何処であろうと、いつもそれをにぎっていたり、今思い出すと、よく恥かしくもなくあんなことをやっていたもんだ、と感心させられます。ですから、３年の時に初めてリーグ戦に出れた時は、うれしくてうれしくて仕様がありませんでした。

大学を卒業した私は、知人の勧めで、氷見クラブに入りました。氷見クラブは、氷見高校ハンドボール部のＯＢで形成されているので、高校は同じとはいえ、柔道部だった私が入るということは、全く異例のことだったわけです。何はともあれ、氷見クラブでやっと私のハンドボールが開花しました。大学時代は個々人の持場が決まっており、私はサイドとポストが主でしたので、相手ディフェンスやキーパーとのかけひきが少なかった（相手ディフェンスとの肉体を賭したかけひきが、ハンドボールの一番の面白さだと私は思っている）為に、自分の実力が出しきれなかったと考えるのです。そういった面では、氷見クラブは６人全員でボールまわしをする、といったチームカラーなので、自分のすきなプレーができるという利点があったわけです。

氷見クラブでは県内の諸大会は勿論、いろいろな全国大会にも出場しました。全国クラブカップ選手権大会では、過去３回出場して、３位になったこともありますし、文字通り、ハンドボールの日本一を決める全日本総合ハンドボール選手権大会にも出場しました。しかし何といっても一番思い出に残るのは、国民体育大会への出場でしょう。氷見クラブとして出場したのは、１度しか経験がありませんが、全富山として出場した年も含めると、合計３回出場したことになります。56年の栃の葉国体、57年の国引き国体、59年の若草国体、どれをとっても大変思い出深いものばかりです。特に若草国体においては、１回戦で実業団リーグの４位のチームである三陽商会（東京）を、25対20で破った試合（最初の得点が私のまわり込みシュートだったということもあり）が、一番印象に残っています。社会人主体で、週に１～２回しか練習することのできない全富山が、実業団チームの一角を崩したということは、画期的なことだといえます。

私は、氷見クラブや全富山でプレーするとともに、小学生のハンドボール教室のコーチもやっています。週１回の２時間しか練習できないので、技術的なことはあまり教えず、ハンドボールの楽しさを知ってもらうことを心がけていますが、中には個人的に教えてやれば一流のプレーヤーになれるような子供もいます。そういった子供達の成長を見届ける為に、よく中学校へ教えに行ったりもします。底辺は徐々に拡がりつつありますから、あとは、中学、高校の先生方が、いかに子供達の素質を伸ばすかによって、富山県のハンドボールの水準を上げることができるかどうかが決まってくるといえます。

私は、ハンドボールが大好きです。これからも、自分の体が動かなくなるまで、ハンドボールを続けたいと思いますし、教えられる限り、子供達や学生にもハンドボールを教えていきたい、と、思っています。

思い出

高橋善治

高校へ入学時、中学の時やっていた柔道部がなかったため何のクラブに入ろうか迷っていました。姉は、ハンドボール部だけへは入るなと言っていました。そうこうして、二ケ月過ぎて、学校にも慣れて、何か物足りなく感じた頃、学校の帰り道で中学の先生に、何もしていないのだったらハンドボールをやる様にと言われ、金原先生に連絡しておくという事だった。姉に言われた事もあったので、一応陰から練習を三日間見たが、やっていけそうに思えなかった。迷っている時に、同級生の平瀬君が真黒なすごい顔をして誘いに来てくれたので恐る恐る入部しました。これが私の、入部まのいきさつです。

入部してからは、練習の始めのランニングで、グラウンド五周すると一周以上の遅れるというお荷物だった。他校へ入学した同級生は、私がハンドボール部へ入ったというのを聞いて、暇有り連中を集めて見に来たが、練習始めから遅れているので今日は休んでいるとみんなに言ったそうである。後で言われて赤面した事がありました。グランドを回るのも辛かったし、坂のダッシュも辛かった。先輩に胸を引張られ、同級生には後から押されていつも世話ばかりかけました。特に思い出に残るのは、うさぎ飛びで前に倒れた私を、みんなで引きずって行ってくれた時にみんなにすまない気持ちで顔を涙でクチャクチャにした事、貧血で三ケ月練習を休んで病院通いをしホウレン草の根っ子ばかり食べた事等です。とにかく、みんなに迷惑のかけどうしでした。お陰様で、全国大会にも、国体にも参加する事が出来たし、いろいろと貴重な高校生活を体験させてもらいました。

卒業後は、とにかくハンドボールに生活を合わせました。体力の低下を防ぐ為に、いろんな事をやりました。相撲も、基礎練習と精神面の強化の為にやったりしました。青森国体を最後に、現役生活は終りましたが国体には13回出場する事が出来ました。この事も大変思い出に残っています。

私の人生の中で、ハンドボールとめぐり会って大変プラスになったと思っています。良き先生をはじめ多くの良き先輩、後輩、そして同級生と接し、心と心の温かい付き合い、真剣な付き合いの中から本当の人間と人間との付き合い方を勉強させてもらいました。それが私の人生の生き方の基本になっていると思います。

今後も、ハンドボールを愛し、スポーツを愛して、歩んで生きたい、と思います。

私を鍛えてくれたハンドボール

中山重一

私とハンドボールとの出合いは八代中学校へ入学した時であった。中学1年の時に先輩が県体で優勝した。二年生の時、私もゴールキーパーとして出場した。県体の決勝は奥田中との試合で延長戦でも勝敗が決まらず翌日再試合で惜しくも一点差で敗れた。三年の時は、レギュラーが殆んど卒業したが、坂井、金子先生、先輩の指導のお陰で県の全タイトルを獲得した。これが、私の中学時代の誇りである。

昭和三十九年に氷見高校に入学し、ハンドボールクラブに入部した。始めは、十数人いた一年生部員も六月ころには私一人となり、家（胡桃にあったが、七月地すべりがあり柳田に引越す）へ帰るのが遅くなるし何度かやめようと思ったが、先輩に励まされ、かわいがられた一年間が過ぎた。

二年になると下級生が入部し、クラブにも活気が出てきた。そして、インターハイ県予選では楽勝，熊本総体では二回戦に地元熊本工に勝ったが、三回戦清水商に敗れくやし涙を流した。この年の国体では、一回戦は勝ったものの次の名門桜台高には敗れた。そしていよいよ私達が最上級生になったが部員が少なく困り果てた。けれども、先輩の作ったインターハイ連続出場だけは守ろうと懸命に練習を続けた。そのかいあって何とかインターハイに出場することができたが，一回戦で昨年勝った熊本工に善戦はしたが敗れた。こうして高校でのハンドボール生活は終った。

卒業後は当然のことながら氷見クラブに入り，その年の国体で全神奈川と対戦し、再延長の末敗れはしたが、その試合のことが昨日の事のように

思い出される。その後も何度か全神奈川と対戦したがついに勝てなかった。また思い出に残る試合といえば，昭和44年，氷見クラブが全日本と対戦し，敗れはしたが，日本の超一流の選手と対等に戦えたことであった。自分でも本当に満足できる試合であった。それと，後輩が青森，長野，宮崎と国体三連覇を自分も応援し，パレード，祝賀会に参加できたことです。昭和36年にハンドボールを始めてから二十四年間，この間，家族や会社の皆さんのご理解，ハンドボール関係者のお陰と感謝しています。今後も微力ではありますがハンドボール競技の向上のため頑張りたいと思っています。

ハンドボールの思い出

菅沢正登

私が初めてハンドのボールを持ったのは，八代中学校に入学してからのことです。それまでは，手のつけられないガキ大将で，近所の人や，友達にも迷惑をかけたこともしばしばです。このありあまるエネルギーを，恩師坂井先生によって，ハンドボールへ情熱を向けるようになったのです。当時の練習は，一言では言い表わすことのできないくらいつらいものでしたが，それでも，ハンドをやめようと思ったことはありませんでした。

毎日毎日の練習により，より速いスピード，難度な技術に挑戦していくもので，限界というものはないということが，この中学の三年間に体で覚えました。あまり強くなかった，八代中学ハンドボールも，三年生のときの県民大会には，とうとう優勝することができました。

そして，ハンドボールでは，全国でもトップレベルの，氷見高校に入学することになりました。合格と同時に春の合宿に参加し，そこでまた，ハンドの神様と言われる金原先生との出会いが始まるわけです。合宿は，あのつらくきびしかった中学時代の練習よりも，はるかにきついものでした。グランドを何週も何週も走り，十一メートルのコートをうさぎ飛びで往復。基礎的な練習を，これでもか，これでもかとやるのです。「中学時代は，優勝するくらいなのに，なんでこんなこと毎日しなければならないのか。」と，心の中で反発もしました。一日の練習が終わって家に帰ると九時過ぎ。ご飯もろくろくのどを通らず，倒れ込むように眠ってしまう毎日でした。ここでもまた，物事には限界がないということを感じたわけです。それでも，私の高校時代は非常にめぐまれたものでした。山口国体，インターハイで，北九州，山梨，長野と出場することができました。こうして，高校，大学とハンドボール一途の生活でした。しかし，この十年間の毎日が，現在の私の生活の上にも影響が大きく，性格もつくられたように思います。何事にもとことんつき進む，やってやってやりまくる，人との協調性と，学生時代に　このように一途にうち込むものがあったということは，本当に幸福だったと思っています。

私は，二年前から八代小学校で子供達に，ハンドボールを教えています。生徒数が少ないために，全員が選手なのです。スポーツが好きな子も，きらいな子も，運動神経が発達している子も，嫌々というような素ぶりさえ見える子もいました。しかしハンドの機敏な動きや，スピーディさが，わかってきはじめたころから，皆の心が少しずつ「やってやろう」という気持になったのです。それを決定的にしたのは，初めて試合をした置県百年記念大会で，男子三位，女子一回戦勝ちという成績をとったのです。子供達は少ない人数で，しかも初めての試合でこれだけの成績をとったのですから，喜びようははかりしれないものでした。夏の暑い日も，どろんこになって練習しました。雪の降っている冬の間は，外ではできず，しかし体育館は狭く，とても練習どころではないのですが，子供達は，すすんで，いきいきとしているのです。昨年は市の大会で二回も優勝したり，八月の名古屋，北陸三県の交流試合でも優勝と，りっぱな成績を残してくれました。

ある父兄から「ハンドボールをやり始めて，子供が本当に明るくなったし，ハキハキとしてきた。」ということを聞き，私も教えがいがあると，喜んでいます。明日の氷見をしょってたつ若人を育てる手助けをすることができることに，喜びを感ずる，きょうこのごろです。

ハンドボールと共に今日まで

海　下　雄　二

私の思い出は、たくさんありますが、まず２年生の時、部員が１、２年合わせて７人という最低の人数にもかかわらず、２人が怪我をして５人で望んだ室内大会で１回戦は富山商業に何とか勝ったものの、２回戦小杉高校の時、金原先生から相手に失礼であるから棄権してくれと言われて悔し涙した事です。

そして翌年、１年生が入部した時、皆で大事に育てようと話し合い、練習時間も１年生だけ５時30分で帰し、２・３年で７時30分まで練習した。しかし、それでも10人いた１年生が３人に減ってしまい３年生５人、２年生２人、１年生３人の計10人となり練習が限られ、思うようにゆきません。その時、助けて下さったのが、氷見クラブの人達でした。日曜日になるといつも集まって私達の練習相手になってくれました。練習試合ではいつも負けてしまい〝いつか勝ってやるぞ〟と思いながら練習しました。

インターハイは、県予戦で一点差で負けて出場できず、その後金原先生から〝ここで１点ほしい時に取れるセットプレーを考えてこい〟とのことでした。その時、先輩の吉本さんがセットプレーを教えて下さり、それをヒントに皆でいろいろ考え、さっそく練習です。いない相手を仮想しての練習に、時には、ばかばかしくなることもありましたが、国体に行くためにはこれしかないんだと言い聞かせて練習しました。その結果、氷見クラブとの練習試合で始めて勝つことができ私達の自信にもなりました。

セットプレーでは得点に限りがあり、１試合平均12～13点が限度ですので、勝つ為には失点を10点以下にしなくてはいけません。そこで、バック練習に時間をかけ、そして望んだ国体県予戦をすべて失点５点以内に押え、優勝することができました。この時の嬉しさは一生忘れることができないでしょう。

思い出の岩手国体。相手は地元岩手県、自慢のセットプレーが決まって、前半８対３の５点リードで後半へ。後半10分過ぎまで10対３と７点リード、〝よし!!勝てるな〟皆そう思ったに違いないしかし、岩手県の菊地という超高校生級（現早稲田監督）が、試合を大事にして弱気になっていたのをやけくそになったように打ってきたのだ。打つシュートがすべて入る。止めるにはどうすれば良いか、２人がかりでも引きずられる。あれよあれよというううちにタイムアップ。10対３が11対13と２点差の負けである。相手が10点入れる間に私達は１点しか入れられず、相手の13点中、菊地選手が得点したのは11点。悔しさより、世の中には凄い奴がいると驚いたものです。

この試合で忘れられないことがもう１つ。それは、地元に負けないくらいの大声で私達後輩の為に声を鳴らして応援してくれた氷見クラブの先輩達です。その後、私が氷見クラブへ入ったのも先輩達の人がらに引かれてだと思います。

今は氷見クラブシニアとなり、同級生の坪川君と南部中学校へコーチとして行っています。坪川君は男子、私は女子のコーチとしてお互いに助け合ってやっています。男子はめきめき力を付けてきて富山県一位ももうすこし、女子も少しずつ上向いていて全国制覇を目標に１年々頑張ろうと思っています。

私とハンドボール

堂尻　繁

私のハンドボールは、苦しみで始まり、そして楽しみとなり、今では生活の上でのコントローラーであります。氷見高校で初めてハンドボールを握り一年生時代は毎日が苦しい日々であったように感じられる。そして二年となり試合でシュートを決める時の、あの言葉に言い表せない、気分を知ると、もうハンドボールのとりこになっていたのであろう。一年二年とインターハイに出場できなかったので、三年では、とにかくインターハイ出場が目標でありました。念願かなって福岡インターハイに出場したものの一回戦で敗退、茨城国体も一回戦で敗れるという暗い時代でありましたその後私は日本大学へと進み、より深くハンドボールと係わるようになり、技術面そして精神面においても討論を交わす機会も多く、大きく見方が変ってきたように思います。技術面においては、まず、ディフェンスの重要性であり、高校時代にも増した組織ディフェンスに加え、攻撃的ディフェンスであります。よく攻撃は最大の防ぎょであると言われますが、私が今、解釈するところではオフェンスに重点をおいて強化すれば勝てるという意味とは異なり、ディフェンスにおいても積極的に攻撃ディフェンスをするという事ではないかと思います。精神面でもしかりであります。ペナルティースローは、キーパーとの一対一の精神的ぶつかり合いであり、この一点を取れなければ自分の負けなのである。この精神面から積極的攻撃力、闘争心を除くと、すべて敗者となるのであります。現在社会人として職場で働く中にも、多くの勝負があります。それは、相手が人間でない事もあり、多種多様であります。この現代社会もハンドボールとなんら変わりがないように思えるのであります。氷見クラブの一員として活動している中において、練習又は試合の調子の悪い時は、仕事においても同じなのです。失敗するか、ドジを踏むかなのであります。ではどうしてハンドボールが大きく関わってくるのでしょうか。決断力・集中力・持続力・全てが必要なハンドボール競技も、社会の仕事と同様であることなのでしょう。ハンドボールはこういう点から見ると現代社会の縮小図なのかもしれません。ですから私は仕事の調子の悪い時は、まずハンドボールの調子を上げる事に専念するように、この頃からか、なって来たように思います。そうすると不思議と仕事、あるいは、今まで不調であった物事、全てがハンドボールのコンディションと平行線上に登ってくるのであります。このようにハンドボールで生活リズムをとっているのであります。

昭和57年夏、全国中学校選手権大会が当市で開催されましたが、この時、私は西部中学校のコーチとして、なんとか力になろうと中学生といっしょに練習をしてきました。中学生も精いっぱい頑張って３位という成績でしたが、私には、それで充分満足でありました。おそらく中学生にも悔いはなかったのではないかと、思います。ハンドボールという、一つの競技の為に生徒同志が力を合わせ、助け合ってやってきた力です。

しかしこの大会が終了した翌年、私は大きなショックを受けました。楽しいハンドボールであったのに―、高校では、ほんのわずか一握りの者にしかハンドボールをやってもらえず、他の者は放棄したのでした。人生の友となりうる楽しいハンドボールを、もっと続づけてくれれば、よかったのにと思うばかりです。これからのハンドボールの底辺とも言える中学生の成長において、どうしたら皆んながハンドボールを楽しめるのか、そして生涯スポーツの一郭としてハンドボールが大きく現われるのを期待するのであります。

有磯高ハンドボール部 ＯＧ会のあゆみ

（氷見クラブ）

氷見クラブ、その前身は昭和32年にさかのぼり、現在まで30年近くの歴史をもつ女子クラブチームです。

昭和33年に富山国体ハンドボール競技が氷見市で開催されるのを期に、地元の期待を荷って、昭和32年に有磯高校の卒業生で、チーム名を〝比美クラブ〟として誕生し、有磯高校の現役ともどもその強化にはげんだ。同年国体リハーサルとして行われた全日本総合選手権大会に初出場で３位に入賞、また第12回静岡国体にも初出場し経験をつみかさねた。翌33年には、新卒業生の加入と、きびしい練習の中でチーム力も一段と向上、チーム名も現在の〝氷見クラブ〟と改名し国体の開催を待ったのである。この頃のメンバーは地元チームの面目と、好成績をあげることによってハンドボールをＰＲするという大きな使命感の中で、クラブチームという不利な条件を克服し、きびしい練習にたえたものと思われます。その成果は、10月の国体で４位入賞をかけて争われた、山梨県代表〝梨窓クラブ〟との対戦にはっきりとあらわれ、コートをとりまく大観衆の前で、しかも前半０－３の劣勢から後半じりじりと追い上げ４－３と逆転勝ちした試合は、当時の選手、関係者には忘れられないものだと思います。結局この富山国体では、準決勝戦は実業団〝愛知紡績〟に敗れ４位にとどまったものの、クラブチームとして、氷見高校の優勝ともども十分に地元の期待に応えたものと思われます。

その後は、しばらく低迷しながらも活動を続け、昭和40年有磯高校ＯＧで実業団レナウン工業KKで活躍した竹本千恵子さんの帰郷とともに再びその活動も活発となり、第20回岐阜国体には、男子氷見クラブ、氷見高校、有磯高校とともに出場し健闘よくベスト８に他のチームともども入賞したことは、氷見クラブに輝かしい１ページを加えたことと思います。しかし以後は、昭和43年の福井国体への出場を最後に氷見クラブの単独チームでの国体出場をすることはできなくなりました。このころハンドボール競技も全国的に普及しクラブチームの力では、よりすぐれた条件の中で練習をしている実業団チームには勝つことができなくなってきました。

以来、毎年の卒業生らが集まりチームを存続しつづけてきていますが、ともすると結成当時の心意気もうすれ目標を失いがちとなりながらも、有磯高校で学んだハンドボールのよたを心に秘め現役高校生のため、自分達のためにと卒業後２年間は続けることを約し頑張っております。またチームの中からも富山選抜の一員として気を吐いている選手も数多くいます。また、昭和58年の置県百年記念富山県民大会には、子持ちのＯＧでママさんハンドの部に出場し、優勝という栄誉を得ました。

これからも有磯高校の現役チームがなくならないかぎり、その活動の中味は変ってもこのＯＧ会を存続しつづけて行きたいものと考えております。

ＯＧ会を顧りみて

岩　上　照　子

10年ひと昔と申しますが、私達が汗と涙とわいた日々、そして優勝の喜びをわかちあったあのエネルギッシュな青春時代から早30年近くたちました。ほんとうに月日の流れの早さと、過ぎし日の思い出をしみじみ懐しく感じている昨今です。

思えば昭和30年、我が母校、有磯高校ハンドボール部が、若き馳悟監督と共に、部員も多種多様のスポーツ選手寄せ集めチームとして誕生、すべての設備も自分達の手で作ったあの頃がつい先日のように思われます。当時のハンドボール競技は11人制で、わがチームのチームワークもそれはすばらしいものでした。数多くの思い出の中でも忘れられないことといえば、ゴールポストを作るのに、木材を切り、ペンキを塗り、ネットは魚の網を張り、そして練習場の確保等、部員の手で作りあげた喜びは格別なものでした。それからの部員は監督をはじめ、嶋田新太郎先生、金原至先生、氷高ＯＢの方々の厳しい指導のもとで練習に励む毎日でした。

翌年、早くもインターハイ出場権を獲得、部員はインターハイ出場資金カンパの店と表し、青年団の体育大会、ぎおん祭り等で氷水屋を開き、その資金集めをしたことも忘れることのできない思い出の１つです。インターハイ初出場、それは大坂の藤井寺でした。１回戦から２回戦へと進み、２回戦で静岡城北高校に破れ、次の国体試合に望みをかけ、部員一同練習に意欲を燃やし、がんばりました。

国体出場……その壁は厚く夢破れ、私達の望みを後輩に託し、厳しい練習の中から勝ち取ったいくつかの喜びの思い出を胸に卒業、33年近く迎える今日、ハンドボールを通して固く結ばれた友情の絆は、全国各地で生活する皆にとって、ことのほか強く、ある時は東京、そして又大阪へと一堂に会し、それはそれはにぎやかな再会ぶりでした。無論当地での集りは馳先生を囲み、笑いあり、涙ありの学生時代そのものです。あれから30年近く迎えようとしている今日、ハンドボール第１回卒業生も今では？歳、良きお母さん達です。

私達がハンドボールを通して得た何事にも代えることのできない精神と友情こそ、これからの生のささえとなるものですし、それはまた、やがて我が子にも伝えられるすばらしい思い出としていついつまでも心に残ることでしょう。

思　い　出

ハンドボールに青春をかけて

現有磯ＯＧクラブ主将　蓮間　智子

私とハンドボールとの出合いは、高校へ入学した時からです。それまでは、ハンドボールというものを全然知らなかった私には先輩達の練習風景が、どれだけまぶしく見えたかわかりません。先輩のすばらしいプレーに、あこがれていたものです。『よし、自分もいつかは先輩のようなプレーをするんだ』と心に秘めていました。自然と練習にも熱が入りました。しかし、そのうち練習もだんだんきつくなり、一年生だけでクラブを無断で休み、逃げて帰ったこともありました。いま思えば、後々を考えずに好きなことをしていたなと思います。そんな私達が三年生になり、私はキャプテンとしてつとめました。三年生になっての一番の思い出は、インターハイ予選です。どの大会においても優勝してきた私達が、最後の最後で負けてしまったのです。あの時の屈辱は、一生忘れません。本当に穴があれば入りたいほどの心境でした。

現役時代をたどれば、きりはありませんが、とにかく高校生活イコールハンドボールクラブといっていいほど、若き青春を燃やしました。

現在、わが有磯クラブは、19才から23才と若い仲間で形成されており、練習は試合が近くなると週に二回程度に、現役チームと練習試合を行っています。社会人になると高校時代とはかわり、それぞれの仕事の関係やプライベートな面で、あまり強制できないということがひとつの難点です。そして、もうひとつはキーパーがいないということです。キーパーはフィールドと違って、だれでもできるものではありません。これもやはり頭をかかえる問題です。しかしながらも、仲間がここまでついてきてくれたことは、今の私にとって大変励みになりました。私ごとですが、今年の11月に結婚をしました。今の生活に充実感を与えてくれるのは、すべてハンドボール生活が基盤になっているからだと信じております。

（23回卒）

ハンドボールの思い出

東　海　恵美子

ハンドボールから遠ざかっていた私の元へ、なつかしい声で「有磯高の体育館で練習試合するから」と言う誘いの電話があり、嬉しい気持ちを押さえて参加しました。

あれは、10月10日「体育の日」ＯＧの先輩方や同輩、後輩の人達が一同に集合し、20数年前に学んだ体育館でプレーを開催することになりました。

いざコート内の昔のポジションに立ち、ホイッスルと同時にボールがサイドに投げられ、自分の腕の前まで来たその瞬間、受け取ったと思ったボールが手から離れコート外へ、また前方の味方のところへパスするが、身体が前へ出ずにパスミスとなりました。

２～３分コートを往復すると、もう心臓が鼓動し、息切れになる状態でした。

すぐにベンチへかけ寄り、メンバーチェンジをし、ベンチで仲間の人達の珍プレーを観戦し、一日を楽しみました。

振り返れば、馳先生に引率されて、私達一年生選手だけで、代々木の体育館で室内新人戦を戦ったあの時の事が今でも脳裏に浮んできます。

勝負よりも、広々としたツルツル光る体育館のコート内で、力一杯小鹿のように走り回り、パスやシュートをしてもなかなか得点に結びつかなく大差で敗戦した場面は印象深く思い出されます。

またレナウンでの合同合宿で、名門の静岡城北高校や、実業団「レナウン」の選手の方々と早朝霜柱のある冷々としたコートで、徹底した基礎練習をしたこと、練習を終え部屋に戻る時、足がつっぱり階段をトントンあがる事が出来ず、両手をついてやっと部屋へたどり着いた思い出もあります。

ハンドボールで始まり，ハンドで終った高校時代、その中で生まれた数多くの楽しさや友情、人をいたわる気持、それらを今も心の糧としながら現代の社会や家庭の中で生活し、これからも「走ろうね」の合言葉で、体育の日を心待ちに待っている私です。　（９回卒）

インターハイに出場して

久　保　喜代美
（張　田）

インターハイ……インターハイと聞くと私は今でもあの夏の暑い中でした毎日のつらい練習を思い出します。炎天下の下での練習は暑さによわい私にはとてもつらい練習でした。でも毎日毎日の練習の末にやっと手に入れたインターハイ出場でしたので，予選に勝ち出場権を得た時は皆で手をとりあって喜びました。私達はインターハイには先輩達のおかげで三年間連続出場が出来ました。一年生の時は岡山県の倉敷だったと思います。初めての大きな大会に連れて行ってもらい試合に行くと云うより旅行に行く様な気持ちでした。大会中は皆んなのお弁当等を持ってベンチで応援する、気分的には一番楽なインターハイでした。そしてこの年は何回戦も勝ち進み、先輩達は全国でもよい成績を残してくれました。

二年生の時は地元氷見市で行なわれ，試合にはたくさんの人達の応援を受け，頑張りましたが残念ながら二回戦で敗れ、地元の人達の応援に答えることが出来ませんでした。私はシュートを打っても入らず、とても残念でした。高校生活最後の三年生の時は小倉で行なわれましたが残念ながら、一回戦で敗れてしまいました。試合は前半あっと云う間に相手に点を取られ、相手のペースになってしまい、後半になってやっと自分達のペースにのって来た所で，打ったシューが入らず、又相手のペースにもどってしまって、敗けてしまいました。高校生活最後のインターハイは一回戦も勝つ事が出来ず、本当にくやしかったです。三年間を思い出して苦しい事もたくさんありましたが楽しい事もそれ以上にありました。

（７回卒）

ハンドボールは私の青春

青　出　千枝子
（早　藤）

私とハンドボールの出合いは今から20年前にさかのぼります。月日こそ経ていますがあの頃のひとつひとつがはっきりと脳裏に焼きついております。

私が入部しましたのは１年の９月でした。入学した頃は、ハンドボール？初めて耳にした言葉でした。家から学校までは９キロ近くあり、自転車通学でしたので１時間は要します。だから帰りの遅い部には縁がないと思い、運動部には入部しなかったのです。ところが９月に入り是非入部をと進められ、どうせやるのならいちばん強いクラブをと決意したのです。

そして何もわからないまま10月新潟国体について行きました。大変感激したことを覚えています。そしてひとつの方向性をみつけたのです。「よし，私もこんな晴れ舞台で試合をしよう」と……

練習はとてもつらく、苦しいものでした。やめたい、と思って泣いた日がどれだけあったでしょう。懐かしく思い出されます。いい先輩方にも恵

まれ、３年の時はインターハイと国体出場を勝ち取ったのです。３年生が６名、チームワークバッチリ、北信越では負け知らず、恐いものなし、といった成績で全国制覇に出かけたのです。

インターハイは暑さに負けた？のか成績振わず十和田湖観光に終る。そして10月、いよいよ国体北信越代表という重責感のもと、地元代表大分東高校と対戦、みごと勝利、２回戦にコマを進めた。作戦を練って試合に望み、作戦通りに進んだかに思えたが土壇場で惜しくも破れた。精いっぱい戦ったので悔いはなかった。

いま、ペンを取りながら懐かしくあの頃を振り返り『ハンドボールは私の青春のすべて』だったと思います。今も七夕さまの様に１年に１回楽しむ試合をしています。本当にハンドボールを愛し好んでいる人達の集まりです。一声かかれば京都、大阪、東京とどこからともなく集合！元気よく試合に望むのですが、気持の上ではまだ10代、肉体的には年相応、５分も走れば交代といった状態ですがとっても楽しめます。これも一緒に汗を流した者同志の友情の絆だと心強く思います。

また、家庭においては３人の子供に恵まれ、子育てから少しずつ離れた今は、バレーボールと水泳に第２の青春を送っています。

ハンドボールで学んだ「忍耐と根性」を私の信条として「愛和」の家庭生活を送っております。

（11回卒）

涙を流した日々

中　尾　みち子

雨の降る日も、雪の降る日も休みなしの練習。授業が終わるとすぐ帰る友達を少しうらやましいと思いながらクラブへ……毎日走りながら、どうしてこんな辛いことをしなくてはいけないのか、そう思わない人はいなかったと思う。けど、どうして三年間もやってこれたのか。やはり、うれしい時は手を取り合って喜び、辛い時は励まし合ってきた仲間がいたからだと、今になってつくづく思います。

今では皆母となり、集まれば子供の話ばかり。それと辛かった時のことばかりを話し合っています。

遠くは九州へ遠征し、毎日朝早くから試合、試合で明け暮れたこと，ボールが手につかず何度も同じ失敗を繰り返したこと、納得の行くまでチームプレーを練習したこと、涙を流した日々のことなど，今ではどれも楽しい思い出話です。私だけでなく、ハンドボールというスポーツをやったことのある皆さんが、自分の心の中できっと、やった時間の貴重さ，そして仲間の心の温かさを今も大切にしまっていると思います。

（18回卒）

色白になった今……

余　川　清　美

「あら、あなた色が黒かったんじゃなかった」とは、高校を卒業した翌年、偶然に街で会ったかつてのクラスメートの言葉でした。そう思われていたとしても無理はないなと、その時微笑んだものでした。

何しろ、コートが雨や雪で使えない時以外ずっと外で、太陽と三年間仲良くやってきたのですから。まだ春先なのに、春休みが終わり新学期にいざ登校してみると、クラスいや全校生徒の中でも、黒くて笑うと歯だけが白いのはほんの数十人でした。夏は夏で，近所の人に会えば「海に行って来たの」と聞かれたり、合宿中銭湯へ行くと、異様なものでも見るような一般客の目つき。秋の運動会の行進の時，ギョッとするほど黒い足は皆クラブ員でした。冬になれば，少しは日焼けはとれる（と思うのが甘い）けれど、黒いものはやっぱり黒い。

でも、その黒さというのが（楽しいことや苦しいことが，数多くありましたが）三年間一生懸命ハンドボールをやってきたという勲章ではなかったかと『色白になった今』そう思います。

（20回卒）

試練にたえて

草　山　千代美
（瀬　戸）

私の高校生活は，すべてがハンドボールであったと言っても過言ではない。辛い練習、そして合宿、先生にも厳しく指導された。（時には殴られたことも）他の生徒のように自由に遊ぶこともできず、何度もやめようと思った。でも試合で勝った時には、辛い練習のことなど頭から消え去り、すがすがしい汗とともに充実感でいっぱいになった。これはスポーツをやった者でなければわからぬ満足感であった。数多くの試合の中で唯一、苦い思い出がある。私が３年生の夏、氷見市でインターハイが行なわれた。３回戦の北海道第二高(茨城）との試合で、９対９の同点のまま抽選となり、惜しくも敗れた時のことである。

試合中、ペナルティのチャンスがあったにもかかわらず、決めることができなかった。あの時私が１本のペナルティを決めていたら……。周囲の観衆に動揺し、相手チームのキーパーにのまれてしまったのだ。もっと自分に自信をもって、臨んでいたら…。チームメイトに申し訳なく、心が痛んだ。実力を出し切れずに失敗したあの悔しさは今でも忘れられない。その後、短大・就職・結婚

と人生を歩み、いろいろな人と出逢い、いろいろな経験をした。迷ったり、悩んだり、辛くて逃げ出したくなったこともあった。そんな時にはハンドボールを思い出した。これくらいで、くじけてたまるかと切り抜けてきた。二度と後悔したくない。そう思って自分の道を選んできた。厳しい規律、先生の細やかな愛情、チームメートとの和、これらによってささえられた私の高校生活。本当になつかしく思い出される。卒業後８年たった今、主人と子供に囲まれて平凡でも幸せな毎日を送っている。

今後も壁にぶつかった時には、ハンドボールを思い出し、のり切っていきたいと思います。

（21回卒）

二世に夢を託して

坂　　純　子

ふり返って見れば、私の高校生活イコール、ハンドボールだった様に思います。

打倒高女、打倒小杉そして「インターハイに出場する事」だけを目標として練習に励んでいた頃を思い出します。

三年生の時に念願の四国松山でのインターハイに出場し、しかも運良く、ベスト８にまで残れた時の嬉しかった事『やった!!』という喜びは、今も私の心の糧となっています。

現在、二人の子供の子育て中。ボールを持つ機会もない程になった今、将来子供もハンドボールをしてくれる事に夢を託しています。（16回卒）

ハンドボールで得たもの

泊　　清　美
（孫　田）

時々、子供とアルバムを見るんです。

「お母さん、みんな黒い顔しとるね。男か女かわからんね』写真を見ながら次々と子供は言います。

今、思い浮かぶ事は、夏の合宿の辛かった事、キーパーノック。私達仲間は、インターハイに出場したい一心で最後までやり遂げました。

いつも夢に見ていたインターハイ、あの頃は、良かったです……。

今は、主婦業に振り回されています。ハンドボールで得た忍耐でこれから続く人生を頑張り抜きたいと思っています。

又いつの日か、赤白のゴールポストの前で、ハンドボールをこの手で受けられたら幸せだと思います。

（16回卒）

思い出

青　木　萩　野
（鎌　仲）

氷見市のハンドボール30年史発刊にあたり、久しぶりに若き時代を振り返ってみました。

私は、途中から入部したので始めからの苦労はなかったのですが、先生にはたいへんご迷惑をおかけいたしました。それに部員の皆さんにもどれくらい心配をかけてきたかわかりません。本当に申しわけなく思っております。

練習や試合中に目の前が真暗になり、倒れた事も何度かありました。（これはスパルタ訓練ではありませんョ）

私達のチームは小粒でしたが、チームワークは抜群だったと思っています。良き指導者に恵まれ部員一同一生懸命練習してきました。

東京レナウンへの遠征ではどんな特訓があるのか、寝つかれない日もありましたが何とかやってきましたし、全国大会岩手県での試合、そして大分国体は特に思い出深いものになりました。

優勝は夢で終りましたが、高校生活最後の試合はいちばんのびのびとした気がします。いまだに声がかかり皆さんとの交わりを持つ機会があり、とても幸福に思っています。

これからもハンドボールをしていた時の〝ファイト〟を忘れず頑張っていきたいと思っています。

（11回卒）

私の青春

上　田　真　純
（岡　部）

私の青春は、真っ黒に日焼けした〝顔足〟ハンドボールでした。

緑多く、山々に囲まれたグラウンドで、汗を流した日々を忘れる事はできません。今日こそやめようと思いながら、三年間続けられた事、友達と一緒に泣いた日、笑った日、ハンドボールを通して人とめぐり会えた事，本当に幸福でした。苦しい事の多い人生のなか、現在、二児の母親ですが、母として女として人間として頑張りたいと願っております。

（16回卒）

私のハンドボール

豊　田　和　美
（古　邸）

ハンドボールは、高校生活を埋めつくす程，私にとって有意義なものでした。たのしい友であり、恩師の山口先生・矢崎先生とめぐり会えたのもハンドボールのお陰。

これといって優れた運動能力の持ち主ではなかったが、誘われるまま入部するや否や，部員数が少なかったため試合参加することになり，珍プレー続出，先生や先輩の〝走れ〟の掛け声で敵方へ，〝守れ〟の声で自陣へと訳のわからぬまま試合終了，結果は20対５と完敗でしたが，よく得点出来たなと感心する有様でいやはや滑稽な試合でした。我が有磯チームは，デカチビ，デブヤセのただただユニークなチームでしたが，３年生になったら，インターハイへ出場する事が夢でした。

しかし，夏の合宿が嫌で逃げだしたいと思った事や，練習中の合い間に気持ちよく流れる雲をみつめながら，『ねえ，あの雲に乗ってどこかへ行きたいね。』とため息まじりの言葉に，間髪いれず，『あっだめ，あれは35kg制限で落ちてしまうよ。』と友に返され苦笑したこともありました。

そうこうしながら３年生になりユニークさが幸いしたのかインターハイ出場権を得，更にベスト８入りできた事は夢のようでした。私の家族は，クラブに理解を示してくれませんでしたが，インターハイ出発時に，駅まで見送りに来てくれた母

に良い土産ができたと感激もひとしおだった。今思えば、高校生活3年間の短い期間でしたが、ハンドボールを通して体験し、会得してきたあらゆる事が、今日生きていくうえで自信につながっているようだ。

現在、静岡で主人の仕事を手伝いながら、息子三人の母親として忙しい毎日を送っており、歳月と流れるにつれ様々な苦難にぶつかる事も多々ありますが、それに立ち向かえる精神力は、あの頃の体験によるものと思います。

最後に3年間見守ってくれた友、山口先生、矢崎先生…、ありがとうございました。（16回卒）

国体の思い出

谷　畑　美智子
（北　浜）

ハンドボールは、私の高校生活を、とても実のある物にしてくれました。

方々へ遠征した時の写真や、練習風景の写真を見ていると、若さをボールにぶっつけた頃が懐かしく思い出されます。おかしいもので、練習の辛さとか、悲しかった事は少しも覚えがなく、面白かった事や、楽しかった事だけが走馬燈の様に思い浮かぶのです。

二年生の時、富山国体が開催されると云うので、日体大の荒川先生、竹本さん、東さんをコーチに迎え、八尾で強化合宿がありました。

富山女子高校とはライバル同志と云う意識もあって、練習は勿論、規律に於いても負けられない、そんな気がしていました。隣りの部屋で富山女子の人達が何がおかしいのか笑っている。「明るさだって負けられないね」とおかしくもないのに大声で誰かが、笑う真似をした。すると次々に皆んなも笑う真似をしました。笑っていると何故か本当におかしくなり、部屋中転げ廻って笑いました。

それにしてもあの時の竹本さんや東さんの素敵だった事……。一生懸命努力した積もりでしたが、力及ばず、富山女子高校に敗れてしまいました。

出場出来なかったのは残念でしたが、役員をしていて、審判の先生方とも親しくさせて頂き、それはそれで大変楽しいものでした。

三年生になり、以前にも増して先生や先輩方の強いしごきのお陰で念願の全国大会（仙台）、国体（東京）にも参加する事が出来ました。それぞれ1回戦負けでしたが、悔いは残りませんでした。

ハンドボール生活三年間の思い出を手振り、身振りで子供達に話すと母さんの自慢話として大いに受け、家族の団らんに一役かっています。

（4回卒）

ハンドボールの思い出

河　原　千津子
（藪　田）

忘れもしない東京国体のあの日。作りたてのグラウンドは、粘土質で水捌けが悪く、足運びが思うようにいかずおよそ試合といえるようなものではなかった。ボールを巡ってのとっくみ合いと言った方がピタリと当てはまる。つらかった強化合宿での成果が充分に発揮出来ず残念な思いをしたのが昨日の事のように鮮やかによみがえる。

数々の記録の裏には汗と泥まみれの練習につぐ練習の日々があったことを忘れられない。「これがお母さんの青春!!」と子供達に胸を張って語れる多くのものがハンドボールの中にはあった。「ヤブ!!」と呼ぶ先輩の声にふるえ上っていたのも今は懐しい。

書き始めると次から次に走馬燈の様に浮かんで来る。楽しかった思い出と共に、今も続いている先輩、後輩の強い絆を大切にしていきたいと思っています。（4回卒）

ハンドボールで得たもの

北浜夏子
（加納）

私がハンドボールを始めたのは中学の時でした。中学に入って初めてハンドボールという新しいスポーツに出会って、ただものめずらしさだけでクラブに入ったものでした。指導してくださる先生もいなくて、ハンドボールとはどういうものなのか知らないままに見よう見まねで自分達独自の練習をしていました。今の中学生とは比較にならないほどヘタだったけれど、それでも自分達なりに悩んだり喜んだりしながら三年間を過ごしました。

高校に入り、私は迷わずに山口先生の率いる有磯のハンドボール部に入部しました。しかしその時の私は体重が74kgもあって走るのもやっとで同じ一年生の間でドラム缶といわれていました。ちょうど私が２年の夏に氷見市でインターハイが行なわれました。それまでの練習はもう口では言えないほどきびしく、つらいものでした。が２年ということで私はどこかに甘えているところがあり、いつも３年生を頼り自分からということはありませんでした。そのころ山口先生に「試合に出られん３年生のこと考えたことあるがか、何のためにおまえが出とるがや」と言われて、これで最後の３年生やクラブのみんなの期待に答えられるようがんばりました。

地元でのインターハイ、天候はあまりよくなく雨が降ったりやんだりの試合でしたが、私にとっては都合のよい天気でした。一試合勝つごとに大きくなっていく歓声と熱気の中で私は一生懸命走りました。長い長い一週間でした。そしてこの試合で一点の重み、一点とるのがどんなにつらいことか、これが私たち残されたものの課題になり、来年にむけてまた練習が始まりました。

新しい３年生は５人、私を除いてみんな身長150cmの小さいチーム。先生も始めはどうなるのだろうかと思われたそうですが私もそうでした。その時の小杉高校、高岡女子高校は大型チームで、みんなほとんど差がありませんでした。

インターハイ出場を賭けた決勝戦、相手は小杉高校でした。３年生で最後になるかもしれない試合で不思議にも落ち着いて自分のハンドボール、自分達の納得のいく試合が初めてできました。試合が終ったあと審判の方が「いい試合でした」といわれました。私も本当にそう思いました。そして思わず涙があふれてきました。うれしくてうれしくてハンドボールをやっていて本当によかったと思ったのはこの時でした。

それから高校を卒業しても私はハンドボールから離れることはできず、先頭にたってＯＧクラブの練習をしました。

私は山口先生をはじめハンドボールを通じて多くの人と出合いました。またいろいろな体験もしました。それが社会に出た今でも大きく広がり役に立っています。ものめずらしさだけで始めたクラブでしたが、私が得たものは数知れないものがあると思います。

これからも、後輩たちが活躍することを楽しみにし、応援したいと思います。　（22回卒）

今年一年をふり返って

山岸玲子

高校を卒業してもう６年、今までハンドボールを続けてきた中で今年はとても思い出深い１年となりました。

今年は１県１チーム国体に出場できるので、みんなで何とか国体出場権を手に入れようと頑張ったのですが、桜球会に破れ国体出場をあきらめていました。しかし運良く富山県選抜チームのメンバーとして、奈良県で行なわれる〝わかくさ国体〟に出場する事ができ、よい思い出になりました。

福井選抜、北国銀行との練習試合、長野遠征に行くなど、他県の人との練習は高校を卒業して以来でした。また、桜球会との練習の中でハンドボ

ールが今まで以上に楽しく思えました。それは練習の時、みんなプレーに対して自分たちで話し合い、アドバイスをしてもらったりして1つ1つのプレーを大切に、のびのびと楽しい雰囲気の中で練習をしていたからです。私たち有磯クラブに欠けている点を、見習わなければいけないとつくづく感じました。

その他に選抜という事で有磯クラブ以外の人との交流もあり、国体を通じて得た大切な事の１つです。

高校時代とは違い体力もなくなり、思うように動けない事が歯がゆく思いますが、これからもみんなで楽しくハンドボールができれば…と思います。

(22回卒)

思い出

林　　昌　代

月日のたつのは早いもので、私達が高校を卒業して三年の歳月がながれてしまった。伝統ある有磯高のハンドボールに入部し、当時ハンドボールとは、どのようなスポーツなのか、わからない状態でしたので、毎日の練習において先生や先輩方にただひたすら無我夢中でついていくのが精一杯でした。日がたつにつれ、練習も厳しさをまし、私は続けていくことに全く自信を失い、部活動を続けていくことが嫌になって何度もやめたいと思いました。しかしその都度、同期の友人にささえられ、又自分自身後にのこった人の立場を考えなければいけないと思いなおし、頑張ってきました。

幸いにも今まで、数多くの試合を観戦し又自分自身も体験してきました。その中で、私達の胸に一番みじめな思い出を残したのは、昭和55年愛媛県宇和島でおこなわれた全国高校総体の試合でした。北信越では、女子の部で圧倒的な強さをもつ小松市女といい試合をしていただけに、周囲から、期待され必勝を期して四国入りをし、そして大会二日目の昭和学院との一回戦、上位進出を目指す私達にとってこの試合は絶対勝つつもりであった。しかし、全国の壁は厚く結果は、私達の敗戦でした。この時ほど、40分の試合が短かく思ったことは、なかったし、それと同時に自分らのハンドボールが出来なかったというあとあじの悪さを胸に残しました。

このように高校時代は、試合に勝とうという目標に苦しい練習を重ねてきましたが、現役を退いた今、とうぜんのように有磯ＯＧに入り、初めてハンドボールを楽しみながら出来るようになりました。現役時代のように身体の無理はききませんが、後輩や、他のチームと一つのボールを追い、走ったり、跳んだり、投げたりする。ハンドボールをやってきてよかったなァと思います。後輩が実業団や大学へ行ったりする中で、チームの人員に不安は感じますが、母校を思い出していつの日か、一緒にプレーが出来ることを期待しています。私は一人でも多くの仲間と少しでも長くハンドボールを続けていきたいと思っています。

(24回卒)

私とハンドボール

安　井　時　枝

私がハンドボールを始めるきっかけになったのは高校生の時でした。『どうせやるなら強い部で』と思ったのがそうでした。それからはや６年が過ぎようとしています。

この６年間でいろんな思い出を作ることができました。練習がきつくやめようと思ったことや、皆んなで逃げ出したりしたことが何度もありました。そんなことがとてもなつかしく、良い思い出になっています。

なかでも、56年３月25日より３日間、愛知県体育館で行なわれた、55年度全国高等学校ハンドボール選抜大会北海道二高との試合はどうしても忘れることができません。

試合開始より10分間はどうしても自分達の力を

出すことができず相手にリードされていましたが、前半終了にはなんとか逆転することができました。しかし、後半が始まってまもなく相手に連続で３点も取られてしまい、それをまた逆転。そうこうしているうちに試合終了６分前になっていました。点数は11対８。３点差で私達が勝っていました。先生や応援している後輩、そして私達自身、もう勝ったと思って浮き足になっていました。そんな時、１本１本丁寧にシュートをきめる相手をどうすることもできなかった。

試合終了。11対13で北海道二高の勝利。くやしかった。試合が終ってもいないのに勝ったと思って気をゆるした自分達がはがゆく思え泣くに泣けなかった。

勝負のあるものは例え結果がわかっても気をゆるすことなく最後までやらなければいけないと思いました。

ハンドボールをしながら学んだ事は、社会人となった今でも役に立っています。ハンドボールを続けてきてほんとうによかったと思います。

(25回卒)

ハンドボールの思い出

高　沢　道　子
（新　井）

卒業してから10ン年？いま、自分の横に置いてあった物さえ忘れて探しまわる今日この頃、つくづく「中年、オバン」という言葉が実感となりました。でも気持だけはあの現役時代のように、〝何でもやってみたい、きっと出来る〟ような気持がぬけないでいます。皆さまはどうでしょうね。

あの大分国体の秋田和洋高校との試合の時も、「何か出来る」と思いました。試合終了５分位前、２点差だったと思います。今はペナルティというんですネ７ｍスローの事、これが決まればあと１点なぜか誰も行かない。私はいつもゴールの中にいるのでなおさらキリキリしたのでしょうか、「よし、私が１点取ってやる！」と思いました。その時のボールがキーパーの足に当った瞬間、今でも目をつぶると浮びます。そして自分のゴールポストまで走って帰るのが何とつらかったこと、私、今でも走ることがスポーツの中でいちばん嫌いで苦手です。

(11回卒)

初めて国体を経験して

網　　佑三子

十月十二日より、第三十九回国民体育大会「わかくさ国体」が奈良県で行なわれた。富山県成年女子は富山選抜チームとして結成され、懸命の練習をつんだ。国体に出るのが昔からの夢で、夏に行なわれる高校総合体育大会なら出場したことがあるが、私にとって国体は初めての経験で一度は出場してみたいあこがれの場であった。

富山県のユニホームを着て、県花であるチューリップを手にあのひろい陸上競技場を行進した開会式。国体に出て一番印象に残っているのがやはりこの開会式である。想像以上に大きな競技場、スタンドの観客、声援、そして、出場者の数。どれを見てもおどろくことばかり、まさに日本のオリンピックといってもいいほどだった。それに、あざやかなチューリップの造花をもった富山県チームが入場した時はひときわ大きな拍手を聞かれたと思う。

また天皇陛下のおことばもいただき、本当に忘れられない思い出の一つとなった。

私たちが宿泊した所は、生駒市にある天理教生駒大教会だった。会場とは少しはなれた所にあったがとてもいい所だった。即席で作ったチームだけに初めて会った人や、初めて話しをした人がほとんどだったが、練習を通じて友情、お互いの信頼感も強くなり、奈良での毎日の生活も大変楽しかった。食事の時、練習の後、風呂の時間、ミーティング、この時ばかりは試合までの緊張感もほぐれ、みんなでさわいだ。

今までいろんな所へ試合に行ったりしたが、同じ年代の同じ競技の人としか親しくなれなかったが、この国体に出場してみて、いろんな年代の方やちがう競技の方と親しくなれ、その人達にしかない苦労もおしえられた。しかし、同じスポーツをやっていく者にとって共通して言えることは、自らプレーしてこそ楽しみが生まれてくることだと思った。

今回の試合は、残念ながら負けてしまったが、この「わかくさ国体」出場を一つのふみ台として、来年又は二年後の国体にもう一度出場できる様、これまで以上にがんばっていきたい。

(26回卒)

ハンドボールの思い出

上　　秋　美

私にとって本当のハンドボールとの出合いは高校に入ってからでした。それまで中学では男子のスポーツとして見てまいりました。今まで自分でやってきたスポーツは卓球でしたので高校へ行きましても卓球をするものだと自分も周囲も思っていたものですが何故か、いつのまにかハンドボールへ入部しておりました。

自分の入部したクラブがどんなに伝統があり、優秀な先輩達を擁していたかは入部した時点では知るよしもありませんでした。

高校の３年間は本当に自分達はどうしてこんなひどい練習に耐えなくてはいけないのかと感じたものですが、卒業してから感じたのは何と根性がなかったのだろう、何と甘えていたのだろうと悔やむことしきりですがやはりあとの祭りです。

はっきりいって高校の時は卒業してからクラブをしているＯＧ会の人達を見ているとよく続けられると思ったり、楽しくやっていると不思議に思ったりしたものです。卒業してから自分が氷見に残っていたせいもあると思いますが先輩や氷見クラブの男子の方達との楽しい思い出がたくさんあります。

オリンピック予選を名古屋、大垣と見学に行ったりまたインターハイに向けての名簿作りと何かにつけてクラブを楽しみました。

今自分で思うことは、自分では何もできなかったけれど先生方や先輩各位、後輩の方達の支えにより、さまざまな経験をさせていただき最高の思いをしてきたと感じてます。これからもいろんな意味でのハンドボールを楽しんで行きたいです。

(13回卒)

ハンドボールと　すばらしき仲間たち

南　條　絹　枝
（佐　野）

昭和58年の６月のこと。

置県100年の記念行事として「県体に30歳以上の女子の試合がある」というニュースが仕事中の私の耳に飛び込んできた。「エーッ　ホントウ」という言葉と早く皆に連絡しなくてはという気持が入りまじりだんだん落ちつかなくなった。

高岡、富山、そして県外へ嫁いでいる人達へも連絡し「出場」が決定、試合まで２・３回の練習懐しい顔が徐々に集まって来た。

そして試合当日、京都から埼玉から富山、高岡、氷見、昔の仲間が続々とやってきた。総勢20余人、

ハンドボールから離れて10数年、皆の顔は本当にやれるかなという不安と、まだやれる　再びハンドボールの試合に出られるという喜びが体中から伝わってくる。「元気だった？」「やっぱりきた走れる？」昔の敵からも声がかかり、しばしの雑談。「ヨーイ、ピーッ」試合開始の笛が鳴った。現役の時みたいな厳しさはないが試合が始まれば昔と同じ、ボールを追う目、かけ声、走る姿、年月は重なっても気持は全然変っていない。快い懐しい汗を流しチームワークで嬉しい優勝。優勝の祝賀会というよりも試合が出来たことと久しぶりに仲間に会えたことの喜びを氷見の民宿で乾杯。長い間会わなかったのに話はじめんと毎日会っているかのようになごやかで楽しい宴がいつまでも続き、やがて別れの時、来年また会う事、走る事を約束して開散。

を、喜びを分かちあった心の通いあった者だけが知るあたたかい気持のいい一日だった。

ここまでの道程で大切な友をひとり、ガンという憎き病に26歳という若い命を奪われ悲しい思いもしました。しかし、こんなに温かくて素晴らしい仲間たちとの出逢いを作ってくれたハンドボールという不思議なやつに私は大きな声で叫びたい。「ありがとう」。　（９回卒）

「私の青春・ハンドボール」

林　　美代乃
（嶋　田）

私の青春、それはハンドボール一色と言っても過言ではない。若いからこそ耐えられた事だとは思うが、暑い夏、喉がカラカラになっても水も飲めずにうがいだけ、半分出して半分飲んだ時も。決められた本数を決めないと終らないシュートノック。だんだん疲れてくると入らなくなる。やっと残り一本、バーに当ってボールは向うの方へころがっていく。つらくて、苦しくて追いかけながら涙がでてくる。アザや、すり傷の絶え間がない。

もう二十年余り前なのに、膝を見ると、当時の傷跡がまだ残っている。私には大事な思い出の一つでもある。練習が終って家に帰る頃はもう暗くなっていて、砂利道を疲れた身体で自転車に乗り、ペダルを踏む元気も出なかった事も。くる日もくる日も練習、練習の毎日だった。丈夫な体ではなかったのによく頑張って続けられたものだと思う。その苦しかった事を思い出そうとするのだが、他人事のようにしか浮かんで来ない。苦しさの中から得たいろいろな積み重ねが楽しいものに変わっていったのだろう。今までは、楽しかった夢を思い出していたが、置県百年を機会にもう出来るとは思ってもいなかった試合をした。体が気持ちとは違う事をやる、ボールが遠くへ行かない。でも、試合が出来ると言う事は、私にとって青春なのです。　（９回卒）

部活動の思い出

岩　上　由美子

もうそう呼ぶ程の年月が、流れたのだろうか。炎天の下で汗と泥にまみれ監督の厳しい指導のもとで何度もやめてしまおうかと思いながら、くる日もくる日も練習にあけくれた。だが人並み以上の練習を重ねたにもかかわらず先輩達の栄光に比べ、最後まで成績はパッとしなかった。そういう事実は苦しい思い出には違いないけれども、私に

は、そんなきびしい試練に耐え、三年間をやり通したという大きな自信がある。そしてまた、団体生活の中での人間関係のむずかしさ、礼儀の尊さを学ぶことができた事を誇りに思っている。なまいきながら言わせてもらえば、そういう経験をまったくせずにきた人は、少なからず人間形成が出来ていないような気がする。社会とは形こそ違うけれども、あの部活動そのものなのだと思う。現在、上司、先輩、後輩の中で仕事を持つ事は、たえず、あの頃の自分を見つめながら生きていこうと思う。　　(19回卒)

ハンドボールと私

北　野　美穂子
（中　村）

私が卒業してからもう13年が経過しました。学生時代を思い出す暇もない位のめまぐるしい毎日ですが、時々、トレーニング姿の学生を見かけると、ふと、自分の学生時代を思い出す事があります。

ハンドボールは私にとってすべてであり、勉強そっちのけで猛練習にあけくれた毎日でした。練習メニューが消化しきれずに悩んだ末、「不言実行」で奮起した事、ボールが暗闇にでも見えるようにと石灰を付けて頑張った事もありました。

しかし、猛練習の中でも息抜きもありました。それは、遠征や行く先でその土地の人柄やにおいに出合った事です。この様な東の間の出来事に懐しみを覚えております。

世の中が目まぐるしく変わると同様に、最近はすっかりハンドボールから遠ざかってしまいました。しかし、その様な中でも試合の時期になると不思議と熱い血が流れ、いつの間にか母校を応援している私です。　　(17回卒)

氷見高校ハンドボール部のあゆみ

監督　徳前啓人

昭和25年の第１回インターハイ出場（現在は全国高等学校総合体育大会）は、戦後における物資及び食糧事情の極めて悪い時期に心の拠り所を求めて若者達が一つのボールを追いかけた時代が、氷見高校ハンドボール部の創設期である。

ゴールポストは山の木を切って自分達の手で作ったり、シューズ及びボールもままならず、資金づくりのためのアルバイトらしきもの、何をとっても現在と比較することはできなかった混乱の時代だったようです。

それから氷見高校にとって２度目のインターハイ出場となるのが、昭和32年の松山インターハイである。この間、約７年間県内では全国大会の切符を手に入れることができず我慢の時代だったようである。

昭和31年に本校ＯＢの金原至先生が母校に赴任し、基礎からの猛練習が始まり、第13回富山国体少年男子の部の初優勝からインターハイ、国体出場、そして上位入賞の充実期に入り昭和51年第27回氷見イルターハイ第２位頃から黄金時代に突入し、52年第28回山口インターハイ第２位、第32回青森国体優勝、53年第29回福島インターハイ第３位、第33回長野国体優勝、54年第30回神戸インターハイ第２位、第34回宮崎国体優勝、55年35回栃木国体第２位、56年第36回彦根国体第２位となり国体３年連続優勝が達成された。昭和53年度、文化賞（富山新聞社）、昭和54年度、日本スポーツ賞（読売新聞社）が受賞された。

私の記憶に新しいものとして、昭和58年第34回愛知インターハイの２回戦は台覧試合（皇太子御夫妻）であったことである。埼玉県代表の川口工業と対戦し試合が終了してコートに整列し、皇太子御夫妻から「試合はどうでしたか。」「勝ちました。」と答えると「よかったですね。」というようにいくつかの質問があったように思うが選手等も普段と違ってかなり緊張していたように記憶している。今、振り返って見ても２度と我々の人生にとってやってこない出来事であったように思える。

この間約30年間を一口に表現したがこのように簡単に過ぎ去った訳けでもなければ、黄金時代がたやすくやってきた訳けでもない。最初にふれたように戦後の混乱時代から現在に至るまでハンドボール部に在籍して氷見高校を卒業した213名のＯＢ諸氏の苦労と努力、そしてその時代その時期におけるいろいろの悩み、例えばある学年には上級生が一人もいなかったり、同級生が一人であったり部員の数が本当に少なく試合に出場することができずに困った時代もあった事など、同年代、同時期の者だけが語りあえる苦しみと楽しい想い出は一生忘れることのできないものであろう。

最近は又、部員不足で悩みがあり我慢の時期であるように思われるが、この輝かしい歴史と伝統あるハンドボール部をＯＢ諸氏と共に大きく育てていきたいと思います。

氷見高校ハンドボール部

主将　瀬戸　真

我々ハンドボール部は、30数年の歴史を持ち、国体４回優勝、インターハイ準優勝３回、その他数々の輝かしい伝統をもっています。

部員10数名と少ない人数の中，耐えることの苦しみと、勝った時の喜びを共にわかち合うために、ハンドボールの門をたたいた同志たちなのです。練習時間は３時間。他のチームと比べると、かなり短い方ではありますが、それでもなお、毎年全国トップレベルを維持し続けているのは、先輩から受け継がれている技量を身につけ，お互い助け合い，はげまし合って，日夜厳しい練習を、続けているからに他なりません。また、ＯＢの方々が，休日も返上して，我々のために御指導して下さって，現在の氷見高ハンドボール部は、今年度もまた、全国選抜大会の出場権を手に入れることができたのです。

選抜大会は、３月24日から名古屋城近くにある愛知県体育館で行われた。

初日、我々は体育館の外で軽く汗をかき、ユニホームに着がえて，開会式に臨んだ。やっぱり全国大会だけあって、出場数も多く，相手チームが強そうに見えた。

３日目、１回戦が始まった。我々の相手は、大曲農業高だった。相手チームは身長が高かった。初戦だけに、みんなやや緊張ぎみだった。前半の出足は良く、前半は、11対６でおり返した。みんな「勝てる」と思ったのだろう。後半に入って次々とゴールを決められ、とうとう追いつかれてしまった。がしかし、我々もふんばり、やっと20対18で勝った。しかしみんなにとって納得のいかない試合だった。先生からも「喝」がとんだ。みんな前半の５点差に安心して，気をぬいてしまったのだろう。それまで緊張していた糸が「プツン」と切れたかのように……。

３日目、２回戦は、優勝候補チームの浦和実業高だった。浦実高は，身長も高く，がっちりしてて、いかにも強そうに見えた。試合が始まった。前半は，お互い攻守ともにゆずらず，シーセーゲームとなった。一瞬たりとも気がぬけなかった。前半11対13で、負けており返した。しかし我々の心のどこかに、「勝てる」と思っていた。後半が始まった。我々は出足につまずき、いつものリズムがなくなり、点差はどんどん引き離なれるばかり。しだいにあせりも見え、自ら、ミスを何度も繰り返した。残り時間はわずかだった。我々は、必死にくいさがろうとした。しかし、試合終了の笛が鳴った。「負けた」スコアボードをみた。26対20だ。悲しかった。力の差がでた。試合後，みんな一言もしゃべろうとはしなかった。しかし、宿に帰った後、みんな「これからの練習をかえ、もっともっと厳しいものにしょう」と言いだした。我々は、浦実高に負けたことによって、ひとつ成長しこれからの練習に燃えていた。

我々は、学んだ。負けることの屈辱と、勝つことの喜びを……。

有磯高校 ハンドボール部のあゆみ

部長　矢崎峻作

(1)、昭和30年から昭和40年代前半にかけて
（馳監督の時代）

有磯高校にハンドボール部が創設されたのは昭和30年でした。第13回富山国体ハンドボール競技の氷見市開催に催えてのことでした。当時本校のグランドは野球さえ満足に出来ないほど狭く、そこに11人制のハンドボール部を創ることについては、なかなか許可がもらえず大変苦労されたようでした。馳監督も陸上からの転向で、まったく未知のハンドボール競技にとりくまなければならないということは、大変なことだったと思います。基盤のないところに新しいものを創りだす苦労、そして監督自からが素人とあっては、当時の状況が目にうかぶようです。そうした状況の中で以後の30年間、常に県高校女子ハンドボール競技界をリードし、全国では古豪として名を上げるまでに成長したが、その基礎を固めた馳監督の努力および尽力に感謝したいと思います。

さて、１・２年生を中心にスポーツに理解のある家庭から15人を選びスタートしたハンドボール部は、狭いグランドで基本練習しかできないハンディを、監督・部員の熱意と努力で克服し、翌昭和31年にははやくも高校総体県予選で優勝し、その出場権を獲得しました。この大会初参加初出場で初戦郡山高（奈良）戦で貴重な１勝をあげ有磯高校ハンドボール部の第一歩を踏みだしました。昭和32年からハンドボール競技も11人制から７人制に改正され、部員集めに苦慮していたこともある程度緩和され、部活動も軌道にのることができました。試合会場も地方開催になりその第１回がこの年の松山会場でした。もちろん本校は昨年度につづきこの大会にも出場し２回戦で敗れましたが、この時準優勝したのが羽咋高校（石川）で、このチームとは北陸三県大会で顔を合わせており、勝っているだけに全国レベルも手近のような気がしたものです。

昭和33年は地元氷見市で国体が開催されましたが、チーム強化の著じるしい富山女子高に代表をゆずり、地元の期待に応えることができず残念な思いがしました。部員もその悔しさを胸に秘めながらの練習は昭和34年の福岡国体で、地元明善高に４対５の１点差負けでベスト８、昭和35年の高校総体では、１回戦第２シードの豊中高校（大阪）に11対２で快勝、３回戦地元倉敷青陵高校（岡山）に４対９で敗れたとはいえ初のベスト８入りとその活躍は目ざましいものがありました。以後昭和36年地元氷見市で開催された高校総体、時和37年小倉市、昭和38年富士吉田市、昭和39年新潟国体、昭和40年岐阜国体、昭和41年盛岡市での高校総体、大分国体と毎年高校総体か国体に出場するなど県勢の中にあっては確固たる地位を確保し、全国大会でも常連の仲間入り果たして有磯高校の評価を高めました。その中でも、昭和41年のチームは、キーパ新井、左腕紅谷などいまもってママさんハンドボールで活躍している面々を擁し、技術的には今一歩でしたが気迫が技術を補う好チームでした。大分国体では地元大分東高校（高校総体３位）を７対４で勝ち、番くるわせを演じ、高校総体では２回戦で秋田和洋（高校総体優勝）に善戦、ペナルティスローの失敗から自滅するまで、途中リードするなど、全国の上位にランクされるチームだったと思います。

昭和42年のチームも嶋田（日体大）・普奈木（東京女子体育大）を中心にした好チームでしたが、この頃山口監督の指導で一段と力をつけてきた高岡女子高校に勝てず、この後、数年間は低迷の時代をむかえることになり、有磯高校前半期の黄金時代に終りを告げることになりました。

(2)、昭和40年代後半から現在まで
（山口監督の時以）

昭和30年、馳監督の下で部が創設され、以来昭和43年まで、高校総体出場８回（ベスト８入り１回）、国体出場４回（ベスト８入り２回）と富山女子高校・高岡女子高校などと競い合いながら、輝かしい戦績を残してきました。

しかし、昭和43年から昭和45年ひかけては、監督交代（馳監督から山口監督へ）の狭間にあって、チームの再建に苦慮した時期でした。山口監督が着任した昭和44年には、残された部員が４人だけで、チーム編成は１年生の入部をまたなければならない状態でした。それから２年余、監督を先頭にチーム再建を目ざした汗みどろの練習が続けら

れました。その努力は、昭和46年高校総体県予選で実を結ぶことになりました。この時、山口監督とともに入部した1年生は、最上級生になっていました。このうち正選手として活躍したのは3人、あとの主将以下9人の3年生はそれこそ満身創痍、正選手の座を2年生に譲りベンチを暖める存在でしかありませんでした。決勝の相手は室内・春季両大会に連敗を重ねている小杉高校でした。前半終了間際まで1対3でいつもの通り小杉高校のペースで試合が進みました。終了間際、相手の反則からゴール前からのフリースローが与えられました。もちろん、ノータイム。直接ゴールを狙うしかない状態から3年生の坂が左上隅に豪快に、ネットに突きささるようなシュートをきめました。2対3で前半戦終了、この1点は後半戦の試合の流れを変える価値ある1点でした。いまだに鮮やかに目に浮ぶゴールでした。結局後半4対1、トータル6対4で勝ち有磯高校復活の狼煙をあげた優勝でした。選手の喜びはもちろん、山口監督の心情はベンチを暖める3年生の一人ひとりと手を握り合う姿にその思いが表われていました。

さて、このチームは、インターハイでも2回戦加納高校（岐阜）と前半1対5、後半中頃まで3対6の劣勢から坂・間方・中村（日体大）らの活躍で一気に逆点8対7で勝ち、3回戦は関東1位優勝候補の1つであった国学院栃木（栃木）を接戦に絶えながら7対6で降してベスト8に進出しました。準々決勝では秋田和洋（高校総体2位）に6対11で敗れましたが、選手達の活躍はすばらしく、爽やかな試合でした。このようにして有磯高校は様々な問題をかかえながら、年々大型化するハンドボール界にあって、小型チームの特色を生かし、40m×20mのコートを40分間走って走って走りまくるハンドボールで県高校女子ハンドボール界の頂点に再度立つことになりました。

昭和46年松山大会、47年東根、51年氷見、52年山口、53年福島、55年宇和島、56年八王子、57年鹿児島と計8回、選抜大会には2回、その間51年の北信越大会では小松市女を敗っての優勝、56年八王子大会ではベスト8進出と、有磯高校ハンドボール部前半期の活躍に優るとも劣らない成績を残してきました。年々進むチームの大型化・技術水準の向上は前半期に比してくらべものにならないほど進歩し、その底辺も着実に拡がっています。とりわけ北信越ハンドボール界では、小松市女の台頭は目ざましく、高校総体・選抜大会・国体の優勝を度重ねる強豪とし全国に名をとどろかしています。昭和51年本校の北信越大会優勝を最後に富山県勢はいまだに1勝もあげていません。そんな中で有磯高校は打倒小松市女を目ざしてチーム力向上をはかり努力してきました。それが、今日の有磯高校ハンドボール部の基盤をささえているような気がいたします。昭和56年のチームは、宮本・十丸（ジャスコ）、丸山（北国銀行）、田中（日体大）らの強力メンバーでしたが、この時も打倒小松市女（この年三冠王）を果たせませんでした。このチームは春の選抜大会で準優勝の宿敵水海道二高をあと残り5分で11対8と3点差のリードを保ち、試合の流れから勝利寸前まで追いつめましたが、たった1つのパスミスから試合の流れが変わり、2分で4点を奪われるという悪夢の逆転劇で敗れたのは、印象深い試合でした。また全国高校総体では1回戦前原高校（沖縄）に14対13、山陽女子高（広島）戦10対9、昭和学院（千葉）戦15対13と接戦をものにして、準々決勝戦では熊本女子商業（熊本）戦に14対17で敗れるまで全国の古豪名門校に一歩もひかず戦ったことは、その実力をいかんなくしめしたものでした。

また、地元氷見市で行なわれた第27回大会では、小柄ながらトップ　有内（有磯高校歴代のプレーヤーの中で最高のプレーヤとの評価）、主将新堂を中心によくまとまったチームで、地元の熱気ある応援の中、プレッシャーに堪えながらよく健闘しました。1・2回戦順当に勝ち上がり、3回戦水海道二高と戦い9対9のまま試合終了、抽選負という大変残念な監督としては悔の残る敗戦でした。試合終了寸前のペナルティスローの失敗、そしてこのチームが3位入賞を果たし目前で表彰されるのを見た時、なおさらの感がありました。しかし小松市女の黄金期にあって、北信越大会決勝戦、9対6で降し、優勝したことは、特筆に値するものだったと思います。

その他、それぞれの大会、そして一戦一戦の試合には、万感の思いとつきることのない思い出がありますが、ここでは割愛させていただきます。合には、チームが苦敗し、これはと思うチームが期待以上の戦いをするなど、有磯高校の歴史をふりかえると、チームの勝利をものにすることのむずかしさを感ずる以上に人生模様の縮図を見る思いがいたします。

昭和57年、不測の事態でいったん部解散の断を下さざるをえませんでしたが、今その部も、昭和60年代第三期の黄金期をむかえるため、その再建を目ざして着実にその歩みをはじめています。今春（昭和59年度）行なわれる選抜大会の出場権を得た新チームは、それにむけてきびしい練習に明けくれています。昭和54年第30回大会で10回出場の栄光を表彰され、また過去35回の大会に16回の出場をもつ古豪としてその復活が真近かであることを感じながらこの稿をとじます。

※昭和36年度卒業　竹本千恵子（大崎電機）
第２回世界女子選手権大会に日本代表チームの一員として出場

ハンドボールから学んだこと

有磯高校ハンドボール部主将
七瀬由紀

私が入部した頃の有磯高校のハンドボールは、富山県内では群を抜き、北信越でも小松市立女子高校に次ぐ強さを誇っていました。強さにあこがれて入部した私ですが、部に入ってみて初めて、強さを支えているものが激しい練習と厳しい礼儀であることを思い知らされました。

苦しさに耐えきれず、仲間が一人去り二人去り、ついに残るは私一人になってしまいました。練習の厳しさは、それがどんなに苦しくても、歯をくいしばってがんばる自信のあった私ですが、仲間の落伍には耐え難いショックを覚えました。仲間同志の強い心のつながりがあってこそできるハンドボールだからです。

私もみんなと一緒に部活動を辞めてしまおうか。それとも自分一人になっても好きなハンドボールを続けようか、ずいぶん悩みました。みんなと一緒に辞めるということは簡単です。しかし、私一人が部活動に残るということは、大変勇気が必要でした。「本当にやる気のある者になら、たった一人であっても俺はハンドボールを教えてやる。」とおっしゃった先生の言葉に励まされ、私はハンドボールを続けることを決心しました。有磯高校が本当にその強さを誇っていたときの先輩達のような、素晴らしいプレーをしてみたかったのです。

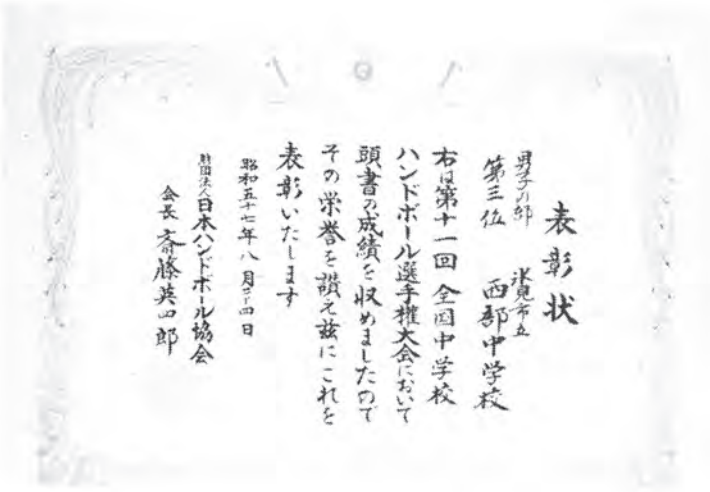
こうして、ただ一人残った私の練習は、毎日６キロほどの道のりを走りこんだりする基礎練習が主でした。

時には一人で氷見高校の男子ハンドボール部と一緒に練習させてもらったこともありました。この時の体験が私にはとてもプラスになりました。それは、部員の一人一人がやる気を持っているということの大切さを体を通して再認識したということです。以前の私たちのクラブではどこか受け身で、やらされている感じの練習だったということに気がつきました。それに男子と一緒に練習すると、スピードの速さや、パス・キャッチの大切なこともわかりました。他校のそれも男子に混じっての練習は大変苦しいことでしたが、今振り返ってみると、精神的にも肉体的にも忍耐力がついたと思います。

春になって、新入生が入部してきました。私はこの時の体験を生かしてもう一度〝強いハンドボール部〟を目指して努力してみることにしました。私の力が足りなかったのでしょう、今度の県大会は、２位という成績に終りました。この成績は、決してこれまでの先輩が築いてこられたような、満足できる成績ではありません。しかし私は、ここにいたるまでの経過の中に、努力，忍耐、和・礼儀の本当の意味を身をもって知ったことに大きな喜びを感じています。

私にとってハンドボールがあったからこそ学ぶことができたこと貴重な教訓を、折りにふれて、後輩に話していきたいと思います。

中学校ハンドボール



表彰状

男子の部　水見市立
第三位　西部中学校

右は第十一回全国中学校
ハンドボール選手権大会において
頭書の成績を収めましたので
その栄誉を讃え茲にこれを
表彰いたします

昭和五十七年八月二十四日

財団法人日本ハンドボール協会
会長　斎藤兵四郎

中学校ハンドボールのあゆみ

中学校にハンドボールチームが誕生したのは以外と古い歴史をもっている。昭和31年、南部中学校に古田俊光氏（のちの市協会理事長）が勤務されており、生徒を集めて作られたのがそのおこりといわれている。この生徒の中には、稲積忠勝氏（現協会理事長）がいる。彼の話によると当時、氷見市内には対戦相手がなく、高校生と試合させてもらったり、遠く富山方面まで出かけせ練習試合をしたそうである。唯この当時、旧北部中学校に他の部の選手を集めた即席チームであるがハンドボールチームがあり、南部中学校と対戦した記録がある。寄せ集めのチームであるが、なかなかの好チームであったらしい。南部中学校を指導されていた古田氏が翌年、灘浦中学校へ転勤になり、昭和32年、灘浦中学校にもハンドボールチームができている。しかし、古田氏が後に高校へ転勤になり、このチームは長続きしなかった。

昭和35年、坂井哲郎氏（現氷見高校教諭）の指導によって八代中学校にハンドボールチームができて、灘浦中と南部中と三校で何とか市の大会らしいものができるようになった。この大会では南部中学校が圧倒的強さを誇っていた。翌36年は、氷見市の中学校ハンドボールにとっては記念すべき年である。菅沢正登氏、辻久俊氏（現柿谷氏）を中心選手とする八代中学校ハンドボールチームが県体優勝したのである。氷見の中学校のハンドボールのレベルが県レベルの力をつけてきたのである。それに今一つ氷見の中学校にもハンドボールの専門家が登場したことである。当時、日本体育大学を卒業され、十二町中学校にハンドボールチームを作られた旅逸郎氏（現伏木高等学校教諭）である。旅氏の登場によって氷見の中学校のハンドボールのレベルが上がってきたことはいうまでもない。これより、およそ10年間は南部中対八代中の熾烈な戦いの時代が続いた。どちらのチームが勝っても地区大会で優勝、県大会でも必ず優勝戦へ駒を進める高いレベルの試合であった。とりわけ八代中の活躍にはめざましいものがあった。翌37年、再試合の結果、優勝はのがしたものの昭和38年には、県ハンドボールの全タイトルを独占、その後も県大会の優勝数回、他郡市の追随を許さなかった。これが氷見市中学校ハンドボールの第1期黄金時代である。

そして、昭和45年、清水明朗氏（現灘浦中学校教頭）の指導によって、阿尾中学校にもハンドボールチームができ、市の大会も次第に盛んになってきた。そして昭和47年、この年も氷見の中学ハンドボールにとっては記念すべき年であった。地子英信氏引きいる南部中学校ハンドボールチームが県大会、北三大会に優勝し、第1回全国中学校ハンドボール大会に出場し、堂々第3位に入賞したのである。氷見の中学ハンドボールを全国に知らせた年でもあった。それと、市協会の指導で46年に南部中女子ハンドボール部ができ、続いて昭和49年に北部中学校女子ハンドボール部ができ、女子の大会も開催されるようになった。とくに北部中女子ハンドは田嶋静江氏の指導により、その後、北信越出場2回、そして昭和57年の第11回全中大会ではベスト8進出と輝やかしい伝統を築き上げてくれた。

それから、昭和56年に灘浦中学校に再びハンドボール部ができた。指導者の姿豊晴氏はハンドボールの専門家であり。今後に期待したい。

次は昭和47年から伊勢利弘氏が指導を始めた西部中学校ハンドボールチームである。この時西部中学校の部員として2年生に西山清氏（ロス五輪の全日本エース）がいる。そして、部創立3年目に県大会で優勝し、しかも昭和49年より北信越大会へ9回出場し、そのうち5回全国大会に出場している。そして、第5回全中大会に堂々3位に入賞している。

中学ハンドボールが市民をわかせたのは、氷見で開催された第11回全中大会での西部中学校ハンドボールチームの活躍である。とくに準決勝の対芦城中との試合である。試合終了数分前まではひょっとしたら全国制覇ではという試合ぶりであった。結果は惜しくも敗れ、第3位ではあったが、市民を興奮のルツボへ引き込んだ試合であった。この西部中活躍の時代が氷見の中学ハンドの第2期黄金時代だと思う。

最近の氷見の中学ハンドは、富山、高岡の中学ハンドに押され気味であるが、昭和58年に西条中学校にその伊勢氏指導によるハンドボールもできたことでもあるし、第3期黄金時代を目指し、更に精進していきたいものである。

南部中学校 女子ハンドボール部

顧問　窪　　幸子

昭和46年の創立当時は、まだ氷見市内の他の中学校には女子ハンドボール部はなく、南部中学校が唯一の部であった。そのため、市内の大会はなく、昭和49年に北部中学校に女子部が創立されるまでの３年間は、高岡地区中学校総合選手権大会と高岡地区新人大会に参加していた。

昭和53年度以降、市内における北部中学校との試合では負けが多く、部顧問の指導力の低さは言うに及ばず、部員の練習や試会に対する意欲にも欠け低迷状態にあった。しかし、高岡地区中学校選手権大会や高岡地区中学校新人大会には、参加チームが少ないこともあるが、１回戦を突破して準決勝に進出することが多かった。

昭和58年度から氷見市ハンボボール協会の海下雄二さんを南部中学校非常勤講師としてコーチに迎えることによって指導体制が確立し部員の「やる気」と相まって、めきめき技術が上達し、全国大会出場も夢でもなくなった感じである。

コーチや部員の「やる気」が親にも通じ、昭和59年度（本年度）は、「氷見市立南部中学校ハンドボール部父母の会」が結成され、いろいろな面での協力・援助をしていただけることになりうれしい限りである。また重ねて父母の会会員でもある氷見市ハンドボール協会の稲積忠勝さんにも技術指導者として部活動に参加していただくことにより、指導体制が一層強固なものになった。近い将来、市外・県外への練習試合や合宿も計画しており、一段と技術と心が磨かれることになる。

平常の練習では、稲積さんや海下さんの適切な指導により、倒れ込みシュートやディフェンス、速攻など豊富な内容をこなしている。また、日曜日には、氷見高校へ出向き、有磯高校や市内中学男子の１年生を相手にして練習試合もしている。

次に卒業生の動向について記そう。52年度６名、53年度９名、54年度17名、55年度８名、56年度６名、57年度11名、58年度９名が卒業したが、高校へ進学してハンドボール部で活躍しているのは、55年度の鎌口千江美（高岡女子）、57年度の北山緑、中橋美保、谷内雅美、中村貢三子（以上有磯）と少なく殆んどの生徒が中学校のみの経験で終っている。

現在、３年生11名、２年生９名、１年生８名であるが、中学校卒業後も氷見市のスポーツ「ハンドボール」の隆盛のため尽力してくれることを期待している。

南部中学校 ハンドボール部

顧問　和泉紘也

本校ハンドボール部創立は昭和31年である。ちょうど現在位置に新校舎の第一期工事が終わったばかりで、上伊勢校舎との間で移転，再移転が繰り返えされていた。グランドは狭く十分整備もされておらず「一面の草原そして泥沼，およそグランドとは考えることができない広場，授業を犠牲にしての草むしり，土運び…。――わが校のあゆみ・創立三十年誌より――」とある。そんな中で，古田俊光先生の御尽力により、男子ハンドボール部が誕生したが、専属部員はおらず、野球部その他からの寄せ集めの形であったようである。

しかし、その後順調に進み，昭和33年には早くも呉西地区大会で優勝を飾っている。以後も市内はもとより各種大会での優秀な成績が記録に残された。なかでも、昭和47年には全国大会第３位の栄誉に輝いている。その時の参加選手は７名で，思い出として「試合は愛知県青少年公園で行われ，準々決勝では中国代表呉二河中を９対４で倒し，いよいよ準決勝では地元代表東港中（大会優勝校）との対戦である。相手チームは平均身長 174cm、我チームで一番背の高い自分でさえ、小さい方から２番目という有様，試合は終始相手のペースで進められ大差がついたが，『ここで負けたら氷見の名がすたる』の最後の反撃。一時２点差まで追いつめながら最後は差をつけられ敗れた。しかし，敗れても悔のない試合ができた。

翌年は北三大会で１勝１敗で得失点差で惜しくも２年連続の全国大会出場を果たすことはできなかった。その後やや低迷を続けてきた。しかし、昨年から坪川さんが進んでコーチ役を申し出てくださり、土・日曜日を中心に熱心な指導によって生徒の士気も次第に盛り上がると共に、父兄の関心も高まり、今練習意欲に燃えている。

八代中学校
ハンドボール部

顧問　森　杉　書　法

八代中学校男子ハンドボール部は昭和31年に創立された。昭和35年の県西地区優勝をはじめとして昭和37・38・39年市体優勝、38・40年東西対抗戦優勝、36・38・39年県体優勝を達成した。

この間に、活動・実績ともにその基礎が築かれた。創立時と昭和33年以後の顧問は坂井哲郎先生、昭和36年以後の顧問は地子英信先生であった。

小規模校のゆえに、部員確保や練習場所の確保などが難しかったが、密度の濃い練習とチームワークでこれを克服していった。

また、合宿・遠征試合などを繰り返し精神力と技術の向上に努めたことも実を結んだ。

さらには、片道40分以上という遠距離通学者を含め、毎日山道を歩いて通学することなどから、足腰が鍛練されると同時に、粘り強さや忍耐力が自然に養われていったことも、精神面、体力面の基盤となったと言える。

そして、何よりも熱心な指導と部員の真摯な練習態度が活動の支えであった。

こうした道のりを経て、昭和46年北三大会優勝を達成した。

当時は、絶妙なコンビネーションプレーとスピードで他チームを圧倒し、それまで積み重ねてきた技量を最大限に発揮したと言える。

このことは、地域の人々にも感銘を与え、より一層の支援が送られることとなり、ハンドボールは八代地区に最もなじみの深いスポーツとなっていった。

その後も昭和47・48年の市体、県体優勝などを含め、市の大会、地区の大会では着実な成績を収めていった。

この間、男子全員加入制を採るなどして、生徒数の減少による部員数減に対応し、その存続に努めた。

各学校のスケールの大きなハンドボールに対し、しばしば体格的に劣ることの多い本校は、チームワークと精神力でそのハンディを克服していった。

この期間、井田幸洋先生、栗山正夫先生、中田貞二先生らの指導を受け、充実した活動が続けられていた。

また、関係者や先輩諸氏、地域の人々の熱心な援助も見逃せない。

こうした長い間の積み重ねの中で、数々の好選手を輩出し、生徒達の大きな励みになってきた。

そして、昭和58年においては、３年生全７名による、文字通り全員一丸となったプレーで、市体と置県100年の記念すべき県体に優勝を飾った。

その時のメンバーは、沢田憲三先生、瀬戸一隆先生の指導を受け、力を次第に蓄えていったが、故障や不運によってなかなか優勝に結びつかなかった。しかし、最後の大会において、瀬戸監督の「どんな時でもハンドボールの試合をしている者は７名であり、７名がベストの状態で試合にのぞむことが大事なのだ。」という教えを選手達が忠実に守り、合宿等による厳しい練習を耐え、強豪南星中学を破り、優勝を飾った。

これは、最後まで勝負を捨てず、逆境においてその真価を発揮するといった、創立以来の伝統である精神面の強さと技術がひとつになった勝利といえよう。

そして、それまでの努力の過程は、これからの本校ハンドボール部の大きな指針となっている。

現在、部員数14名（１年生６名、２年生８名）であり、練習内容にも制約があるが、今まで受け継がれてきた精神面の教訓と集中的な練習によってその活動が支えられている。

また、先輩達が残していった実績が彼らの誇りとなっている。

現在の課題は、体格的或いは人数的なハンディをいかに克服していくかであろう。

この点は今までも直面してきた課題であるため、これからも伝統を受け継ぎ、体力トレーニングの強化に取り組み、今までの伝統に新しい１ページを加えていけるよう、一層の努力が望まれる。

結果はともあれ、30年にわたる長い期間においてなされてきた顧問の諸先生方の献身的な御指導とそれに応えようとする選手達の努力から生まれた実績に恥じぬよう、これからも在校生全員が一丸となって日々の練習に取り組んでいってほしい。

北部中学校 ハンドボール

顧問 地子英信

現北部中学校は、旧北部中、旧上庄中、旧余川中、旧阿尾中の４校の統合校であり、そのうち旧阿尾中にハンドボール部があったため創立の昭和49年からハンドボール部が活動していたが、当時は旧阿尾中出身の生徒が中心であり、部員数も少なく、顕著な活動はなかったが、昭和53年、地子教諭の着任により部員数は増えたが、まだまだ基礎固めの段階であった。

昭和55年、中学の県選手権大会に出場し、決勝に進出し、始めて北信越大会に出場し、坂清三、大石克哉、中村豊君等の活躍で準決勝へ進んだが氷見の宿敵芦城中に敗れ、全国大会初出場の夢はきえた。

その全国大会の夢が実現されたのが昭和57年の氷見で開催された第11回全中大会であった。県大会は地元西部中と対戦し、惜しくも敗れ２位であったが、開催県ということで全国大会出場の夢がかなえられた。地元ということで緊張の連続であったが、１回戦は近畿地区代表高島中と対戦し何とか勝つことができた。２回戦は九州地区代表松橋中と対戦し、互格の戦いであったが力及ばず敗れベスト８どまりに終った。

翌昭和58年、久しぶりの大型チームで念願の県選手権で優勝し、札幌の全中大会を目指し、猛練習に励んだが、その予選である北信越大会でまたも宿敵芦城中に敗れ、札幌行きの切符を逃してしまった。

現役である２・３年生を見ると今一歩のパワー不足であり、県大会を制覇するには物足りなさを感ずるが、鍛えようによっては伸びる可能性を秘めているように思う。それに、最近スポーツ少年団のハンドボールが盛んになってき、我が校下の東クラブ、稲積クラブが大いに活躍している。彼らはやがて我が北部中学校へ入学してくる。彼らの中にも将来の大物選手がいる。彼らの力も借り現役を鍛え直し、県大会の優勝、全国大会出場に夢はせて精進してみたい。

北部中学校 女子ハンドボール

顧問 田嶋静江

1975年10月、部員数12名で発足…。当時は練習場も十分でなく男子コートの一角で基礎練習からはじまった。練習内容も、何をどうはじめていけばいいのかわからず、手さぐりの状態だった。1977年、一に走り、二に走り……とボールもさわらずに走り続け、石田・坂下・崎田の三線速攻を主軸に県総合選手権大会で次勝する。

「全国大会出場」という、大きな目標に向って、一致団結し、厳しい練習に耐えた1980年、主将荒和代（現在、北国銀行）以下10名が、チームワークもよく、念願の県総合選手権大会優勝を果たす。福井で行われた北信越大会で、一回戦は新潟に勝ち、二回戦は石川県の芦城中学校に惜敗する。1982年８月、本校が会場で、全国中学校ハンドボール選手権大会が開催される。その大会をめざして男子は氷見西部中・氷見北部中・南星中・女子は小杉中・呉羽中・氷見北部中の６校が、県教育委員会主催のジュニア強化合宿に参加する。五泊六日で、春季・夏季計六回にわたって、多くのコーチの先生方の指導を得て、苦しい練習の中からチームの団結力も高まり、全国大会の出場権を得ることができた。一回戦は、北海道地区代表の鳥取中学校と22－７で勝ち、二回戦は、石川県代表芦城中学校に18－８で敗れる。

長野県で行われた北信越大会でも寺井中学校に善戦することができた。この年は、山貫克郎氏がコーチに来て下さり、他県チームとの対外試合も、多くとり入れた。翌年も、北信越大会に連続出場し、全国大会で優勝した寺井中学校と対戦、速攻を中心とした攻撃で熱戦を展開した。今後、全国大会出場という目標に向って前進していきたい。現在、実業団チームで、本校の卒業生、十丸江梨子（ジャスコ），丸山雅代・三角志保・荒和代（北国銀行）等が活躍している。

西部中学校 ハンドボール

顧問 浦山 博

本校ハンドボール部は、昭和47年９月に伊勢利弘先生（現在西条小学校勤務）によって創立された。当時氷見市の中学男子ハンドボール部は、伝統ある南部中学と八代中学、それに阿尾中学の３部しかなかったが、レベルは高く、県大会でも常に優勝を争っていた。ハンドのハの字も知らない一年生部員だけではあったが、勝ちたい一心で、雨の日も雪の日も、自動車のヘッドライトをたよりに、やっと見える球を追って必死に練習してきた。有磯高校の山口先生の指導を受けたり、生徒にも練習相手になってもらったりして、練習に打ち込んだ。初代の主将を努めた山崎英治君はじめ、現在コーチとして指導に当ってくれている宮窪君、ＯＢ会の会長をしている坂本君らが一致団結してよくがんばった。初めての公式試合は昭和48年、２月の室内大会で、八代中学と対戦したが、27対１で負けてしまった。しかし、一年の冬には西山君が体操部から転入し、層も厚くなった。その上氷見高校生や氷見クラブ員のすばらしいプレーを見ることができ、練習も一段とレベルを上げていった。昭和49年の県選手権で、初めて強敵の南部中学を破り、努力が実り、みんなでうれし涙を流した。

北三大会では、高浜中学（福井）に惜敗し、後輩に全国大会の夢をたくした。

昭和50年には、関谷君や大門君を中心に、県大会で圧勝し、北三大会でも優勝した。待望の全国大会は、石川県で行われた。実力はかなりのものだったが、初出場の悲しさで、充分に力を出し切れず、名古屋のチームに２回戦で負けた。

昭和51年には、県内で勝つのが当たり前となり、北三大会で、ライバルの芦城中学（石川）を破り、大阪大会に出場した。松田君を中心に、光安君や山崎君など、小粒だがスピードのあるプレーで、東京のチームや名古屋のチームを破り、準決勝で優勝した和歌山のチームと対戦した。１点を争う一進一退の好ゲームを展開したが、１点差で負けてしまった。

次の昭和52年は、瀬戸君や、中村君を中心によくがんばり、茨城大会に出場した。地元チームに１点差で破れ、またしても１点の重味に泣いた。

その後、昭和53・54・55年度は生徒減に伴ない部員数も不足し、県内大会は何とか勝つのだが、北三や北信越で良い成績を収めることができなかった。

昭和56年度には、次年度の全国大会が氷見市で開催されるということで、張りつめた雰囲気で練習を重ねた。北部中学としのぎをけずり、いい意味でのたくましさを身につけ、ライバル芦城中学をも破り、久々の全国大会出場を得た。徳山大会では、やや力不足にもかかわらず、来年につなげとがんばった。惜しくも一回戦で関東の代表に負けたが、後輩にとっては大きな励みとなった。たいして強くもなく、小柄なチームが、山本君を中心にファイトだけでやってきたチームだった。

昭和57年度は、中学の全国大会が初めて氷見で行なわれた年だった。ハンドボールの所帯はきわめて小さいにもかかわらず、その団結にはものすごいものがある。県の協会や市の協会の関係者の誠心誠意の励ましや指導を受けて、合宿や合同練習に明け暮れ、また県外チームとの練習試合に燃えた。県予選や北信越予選を終え、全国大会を迎えた。東海代表に勝ち、近畿代表を破り、準決勝では、またしてもライバル芦城中学と対戦した。相手もすばらしいチームで、好ゲームが展開された。結果は惜敗だった。２度目の３位。

ここ２年ほどはやや低迷しているが、部員たちは毎日の厳しい練習に耐えてがんばっている。今後のより一層の努力に期待したい。

灘浦中学校 ハンドボール

顧問 姿　豊　晴

灘浦中学校ハンドボール部は、昭和57年４月に新入生10名をもって発足したまだ、年月の浅い部である。

私が赴任した56年４月に柔道部と剣道部が廃部となり、男子の運動部は、野球部と卓球部の両部となった、そのため、両部の部員数が多過ぎる状態であった。

そうした状況などを考え、校長以下職員一同の理解のもとに、57年度からハンドボール部を設立することとなりました。

部員は新１年生からとし、宇波小から７名、女良小から３名の入部をみたのである。宇波小の生徒はハンドボールを幾らかなりと経験したことはあったが、女良小の生徒は全くその経験がない生徒であった。

一応部員の数は揃ったものの、次は場所の問題があった。グランドそのものが狭いので、野球部ソフトボール部の理解を得て、何とか練習の出来る程のコートを設置させてもらい歩み始めた我が部である。

初の競技大会参加は、昭和57年の市選手権である。対戦相手は、ハンドボール部に男子の全勢力を注いでいる八代中であり、48対１という大差にみじめな思いをしたものである。しかし待望の１点をとることが出来、それでもハンドボールに参加できたという思いも心の隅に覚えたものであす。

その後の大会においては、練習に燃えてはいるものの、１点、０点、４点といった大差で負け続け、自分がハンドボールを身につけてきたとは言うものの、生徒に如何に指導していけばよいのかと迷いに迷い練習の難かしさをいやという程知らされた初年度でした。

58年度には、更に新しく12名が入部し、部員は22名となり、前年度まで思うように出来なかったチームプレーの練習が出来るようになったことがたいへん嬉しいことであった。しかし、宇波小で活躍した選手の入部を得られなかったのが残念でした。この年も、春季、市選手権、市体と負け続け惨めな思いを生徒とともに味わったのである。

９月における新人戦は同学年の者と同等に試合が出来ると部員一同大きな期待を寄せて、練習にも今までより熱が入り、初の１勝を夢みたものでしたが、氷見の壁は思いの外厚く、善戦したとは言うものの八代中に20対17と惜敗したのである。

次の地区新人大会では、念願であった１勝を高岡西部から上げることが出来、部員一同肩を抱いて喜びあったものである。優勝をして喜び合うという光景はよく見かけるが、始めて勝ったという喜びを考えてみると、いかにこの時の１勝が自分にとっても、生徒にとっても嬉しいものであったか、うかがい知ってもらえると思います。

２回戦では、名にしおう氷見西部に敗れたとは言え、今までの試合ぶりとは違い、生徒達は自信をもって試合を進める姿を見て、これでハンドらしくなってきたという心を持たせてくれたものです。

昭和59年度には17名が入部し、ハンドボール部は灘中一の大世帯となり、練習にも今まで以上に熱が入り自主性もしっかり生まれてきたように思います。

成績そのものは勝利を占めるというものを味わえなかったが、灘中ハンドも１人前に育ってきたように思える。これからが私にとってたいへんだと自覚を新たにさせられます。

創部以来、まだ氷見の厚い壁を破ることのできない自分であるが、部員と一丸となり、近き将来ハンドの灘中と言われることを夢みて、これからも燃え続けたいと思っています。

将来をになうスポ少の活躍

昭和55年　第一回氷見市少年少女ハンドボール大会
（於氷見高）

昭和58年　スポーツ交流大会開会式(有り校体育館)

スポーツ交流大会男子優勝(八代スポ少)

スポーツ交流大会女子優勝　(稲積スポ少)

仏生寺スポ少

ハンドボールスポーツ少年団の誕生と現況

山　貫　克　郎

昭和50年代、日本全国至る所で小学生を中心とする少年スポーツ活動の隆盛には目を見はるものがありました。少年野球・少年サッカー・ミニバスケットボール・少年少女バレーボールとありとあらゆるスポーツ種目において小学生のスポーツ活動に親しむ姿がいろいろな所で見かけられました。私達ハンドボール関係者も是非ハンドボールの醍醐味、面白さを知ってもらいたいものだと昭和50年代前半において常々思っておりました。幸いなことにこの時期、氷見高校ハンドボール部が国民体育大会で昭和52年・53年・54年と三年連続優勝、続いて55年・56年と５年連続決勝進出という快挙、全国高校総合体育大会（インターハイ）では昭和51年より54年まで５年連続３位以内入賞という輝やかしい活躍をしてくれましたおかげで、市民各層の方々にハンドボールに対する興味・関心が非常に高まってまいりました。この時期を逃がしては、少年ハンドボールを始める機会がなくなると懸念し、当時、宇波小学校・藪田小学校へ奉職されていた姿豊晴先生（現灘浦中学校）と相談致しましたところ、快諾を得てやってみようという運びになりました。やってみようとしてはみたものの、試合時間の問題、使用球の問題、ルールの問題等色々な難問が出てきて、大変苦労しました。小学生用ルールの手引きとなるものもないので、姿先生と検討を重ねた結果、氷見なりの試合方法で行うことにしました。しかし、試合を行うといっても、私と姿先生の二人だけで運営ができるはずもありませんので、氷見市中学校体育連盟ハンドボール部会の先生方にお願いし、氷見高校体育館で行っている氷見市室内選手権大会のプログラムの中に組み入れて頂くことになり、晴れて昭和55年２月17日氷見高校体育館において、宇波小・藪田小の男女小学生、宮田小の男子小学生が参加して、非公式ながら氷見市で初めての少年少女ハンドボールが誕生致しました。試合結果は、男子が宮田小、女子は藪田小が勝利を収めそれぞれ幻の初代優勝チームとなりました。なお、当日は大変積雪が多く、姿先生ともども児童の搬送には大変苦労致しましたが、幸いにも御理解ある父兄の方々の協力を得て無事に事故もなく終えたこともなつかしく思い出されます。話は前後しますが、この大会で優勝した藪田小の女子の人達が後年昭和57年氷見北部中で開催されました全国中学生選手権に氷見北部中学の主力選手となり全国ベスト８になってくれましたことも良い思い出の一つであります。

さて、このように誕生した少年少女ハンドボールですが、参加チームを増やせないだろうかと、ハンドボール関係者と話し合った結果、市教育委員会で行っているスポーツ教室の種目にハンドボールを取り入れてもらったらどうだろうかということになり、教育委員会にお願いしましたところ快い返事を頂きスポーツ教室を行うことになりました。当初は氷見高校で実施する予定でありましたが、児童の搬送に困難点があることから、阿尾小区域、東小区域、南条区域と３ブロックに分けて実施することになり、姿先生ともども午前中は加納小、午後は阿尾小、次の日は宮田小と駆けまわったのも懐しく思い出されます。少年少女ハンドボール教室の締めくくりとして８月19日に氷見高校で交流会形式で試合を行うことになり、男子は仏生寺・余川・東・八代・宮田・加納・藪田・宇波の８校、女子は仏生寺・余川・藪田・宇波・八代の５校の参加を得て実施されました。その時、忘れることのできないこととして、男子決勝戦東小学校対宇波小学校戦が同点となり、ペナルティスローコンテストを行うことになったのですが、宇波小の方からペナルティスローとは一体何のことなのかわからないと言われ、急ぎ宇波小の児童にペナルティスローの行い方を指導しコンテストを行ったのですが、そこはやはり急なことゆえ、１点差で惜しくも敗れ東小学校が優勝となりました。このことは、私達にゲームにおいて必要と思われることは全て指導していかなければならないんだという教訓を与えてくれました。女子は２月

に行ったと同じ顔合わせ薮田小対宇波小の決勝戦となり、薮田小が前回同様優勝に輝きました。

明くる昭和56年度は、金原先生をはじめとしてハンドボール関係者一同の御努力のおかげで、前年度スポーツ教室大会として行った大会を氷見市教育委員会主催の第１回氷見市少年少女ハンドボール大会として公式に開催して頂けることになり、私達関係者一同小踊りして「これで、もっとハンドボール活動をしてくれる学校が増えるに違いない。」と大喜びしたものです。しかし、参加校は男子が東小学校・加納小学校・宇波小学校・窪小学校、女子は仏生寺小学校・宇波小学校と前年度よりも男子が４校減、女子が３校減という少数になってしまいました。参加校が減少した原因は色々と考えられますが、一番の原因はお世話して下される先生（指導者）方の転任ではなかろうかと考えられます。姿先生が薮田・余川から灘浦中への転任、八代小でお世話頂いた余茂田源三先生の朝日丘小への転任、私自身の宮田小からの仏生寺小への移動などがあり、面倒を見て下さる先生がいなくなり自然とハンドボール活動もとだえた様子でした。しかし、そのような状況の中、私達の大先輩でもある宮崎正己先生が窪小学校の児童を引き連れて参加して下されたのは１つの明るいニュースでありました。数少ない参加校ではありましたが、第１回氷見市少年少女ハンドボール大会の優勝校は男子が東小学校、女子が仏生寺小学校でした。

昭和57年度は、前年度の反省のもとに私達ハンドボール関係者だけでなく、小学校の先生方にも仲間になって頂き一緒にハンドボール活動を進めなければならないとして、事前協議会などを行ったりした結果、第２回氷見市少年少女ハンドボール大会には男子が東小・宇波小・窪小・仏生寺小・加納小の他に新しくは女良小が浜田儀博先生（現阿尾小）、上余川小が久津呂明弘先生のご指導で初参加、宮田小が野手憲治先生のおかげ再び参加して下され合計８校、女子も仏生寺小・宇波小に新しく女良小、上余川小が参加して下され４校と前年度より参加校が増えたことに胸をなでおろしたものでした。またこの年、全国中学校大会が氷見北部中学校で開催され、ハンドボールに対する関心が高まっていたことも参加校が増えたことに寄与してくれたものとも思われます。大会結果は前年度優勝校が強く決勝戦は前年度と同じ顔合わせになり、男子は東小女子が仏生寺小が優勝、宇波小は男女とも２位という結果になりました。その後、宇波小の西村長朔先生や東小の指導者であられる三国優さんその他の方々から、もう一回小学生大会をしてほしいとの要望があり、関係者一同の協力・努力のおかげで主催を氷見市体育協会がしてくだされることになり、11月28日に氷見高校で第１回氷見市ジュニアハンドボール競技会が行われることになり、参加校は男子が東小・窪小・宇波小・仏生寺小、女子が宇波小・仏生寺小と参加校は少なかったのですが、現場で小学生を指導して頂いている皆様方の要望から実現した大会でしたので、私達関係者一同のよろこびも一味違ったものがありました。大会結果は男子が宇波小、女子が仏生寺小が優勝しました。

昭和58年度は、置県百年を記念した県民体育大会が行われることになり県協会の方からちびっ子ハンドボールを実施したいという要望があり各小学校にお願いしてみたところ、男子は宇波小・女良小・窪小・八代小・薮田小・余川小の計６校、女子は仏生寺小・宇波小・八代小・女良小・薮田小の計５校の小学校が参加して下され県体第３部ちびっ子ハンドボールの部として行われました。県営陸上競技場での開会式にも参加する予定でしたが、あいにくの雨のため参加できず、試合当日も雨の為、屋外でできず、高岡高陵高校の体育館で試合が行われた結果、男女共優勝は宇波小でありました。ここで、特筆しておきたいのは昭和55年度に小学生ハンドボールを始めて以来ずうっと２位に甘んじてきた宇波小が５年目にして始めて優勝し、しかも男女アベック優勝したことは私にも大変うれしいことでした。うれしいこともあった反面、この県体で小学生ハンドボール活動開始以来ずうっと抱え続けてきた問題が一気に表面化しました。すなわち、子供達の搬送問題で、各小学校とも試合には参加したいのだが、試合会場までどのようにして行くのかが常に問題点となっていました。これまでは、姿先生や私がフル回転で早崎会長さんのワゴン車などをお借りして子供達の搬送を行っていたのですが、この県体のように一度に多人数を集めるとなると私達の能力にも限界がありどうしても県協会が望む開会式にまで集合させることはできそうにもありませんでした。しかし、早崎会長さんや稲積忠勝市ハンドボール協会理事長その他の方々の御尽力により、大型観

光バスで搬送して頂くことになり無事ちびっ子ハンドボールを行うことができましたが、小学生ハンドボール大会の在り方について一石を投じた大会でもありました。

第３回氷見市少年少女ハンドボール大会は例年通り８月17日氷見高校グラウンドで、男子は八代小・女良小・窪小・宇波小・余川小の５校、女子は八代小・宇波小・仏生寺小の３校が参加して行われ男子は宇波小が、女子は八代小がそれぞれ優勝をしました。ここで目立ったのは、八代小が昭和55年以来４年ぶりに小学生ハンドボール活動を辻本正樹先生、私達の先輩であります菅沢正登さんの御指導で再開して下され、実質的には初出場のようなものであり、しかも女子は見事に優勝をしたことは特筆すべきことだと思います。しかし、第３回を数えるこの大会も参加校が５校となかなか出場校が増えないという悩みがあり、関係者一同ハンドボール活動をして下さる学校を増やすにはどうしたらよいだろうかと真険に協議を始める機会を与えてくれた大会でもありました。何度か協議を重ねた結果、学校の先生方だけにお願いするのには限界があるのではなかろうか。それならば思いきって八代小や東小のように社会体育の方面で進めていけばどうだろうということになりました。八代小に関しては、前述もしましたが余茂田源三先生が活動を始めて下さったのですが余茂田先生の転任とともに自然消滅していましたが、先輩であります菅沢さんが私達の意向を受け入れて下され社会体育活動の一環として活動して下され今日に致っている次第であります。もう一つ、東小に関しては、最初から学校体育活動から出発したのではなく、菅沢さん同様私達の先輩であります三国優さんが社会体育活動の一環として活動を始められ、この大会において二年連続優勝するなど輝しい記録を残されています。週２回夜の７時から９時迄東小学校の体育館で活動をするという完全に学校体育活動とは関係なく活動を進めてきた小学校でした。残念なことには、三国さんが仕事の関係から東小のお世話をして頂くことができなくなり、この年はこの大会に参加することができなくなるなど存続の危機になっていたところを、関係者一同の御尽力により私達の仲間の指崎泰利さんが面倒を見て下さることになり現在に至っています。この２校のように社会体育の方面で小学生ハンドボール活動を進めていけば、指導者は学校の先生方のように異動ということはありませんから、本当にその地域に根ざした活動になっていくのではなかろうかと大きな希望を抱きました。しかし、これまでは学校の先生方を中心に活動を進めてきたので、具体的に社会体育活動として行うためには、どのようなことをすればよいのかといった具体的な案は全くありませんでしたが、幸いなことに金原先生が氷見市スポーツ少年団の副本部長をなさっておられ、スポーツ少年団活動として進めていったらどうだろうかということになり、金原先生や市教育委員会体育課の宝住哲郎さんその他の方々の御協力により、第一回スポーツ少年団ハンドボール大会が10月23日、氷見高校で行われることになりました。又、この大会は前年度市体育協会主催で行われたジュニアハンドボール競技会が発展的解消してこの大会になったものでもあります。参加校は男子が、東小・宇波小・八代小・窪小の４校、女子が宇波小・八代小・仏生寺小の３校で大会結果は男子が窪小、女子は仏生寺小がそれぞれ優勝しました。男子の窪小につきましては、昭和56年度に活動を始められてから３年目にして初の優勝で宮崎先生ともども喜んだものです。女子の仏生寺小はこれまで常勝という輝かしい活躍をしていたのですが、今年度はこの優勝が初めてで、女子は今年度３回大会を行いましたが、３大会とも優勝校が違うという戦国時代に入ってきた感じがし、このような様相になってくれたことを大変うれしくも思いました。

昭和59年度になり、もっともうれしかったことの１つに宇波小学校のハンドボール活動が、フジテレビ系列の全国放送版「スポーツ天国」のスポーツトレインのコーナーに約７分間程放送されました。雪中でのトレーニング風景、練習風景、６年生を送る送別試合の様子などが放送されたのですが、５年生のＧＫの子どもが６年生のＧＫから手袋をもらう時に感激して泣いた場面には、私達も思わずもらい泣きしたものでしたが、この放送で氷見市で小学生ハンドボールを行っているんだという認識を市民だけでなく全国の方々に持って頂けたと思っています。

前年度よりスポーツ少年団活動の一環として活動を進めてきたおかげもありまして、各地域スポーツ少年団指導者の関心も高まってきまして、野球やバレーボールのように全国大会へつながるようにできないものなのかという意見もたくさん寄

せられるようになりました。金原先生やその他の方々と相談の結果、中学校や高校のように学校体育活動の範囲内では全国大会はおろかブロック大会さえも行えないのではないだろうか?。やはり前年度より軌道修正したようにスポーツ少年団の組織を活用させて頂いて全国大会実現に向けて頑張ろうということになり、それからの金原先生の日本ハンドボール協会でのご努力など私達ではどうすることもできないことなどの解決に当たって頂きただ感謝するばかりであります。3月の春休みに名古屋の方へ行き、最終打ち合わせを金原先生、浦野先輩ともども行ったときには、思わず武者震いしたのを鮮明に覚えています。全国大会は、まだ時期的に無理がある様子なので、名古屋市・大垣市・氷見市の3市スポーツ少年団ハンドボール交流会という形式で実施することになったのですが、それからの交流会開催に向けての諸準備、会合等とスポーツ少年団本部の役員の方々とりわけても宝住哲郎さんの御尽力にはただ感謝するばかりであります。たくさんの方々の御協力の元8月18日・19日・20日の3日間、有磯高校グラウンドにおいて、名古屋市一色スポーツ少年団男女、小松第一小学校スポーツ少生団男女、大垣市スポーツ少年団男女、氷見からは男子が八代小・宇波小、女子が稲積小・仏生寺小の男女計10チームが集まって開かれました。大会結果は、氷見の小学生達のレベルが高く優勝は男子が八代小、女子が稲積小、2位も男子が宇波小、女子が仏生寺小となりました。なおこの交流合は試合だけが目的でなく、異なった地域のスポーツ少年団員と親睦を深めるという意味もあり、市レクリエーション協会の方々の御協力によるキャンプファイヤーなどがあり、中学・高校の大会とは異なった趣きのある意義深い交流となり、参加して下されたスポーツ少年団員にも大変好評のうちに行えたのもたくさんの方々の協力があればこそと思い、改めてスポーツを愛する者の仲間作りの重要性を痛感させられました。ただ一つだけ残念なことは、使用ボールのことで打ち合わせミスから大会球が決まらず2種類のボールを使って試合をしたのですが、これから小学生大会を全国的に普及させる為にも小学生用ボールの徹底が望まれるものです。

この交流会に先だって、氷見市の予選会が7月15日に氷見高校で行われ男子は八代小・稲積小・池田小、宇波小・窪小、東小・岩ヶ瀬小の計七校、女子が八代小・稲積小、宇波小、仏生寺小、朝日丘小の計5校が参加して下されました。稲積小・池田小・岩ヶ瀬小・朝日丘小がそれぞれ初めて小学生ハンドボールを行って下されました。稲積小は西村長判先生が宇波小より転任なさられて活動を始めて下さられ女子は初参加で堂々と2位となるなど西村先生の小学生における指導法は私達も見習わなければならないものがあると感心させられます。池田小は私達のハンドボール仲間であります谷内口数尚先生と地区の河原保さんの御指導のもとに活動を始めて下さいました。岩ヶ瀬小は河上昌俊先生の御理解のもと熱心な御指導をして下されとても今年より初めて活動を開始したチームとは思えないほどのプレーが見られました。女子の朝日丘小は私達の先輩の稲積忠勝さんが中心となられてチームを作って初めて参加して下されました。

第4回氷見市少年少女ハンドボール大会はスポーツ少年団交流会との都合上、時期をずらして10月27日・28日の2日間にわたって氷見高校で行われました。参加チーム数が増えてきてどうしても2日間にしなければならず、私達にとってはうれしい非鳴で男女ともスポ少大会と同じ学校が参加して下され、男子は宇波小が女子は宇波小とアベック優勝をしました。女子は昨年度と同様またしても大会毎に優勝校がかわるということになり女子の競技レベルの学校格差がなくなってきたことを増々強く印象づけられました。男子は八代小が学校行事との関係で参加できなかったことは残念なことでした。

以上、小学生ハンドボールの生い立ちとこれまでの大会の様子などを述べてまいりました。決して順風満帆という感じでこれたのではありませんが、たくさんの方々の御協力のおかげさまで今日までに至っている次第ですが、年を経るにつれての競技力のレベルアップには目を見張らされます。最初の頃は、速攻などというプレーは見られずボールを運んでステップシュートをするという感じのゲームでしたが、段々と速攻というプレーができるようになってからは、ジャンプシュート、たおれこみシュート、カットインシュートなどの大変ハイレベルのプレーが見られるようになってきました。私個人に言わせて頂ければ昭和58年度の宇波小男子チーム、昭和59年度の八代小男子チームは大変良くまとまっており中学生チームとも互

角に戦える程のチーム力を持っているのではないかと思われるほどの素晴らしいチームだったと思います。女子では昭和57年度の仏生寺チームが大変良くまとまっていたチームではなかったかと思われます。このように男女とも年毎にレベルがあがってきてますがこれもひとえに指導者の皆様方の熱心な御指導のたまものであり、中でも西村長朔先生、宮崎正己先生、加治昭彦先生、林外美さんの方々には深甚の敬意を表する次第であります。小学生ハンドボールはこの４氏の方々の御協力御指導がなくては、今日の小学生ハンドボールの存在などとても考えられないと言って過言ではないと思います。重ねてお礼を申し述べます。

それから、今１つ忘れてならないことは、やはり金原先生をはじめとする諸先輩の方々の先見の明を忘れてはならないと思います。私が初めて教員になった時に市内の各小学校全部にハンドボールのゴールポストがグラウンドにあったのですが、何故かしらハンドボールゴールポストとは呼ばれずに小学生用サッカーゴールポストとして殆んど使用されていましたが、そのうちにどうして小学校にハンドボールのゴールポストがあるのか判明しました。昭和33年に富山国体を行ったときに氷見市でハンドボールを行ったそうなのですが、その時に金原先生達が市内小学校に協力をして頂いたお礼の意味とハンドボールの普及を願って寄贈されたものだったらしいのです。今、こうして考えてみますと、ハンドボールのゴールポストが各小学校にあればこそできたものなのだということを思い知らされます。どの小学校にもこのようにしてハンドボールのゴールポストがあるはずなのですから、後は私達小学生ハンドボール関係者が一人でも多くの仲間を作り、各地域で小学生ハンドボール活動を盛んにしていかなければならないと肝に命じるとともに、今後氷見市のハンドボールが益々全国に名をとどろかせていくことを願って結びと致します。

氷見市ハンドボール協会

創立30周年記念式次第

1．記　念　式　典

昭和60年３月10日(日) 午後２時　　於　氷見永芳閣

(1) 開　　式
(2) 式　　辞
(3) 経 過 報 告
(4) 表 彰 状 贈 呈
(5) 感 謝 状 贈 呈
(6) 祝　　辞
(7) 祝 電 披 露
(8) 閉　　式

2．記念パーティ

午後３時　　於　氷見永芳閣

被　表　彰　者

1．表彰者及び団体

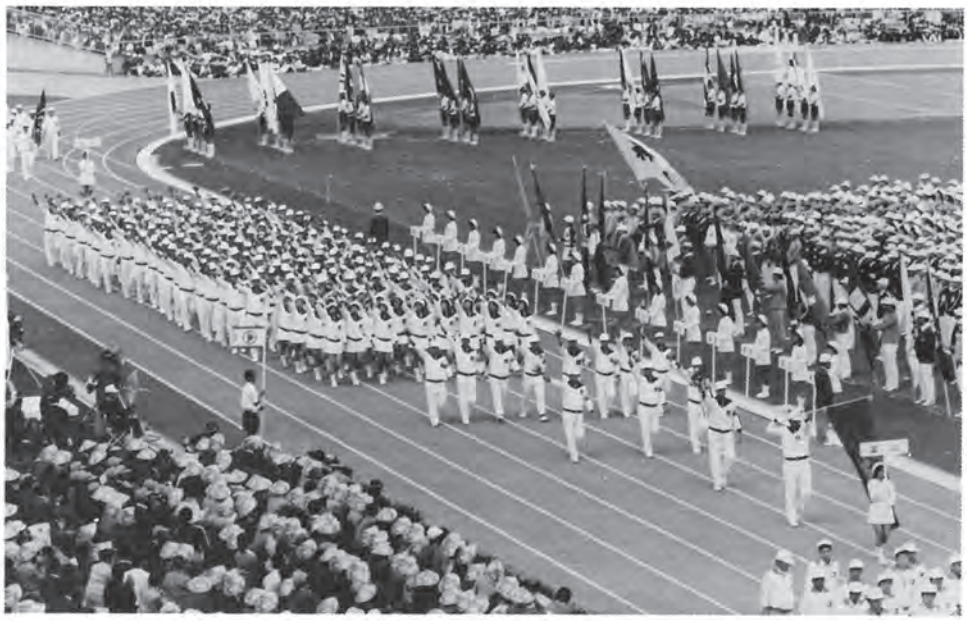
故　高 沢 清 甫，　嶋 田 新太郎，　馳　　悟
富山県立氷見高等学校ハンドボール部
富山県立有磯高等学校ハンドボール部
氷見市立西部中学校ハンドボール部
氷見クラブ，　富山県立有磯高等学校ハンドボール部ＯＧ会

2．感　謝　状

広 瀬 達 郎，　倉 田　　卓，　小伏脇良三
丸 山 義 昌，　小 島 威 彰，　高 峯 正 岡
服 部 三 郎

写真でつづる30年の歩み

―― 時代をかざった歴戦の勇姿 ――



国民体育大会入場行進

昭和31年国際ハンドボール大会（金原・桶家等出場）

昭和22年

国民体育大会（金沢市）
—氷見高等女学校

昭和25年

インターハイ（藤井寺）—氷見高校

昭和26年

氷見高校

昭和27年

昭和28年

氷見高校

昭和29年

氷見高校

昭和30年

氷見高校

昭和31年

氷見高校

インターハイ（藤井寺）一有磯高校

昭和32年

氷見高校

インターハイ（藤井寺）一有磯高校

昭和33年

国民体育大会（八尾）優勝―氷見高校

インターハイ（函館）３位入賞―氷見高校

国民体育大会
（氷見）―氷見クラブ・一般女子

昭和34年

インターハイ（仙台）―氷見高校
国民大育大会（東京）―氷見高校

国民体育大会（東京）
―有磯高校

昭和35年

インターハイ（倉敷）
―有磯高校

インターハイ（倉敷）―氷見高校

国民体育大会（熊本）―氷見高校

昭和36年

インターハイ（於氷見）
—氷見高校・有磯高校

国民体育大会（秋田）―氷見クラブ

国民体育大会（秋田）―氷見高校

昭和37年

インターハイ（小倉）―氷見高校

インターハイ（小倉）―有磯高校

昭和38年

インターハイ（富士吉田）―氷見高校
有磯高校

昭和39年

インターハイ（上田）―氷見高校

国民体育大会（新潟）
―氷見クラブ

有磯高校

昭和40年

国民体育大会（高山）―氷見クラブ（男子）
氷見クラブ（女子）
氷見高校
有磯高校

インターハイ（熊本）―氷見高校

国民体育大会（高山）―氷見高校

昭和41年

インターハイ（盛岡）
―氷見高校

有磯高校

国民体育大会（大分）―氷見クラブ

昭和42年

有磯高校

インターハイ（和歌山）第３位入賞―氷見高校

昭和43年

国民体育大会（埼玉）第４位入賞―氷見高校

有磯高校

昭和44年

有磯高校

国民体育大会（長崎）―氷見高校

昭和45年

国民体育大会（岩手）―氷見高校

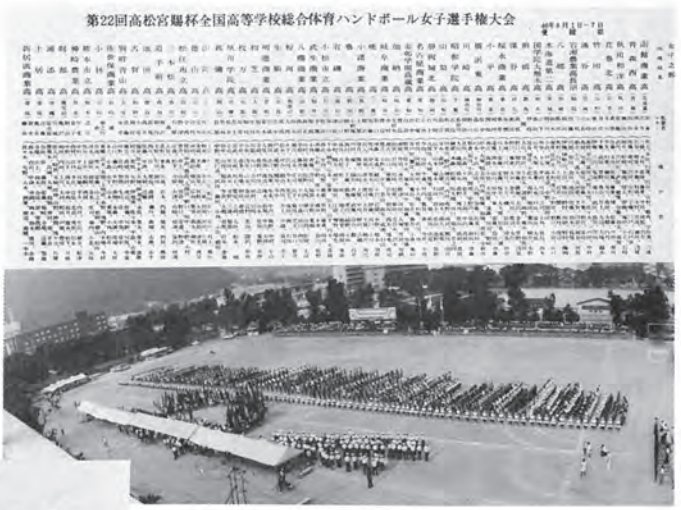
有磯高校

昭和46年

国民体育大会（和歌山）
—氷見クラブ

氷見高校

有磯高校



インターハイ（松山）—有磯高校

昭和47年

国民体育大会（鹿児島）―氷見クラブ

氷見高校（選抜）

昭和48年

氷見高校

インターハイ（東根）―有磯高校

国民大育大会（千葉）―氷見クラブ

有磯高校

昭和49年

国民体育大会（茨城）
―氷見クラブ

インターハイ（北九州）―氷見高校

有磯高校

インターハイ（塩山）―氷見高校

昭和50年

有磯高校

昭和51年

昭和51年全国高等学校総合体育大会
第27回高松宮賜杯全日本高等学校男子ハンドボール選手権大会

インターハイ（氷見）２位入賞
―氷見高校

インターハイ（氷見）―有磯高校

国民体育大会（佐賀）―氷見高校

昭和52年

インターハイ（山口）２位入賞―氷見高校

インターハイ（山口）
―有磯高校

国民体育大会（青森）
―氷見高校・氷見クラブ

全国高等学校選抜大会
（愛知）―氷見高校

昭和53年

インターハイ（郡山市）３位入賞
国民体育大会（長野）　優勝
―氷見高校

有磯高校

国民体育大会（長野）―氷見クラブ

インターハイ（郡山市）―有磯高校

昭和54年

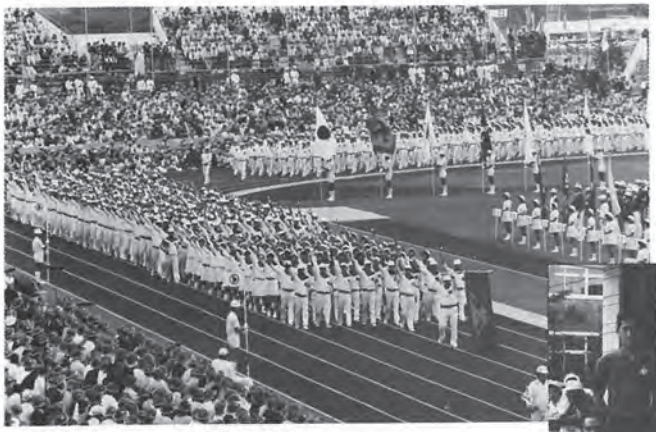
インターハイ（神戸）２位入賞
国民体育大会（宮崎）優勝
―氷見高校

有磯高校

国民体育大会（宮崎）―全富山

昭和55年

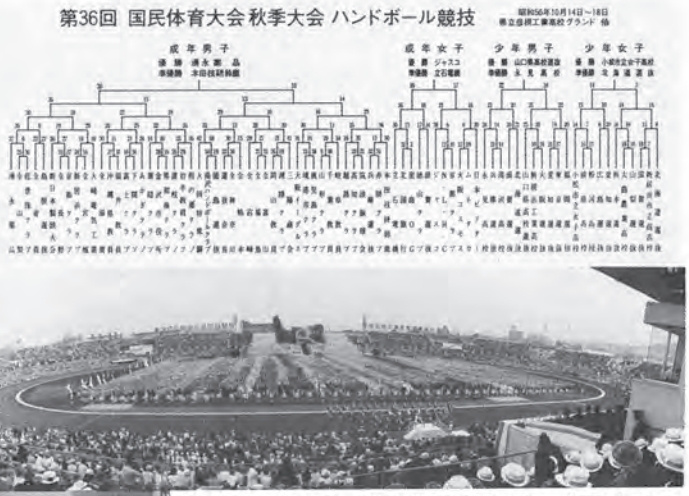
インターハイ（宇和島）—有磯高校



インターハイ（宇和島）
国民体育大会（栃木）　2位入賞—氷見高校

昭和56年

インターハイ（東京）—有磯高校



インターハイ（東京）—氷見高校

国民体育大会（滋賀）2位入賞—氷見高校
—全富山

全国クラブカップ（静岡）—氷見クラブ

昭和57年

全国中学校選手権大会（氷見）３位入賞
—西部中

国民体育大会（島根）
—氷見高校

国民体育大会（島根）
—全富山（有磯高ＯＧ）

昭和58年

インターハイ（隼人）—有磯高校

インターハイ（豊田）３位入賞
—氷見高校

有磯高校

昭和59年

氷見高校在校生

有磯高校在校生

昭和54年 氷見市

氷見市は、このほど市政記者クラブと協議のうえ、昭和五十四年氷見市の10大ニュースを次のように選定しました。

⑦

7位　新助役に

④

▽ 高校総体で氷見高校準優勝（8月）

高校総体ハンドボール選手権大会が8月に行われ、男子の部の氷見高校は準優勝しました。女子部では有磯高校が善戦し3回戦まで進出しました

～下田子間開通

8位　北陸初の

と

昭和51年

6位　氷見市一般会計
予算総額100億円突破

義案

昭和５４年度氷見市一般会計補正予算（第３号）

昭和５４年度氷見市の一般会計補正予算（第３号）は、次に定めるところに

（歳入歳出予算の補正）

それぞれ２９６８８６千円を追

千円とする。

氷見高校対福岡県選抜の熱戦

国体ハンドボール少年男子の部で
氷見高校チームが優勝。

昭和52年　（２位）

10位　宮田小学校完成

仏生寺保育園完成

九殿浜休憩所オープン

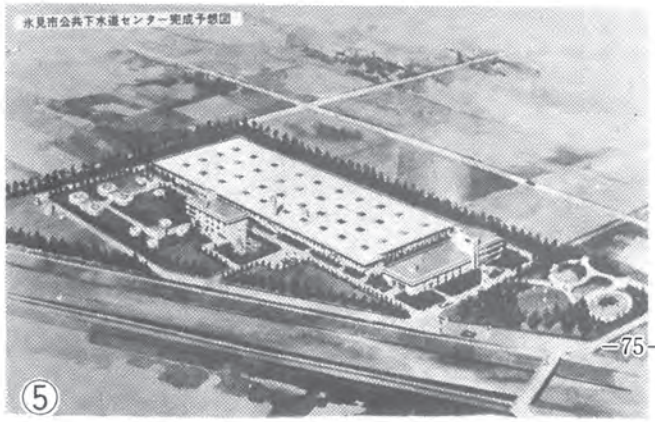
国際児童年の10大ニュース

①

②

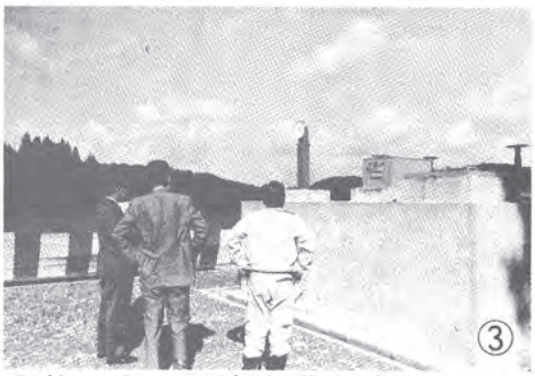
1位 ⑥

□氷見高校男子ハンドボール部
国体少年男子の部で連続優勝



⑤

下水道センター着工（完成予想図）



③

3位 上田子浄水場完成し
県水受水、細越簡易
水道完成

ひみとハンドボール

59年氷見市の

3位

本市から初のオリンピック選手にハンドボールの西山清選手（熊無）

昭和58年

→意円
築工

〃59豪雪〃
市民総ぐるみ除排雪

6位

3位

昭和57年

市
（富
日悪戦苦闘を繰り返した59豪雪。
記
市総合計画基本構想がまとまっ

火事件の続
事件として
ロ的に市
上げて来
大型プロ
増改築工事
名実共に総
二十世紀へ
第五次氷見

た。先端産業とはいかなくとも北陸最大の建設廃材リサイクルセンターが稼動。これは公害、省資源対策として目新しく将来性のある氷見市にとっては新しい産業の立地である。

ベスト10入りはならなかったメロディー橋などアイデア行政も登場しており、脚光を浴びない中にも麗しく明るいニュースが他にあったはずである。

か完成、

- 市連合青年団結成40周年記念大会開催
- 西條中学校校舎竣工
- 交通死亡事故が多発し「非常事態宣言」をする
- 湊川の「栄橋」、加納の「メロディー橋」アイデア2橋が完成
- 湖南小学校学習指導にパソコン導入

10大ニュース

▲10大ニュース選考の様子

第２回北信越中学校総合競技大会ハンドボール男子の部で西部中学校優勝

「第５次氷見市総合計画基本構想」まとまる

ハンドボールの西山清選手「ロス五輪」で活躍

昭和56年

建設廃材リサイクルセンター会社とアリイソ電機市内に立地

昭和55年

思　い　出

インターハイの思い出

元氷見高等学校長　　小　島　威　彰

氷見市ハンドボール協会の創立30周年記念誌刊行を心からお祝いし、一文をお寄せる光栄を与えられたことを感謝いたします。

私が氷見高校長を拝命したのは昭和49年10月でした。ハンドボールについて何ひとつ知らない私に、昭和51年度インターハイ＝ハンドボール会場の担当という仕事が待っておりました。幸に氷見全体の力がこのインターハイ運営に結集され、美事に大会を乗り切りました。文字どおり手造りのインターハイでした。プレーする主役は氷見高校と有磯高校の選手です。それを支えるために、本協会を先頭に地域も行政も学校も緊密な連絡のもとにその分担を見事に実施しました。そして最後に、会場校の校長である私が、大会委員長代理として、準優勝した氷見高校チームに自校の体育館でメダルを首に掛けてやり、閉会の辞を述べるという、最高の晴れの場に立ちました。それは感激でした。

私のこの感激を両手で捧げてくれているような、感動絶句する場面の連続を、私は今も忘れることはできません。それは最も地味な蔭の仕事、若い協会員諸君のコート整備でした。

大雨にたたられ通したあの大会は、終始氷高体育館が主会場になりました。一試合毎に荒れる床面を、力をふりしぼって雑巾がけをし、鏡のように拭き上げて、さあ、このコートで思う存分に悔いのない試合をせよ、と無言のはげましを示していた先輩諸君のあの奉仕、それは協会員としての分担だったかも知れないが、それを黙々と実施してくれたことは、ハンドボールを愛すればこそ、後輩たちの悔いなき試合を望めばこその奉仕ではなかったか。私はそれを見るたびに、熱いものが胸にこみ上げてくるのをどうしようもなかった。大会後の反省会で、若い協会員のこの苦労に深謝して、次の短歌を紹介したことを今も忘れません。

縁ある衆生は踏みて渡れと地蔵橋
ふみへらされしみ仏の顔
——松田常憲——

作者松田常憲は私の短歌の師である。福井県の鯖江市の道路工事で堀り起こされた、橋になっていた石の地蔵の歌であるが、私にはコート整備の先輩諸君の仕事があたかもこの歌の地蔵の慈悲業と一つであるかのように思われたのであります。

氷高ハンドボール部はその後、国体全国制覇を続ける大業をやってのけましたが、それを支えたものは、上述のような当協会員の無心の奉仕という伝統を柱とした団結の力であったと言ってはばかりません。

今後とも一層の飛躍発展を祈ってやみません。

輝ける日々 ——国体三連覇のころ——

元富山県立氷見高等学校長　高峯正岡

昭和52年４月、氷見高校長として着任後間もなく伝統のハンドボール部を率いる金原至監督が校長室に来訪、高体連ハンドボール部長を引受けてほしいという。しばらく県教委勤務だったので高体連の組織についても理解不十分であったが、インターハイ、国体級の実力をもつ「ハンドボールの氷見高校」であってみれば無理からぬこととお引受けしたことであった。

毎年高校総合体育大会が県下一斉に開催されたが、ハンドボールの会場は小杉高校であった。そのころ開会式での優勝旗返還、閉会式での優勝旗授与はきまって男子は氷見高校、女子は有磯高校であった。日ごろなじみの地元両校の選手への優勝旗授与は私にとって面映ゆくも又うれしいセレモニーであった。年に一度の高校総体は日ごろ見られぬ他校チームとの試合をゆっくり観戦できる絶好の機会でもあった。金原監督の指導は平静そのもので、他校のチーム、選手が試合中でも監督、コーチから大声でしった激励されているのときわめて対照的であった。試合中相手チームに先手点、得点を与えた時も悠然とベンチで腕を組んだまま、ハーフタイムの時は選手を近く集めて低声で一こと二こと、ふだんきたえた選手に全面的に信頼している様子がはためにもうかがえた。これでは選手たるもの期待と信頼にこたえて敢闘しないわけにはいかない。本番の対抗試合でこの調子なのだが、ふだん学校のコートでの練習ぶり、指導ぶりはいかがとばかり氷見高校を訪れる他チームの監督、コーチもあると聞いていた。ふだんの練習も短時間集中型、チーム選手の大学進学も毎年のことで、受験科目の多い国公立大への進学者も相次いでいるとは人の知るところである。

さて着任第１年めの昭和52年秋の青森国体においては、福岡県高校選抜を２点差に押さえてみごと優勝、昭和33年富山国体以来まさに19年ぶり待望の快挙であった。次いで53年の長野国体では群馬県富岡高校に決勝を挑み、前半相手にリードされながら後半の猛攻撃が効を奏して逆点優勝、「ねばりと技の氷見高」の名を高からしめた。54年南国宮崎国体では中央大付属高校（東京）と決勝を争い、シーソーゲームのすえ26―23でついに連続３連続覇の栄冠を獲得「ハンドボールの氷見高校」の名を不動のものにしたのであった。

そのころ「力の○○高に対する技の氷見高の勝利」などという新聞報道が目についた。どこの試合においても相手チームには身長 180㎝以上の選手が数名おり、せいぜい 170㎝ていどの氷見高チームは見劣りがした。しかし私に言わせればわが氷高チームの技とは単なるテクニックていどの技ではない。そのていどの技で強大な「力」に対抗できるとは思えない。メンバーの一人ひとりが、お互いにチームの誰が今何を考えているか、ボールをどうさばこうとしているか、従って自分は今どう行動すべきか……このような意識による緊密な連けいプレーが氷高独自のチームワークを成り立たせていたように思う。このようなかたちの技は技であってすでに単なる技ではない。それは技というよりはむしろ「心技一体の力」そのものというべきであろう。この意味でわが氷高チームは技によって力を制したのではなくて心技一体の力によって相手チームを次々圧倒したのであった。

思えば私にとっても部員選手諸君にとっても輝ける日々であった。よき師、よき先輩に恵まれた部員選手諸君は氷見高校60年の歴史に輝かしい足跡を残し、何物にもかえ難い貴重な青春の誇りを常に所持している。その輝きと誇りが若ものたちのこれからの人生の歩みをより確かなものに、より豊かなものにするであろうことを信じて疑わぬものである。（昭和52年～55年校長として在職）

「人生意気に感ず」

氷見市役所民生部長　脇　方　政　美

結婚披露宴のとき、若い二人への餞の言葉を書くようにと、よく色紙がまわってくる。私はこの度に「人生意気に感ず」と、一つ覚えのように書く。辞書によれば、「人生意気に感ず、功名誰かまた論ぜん」。人間は人の意気に感じて仕事をするもので、金銭や欲のためにするものでないとの意味。「唐詩送」の巻頭の詩の結びの二句である。

現代は人々の価値が多様化し、ものの考え方は「十人十色」の世の中。そこに人としての個性や生きざまがあるわけで、おの多様さが、今日の民主主義の社会における姿でもある。人それぞれの生きざまの中で、どんなきれいごとをいっても、功名欲があることは否定できない。しかし、世の中には金銭だけでないことをいましめたい気持ちで「人生意気に感ず」と書いているが、人生の門出のお祝いの言葉として多少押しつけがましいかも知れない。

最近、さびしいことに、人生意気に感じて日夜精進している人や集団におめにかかることが少なくなった。どんな集団にも一つの目的にむかって一致団結して行動することはむずかしくなってきている。だけど、こと氷見のハンドボール協会とその関係者となると文字どおり「人生意気に感ず」るスポーツ団体を造りあげているのである。自分達の生まれた郷土、そこに住む人達を愛し、その繁栄と幸福を願う気持をバックボーンとし、「風通しのいい、血の通った」組織を保持している点には感心した。

私は、幸いにも昭和33年の国体、36年、51年のインターハイのいずれにも何かの縁で大会事務局に参加した。ハンドボールのルールも知らない私ではあったけれど、お祭り騒ぎが好きなことを、上司が知ってのことか、その準備にたずさわってきた。念願の全国大会ということだけでなく、ハンドボール関係者の仕事ぶり、協力ぶりには、何か迫力が感じられ、たじたじの思いをしたこともあったと今も深く心の中に刻まれている。

こうした精神や日々の精進が、氷見高校の国体三連覇、あるいは西山選手のロス五輪出場、と輝しい成績に連がっているのである。誠に立派な伝統であり、財産である。氷見のハンドボールの指導者の精神が、まさに「人生意気に感ず」る以外の何ものでもないと思うの私だけだろうか。

ハンドボール協会の今後の発展を期待してやまない。

あの頃、あの時、あの人達と…

氷見市議会事務局長
北　野　正　治

協会創立30周年、心からお祝い申し上げます。当時の私は、ハンドボールとは全くかかわりのない他人であった頃でありますが、戦後大阪の親戚の娘が疎開し、女学校に通っていた頃、学校でソウキュウ（送球？）競技をやっていると言っていたのに対し、一体いかなる競技かなあと思っていた程度のことしか記憶に残っていない状態でした。

その後、国体や高校総体において氷見高校や有磯高校のすばらしい成果に、他人ごとと思へず市民の一人としてより以上の成果と強いチームの出現を願いながら応援していたように思われます。

そんな私が、たまたま役所の人事異動で、昭和50年４月教育委員会社会教育課に配属となり、関係の方々の指導協力を得ながら社会体育の振興をと思っていたとき、昭和51年度全国高等学校総合体育大会が北信越地区で持たれることとなっており、そのうちハンドボール競技の会場が当氷見市であると聞かされたとき、さてどうしたものかと面喰ったものです。何と言っても大会まで一年余りしかない所、何から取り組むべきか、当時の課員一同必死に前回の資料探しに躍起となりましたが、市庁舎の建て替え等もあり目星しい物も得られず途方に暮れたこともあったと思い出しております。そうした中で、先づ実態の見聞が先決と、50年度会場であった山梨見塩山市を片折収入役、堀田市議、財政課金崎主事と私の４人で訪れ、大会運営の実態調査と、氷見高校チームの応援を兼ね出向き、応援に来ておられた市体協の方々と現地において大いに気勢を上げたものであります。

この大会の少し前、くわしくは昭和50年６月21・22日の２日間市運動公園で開かれた北信越ハンドボール大会より、第27回大会にむけての活動が具体的に始まったと思う。

先ず出場チームの強化は氷見高及び有磯高におまかせするとし、肝心の推進母体となる大会運営事務局の設置について、学校側、市側、そして体協の三者の話し合いはなかなか意見の一致をみることができず、結局二つの事務局が発足したのである。その一つは競技の進行に関する業務、今一つは選手の宿泊輸送についての業務。こうした体制は、それなりの意義はあるとは言へあまり例の見ないものであったらしい。

迫り来る大会期日にむけ諸準備は順調に進められつつあるとは言へ、大会についての協議会も日毎夜毎もたれたように思う。今日は学校で、今夜は市役所で、或は早崎会長宅で、或は金原先生宅でと言った具合、競技会場の整備、宿舎の配置、選手輸送についての車のことなど関係業界の協力要請そして莫大な資金調達策等大変なものであったと思う。数限りない準備の対応、思い出してほほえまれる一つに、選手をはじめとする会場に集う数千人に供する湯茶について、その沸し方、そして冷し方、又輸送の方法、その容器として20ℓ入りポリ容器 100個の購入など笑えない大小様々な問題がおもしろく思い出され非常になつかしくもありますが、二つの事務局が時に応じ、事に面し局の境を外しての協力体制で臨んだことを思うとき、早崎会長を軸とする協会と、第１線軍団をひきいる諸先生方の身を艇しての実践指導には衷心頭の下るものがあったと思う。そうした中で準備万端相整い、いよいよ８月１日開会式の日を迎えた。空には大会を祝し、各チームの健斗を願うアドバルーンが高々と舞うなか、午後４時全国から集う96チーム参加の下、大会役員そして数千に及ぶ氷見市民と応援団の方々の注目のなか大会の開会が宣言され、７日間に及ぶ大会が華々しく開会した。明けて２日目より雨が降り出し会場変更となり、大会役員はもとよりコート係などはなりふりかまわずの活躍であった。全日程の中で４日を除くすべてが雨で三会場に分けての屋内競技で終始した大会であった。最終日の氷見高対下関高の優勝戦において氷見高校が惜しくも優勝を逸したとは言え、昂奮ののルツボと化したあの時の感動は生涯忘れ得ないものとなったのは皆ひとしいことと思われる。その後の高校総体、国体などにおける氷見高校ハンドボールの素晴しい成績を讃え行われたパレードや歓迎会等私にとって大変身近な競技となったが、昨年のロスオリンピックであの頃大活躍の西山君がハンドボール競技の選手に選ばれ晴の舞台での健斗を手に汗、目に涙しながらテレビに見入ったことは協会30年の歴史に大きな足跡を残したものであり、後輩諸君の励みの的と言えるものであろう。

ハンドボール協会との出合い

氷見市企画調整部秘書課長　大窪道美

氷見市ハンドボール協会が創設されてから30周年を迎えられ、協会史を刊行されますことは、まことに意義深いことと、心からお祝い申し上げます。

「ハンドボールと云えばひみ」と、ハンドボールが氷見のスポーツの代名詞のように云われるようになったのも、ハンドボール協会の長い歴史と輝かしい伝統の賜であると思います。

私が、ハンドボール協会の一員のように、協会の皆さんと親しい付き合いをしていただいている一人ですが、それには縁がありまして、協会の皆さんと同じ釜の飯を食べながら、大きな大会の運営に苦楽を共にする機会を何回か持つことが出来たお陰であると喜んでおります。

さて、協会の皆さんとの最初の出合いは、昭和36年８月、氷見高校と南部中学校グラウンドを会場に開催された全日本高校ハンドボール選手権大会の時からであります。私は社会教育課へ就職して三年目、大会事務局の一員として、当時の小伏脇収入役のお伴をして、市内外へプログラムの広告料をお願に廻ったり、旅館だけで役員選手が収容しきれないため、料亭にまで選手の宿泊をお願いするため、協会の皆さんと炎天下にトラックの上乗りをして貸ふとんの運搬などに汗を流したりしたのが出合いの始まりであります。

次は、40年岐阜国体に、県代表ハンドボール選手を慰問激励のため、体協の役員に同行した時です。高山市内の宿舎に選手を訪ね、激励し、翌日の試合を応援したのですが、その時に初めて県協会の高田会長とお合いし、ご交誼をいただくようになったのもこの時からであります。

３回目は、51年に氷見運動公園を主会場に開催された全日本高校ハンドボール選手権大会であります。私は社会教育係長の立場で、開催市としての当初の企画会議から、高校、協会の関係者と同席し、大会事務局へ日参し、厳しい大会予算に頭を悩ませ、募金にかけ廻ったり、協会の皆さんは、山から木を切り出し、ノコギリや金槌、ペンキの刷毛を握り、ゴールポストや案内板を作成したり、整備されたグランドが大会期間中、連日の雨にたたられ、十分活用されないなど、関係者が物心両面で苦労の多い大会でありましたが、協会の動員力と組織力を発輝し、最終日に氷見高校が決勝進出を果す快挙で大会を飾るなど、私にとっては思い出多い大会の一つでありました。

４回目は、52年10月、氷見高校ハンドボールクラブが、富山国体以来二度目の国体優勝を果し、市民会館での祝勝会で、満席の皆さんの興奮の中に、「日本一」を絶叫しながらその進行役を務めた時ですが、会場の設営、選手歓迎用のオープンカーの準備等協会の皆さんの手際の良さに驚かされ、組織力の偉大さを改めて感したものであります。

５回目は、57年８月北部中学校を会場に開催された全国中学校ハンドボール大会です。中学校体育連盟主管の大会ではありましたが、私は社会教育課長の立場で、中体連、ハンドボール協会の皆さんと大会本部に泊り込んだりして、準備運営に参画した時であります。

以上、述べた大会等がいずれも所期の目的を達成することが出来、また氷見高校の国体三連覇など氷見高校、有磯高校、市内中学校のハンドボールクラブの活躍、オリンピック選手として西山清氏の出場等輝かしい実績の陰には、日本的とも云われる偉大な指導者や優秀な歴代監督に恵まれたことと、ハンドボールが何よりも好きと云う早崎会長を中心とした協会の皆さんの献身的な情熱と団結力による支援のあった事を忘れてはならないと思います。

私が、ハンドボール協会の皆さんと共に汗を流したり、寝食を共にした主な大会を振り返りながら、協会の皆さんには随分お世話にもなり、本当にスポーツの良さなど多くの事を教えていただいたと、改めて感謝するとともに、これからも永いご交誼をお願いしたいと思っています。

今後も皆さんの一層のご活躍と協会がますます大きく発展されますよう心からお祈りいたします。

全国中学校ハンドボール大会をかえりみて

氷見市水道局次長　西　田　明　雄

今度、氷見市ハンドボール協会結成三十周年を迎えるにあたり、記念誌を発刊されることに対し心からお祝いを申し上げます。

昭和五十七年八月、第十一回全国中学校ハンドボール大会が本市で開催され、運営面の一翼を担当したものの一人として、感じたことの一端を述べたいと思います。

いずれのスポーツでも振興の中核をなすものは、施設設備の充実にあると思います。とりわけハンドボール競技は、走る、跳ぶ、投げるなど総合的な力と技を要するスポーツであります。

私は、グランドの整備を第一義と考え、専門家の意見を聞き、「排水条件・土砂の選択などに配慮したものでなくてはならないこと。また雨天に備えての会場設備としての体育館の改修工事の必要性、いずれも多額の経費を要することである。これらの予算措置をどうするか、また、選手の宿泊受入体制、選手輸送計画・駐車場確保・練習会場の設定など、どれ一つとらえても容易ではなかった。幸い本市は過去、国体、高校総体など規模の大きな大会が開催された経緯もあり諸般の準備を進めることができました。なかでも、ハンドボール協会の惜しまぬ協力が大きな救いでした。早崎会長は、全国各地の精鋭を迎えることは光栄であり心から歓迎する。協会としても全面的に協力するから精一杯頑張ってほしいとの力強い励ましのことばは、今も脳裏に焼きついています。また、協会の皆さんの、終始献身的なご支援ご協力により、各般にわたる諸準備も順調に進行することができました。

いよいよ開会式を迎える日がやってきました。参加二十二チーム選手諸君の郷土色豊かなユニホーム、若さを象徴するたくましい体の精鋭が整列し力強い選手宣誓を聞いたとき安堵と感激で一杯でした。

競技は予定どおり進められ、若い力と技の熱戦が三日間にわたって展開されました。とくに、地元選手諸君は、郷土の声援にこたえ、日頃鍛えた逞しい精神力、体力、友情をいつまでも大切にして、さらに技を磨かれ、立派な人間として活躍されんことを願わずにいられませんでした。

市民一人一スポーツを提唱されて久しいが、ハンドボール人口がいよいよ増えてまいっておりますことは、協会の皆さん方の熱意と指導普及の賜ものと思います。

一つの球を追いつめ、相互に呼吸をあわせ、パス・シュートの連携プレーは、まさに人生のプレーだと思います。このスポーツが広く氷見市民に愛されるとともに氷見市ハンドボール協会がますます充実発展されることを祈念するものであります。

ハンドボールと私

氷見市経済部水産漁港課　久保芳明

凡そハンドボールとは無縁だった私のハンドボールとの出合いは、昭和51年のインターハイのハンドボール競技が、８月に運動公園の陸上競技場を会場に開催されることが決定してからであった。

当時私は、市役所都市開発課に勤務し、最初から運動公園の計画と実施に携わってきたものである。工事は、昭和46年頃から始まったが、建設の場所は「布施の海」と言われた万葉集ゆかりの湿田地帯であったため、敷地の盛土工事が大変だったように気憶している。

事業は、着工以来順調に進歩し軌道にのりかかった昭和49年頃だったと思うが当時の私の上司でもあった脇方現民生部長（当時の都市開発課長）から「昭和51年度のインターハイのハンドボール競技を運動公園を主会場に開催される事に決定した」と言われた時、こんなに早く全国規模の競技が開催されようと想像もつかなかった。私自身運動公園の工事を担当し、そして競技場となる陸上競技場の内フィールドがどのような状態で仕上っているかを承知しているため内心大変不安であった。当初内フィールドの造成について盛土が充分締め固めが完了されない時期であったためその構造自体は暫定であった。このため競技に支障のないグランドにするためには、どのように手直ししなければならないのか、又一度に多勢の選手や観客を受け入れるのに今の公園施設で大丈夫なのか等、考えれば考える程不安がつのった。しかし開催が決定されたからには、これら多くの問題を解決しなければならず、ハンドボール競技やインターハイの知識を得るため、多くの師に御教示いただいた。又昭和50年度のインターハイの会場であった山梨県塩山市に出向いていろいろ自分で見聞する機会も与えられ、ハンドボールが身近なものとなった。

インターハイの開催が近づくにつれ、県大会や地区大会が当運動公園で実施されたりして、その気運は盛り上がりつつあったが、グランドコンデションは、決して満足出来るものではなく、又51年３月頃と記憶しているが、当時のインターハイのハンドボール部長であられた徳永先生が、当競技場を視察になり「大会の実施が不可能ではないか」と言う程グランドを批判され、随行した脇方課長（当時）と私は、その場で「大会までには、グランドの整備を完了します」と大見栄を切ったものである。しかしその改修費用や工法について白紙の状態であったから大変不安であった。

51年度早々に陸上競技場の改修計画書を作成し、工事費の費用負担について県や国に理解を求めた。計画書を作成するに際して、コートの硬さや排水関係にいささか苦労したように思う。幸にも改修工事に着手以来天候に恵まれ、順調に工事が進んだのであるが、大会の日時も決定し、いかなる理由があろうとも工事の延期や手直し等が許されず、施工日の毎日が、真険そのものであった。主たる工事は、いかに「土」をもってグランドを作るかであり、この時はじめて「土」は生き物であると自分なりで認識した。

こうしてグランドの改修工事も所期の目的どおり完成し、８月１日の開会式を迎える事となる。当日は、快晴で盛大に式が挙行されたが、貴賓席で市長の隣りに着席された徳永先生が、改修されたグランドを見て、市長に感謝されていた情景を見て私は、感無量であった。

大会は、３日目くらいから雨で、競技の一部は氷見高校の体育館等で、行なわれたが、氷見高校もよく健斗して、その期待に答え、この時の主将であった西山選手は、今は国際的な選手に成長して活躍している。西山選手の名を聞くたびに、今でも当時がしのばれて、ほんとうになつかしい思いである。

私は、この大会が運動公園で開催された事で、いろいろな諸先輩方と面識を得られ、会う度に今でも御指導いただいている。又、ハンドボールに無縁だった私は、ハンドボールでいろいろな人生を教えられないような気がしてならない。

第13回 国体の思い出

丸　山　義　昌

私はハンドボール競技とは無縁の人間でありましたが、昭和31年当時、連合青年団長であった関係で、中部日本ハンドボール大会に役員としてプログラムに名前がのせられました。その時はそんなに深い関心をもちませんでした。それが昭和32年、氷見市で開催された全日本総合ハンドボール選手権大会、続いて昭和33年、第13回国体のハンドボール競技が本市で開催されることになり、再び、ハンドボールと係わり合うことになり、以来30年間になります。

昭和33年３月、私は教員を退職し、家業でも継ごうかと思っていた折、私の親戚の者が「今年の秋、氷見で国体があり、準備のため事務局で働いてくれないか。」と市長から誘いがあると聞いた。私は「今は、どうせ何もやっていないから」という軽い気持で引き受け、５月31日に役所へ行ったのが体をかける始めとなりました。

私はそんなことで６月から市役所務めが始まりました。国体事務局とは名ばかりで、当時の議場の裏の八畳２間書類一つもない部屋が事務局の本部でした。当時の財政課長だった高林さんが総指揮をとられ、あとは私一人の事務局が８月まで続きました。その間、氷見高校、県庁と打合わせのため走りまわる毎日でした。時折、事務局へ広瀬達郎氏、倉田卓氏、高沢清甫氏、角勉氏など関係者が訪れられた。また金原先生はクラブ指導等で多忙の中を、打合わせのためよく事務局へ来られた。

８月からは兼務ではあったが市の職員も５～６名事務局へ派遣された。このころより、高校のグランド、市役所、県などとの会合、その他関係団体との打合わせ等、事務局の職員の話は、毎日のように夜まで続いた。そして、10月になると多忙のため家へ帰れない日々が続いた。そして、昭和33年10月19日、氷見高校での開会式の日を迎えた。やがて開会式を知らせる花火、開式通告、そしてブラスバンドの第一声が始まった時、私の頭から身体全体へジーンと走るものがあり、意味のわからない涙が出てならなかった。その時「ああ、これで私の仕事は終った」というのが実感でした。それ以来、ハンドボールという言葉を聞くとこの時の感激を思い出します。また、この期間中折角富山に開催されるのに地元が弱くてはと関係者のご支援、市民の方々の激励ぶりは大変なものでした。私は競技場準備のため度々氷見高校へ出かけましたが、その時の練習ぶりなどみて「よくやるなあ」と感心させられたものです。また、金原先生の指導・監督ぶりをよく見せて戴き、生徒との接し方、指導技術には感心させられました。今もって、あの時氷見高校が優勝するのは当然だと思ったものでした。そのころの金原先生はきっと新任間もなく，教職経験12年の私も頭が下がる思いでした。私の10数年の人生に、ハンドボールというスポーツと金原先生との出会いが大きく影響しているように思います。

さて、氷見市が発足して30数年、私の記憶ではこの国体での氷見高校の優勝、これほど市民が燃えたことはなかったと思います。その後も氷見高校は国体三連覇そしてインターハイでは数多くの上位入賞を果たしておりますが、あの時ほどの市民の盛り上がり感激がないのを残念に思います。

今、ハンドボール協会が過去をふり返り、将来のためにこの冊子を出版されること、ハンドボール氷見、スポーツ氷見の将来のためにハンドボールと係わってきた私には本当に有難いことと思っています。

第13回国体で氷見高校が優勝した時、当時の氷見市当局、体育協会はこの余勢をかって、氷見にインターハイをと市長自らが誘致運動を始めました。そのかいあってか、36年の高校選手権大会、51年のインターハイ、そして57年の中学校の全国大会へと続いてきました。

氷見高校で嶋田先生がハンドボールの種を播き金原先生がそれを育てられ、協会の方々や関係者が肥料をやられて30年の歳月、今やハンドボールは氷見の市技といわれる位になりましは。そしてそのことが起爆剤となって各種スポーツも花が咲くようになり、市当局のお陰で今春、体育館が落成されることは大変喜ばしいことです。

終りに、本市スポーツに多大な貢献したハンドボール競技、そしてそれを進められた先生方や協会の方々には感謝せずにはおられません。本誌発刊を心からお祝いし、所感を申し上げました。

第13回国民体育大会の思い出

県ハンドボール協会副会長　角　勉

氷見で国民体育大会の思い出として語るエピソードの一つとして忘れる事の出来ないのが〝浦風一家〟です。ハンドボール主会場（副会場は八尾町）の本部宿舎〝永芳閣〟（今のハッピータウン）の部屋の名前で当時、大会期間中の競技委員の事務局として使用した、いわば裏方の溜り場で、古田、浜本、矢崎、坂井、松井、桶家諸氏ら氷見高校ハンドボール部創生期の氷見に在住している皆さんに私が加わり大会開始日までの諸施設の設営から競技期間中のグランドの整備、記録の整理印刷、配付、審判員の競技講評のとりまとめ、或いは翌日の補助審判員（当時11人制で１名の審判員と２名の補助審判員によって試合運営がされた）記録係、計時係、グランド整備員、接待係等の割つけＥＴＣ，とにかく競技面での一切の仕事を受持つ重要な役割りで、いうなれば競技役員の委員長、副委員長、審判長、審判員以上はすべてこのメンバーで消化したのであるが、国民体育大会ともなれば、いい加減な事は許されないので神経の張りつめた毎日であったと思います。

特に苦労したのが記録整理でガリ版印刷による原紙切りで手に豆をこしらえたり，謄写の際に手を墨で黒くしての作業でした。又期間中は天候は必らずしも良くなかったのでスパイクで荒らされたグランド整備も大変なものでコートが広いだけに肉体的に相当強く、終った頃にはぐったりする位でした。暗くなって宿舎に帰り入浴も出来ないままに記録整理やら明日への準備に追われ夕食の御膳も廊下に放置したままの状態から、やっとホッと一息つくのが大方午後10時頃です。それから疲れをいやす一杯のコップ酒はたまらなく美味で飲む程に上半身裸となりネジリ鉢巻をして談論凡発、大いに意気軒昂、時には歌も出て和やかな夜となるのですが、この部屋の係女中が〝百合ちゃん〟と云う私共に似つかわしい年頃の細面の美人でした。嫌な顔もせず酒を燗したり酌をしてくれ話に入ったり部屋の一員としての自覚があったのか共に笑ったり、腹を立ててくれたりしたものですがいつしか部屋の姐御となり、私が親分格となっていい気になったりしていました。本当に私も社会経験40年にこれ程チームワークの優れた仕事をした事は今もって無かったように思え，全く良い雰囲気を自分に与えられた仕事と自覚と責任をもって全うしました。然も何一つ不服を云う事もなく横の連携を保った事は見事でした。

あらためて当時の諸氏に感謝をしています。

特に最終日の前夜に凄い雨に見舞われグランドは泥濘となり、心配して仮眠状態から午前３時頃起床し全員雨具もつけず鍬やスコップ、そしてバケツと排水に必要な物を手当り次第持参しての復旧作業に入ったのですが、幸い小康状態も手伝って７時頃に水撒けを終り、なんとか試合時間までには支障なく決勝戦を行なえる状態に持ってゆけたが，それこそ疲労困憊話す事も臆痛だった。高嶋洌競技委員長（当時の日本協会理事長）を始め皆さんから労らいの言葉もあったが、それよりももっと心配だったのは八尾会場で決勝戦をしている氷見高校の試合の状態でした。愛知県代表の中京商業との熱戦に一喜一憂して遂に優勝した報に疲れも一ぺんにふっ飛んでしまいました。当日予定していた補助員や係員はいつの間にやら八尾に応援に行き結果的に浦風一家が一人数役をこなしての当日でした。然も氷見高校の市内での祝賀パレードや祝勝会にも出席できず，残務整理に追われた皆さんの残念そうな顔は今も忘れることができません。

富山国体での思い出も多い中で、メンストリートの商店街に軒に吊す歓迎提灯を配布した時の事も苦笑の思い出です。提灯は富山の〝みしまや〟で調達しましたが伏喜甚三氏（現氷見高校教諭）と今では余り見られない木綿の大風呂敷に入れて背にかつぎ、各町内に配布しました。伏喜氏と話して昼は格好が悪いから夜にしようと云うことでいたが、街の人から胡散くさい目で見られたり，犬に吠えられてどこまでもついてくるのに閉口しました。然し一斉に軒に吊された景観は心に和ご

むものがありました。

また競技期間中は私が報道を担当しマイクを握りましたが、試合中競技の解説をし観衆の皆さんにサービスし好評でした。

特に各町内毎に組織された参加チームへの県境を越えての私設応援団や、小中学生による紙製や布製による激励幟り、三角旗の応援はその後の国体でも各地で大いに利用されました。競技会場はスタンドもなく平地であった為に、早朝から各町内から莚や茣座を持ちこんでの声援ですから誠に微笑しい中にもその熱心さに心をうたれました。

どんな大会でもそうでしょうが準備は大変な忙いです。万全とはどこまでやったら良いのか、考えれば考える程、手抜かりが出てくるし手当をすれば指摘を受けて応急で間に合せたり、本当に担当者にとっては全く精神的に苦労の連続ですが、私の場合大きな大会を幾つか消化でき得たことも関係の皆さんの協力の賜と感謝しております。

氷見市ハンドボール協会30年の歴史の中に設立のきっかけは富山国体であり、然も富山県協会の貢献者や指導者の半数近い人が氷見出身であり、優れたプレーヤーも又、氷高、有磯のＯＢ、ＯＧである事を思えば本当に名実共に富山県ハンドボール競技界のイニシアチブを持ってきたことを誇りに思っていますし、この伝統を消すことなく継承されていっていただきたいものと念じております。

私の好きな言葉に〝任に当って他に譲らず〟と云う禅の訓えがあります。これは昭和51年、２回目のインターハイを氷見で開催した折に、お近づきを戴いた当時の氷見高校の小嶋威彰校長先生から教えねがったものです。即ち〝どんな小さなつまらない仕事でも、与えられたこの仕事は自分がやらねば誰がやる〟と云う自覚と信念でもってする意味だそうです。先生から御無理を云って書いていただいた軸は今も大切に保存し折にふれて自分を叱汰している時々であります。

全日本総合と私

馳　　悟

本大会は昭和32年７月27日から30日まで翌年の13回国体のリハーサル大会として氷見高校を主会場とし、他に南部中、北部中を会場として全国各地から予選を通過した精鋭が参加して行われた。リハーサル大会ということで地元では県協会の指導を受けて市当局、市体育協会、そして氷見市ハンドボール協会員が総力をあげて準備にあたった。なにしろ会場については、中学校のグランドは狭くて正式のコートがとれず選手諸君に大変迷惑をかけたものであった。私がＣコート（北部中学校、現東小学校）主任であったが、あるチームからコートが狭いのではないかと質問され巻尺を惜してくれと云われ時には冷汗が出る思いであった。実は６ｍ足りなかったのである。

本大会は、女子のルールが11人制から７人制に変った年であり、女子の試合については全国の関心の的であった。実業団チームの愛知紡績（半田高校ＯＧ）の試合ぶりには目を見張るものがあった。

次に、地元選手の活躍も素晴らしいものがあった。出場チームは男子５チーム（富山商業、富山商業ＯＢ、高岡三日会、氷見高校、富山クラブ）女子３チーム（有磯高、高岡商、比美クラブ）であったが、特に印象に残るのは氷見高校の健斗であった。大学の強豪芝浦工業大学を相手に一点を争う好ゲームで延長戦となり、地元の観客の声援を受けて頑張ったが13対12で惜敗したが、翌年の国体に大いに期待できる成果であった。また、富山クラブは翌年の国体に備えての県の選抜チームであり、強化練習を積み、準々決勝で全日体大に13対８で敗れたとはいえ、ベスト８に進んだことは賞賛される。一方女子では比美クラブはメンバー不足であったがよく健斗し、３位に入賞し、地元の期待に応えた。現役の有磯高校は愛知紡績によく喰い下がり７対２と善戦をした。

大会期間中は、地元の声援を受け、翌年の国体のリハーサルとしては十分な成果をあけた大会であったと思う。

ハンドボールで　耐える心と身体

稲積小学校　　西　村　長　朔

教育は、知育、体育、徳育の育成にあることは云うまでもありません。恵まれた環境に育ち、恵まれた生活をしている現在の子ども達は、稍もすると知育偏重になり、体力、徳力、気力のなさに痛感しているものです。

特に気力不足は、今日の子供の傾向であることから、スポーツは気力、体力を培う最も効果的な場であると考えます。

スポーツは、一つの技術を高めるために、くり返し、くり返し、同じ運動を行うものであるから当然、やる気、元気、本気、根気が育てられて、気力と体力が伴なって耐える心と耐えられる身体が作られていきます。

この意味から、大会試合が設定されている、野球、ソフト、ハンド、卓球、バレー、相撲、水泳と機会を通してスポーツ活動の練習に励げまさせています。

私が、子供達とハンドボールを始めたのは、六年前、氷見高校に訪れた時、ハンドボール部員の練習風景を目にした時でした。

敏しょうな動き、いくつかのパスが次々とつながっていく動き、豪快なシュート。それこそ、スピード溢れる魅力にとりつかれました。

スポーツは種目によって異なった技術やルールの特徴がありますが、一般の運動は、動と静の組み合わせ運動であるが、ハンドボールは、動と動の絶え間ないスピードを要求する運動であることをひしひしと感じました。

スポーツを通して、気力、体力、耐える心、耐えられる身体を作りたいと願う私にとって、ハンドボールこそが効果を高める唯一の運動だと思いました。

未経験で無知な私にとって、幸い、この折、姿先生や山貫先生に接することができ、子ども達と共々直接指導のご協力をいただく事ができました。それ以来、市大会毎に全員が出場できるチームを編成して参加させ、耐える心と耐える身体の挑戦させて、時には優勝、次勝の経験をさせました。

殊に、去年の８月18日から20日に、中部四県スポーツ少年団ハンドボール競技交流会が氷見市で開催されることになり、女子チームが選抜されて出場することになりました。

その為、夏季休業に入るや、お盆も返上して毎日の練習に努めました。

「こんな機会は又とない、優勝したかったら一番多くの努力をせよ、一番の努力は、一番の苦しみに耐えることや。」毎日、合言葉のように言い続け、カンカン照りつけるグランドで、「もっと走れ」。「パスしたら前に進め」。「声をかけろ」。「へばるな」。「声が小さい」と絶えず気合を入れてがんばらせました。

スポーツは走ることが基礎的な技術といわれますが、ハンドボールは、走ることが基本技術であり、走りながらパスをし、走りながらキャッチをし、走りながらシュートをする、このくり返しの練習でした。

技術先行の練習でなく、技術を通して、気力体力の鍛練といったほうがよいかも知れません。土ほこりが汗まみれになり、喝き切って、ひりひりするのどに耐えながら練習する子どもたちに痛々しく思いながらも追い込みました。

でも、日を経るにつれ、練習を重ねるにつれて、耐える気力、耐えられる体力を感じられてハンドボールの効果を、ハンドボール運動による耐える、耐えさせる味わいを深めました。

負けてたまるか、耐える練習が効を生み、炎天下の有磯高校での大会では、技術より気力の斗いを演じ優勝の喜びをもたらしてくれました。

流れ落ちる涙をふきもせず、優勝杯を手にする子ども達を見て、やらせればできる、やらせればやれる思いを深め、努力の大切さを今更のごとくかみしめ、明日への試練に子どもと共に歩み続けることを心新たにいたしました。

全国中学校ハンドボール大会を回顧して

（元中体連理事長）有島政一

全国中学校ハンドボール選手権大会を富山県に誘致したとき、氷見市に開催したいが市中体連としてやれるかと、関係者より打診されたのが昭和54年の暮れであったと思う。

市民のハンドボールに対する関心や、国体ハンドボール、インターハイハンドボール大会等、何回も全国的な大会を開催してきた実績から、市ハンドボール協会をはじめ、関係各位の協力が得られればどうにかなるのではないかと考え「やれると思います。」とお答えした。しかし、内心は確たるものもなく、なんとなくやれるだろうという、今にして思えば、はなはだ無責任なものであった。昭和55年に全国中体連理事会で富山県大会が内定し、57年に大会が完了するまで、その安易さが何回となく思い知らされた。その中の幾つかをふり返ってみたい。

・昭和55年10月　県中体連理事会で氷見市において開催することを内定。

富山県として初めての全国大会を開催するので慎重に協議し、多数の賛同を得て氷見市での開催が内定した。しかし、氷見市でなくてもやれる市があるのではないかとか、県ハンドボール協会は富山市も候補に上げている等の意見が出され、富山県での開催の場合、氷見市以外考えなかった自分の思い上がりを痛感させられた。

・昭和56年４月　氷見市開催を正式要請のため茶谷市長訪問。

山岡県中体連会長、大坂同理事長、服部市会長とともに茶谷市長を訪ね、氷見市での大会開催を正式に要請した。そのとき、市長より「昭和57年は氷見市制30年にあたり記念事業として歓迎したい。しかし、氷見市のチームが代表になれるか。」と云われ、市制30周年という偶然の幸せと、氷見市の選手の強化の責任を感じた。大会では西部中学校男子が北信越代表として、また、北部中学校男子・女子ともに開催県代表として出場できたこと、中でも、西部中学校が第３位の立派な成績をのこしてくれたことにつき指導者及び選手に対し感謝したい。

・同年８月　山口県大会視察

私が金沢市で１ヶ月の社会教育主事資格取得研修出席のため同行できなかったが、服部会長を中心として中体連、市教委で視察団をつくり、開会式、競技の運営、宿泊、選手輸送、大会までの諸準備等をつぶさに視察して報告書を提出願い、富山県大会の概要を作る。

事情があったにせよ、中心になって働くべき自分が動かず、まったく皆さんの協力にすがり後ろめたさを感じた。

・同年12月、市当局に大会補助金、会場整備等の予算について陳情する。

市の財政から検討され「先生方の考え方があまいのでないか、放送機械の購入等大会に便乗して、このさいというところがありはしないか。」と指摘された。ややもすると大会ムードに悪のりしていた気持ちがひき締った。しかし、市当局のはからいでグランド整備、体育館の床の張りかえ等２千万円あまりの予算を計上していただいた。

・昭和57年５月　大会事務局を設置

西田海洋センター所長を事務局長に迎えて事務局を海洋センター内に置き、大会までの業務日程表を作り本格的作業が始まる。その間、市当局、市ハンドボール協会の協力を得て組織づくりと業務分担など具体的活動が進行していく。中でも、得点板づくり・協賛金の募集等、体をかけて動いていただいた各位に頭が上らぬ思いで、心から感謝した。

・同年７月　大会役員、競技役員等の決定

県教委、市教委、ハンドボール協会、中体連と連絡調整し役員を決定した。その間にあって、どの機関、団体にもいろいろのきまりやしきたりがあり、細かい順序に至るまで指摘され、めん密な打合せと決定により作成し苦労した。

幾つかの思い出を綴ってみたが、大会当日のことは、選手の不幸な死亡事故、初日の晴天、２日目の雨、決勝戦がグランドでできたことしかなく、大会に至るまでのことが多い。そして、２年間の準備期間を通じて私が得たものは、個人としての無力さと多くの人の協力の偉大さであります。よきリーダーとは、人を信頼し、人に活動しやすい環境づくりをし、出すぎようとする自分をおさえてみんなの協力を願うことが大切なのではないかと思いました。最後に大会の成功のため絶大なるご支援・ご指導下された関係者各位に改めて感謝の意を表しおわりにします。

私とハンドボール

伊勢利弘

高校、大学と７年間、軟式庭球をやってきて、昭和45年に、氷見市立角間小学校小滝分校の教員になった。大学では体育を専攻してきたので、将来は、中学の体育の教師になろうと思っていた。時の小学校校長だった松波平八郎氏の理解ある励ましで、八代中学校へ遊びに行く機会を得た。「いい若いもんが、小学生相手だけじゃあいそんないやろ。どうせこの子らも中学生になるんだから、やることだけしっかりやったら、中学校行って遊んでこい。」このことばは、今も心に残っているが、ハンドボールをやるきっかけになった。当時、八代中学校には地子先生がいて、ハンドボールはもちろんだが、どの部活も一生懸命やっていた。同級生の中谷内君（バレーボール）といっしょに、毎日、八代中学校へ通った。

私は、ハンドボールに関しては、全くの素人だった。高校の時、授業で金原先生に習ったり、ハンドボール部員の練習を見たりして、イメージは持っていたつもりだし、大学でもうまかった方だが、中学生と一緒に練習してみると、なかなか思ったとおりにはいかなかった。シュート練習の時でも、ゴールに入らなくて、じゃがいも畑でのボール探しの方が練習よりも多かったように思う。その時に、氷見出身の先生方が多かったこともあって、富山教員にさそわれた。それからだんだんとのめりこんでいった。下手なものをうまく使ってくれて、ハンドボールの楽しさや、プレーの組み立て、深い味わいの一端がわかるようになってきた。八代中学校では、地子先生が１年後に南中へ転勤になった。それで次の年の１年間は、自分が、チームをみなければならない立場になった。

はじめてセットプレーを取り入れたりして、生徒も努力した結果、北三大会で優勝した。

二年たって、西部中学へ転勤になった。ハンドボール部はなく、野球部をもつことになった。やってみると、むずかしいこともいっぱいだったがためになることも多かった。でも、ハンドボール部をつくってやってみたい気持ちは強かった。幸いにも、野球をみてくれる良いコーチに恵まれ、その年の９月に、もうハンドボール部がつくれた。

張り切って練習をはじめた。生徒の感覚は、ドッヂボールの延長のようだ。雨の日も、まっ暗になるまでやった。本当は同じことのくり返し練習が一番効果的なのだが、まだ中学生では意欲を失いかねない。ねらいは一つだが、練習の形態に変化を与えることが必要になって、いろいろ教えてもらうことも多かった。有磯高校や氷見高校へもよくいった。練習は苦しくても、勝つことを目標にチームづくりを意識してやった。いま思うと、当時のメンバーはよくついてきてくれたものだと、我ながら感心する。未熟な監督だから、生徒のことも考えないで嫌味も言ったり、とんでもない練習もずい分やってきたものだ。だけどその時その時で生徒と気持ちや目標が監督と一体になっておれば、多少の変な練習でもやっていけるものだ。人一倍苦労して味方に良いパスをする。パスをもらった者は、その苦労が理解できると、体を捨ててシュートを決める。厳しい中味の信頼関係が成り立つ。そのためには、練習するしかなかった。

それから４ヵ月後に、初の公式試合に参加した。八代中学に27対１で負けた。それでも、少しずつだが、確かな手ごたえをつかんできた。西山君の加入で、力強さを加え、３年になると県選手権で優勝した。それから北三大会に出ると、りきみすぎて負けた。その時に生徒の持っている力を出し切らせることの難しさを痛感した。次の年から目標を全国大会にしぼって、一段と練習を積んだ。全国大会に出てみると、すばらしいチームがいくつかあった。またしても、高い目標を持たざるを得なかった。良い生徒に恵まれながらも、紙一重の差で負けることが多かった。一点の重さ、ワンミスの恐さ、練習時間よりも内容の厳しさ、生徒の人間性の育成など、あらためて思いしらされた。

ハンドボールをやって、いろんな人とめぐり会えた。みんな良い人ばかりだった。それでいて、どこか見習うべき、独特のものを身につけている人が多い。野球ほど人気はないけど、それに打ち込む情熱はすばらしく、一人でも多くの生徒に良い影響を与える力は、必ずや今に、力強いものになっていくと思う。少ない所帯だけど、心を一つにして進んでいきたい。中学の教員だから何でもやらなければならないし、やるけれど、一生ハンドボールにたずさわって努力してみたい。

記　録　編

昭和22年～昭和59年

● 大会のあしあと

		22年	24年	25年	27年	28年	29年	30年	31年	32年	33年	34年	35年	36年	37年	38年	39年	40年	41年	42年	43年	44年	45年	46年	47年	48年	49年	50年	51年	52年	53年	54年	55年
氷見高校	春季選手権		リーグ戦2位（5勝1敗）				6回2位		8回1位①	9回1位②	10回1位③	11回1位④	12回1位⑤	13回1位⑥	14回	15回1位⑥	16回1位⑦	17回1位⑧	18回	19回1位⑨	20回2位	21回2回戦	第22回2位	第23回ベスト4	第24回1位⑩	第25回1位⑪	第26回3回戦	第27回1位⑫	第28回	第29回1位⑬	第30回1位⑭	第31回1位⑮	第32回1位⑯
	北陸三県大会													1位						1位								第22回（福井）1位		第24回（氷見）1位			
	高校総体県予選			1回（八尾）1位①						1位②	1位③	1位④	1位⑤	1位⑥	1位⑦	1位⑧	1位⑨	1位⑩	1位⑪	1位⑫	2位	2位	2回戦	2回戦	3回戦	2回戦	1位⑬	第22回（福井）1位	1位⑭	1位⑮	1位⑯	1位⑰	1位⑱	1位⑲
	全国高校選手権			第1回（藤井寺）3回戦						第8回（松山）2回戦	第9回（高鍋）3位入賞	第10回（仙台）ベスト8	第11回（倉敷）3回戦	第12回（氷見）ベスト8	第13告（小倉）2回戦	第14回（富士）1回戦	第15回（上田）1回戦	第16回（熊本）3回戦	第17回（盛岡）1回戦	第18回（和歌山）3位入賞							第25回（北九州）1回戦	第26回（山梨）2回戦	第27回（氷見）2位入賞	第28回（山口）2位入賞	第29回（福島）3位入賞	第30回（神戸）2位入賞	第31回（宇和島）3回戦
	北信越選手権																	第1回1位①	第2回（上田）2位	第3回（柏崎）2位	第4回（金沢）ベスト4	第5回（羽水）2位					第10回（羽水）1位②	第11回（氷見）1位③	第12回（戸倉）1位④	第13回（柏崎）1位⑤	第14回（金沢）1位⑥	第15回（氷見）1位⑦	第16回（堺代）1位⑧
	県民体育大会		2回2位	3回	第5回（富工）1位				第9回②	第10回2位	第11回1位③	第12回1位④	第13回1位⑤	第14回1位⑥	第15回1位⑦	第16回1位⑧	第17回1位⑨	第18回1位⑩		第20回1位⑪	第21回ベスト4	第22回1位⑫	第23回1位⑬	第24回ベスト4	第26回1位⑭		第28回1位⑮	第29回1位⑯			第32回1位⑰	第33回1位⑱
	北信越国体予選											1位	1位	1位	2位	（柏崎）1位		（金沢）1位		（佐久）1位		（羽水）1位	（金沢）全富山1位	全富山1位	（柏崎）全富山1位	（羽水）全富山ベスト4	（氷見）全富山1位	全富山ベスト4	（柏崎）1位	（戸倉）1位	（羽水）1位	（金沢）1位	第1回ミニ国体1位⑨
	国民体育大会	2回金沢1回戦(女子)									第13回（富山）初優勝	第14回（駒沢）ベスト8	第15回（熊本）1回戦	第16回（秋田）1回戦		第18回（山口）1回戦		第20回（岐阜）2回戦		第22回（埼玉）4位		第24回（長崎）1回戦	第25回（岩手）全富山1回戦	第26回（和歌山）全富山3位	第27回（鹿児島）全富山1回戦		第29回（茨城）全富山1回戦		第31回（佐賀）1回戦	第32回（青森）優勝②	第33回（長野）優勝③	第34回（宮崎）優勝④	第35回（栃木）2位入賞
	秋季選手権	1位女子A							2位	1位①	1位②	1位③	1位④	1位⑤	1位⑥	1位⑦	1位⑧	1位⑨		2回戦	1回戦	2回戦	ベスト4	2位	2回戦	1位⑩	1位⑪	1位⑫	1位⑬	1位⑭	1位⑮	1位⑯	1位⑰
	北信越選抜予選																													第1回（金沢）1位①	第2回（柏崎）1位②	第3回（福井）1位③	第4回1位④
	全国高校選抜大会																													第1回（愛知）2回戦	第2回（愛知）1回戦	第3回（徳山）ベスト8	第4回（愛知）3位入賞
	県室内選手権														2回1位	3回2位	第4回1位②	第5回1位③	第6回1位④	第7回2位	第8回準決	第9回2回戦	第10回2回戦	第11回2位	第12回ベスト4	第13回1位⑤	第14回2位	第15回1位⑥	第16回1位⑦	第17回1位⑧	第18回1位⑨	第19回1位⑩	第20回
有磯高校	春季選手権								1位①	1位②			2位	1位③	2位	2位		2位	1位④	1位⑤	ベスト4	ベスト4	1回戦	2位	1位⑥	1位⑦	ベスト4	1位⑧		1位⑨	1位⑩	1位⑪	1位⑫
	北陸三県大会																		第13回2位	第14回2位					第19回2位	第20回2位		第22回2位		第24回2位			
	高校総体県予選								1位①	1位②		1位③	1位④	2位	1位⑤	1位⑥			第17回1位⑦	ベスト4	2位	ベスト4	ベスト4	1回戦	1位⑧	1位⑨	2位	ベスト4	2位	1位⑩	1位⑪	1位⑫	2位	1位⑬
	全国高校選手権								第7回（藤井寺）2回戦	第8回（松山）2回戦		第10回（仙台）	第11回（倉敷）ベスト8	第12回（氷見）3回戦		第14回（富士吉田）1回戦			第17回（盛岡）3回戦				第22回（松山）4回戦	第23回（東根）2回戦					第27回（氷見）3回戦	第28回（山口）3回戦	第29回（福島）2回戦		第31回（宇和島）1回戦
	北信越選手権																				第4回（金沢）ベスト4				2位	ベスト4		第11回（氷見）2位	第12回（戸倉）1位④	第13回（柏崎）2位	第14回（金沢）ベスト4	第15回（氷見）3回戦	第16回（堺代）2位
	県民体育大会							第8回（高岡高）2位	第9回1位①	第10回1位②	第11回2位	第12回1位③	第13回1位④	第14回2位	第15回2位	第16回2位		第18回1位⑤	第19回1位⑥	第20回2位				第24回1位⑦	第25回2位	第26回2位	第27回1位⑧	第28回1位⑨	第29回ベスト4	第30回1位⑩		第32回1位⑪	第33回1位⑫
	北信越国体予選								2位	2位		1位					1位	1位	1位				全富山2位	1回戦	全富山1回戦	全富山1回戦	全富山1位	全富山1回戦	2位	全富山ベスト4	全富山2位	1回戦	第1回ミニ国体2位
	国民体育大会											第14回（駒沢）ベスト8					第19回（新潟）1回戦	第20回（岐阜）2回戦	第21回（大分）2回戦							第29回（茨城）全富山1回戦				第33回（長野）全富山1回戦		
	秋季選手権								（東国体県予選）1位①	1位②		1位③	1位④	1位⑤					2位	1位⑥	準決	ベスト4	2位	1位⑦	1位⑧	1位⑨	1位⑩	1位⑪	1位⑫	2位	1位⑬	1位⑭	1位⑮
	北信越選抜予選																													第2回（柏崎）ベスト4	第3回（福井）2位	
	全国高校選抜大会																																
	県室内選手権													第1回1位				第5回1位②		第7回準決	第8回準決	第9回準決	第10回ベスト4	第11回1位③	第12回1位④	第13回ベスト4	第14回	第15回1位⑤	第16回1位⑥	第17回1位⑦	第18回1位⑧	第19回1位⑨	第20回
氷見クラブ	春季選手権													1位①	1位②	1位③	1位④	1位⑤	1位⑥	1位⑦	1位⑧	1位⑨	1位⑩	1位⑪	1位⑫	1位⑬	2位	2位	1位⑭	準決	1位⑮	1位⑯	1位⑰
	北陸三県大会						富山クラブ1位(金沢)												第13回1位	第14回1位	第15回2位	第16回2位	第17回1位	第18回1位	第19回1位	第20回1位			第23回1位		第25回1位	第26回3位	第27回2位
	県クラブ選手権																																
	北信越クラブ大会																																
	全国クラブ選手権																																
	県民体育大会					第6回（高陵中）2位	第7回（高商）2位					第12回1位①	第13回1位②	第14回1位③	第15回1位④	第16回1位⑤	第17回1位⑥	第18回1位⑦	第19回1位⑧	第20回1位⑨	第21回1位⑩	第22回1位⑪	第23回1位⑫	第24回1位⑬	第25回1位⑭	第26回1位⑮	第27回1位⑯	第28回1位⑰	第29回1位⑱	第30回1位⑲	第31回1位⑳	第32回2位	第33回1位㉑
	北信越国体予選								富山クラブ1位	富山クラブ1位		全富山1位	富山クラブ1位	1位①	1位②	1位③	1位	1位	1位	1位	2位	1位	1位	1位	1位	1位	2位	全富山1位	2位	全富山1位	第1回ミニ全富山1位
	国民体育大会								第11回（兵庫）富山クラ2回戦	第12回富山クラ2回戦	第13回（富山）全富山4位	第14回（駒沢）全富山ベスト8	第15回（熊本）富山クラブ1回戦	第16回（秋田）4位	第17回（岡山）2回戦	第18回（山口）3回戦	第19回（新潟）1回戦	第20回（岐阜）2回戦	第21回（大分）ベスト4	第22回（埼玉）1回戦	第23回（福井）1回戦	第24回（長崎）1回戦	第25回（岩手）1回戦	第26回（和歌山）2回戦	第27回（鹿児島）1回戦	第28回（佐原）1回戦	第29回（茨城）2回戦	第30回（三重）1回然		第32回（青森）3回戦	第33回（長野）1回戦	第34回（宮崎）全富山3回戦	第35回（栃木）全富山1回戦
	秋季選手権											1位①	1位②											1位③	1位④	1位⑤		1位⑥		1位⑥	1位⑦	1位⑧	1位⑨
	県室内選手権													第1回1位①	第2回1位②	第3回1位③	第4回1位④	第5回1位⑤	第6回1位⑥	第7回1位⑦	第8回1位⑧	第9回1位⑨	第10回1位⑩	第11回1位⑪	第12回1位⑫	第13回1位⑬	第14回2位	第15回1位⑭	第16回1位⑮	第17回1位⑯	第18回1位⑰	第19回1位⑱	第20回
有磯OG	春季選手権																			1位①	1位②	ベスト4	1位③		2位	1位④	1位⑤	1位⑥	1位⑦	1位⑧	1位⑨	ベスト4	1位⑩
	北陸三県大会																			第14回1位	第15回2位		第17回3位			第20回全富山3位	第21回2位	第22回（福井）3位	全富山3位	第24回（氷見）3位	第25回（羽水）3位		第27回（氷見）2位
	県クラブ選手権																																
	北信越クラブ大会																																
	全国クラブ選手権																																
	県民体育大会									第10回1位		第12回2位	13回2位	第14回2位	第15回2位			第18回1位③	第19回2位	第20回2位	第21回1位④	第22回2位	第23回2位	第24回2位	第25回2位	第26回1位⑤	第27回1位⑥				第31回1回戦	第32回1位⑦	第33回ベスト4
	北信越国体予選									1位								1位			1位	全富山2位	全富山1回戦			全富山1回戦	ベスト4	ベスト4	全富山ベスト4	ベスト4		ベスト4	
	国民体育大会									第12回（静岡）2回戦	第13回（富山）4位							第20回（岐阜）2回戦			第23回（福井）1回戦											第35回（栃木）全富山2回戦
	秋季選手権																															2位	
	県室内選手権																	第5回1位①	第6回2位														
その他の大会		●第2回国民体育大会 県予選 9月24日 神通中学2位 男子 氷見高校A1位 氷見高校B2位 女子 氷見高2位	●県選手権大会 氷見高校2位	●国体県予選 氷見高2位				●国体県予選 有磯高2位	●第6回中部日本総合 一般男子 富山1位 一般女子 有磯高4位 ●日独国際大会 富山クラブ 9-21ドイツ	●第8回全日本総合 氷見高2回戦 有磯高1回戦 富山ク2回戦 比美ク第3位 ●国体県予選 氷見高1位 有磯高1位	●一般男女選手権 比美クラブ 1位 ●国体県予選 氷見高1位 有磯高2位	●第1回県総合選手権 氷見クラブ 1位	●第2回一般男女選手権 氷見クラブ 1位 比美クラブ 2位 ●国体県予選 氷見高1位 有磯高2位		●第9回全日本室内総合 有磯高1回戦 ●第1回北信越選手権（東国体北信越予選） 氷見高2位 氷見クラブ 1位	●全日本総合県予選 氷見高1位 ●全日本総合北信越予選（東京2回北信越選手権） 氷見クラブ 1位 ●第15回全日本総合 氷見クラブ 1回戦	●国体県予選 氷見高1位 有磯高1位	●第4回北信越選手権 氷見高1位 氷見クラ1位			●全日本総合県予選 氷見クラブ ●第21回全日本総合大会（盛岡） 氷見クラブ 1回戦 ●ナショナルチーム親善大会 氷見クラブ13－25ナショナルチーム			●国体県予選 氷見クラブ 1位 比美クラブ 1位		●国体県予選 氷見クラブ 1位	●国体県予選 氷見クラブ 1位 ●第1回全国クラブ選手権（静岡） 氷見クラブ ベスト4			

● 中学生大会のあしあと

		56年	57年	58年	59年
氷見高校	春季選手権	第33回1位⑰	第34回2位	第35回1位⑱	36回1位⑲
	北陸三県大会				
	高校総体県予選	1位⑳	2位	1位㉑	1位㉒
	全国高校選手権	第32回(東京) 3回戦		第34回(豊田) 3位入賞	第35回(湯沢) ベスト8
	北信越選手権	第17回(羽水) 1位⑧	第18回(柏崎) 2位	第19回(永見) 1位⑨	第20回1位⑩
	県民体育大会	第34回1位⑲	第35回1位⑳	第36回2位	第37回1位㉑
	北信越国体予選	第2回ミニ国体(佐久)1位⑭	第3回ミニ国体(羽水)1位⑮	第4回ミニ国体全富山1回戦	第5回ミニ国体全富山2位
	国民体育大会	第36回(滋賀) 2位入賞	第37回(島根) 2回戦		
	秋季選手権	2位	1位⑱	1位⑲	2位
	北信越選抜予選		第6回 1位⑤	第7回(柏崎) 2位	
	全国高校選抜大会		第6回2回戦	第7回(愛知) 2回戦	
	県室内選手権	第21回1位⑪	第22回2位	第23回1位⑫	第24回2位
有磯高校	春季選手権	1位⑬	ベスト4		2位
	北陸三県大会				
	高校総体県予選	1位⑭	1位⑮	2位	2位
	全国高校選手権	第32回(東京) ベスト8	第33回(鹿児島) 1回戦		
	北信越選手権	第17回(羽水) 2位	第18回(柏崎) 2位	第19回(永見) ベスト4	第20回2回戦
	県民体育大会	第34回1位⑬	第35回1位⑭	第36回2位	第37回1位⑮
	北信越国体予選	第2回ミニ(佐久) 2位		第4回ミニ全富山ベスト4	第5回ミニ国体全富山2位
	国民体育大会				
	秋季選手権	1位⑯	2位	2回戦	1位⑰
	北信越選抜予選	第5回(戸倉) 2位			第8回(福井) 2位
	全国高校選抜大会				
	県室内選手権	第21回1位⑨	第22回1位⑩	第23回2位	
氷見クラブ	春季選手権	1位⑮	2位	2位	ベスト4
	北陸三県大会				
	県クラブ選手権	第1回1位	第2回1位	第3回1位	1位
	北信越クラブ大会	1位	(戸倉)1位	(高岡)1位	(金沢)1位
	全国クラブ選手権	第1回(御殿馬) 3位入賞	第2回(滋賀) 4位入賞	第3回(岐阜) 2回戦	第4回(徳山) 1回戦
	県民体育大会	第34回1位㉑	第35回1位㉒	第36回1位㉓	第37回1位㉔
	北信越国体予選		第3回ミニ(羽水) 全富山1位		第5回ミニ国体 全富山1位
	国民体育大会	第36回(滋賀) 全富山2回戦	第37回(島根) 全富山2回戦	第38回(群馬) 全富山3回戦	第39回(奈良) 全富山ベスト8
	秋季選手権	2位	2位	1位⑩	1位⑪
	県室内選手権	第21回1位⑩	第22回 1位⑪	第23回2位	第24回2位
有磯O・G	春季選手権	1位⑪	2位	1位⑫	
	北陸三県大会				
	県クラブ選手権				
	北信越クラブ大会				
	全国クラブ選手権				
	県民体育大会	第34回1位⑧	第35回1位⑨	第36回1位⑩	第37回1位⑪
	北信越国体予選	第2回ミニ国体 全富山ベスト4		第4回ミニ国体 全富山ベスト4	第5回ミニ国体 全富山1回戦
	国民体育大会		第27回(島根) 2回戦		
	秋季選手権				
	県室内選手権	第21回1位②	第22回1位③	第22回準決	
その他の大会		●第23回全日本総合(東京) 全富山B 1回戦			

大会名＼年度	種別	36年	37年	38年	39年	40年	41年	42年	43年	44年	45年	46年	47年	48年	49年	50年	51年	52年	53年	54年	55年	56年	57年	58年	59年
氷見市選手権	男子									南部	南部	南部	八代	八代	西部	西部	西部	西部	西部	北部	西部	西部	西部	北部	北部
	女子																南部	北部	北部		北部	北部	北部	北部	北部
高岡地区選手権	男子							南部	南部	南部	南部(準決)	八代	八代	南部	西部	西部	西部	西部	南部	西部	西部	西部	西部	北部(2位)	西部
	女子											南部(2位)	南部(2位)	南部	南部	南部	南部	北部(2位)	北部	北部(準決)	北部(2位)	北部(2位)	北部(2位)	北部(2位)	南部(準決)
県選手権大会	男子			第1回 八代①	第2回 八代②	第3回 八代③		第5回 南部(2位)	第6回 南部(2位)	第7回 南部(2位)	第8回 南部①	第9回 八代④	第10回 南部②	第11回 南部③	第12回 西部①	第13回 西部②	第14回 西部③	第15回 西部④	第16回 西部⑤	第17回 北部⑥	第18回 西部⑥	第19回 西部	第21回 西部	第22回 北部(2位)	第23回 西部(2位)
	女子										(女子の部誕生)	南部(準決)	南部(1回戦)	南部(準決)	南部(2位)	南部(準決)	南部(準決)	北部(2位)	北部(2位)	北部準決 南部(1回戦)	北部⑦	北部(準決)	北部(2位)	北部(2位)	南部(準決)
北信越選手権	男子										第1回(金沢) 南部(3位)	第2回(福井) 八代 優勝	第3回(大門) 南部 優勝	第4回(金沢) 南部(3位)	第5回(福井) 西部(3位)	第6回(石動) 西部優勝	第7回(金沢) 西部優勝②	第8回(福井) 西部(2位)	第9回(呉羽) 西部(2位)	第10回(金沢) 北部西部(準決)	第11回 西部(準決)	第12回(志貴野) 西部	第13回(屋代) 西部(2位)	第14回(金沢) 北部(準決)	第15回(柏崎) 西部(準決)
	女子																				北部(準決)		北部(準決)	北部(1回戦)	
全国中学大会	男子												第1回(愛知) 南部 3位入賞			第4回(小松) 西部 ベスト8	第5回(大阪) 西部 3位入賞	第6回(茨城) 西部(1回戦)					第11回(氷見) 西部 3位入賞		
	女子																						北部ベスト8		
																							北部ベスト8		
市民体育大会	男子	八代	八代	八代	八代	八代		南部	南部	南部	南部	八代	八代	八代	南部①	西部②	西部③	西部④	西部⑤	西部⑥	西部⑦	西部⑧	西部⑨	八代	北部
	女子																南部	南部	北部	北部	北部	北部	北部	北部	北部
県民体育大会	男子	第14回 八代①	第15回 八代(2位)	第16回 八代②	第17回 八代③	第18回 八代(2位)	第19回	第20回 南部(2位)	第21回 南部(準決)	第22回 南部(準決)	第23回 兼第8回県中学選手権	第24回 八代(2位)	第25回 八代④	第26回 八代⑤	第27回 西部①	第28回 西部②	第29回 西部③	第30回 西部④	第31回 西部⑤	第32回 西部(2位)	第33回 西部⑥	第34回 西部⑦	第35回 西部⑧	第36回 八代⑥	第37回 北部(1回戦)
	女子												南部(1回戦)	南部(準決)	南部(準決)	南部(準決)	南部(準決)	南部(2位)	北部(準決)	西部(2位)	北部			北部(準決)	北部(1回戦)
氷見市新人大会	男子							南部	南部	南部		南部	八代	南部	西部	西部		西部	西部	西部	北部	西部	北部	西部	南部
	女子																	南部	北部	北部	北部	北部	北部	北部	南部
高岡地区新人大会	男子											八代	八代		西部		西部	西部	西部(2位)	西部	西部	西部	北部	北部(2位)	南部(2位)
	女子											南部(2位)	南部		南部(2位)		南部(準決)	北部(2位)	北部	南部(準決)	北部(準決)	北部(2位)	北部(2位)	北部(準決)	
県選抜大会	男子																			第1回 西部①	第2回 西部	第3回 西部	第4回 北部	第5回 西部(準決)	第6回
	女子																					北部(2位)	北部(2位)		
市室内選手権	男子												八代		南部			西部	西部	西部	西部			西部	南部
	女子																	北部	北部	北部	北部			北部	南部

大　会　記　録

(一般・高校の部)

昭和２２年

○ 第２回国民体育大会県予選

９月２４日　神通中学

男子リーグ戦　　２位　氷見中学

女子リーグ戦　　１位　氷見高校女子A

２位　氷見高校女子B

○ 第２回国民体育大会

１１月１日～３日　金沢市

中学女子

１回戦　　氷見中女子　０－７　茨木女子(大阪)

昭和２３年

○ 第１回県民体育大会

２　位　　氷見高校男子

昭和２４年

○ 県高校春季リーグ戦

６月１２日～１８日　高岡中部高校

男　子　　２　位　　氷見高校(５勝１敗)

○ 第２回県民体育大会

２　位　　氷見高校男子

○ 県ハンドボール選手権大会

１１月２７日　富山中部高校

男　　子

決　勝　　氷　　見　１－３　高岡中部

昭和２５年

○ 県高校選手権大会兼第１回全国高校選手権大会県予選

７月２日　八尾高校

男　　子

決　勝　　氷　　見　４－４　高岡中部

(抽選の結果氷見高校優勝)

○ 第１回全国高校選手権大会

８月９日・１０日　大阪　藤井寺市

男　　子

１回戦　　氷　　見　４－３　小倉中央(福岡)

２回戦　　氷　　見　６－１　那賀(和歌山)

３回戦　　氷　　見　１－３　矢掛(岡　山)

○ 第５回国民体育大会県予選会

９月２４日　富山中部高校

高校男子

決　勝　　氷　　見　５－６　高岡中部

昭和２７年

○ 第５回県民体育大会

８月２３日～２６日　富山工業高校

高校男子

決　勝　　氷　　見　７－６　高岡中部

昭和２８年

○ 第６回県民体育大会

８月２２日～２４日　高陵中学校

一般男子

決　勝　　氷見ＯＢ　０－７　北　　嶺

昭和２９年

○県高校春季選手権大会

5月15日　富山工業高校

男　子

決勝　氷　見　3－10　富　山　工

○第7回県民体育大会

6月1日～5日　富山商業高校

一般男子

決勝　氷見OB　3－7　富商クラブ

○北陸三県対抗選手権大会

10月24日　金　沢

一般男子

決勝　富　ク　9－3　金沢市商OB

昭和３０年

○第8回県民体育大会

8月20日～23日　高岡高校

高校女子

決勝　有　磯　0－5　高岡西高

○第10回国民体育大会県予選

9月11日　富山商業高校

高校女子

決勝　有　磯　3－4　高　岡

昭和３１年

○春季大会

2　位　有磯高校

○全国高校選手権大会県予選

6月30日　小杉高校

女　子

決勝　有　磯　2－0　高　岡

○第7回全国高校選手権大会

8月16日　藤井寺

女　子

1回戦　有　磯　5－3　郡　山（奈良）

2回戦　有　磯　4－11　城　北（静岡）

○第9回県民体育大会

8月25日～27日　氷見高校

高校男子

決勝　氷　見　10－6　小　杉

高校女子

決勝　有　磯　6－5　高　岡

○第6回中部日本総合選手権大会

8月27日　氷見高校

一般女子

決勝　有　磯　6－8　四日市（三重）

3位決定戦有　磯　2－4　名古屋西高

○県高校秋季選手権大会兼国民体育大会県予選

9月16日　八尾中学校

女　子

決勝　有　磯　5－0　高　岡

男　子

氷　見　2位

○第11回国民体育大会北信越予選

9月23日　金沢市

高校女子

決勝　有　磯　2－4　羽　咋

○日独国際ハンドボール富山大会

9月20日　富山球場

富山クラブ　9－21　西ドイツ

○第11回国民体育大会

10月28～11月2日　兵庫県

一般男子

2回戦　富山クラブ　0－16　函館サンダー

○県秋季高校選手権大会

11月23日　富山商業高校

男　子

決勝　氷　見　3－4　高　岡　高

女　子

決勝　有　磯　1－1　高岡西高

昭和３２年

○県高校春季選手権大会

6月2日　氷見高校

男　子

決勝　氷　見　8－5　富山商

女　子

決勝　有　磯　7－4　八　尾

○第9回全日本総合選手権大会

7月27日～30日　氷見高校

男　子

2回戦　富山クラブ　8－3　中央大

氷　見　12－13　芝浦工大

女　子

1回戦　有　磯　2－7　愛知紡績（愛知）

準決勝　比　美　1－10　日体大（東京）

3位決定　比　美　2－1　高岡商業

（比美クラブ　第3位）

○全国高校総体県予選

氷　見　1　位

有　磯　1　位

○第8回全国高校選手権大会

8月7日・8日　松山市

男　子

2回戦　氷　見　2－5　上田松尾（長野）

女　子

2回戦　有　磯　0－4　熊本市高（熊本）

○第10回県民体育大会

8月18日～20日　氷見高校・八尾高校

一般女子

決勝　比　美　2－1　高岡西ク

高校男子

決勝　氷　見　7－8　小　杉

高校女子

決勝　有　磯　5－3　高岡商

○第12回国民体育大会県予選

9月15日　富山女子高校

高校男子

決勝　氷　見10－3　小　杉

高校女子

決勝　有　磯　7－6　高岡商

○第12回国民体育大会北信越予選

9月22日　長野・上田高校

一般男子　富山クラブ優勝

一般女子

決勝　比美ク（不戦勝）　羽咋クラブ

高校女子

決勝　有　磯　2－4　羽　咋

○第12回国民体育大会

10月26日～30日　静岡県

一般男子

2回戦　富山ク　10－20　山口ク

一般女子

2回戦　比美ク　3－12　茨城ク

○県秋季高校選手権大会

11月17日　小杉高校

男　子

決勝　氷　見11－1　富山中部

女　子

決勝　有　磯　3－3　高岡女子

昭和３３年

○第11回県民体育大会

5月25日～6月1日　富女高

高校男子

決勝　氷　見　14－3　富山商業

女　子　有　磯　2　位

一般女子　氷見ク　1　位

○第9回全国高校選手権大会県予選兼一般男女選手権大会　6月21日・22日　八尾高校

高校男子

決勝　氷　見　11－6　富山商業

一般女子

決勝　氷見ク　13－5　八尾OG

○第１３回国民体育大会高校県予選

７月２６日～２９日

男　子

決　勝　氷　見　１７－３　富山商業

女　子

決　勝　有　磯　２－１３　富山女子

○第９回全国高校選手権大会

８月６日　函館市

男　子

３回戦　氷　見　１５－２　世田谷工（東京）

準決勝　氷　見　６－９　兵　庫　工

（氷見高校　３位入賞）

○第１３回国民体育大会

氷見高・八尾高

一般男子

準決勝　全富山　６－１５　芝浦クラブ（東京）

３位決定　全富山　１２－１６　大阪クラブ

一般女子

準決勝　氷見ク　３－１４　愛知紡績

３位決定　氷見ク　２－５　全　茨　城

（氷見クラブ　４位）

高校男子

準決勝　氷　見　１４－７　明　石（兵庫）

決　勝　氷　見　１１－８　中　京　商

（氷見高校　初優勝）

○秋季高校選手権大会

氷　見　１　位

昭和３４年

○県高校春季選手権大会

５月１０日　小杉高校

男　子

決　勝　氷　見　１６－１　富山工業

（３回目の優勝）

○第１０回全国高校選手権大会県予選

６月２８日　高岡工芸高校

男　子

決　勝　氷　見　１５－０　富山中部

女　子

決　勝　有　磯　２－０　富山女子

○第１０回全国高校選手権大会

仙台市

氷　見　高　ベスト８

○第１回県総合選手権大会

７月１２日　大川寺公園

一般男子

決　勝　氷見ＯＢ　１２－０　大山町体協

○第１２回県民体育大会

８月２２日～２４日　南星中学校

一般男子

決　勝　氷見ＯＢ　１８－３　大山町体協

一般女子

決　勝　氷見ク　１－９　富山高ＯＧ

高校男子

氷　見　１　位　（４回目の優勝）

有　磯　１　位　（３回目の優勝）

○第１４回国民体育大会北信越地区予選

９月２０日　氷見高校

一般男子

決　勝　全富山　１８－６　金沢クラブ

高校男子

氷　見　１　位

有　磯　１　位

○第１４回国民体育大会

１０月２５日～３０日　東京・駒沢

高校男子

準々決勝　氷　見　２－３　鎌倉学園（神奈川）

高校女子

準々決勝　有　磯　４－５　明善高（福岡）

一般男子

準々決勝　全富山　８－１１　清水商ク（静岡）

○県高校秋季選手権大会兼秋季選手権大会

１１月２２日　富山女子高校

男　子

決　勝　氷　見　6－2　富山工業（3回目の優勝）

女　子

決　勝　有　磯　5－3　富山女子（3回目の優勝）

一般男子

氷見ＯＢ　1　位

昭和３５年

○ 県高校春季選手権大会

5月16日　小杉高校

男　子

決　勝　氷　見　12－3　富山工業（4回目の優勝）

女　子

決　勝　有　磯　7－8　富山女子

○ 第11回全国高校選手権大会県予選

6月26日　富山中部高校

男　子

決　勝　氷　見　15－6　富山工業（5回目の優勝）

女　子

有　磯　1　位

○ 第2回県一般男女選手権大会

7月10日　氷見高校

男　子

決　勝　氷見ＯＢ10－3　大山町体協

女　子

決　勝　氷見々　5－8　富女ＯＧ

○ 第11回全国高校選手権大会

8月2日　岡山・倉敷市

男　子

3回戦　氷　見　6－11　清水商（静岡）

女　子

準々決勝　有　磯　4－9　井原高（岡山）

○ 第13回県民体育大会

8月20日～22日　芝園中学校

一般男子

決　勝　氷見ＯＢ12－2　大山町体協（2回目の優勝）

一般女子

決　勝　氷　々　6－12　富女ＯＧ

高校男子

決　勝　氷　見　11－0　富山工業（5回目の優勝）

高校女子

決　勝　有　磯　5－3　富山女子（4回目の優勝）

○ 第15回国民体育大会県予選

9月4日　小杉高校

高校男子

決　勝　氷　見　12－6　富山工業

高校女子

決　勝　有　磯　3－4　富山女子

○ 第15回国民体育大会北信越地区予選

9月18日　石川・小松高校

高校男子

リーグ戦　1　位　氷見高校

一般男子

リーグ戦　1　位　富山クラブ

○ 秋季大会

高校男子　氷見高　1位

高校女子　有磯高　1位

一般男子　氷見ＯＢ　1位

○ 第15回国民体育大会

10月23日～27日　熊　本

高校男子

1回戦　氷　見　15－16　伏見（京都）

一般男子

1回戦　富山クラブ10－12　全仙台（宮城）

昭和３６年

○ 県高校春季選手権大会

4月30日　氷見高校

男　子

決　勝　氷　見　13－0　雄　山（5回目の優勝）

（氷見高校5連勝）

女　子

決勝　有　磯　4－2　小　杉（3回目の優勝）

一般男子

氷見ク　1位

○第12回全日本高校選手権大会県予選

6月11日　氷見高校

男子

リーグ戦　1位　氷見高校

女子

リーグ戦　2位　有磯高校

○第8回北陸三県総合競技大会

6月24日　金沢市

高校男子

氷見　19－0　福井商業

氷見　7－3　松任農

○第12回全日本高校選手権大会

9月1日～3日　氷見高校

男子

準々決勝　氷見　4－6　清水商（静岡）

女子

3回戦　有磯　1－5　水海道第二（茨城）

○第14回県民体育大会

8月19日～21日　高岡商業

一般男子

決勝　氷見ク　31－4　八尾ク

一般女子

決勝　有磯OG　2－3　富女OG

高校男子

決勝　氷見　19－3　富山工業

高校女子

決勝　有磯　0－1　富山女子

○第16回国体北信越地区予選

氷見高　1位

氷見ク　1位

○第16回国民体育大会

10月8日～12日　秋田県

一般男子

準決勝　氷見ク　10－12　桜丘会（愛知）

3位決定　氷見ク　12－17　大阪ク（東京）

高校男子

1回戦　氷見　4－6　函館工（北海道）

○秋季高校選手権大会

11月12日　氷見高校

男子

決勝　氷見　7－3　高岡商

女子

決勝　有磯　5－2　小杉

昭和37年

○第1回県室内選手権大会

1月28日　高岡市民体育館

一般男子

決勝　氷見ク　21－10　北陸日野自動車

高校女子

決勝　有磯　8－7　富山女

○県高校春季選手権大会兼春季選手権大会

5月19日　小杉高校

高校女子

決勝　有磯　6－8　高岡女

一般男子　氷見ク　1位

○第13回全日本高校選手権大会県予選

6月27日　小杉高

男子

決勝　氷見　11－3　小杉高

女子　有磯　1位

○第13回全日本高校選手権大会

8月1日～7日　小倉市

男子

1回戦　氷見　10－8　洛星（京都）

2回戦　氷見　6－15　新居浜工

女子

1回戦　有磯　5－15　秋田和洋女子

○第15回県民体育大会

8月18日～20日　小杉高校

高校男子

決　勝　　氷　見　16－12　小　　杉

高校女子

決　勝　　有　　磯　6－9　富 山 女

一般男子

決　勝　　氷見ク　11－0　八 尾 ク

一般女子

決　勝　　氷 見 ク　1－13　富女OG

○ 第1回北信越総合選手権大会兼国民体育大会北信越地区予選会

9月9日・10日　柏崎市

高校男子

決　勝　　氷　　見　2－12　北佐久農(長野)

一般男子

決　勝　　氷見ク　15－13　全 長 野

○第17回国民体育大会

10月21日～26日　岡　山　県

一般男子

2回戦　　氷　　ク　9－19　住友化学菊本(愛媛)

○ 第9回全日本総合室内選手権大会

女　　子

1回戦　　有　　磯　3－22　秋田和洋女子高

○ 秋季大会

高校男子　　氷　見　　1位

昭和38年

○ 第2回県室内選手権大会

2月19日　富山市体育館

一般男子

決　勝　　氷見ク　23－16　高岡三日会

高校男子

決　勝　　氷　見　19－13　富

○ 県春季選手権大会

5月12日　小杉高校

高校男子

決　勝　　氷　見　21－13　高 岡 高

高校女子

決　勝　　有　　磯　4－11　富 山 女

一般男子

氷　見　ク　　1　位

○ 第14回全日本高校選手権大会県予選

6月23日　小杉高校

男　　子

決　勝　　氷　見　21－7　高 岡 商

女　　子

決　勝　　有　　磯　8－5　富 山 女

○ 第14回全日本高校選手権大会

8月1日～7日　富士吉田市

男　　子

1回戦　　氷　見　14－19　兵 庫 工

女　　子

1回戦　　有　磯　10－14　新居浜商

○ 第15回全日本総合選手権大会兼第2回北信越選手権大会県予選

7月7日　小杉高校

男　　子

決　勝　　氷見ク　24－14　富山大学

○第2回北信越選手権大会兼第15回全日本総合選手権大会北信越地区予選

7月21日　小杉高校

男　　子

決　勝　　氷見ク　23－15　新湯教員

○第16回県民体育大会

8月18日・19日　高岡商業

高校男子

決　勝　　氷　見　14－10　高岡高

高校女子

決　勝　　有　　磯　2－8　富 山 女

一般男子

決　勝　　氷見ク　20－8　富 友 ク

○ 第15回全日本総合選手権大会

8月21日　柏崎市

一般男子

1回戦　氷見ク　17－20　小倉工高ＯＢ（福岡）

○第18回国民体育大会北信越地区予選

9月7日・8日　柏崎市

一般男子

決　勝　氷見ク　16－21　北農ク（長野）

高校男子

決　勝　氷　見　15－14　上田高（長野）

○第18回国民体育大会

10月27日～11月1日　山口県

一般男子

3回戦　氷見ク　13－22　桜丘会（愛知）

高校男子

1回戦　氷　見　17－20　修道高（広島）

○県秋季選手権大会

11月10日　小杉高校

高校男子

決　勝　氷　見　21－6　小　杉　高

昭和３９年

○第3回県室内選手権大会

2月9日　富山市体育館

一般男子

決　勝　氷見ク　29－19　富山教員

高校男子

決　勝　氷　見　11－12　小　杉　高

○春季選手権大会

高校男子　氷　見　1位

一般男子　氷見ク　1位

○第19回国民体育大会高校県予選

4月19日　小杉高校

男　子

決　勝　氷　見　17－9　小　杉　高

女　子

決　勝　有　磯　6－4　富　山　女

○第19回国民体育大会北信越地区予選

4月25日　福井市

一般男子

決　勝　氷見ク　20－14　北　農　ク（長野）

高校男子

決　勝　氷　見　15－22　上　田　高（長野）

高校女子

決　勝　有　磯　21－4　小　諸　商（長野）

○第19回国民体育大会

6月6日～11日　新潟県

一般男子

1回戦　氷見ク　14－16　熊本ク

高校女子

1回戦　有　磯　3－12　明善高（福岡）

○第15回全国高校選手権大会県予選

6月28日　氷見高校

男　子

決　勝　氷　見　11－6　小　杉　高

○第15回全国高校選手権大会

氷　見　1回戦　小倉市

○第17回県民体育大会

8月16日　小杉高校

高校男子

決　勝　氷　見　14－9　高　岡　高

一般男子

決　勝　氷見ク　47－19　婦負体協

○第3回北信越室内選手権大会兼県秋季高校選手権大会

11月29日　富山市体育館

一般男子

リーグ戦　氷見ク　35－14　金工ク

氷見ク　35－20　富山大学

高校男子

決　勝　氷　見　22－8　二　上　工

昭和４０年

○第4回県室内選手権大会

2月7日　富山市体育館

一般男子

決　勝　　氷見ク　４９－１０　富山日野自動車

高校男子

決　勝　　氷　見　２１－１１　小杉高

○ 北陸三県総合競技大会兼春季選手権大会

5月１６日　小杉高校

高校男子

決　勝　　氷　見　２１－８　高 岡 商

高校女子

決　勝　　有　磯　５－８　高 岡 女

一般男子

氷　見　ク　　1〃

○ 第１２回北陸三県総合競技大会

6月２０日　氷見高校

一般男子

氷見ク　３０－１７　石川県工ク

○ 第１５回全国高校選手権大会県予選

6月２７日　小杉高校

男　子

決　勝　　氷　見　１４－７　高 岡 商

○ 第１６回全国高校選手権大会

8月３日・４日　熊本市

男　子

3回戦　　氷　見　１０－１３　清水商（静岡）

○ 第１８回県民体育大会

8月２１日～２３日　小杉高校

一般男子

決　勝　　氷見ク　２１－１１　高岡三日会

一般女子

決　勝　　氷見ク　１０－６　高岡ク

高校男子

決　勝　　氷　見　２１－１１　小杉高

高校女子

決　勝　　有　磯　１１－７　高 岡 女

○ 第２０回国民体育大会北信越地区予選

9月１２日　金沢市

高校男子

決　勝　　氷　見　１４－１０　上田高（長野）

高校女子

決　勝　　有　磯　８－７　常 盤 高（新潟）

一般男子

決　勝　　氷見ク　２６－１１　北農ク（長野）

一般女子

決　勝　　氷見ク　１４－５　全 新 潟

○ 第２０回国民体育大会

１０月２４日～２９日　岐阜県

一般男子

2回戦　　氷見ク　１３－１７　宗形製作所（大阪）

一般女子

2回戦　　氷 見 ク　２－１５　愛知紡績（愛知）

高校男子

2回戦　　氷　　見　７－１４　桜台高（愛知）

高校女子

2回戦　　有　　磯　３－９　加 納 高（岐阜）

○ 第１回北信越高校選手権大会兼第４回北信越選手権大会

１１月２９日　富山市体育館

高校男子

決　勝　　氷　見　１５－８　藤　　島（福井）

一般男子

決　勝　　氷見ク　３０－１７　金工ク（石川）

○ 秋季高校選手権大会

氷　　見　　１　位

昭和４１年

○ 第５回県室内選手権大会

2月６日　富山市体育館

高校男子

決　勝　　氷　見　１０－９　高 岡 商

高校女子

高校女子

決　勝　　有　磯　１３－３　高 岡 女

一般男子

決　勝　　氷見ク　３０－１５　富山大

一般女子

決　勝　　氷見ク　７９－７　富女ＯＧ

○ 第１３回北陸三県総合競技大会

６月１９日　福井市

一般男子

リーグ戦　　１　位　　氷見クラブ

高校女子

リーグ戦　　２　位　　有　　磯

○春季選手権大会

高校女子　　有　磯　　１位

一般男子　　氷見ク　　１位

○ 第１７回全国高校選手権大会県予選

６月２４日　小杉高校

男　　子

決　勝　　氷　見　１３－９　高 岡 商

女　　子

決　勝　　有　　磯　５－１　高 岡 女

○ 第２回北信越高校選手権大会

７月１７日　上田市

男　　子

準決勝　　氷　　見　８－１０　上田高（長野）

○ 第１７回全国高校選手権大会

８月３日　盛岡市

男　　子

１回戦　　氷　　見　９－１４　熊本市高

女　　子

２回戦　　有　磯　１５－５　米沢女（山形）

３回戦　　有　　磯　５－１１　新居浜西(愛媛)

○ 第１９回県民体育大会

８月２８日・２９日　小杉高校

一般男子

決　勝　　氷見ク　４１－４　高岡商ＯＢ

一般女子

決　勝　　氷 見 ク　２－３　高女高ＯＧ

高校女子

決　勝　　有　磯　１２－２　富 山 女

○第２１回国民体育大会北信越地区予選

９月１１日　氷見高校

一般男子

決　勝　　氷見ク　２７－１０　県金工ク（石川）

高校女子

決　勝　　有　磯　１１－２　羽 咋 高（石川）

○第２１回国民体育大会

１０月２４日～２８日　大分県

一般男子

準決勝　　氷見ク　１５－２５　宗形製作所（大阪）

高校女子

１回戦　　有　　磯　７－４　大分東高（大分）

２回戦　　有　　磯　３－５　秋田和洋女高（秋田）

○県秋季高校選手権大会

１１月１９日　小杉高校

女　　子

決 勝 有　　磯　７－９　富 山 女

○第６回県室内選手権大会

２月１９日　富山市体育館

一般男子

決　勝　　氷見ク　２１－６　高岡三日会

一般女子

決　勝　　氷 見 ク　９－１０　高岡女高ＯＧ

高校男子

決　勝　　氷　見　１４－７　富 山 工

昭和４２年

○ 春季選手権大会兼北陸三県大会県予選

５月１３日・１４日　小杉高校

高校男子

２回戦　　氷　見　１６－１０　小杉高

準決勝　　氷　見　２１－６　二 上 工

決　勝　　氷　見 21($\frac{10}{11}-\frac{5}{5}$)10 富工商

高校女子

2回戦　有　磯　２７－３　蘇園女高

準決勝　有　磯　１０－５　高　岡　女

決　勝　有　磯　7(4－1 / 3－2)3小　杉　高

一般男子

決　勝　氷見ク15(7－7 / 8－3)10富山大

一般女子

決　勝　氷見ク　9(3－2 / 6－4)　6富女高ＯＧ

○第１８回全国高校選手権大会県予選兼北信越高校選手権大会県予選

６月１８日・２４日・２５日　小杉高校

男　子

２回戦　氷　見　３０－４　富山中部

準決勝　氷　見　１６－５　二　上　工

決　勝　氷　見11(6－3 / 5－3)　6小杉高

女　子

２回戦　有　磯　１７－４　富山北部

準決勝　有　磯　２－３　高　岡　女

○第３回北信越高校選手権大会

７月２１日・２２日　柏崎市立第一中学校

男　子

２回戦　氷　見　１４－１３　屋代高（長野）

準決勝　氷　見　１７－８　金工大附（石川）

決　勝　氷　見　8(3－8 / 5－6)14上田高（長野）

○第１４回北陸三県総合体育大会

６月１８日　石川県

高校男子

氷　見　１５－９　羽　　水（福井）

氷　見　２３－１２　金工大附（石川）

（氷見高校　１位）

高校女子

有　磯　１－９　福　井　商

有　磯　８－６　小松市女

（有磯高校　２位）

一般男子

氷見ク　１５－９　福井教員

氷見ク　３３－１９　金商ク

（氷見クラブ　１位）

一般女子

氷見ク　１３－４　全　福　井

氷見ク　１５－８　羽　昨　ク

（氷見クラブ　１位）

○第２０回県民体育大会

８月２６日～２８日　大門中学校

高校男子

準決勝　氷　見　２０－８　二　上　工

決　勝　氷　見10(4－4 / 6－2)　6小杉高

高校女子

準決勝　有　磯　６－５　富　山　女

決　勝　有　磯　6(3－6 / 3－9)15高岡女

一般男子

準決勝　氷見ク　２９－１６　射水ク

決　勝　氷見ク28(15－4 / 13－1)　5二上工ＯＢ

一般女子

決　勝　氷　見　ク　４－５　高岡女ＯＧ

○第１８回全日本高校選手権大会

８月１日～７日　和歌山市

男　子

２回戦　氷　見　１５－６　高知追手前高

３回戦　氷　見　２３－８　倉敷商（岡山）

準準決勝　氷　見　１５－９　横浜市東（神奈川）

準決勝　氷　見　１９－２０　広島高

（氷見高校　３位）

○第２２回国民体育大会北信越地区予選

９月９日・１０日　佐久高校

高校男子

１回戦　氷　見　１５－１１　若狭高（福井）

準決勝　氷　見　１３－７　上田高（長野）

決　勝　氷　見14(6－3 / 8－2)　5柏崎工（新潟）

一般男子

準決勝　氷見ク　２０－１５　北農ク（長野）

決　勝　氷見ク20(10－2 / 10－7)　9金商ク（石川）

○第２２回国民体育大会

１０月２３日～２７日　埼玉県浦和市

高校男子

1回戦　氷　見　14－13　新居浜工(愛媛)

準決勝　氷　見　12－24　桜台高(愛知)

3位決定戦氷　見　11－20　佐野工(大阪)

一般男子

1回戦　氷見ク　16－17　全神奈川

○ 秋季選手権大会

11月4日・5日　小杉高校

高校男子

2回戦　氷　見　6－10　高岡商

高校女子

1回戦　有　磯　不戦勝　藤園女

2回戦　有　磯　12－2　富山北

準決勝　有　磯　13－7　小杉高

決　勝　有　磯　6($\frac{4}{2}-\frac{0}{2}$) 2高岡女

○ 第7回県室内選手権大会

2月18日・25日　富山市体育館

高校男子

2回戦　氷　見　9－5　高岡商

準決勝　氷　見　12－4　富山工

決　勝　氷　見　5($\frac{3}{2}-\frac{7}{8}$)15小杉高

高校女子

1回戦　有　磯　14－6　小杉高

2回戦　有　磯　27－6　富山女

準決勝　有　磯　11－13　高岡女

一般男子

準決勝　氷見ク　21－7　富山教員

決　勝　氷見ク20($\frac{8}{12}-\frac{4}{5}$) 9富山大

昭和43年

○ 春季選手権大会兼北陸三県大会県予選

5月5日・12日　小杉高校

高校男子

2回戦　氷　見　8－8　富山商

(抽選勝)

準決勝　氷　見　17－9　高岡高

決　勝　氷　見　5($\frac{3}{2}-\frac{4}{6}$)10小杉高

高校女子

1回戦　有　磯　17－0　高岡高

準決勝　有　磯　4－8　高岡女

一般男子

準決勝　氷見ク　棄　権　高商OB

決　勝　氷見ク15($\frac{5}{10}-\frac{2}{4}$) 6呉羽コーチ

一般女子

決　勝　氷見ク　13－5　富女高OG

○ 第19回全国高校総体県予選兼北信越高校選手権大会県予選

6月9日・22日　小杉高校

高校男子

2回戦　氷　見　10－9　二上工

準決勝　氷　見　9－5　高岡高

決　勝　氷　見　7($\frac{2}{5}-\frac{12}{9}$)21小杉高

高校女子

1回戦　有　磯　30－0　高岡高

準決勝　有　磯　13－8　小杉高

決　勝　有　磯　7($\frac{4}{3}-\frac{4}{4}$) 8高岡女

○ 第15回北陸三県総合体育大会

6月16日　大門中学校

一般男子

リーグ戦　氷見ク　22－28　福井教員

リーグ戦　氷見ク　22－13　県工ク(石川)

(氷見クラブ　第2位)

一般女子

リーグ戦　氷見ク　7－18　全福井

リーグ戦　氷見ク　25－5　羽咋ク

(氷見クラブ　第2位)

○ 第4回北信越高校選手権大会

7月12日・13日

金工大体育館・兼六中体育館

男　子

1回戦　氷　見　14－11　若狭高(福井)

2回戦　氷　見　20－10　石川県工

準決勝　氷　見　10－11　坂城高(長野)

女　子

2回戦　有　磯　12－7　柏崎常盤高

準決勝　有　磯　11－14　小松高

○第21回県民体育大会

8月10日～12日　大門中学校

高校男子

1回戦　氷　見　14－8　富山高

準決勝　氷　見　8－12　小杉高

一般男子

準決勝　氷見ク　18－6　射水ク

決　勝　氷見ク19($\frac{13-1}{6-9}$)10二上工OB

一般女子

準決勝　氷見ク　11－5　富女高OG

決　勝　氷見ク　6($\frac{3-0}{3-2}$)2高女高OG

○第23回国民体育大会北信越地区予選

8月17日・18日　柏崎工業高校

一般男子

準決勝　氷見ク　20－15　北農ク（長野）

決　勝　氷見ク20($\frac{11-4}{9-2}$)6県工ク（石川）

一般女子

決　勝　氷見ク17($\frac{7-4}{10-4}$)8小諸ク（長野）

○第23回国民体育大会

10月2日～6日　福井県高浜町

一般男子

1回戦　氷見ク　11－18　三　景（東京）

一般女子

1回戦　氷見ク　8－22　大阪スターズ

○秋季選手権大会

11月3日・10日　富山女子高校

高校男子

1回戦　氷　見　8－11　高岡高

高校女子

1回戦　有　磯　14－4　清光女

準決勝　有　磯　5－14　小杉高

○第8回県室内選手権大会

2月9日・16日　富山市体育館

高校男子

1回戦　氷　見　22－1　大沢野工

2回戦　氷　見　23－10　二上工

準決勝　氷　見　10－13　小杉高

高校女子

1回戦　有　磯　7－6　富山女高

準決勝　有　磯　4－10　高岡女高

一般男子

準決勝　氷見ク　30－6　高商OB

決　勝　氷見ク20($\frac{9-5}{11-5}$)10富山大学

昭和44年

○春季選手権大会兼北陸三県大会予選

5月4日・11日　小杉高校

高校男子

1回戦　氷　見　31－6　雄山高

2回戦　氷　見　12－13　小杉高

高校女子

1回戦　有　磯　不戦勝　高岡高

準決勝　有　磯　4－20　小杉高

一般男子

1回戦　氷見ク　12－6　高岡三日会

準決勝　氷見ク　12－5　富山大学

決　勝　氷見ク11($\frac{5-2}{6-4}$)6クレハ自動車

一般女子

準決勝　氷見ク　2－3　高女高OG

○第20回全国高校総体県予選兼北信越高校選手権大会県予選

6月1日・8日　小杉高校

男　子

1回戦　氷　見　15－7　富山商

2回戦　氷　見　12－11　高岡商

準決勝　氷　見　18－10　八尾高

決　勝　氷　見11($\frac{4-7}{7-9}$)16小杉高

女　子

1回戦　有　磯　5－3　富山女

準決勝　有　磯　1－15　高岡女

○ 第１６回北陸三県総合体育大会

６月１５日　福井県羽水高校

一般男子

リーグ戦　氷見ク　１７－１１　金沢市役所

リーグ戦　氷見ク　１８－２０　全福井

（氷見クラブ　第２位）

○ 第５回北信越高校選手権大会

６月２１日・２２日　福井県羽水高校

男　子

２回戦　氷　見　１９－９　金工大附

準決勝　氷　見　１４－９　柏崎工

決　勝　氷　見15($\frac{10-6}{5-10}$)16小杉高

○ 全日本総合選手権大会県予選

７月１３日　高岡高校

一般男子

リーグ戦　氷見ク　２４－７　富山大学

リーグ戦　氷見ク　２３－４　高岡三日会

（氷見クラブ　第１位）

○ 第２２回県民体育大会兼国民体育大会県予選

８月３日・９日・１０日　大門中学校

高校男子

１回戦　氷　見　２８－１１　富山工

準決勝　氷　見　２３－３　富山商

決　勝　氷　見17($\frac{8-6}{9-8}$)14小杉高

一般男子

準決勝　氷見ク　２７－２　クレハ自動車

決　勝　氷見ク27($\frac{17-10}{10-8}$)18射水ク

一般女子

リーグ戦　氷見ク　６－６　高女高ＯＧ

リーグ戦　氷見ク　６－２　富女高ＯＧ

（氷見クラブ　第２位）

○ 第２１回全日本総合選手権大会

８月９日～１３日　岩手県盛岡市

男　子

１回戦　氷見ク　１２－２１　本田技研（三重）

○ 第２４回国民体育大会北信越地区予選

９月６日・７日　福井県羽水高校

高校男子

準決勝　氷　見　２５－１２　石川県工

決　勝　氷　見　１０－９　羽水高（福井）

一般男子

準決勝　氷見ク　２８－１２　柏崎工ＯＢ

決　勝　氷見ク20($\frac{9-6}{11-10}$)16石川県工ク

一般女子

２　位　　全　富　山

○ ナショナルチーム親善大会

９月８日　高岡高校体育館

氷見クラブ　１３－２５　ナショナルチーム

○ 第２４回国民体育大会

１０月２７日～３１日　長崎県

高校男子

１回戦　氷　見　１６－１８　長崎選抜

一般男子

１回戦　氷見ク　１３－１５　全神奈川

○ 秋季選手権大会

１１月１６日・２３日　二上工業高校

高校男子

１回戦　氷　見　９－６　小杉高

２回戦　氷　見　６－１２　二上工

高校女子

１回戦　有　磯　２０－３　高岡高

準決勝　有　磯　３－１６　富山女

○ 第９回県室内選手権大会

２月８日・１５日　富山市体育館

高校男子

１回戦　氷　見　８－７　富山商

２回戦　氷　見　０－７　小杉高

高校女子

１回戦　有　磯　１４－４　高岡高

準決勝　有　磯　５－１２　高岡女

一般男子

準決勝　氷見ク　２３－１２　富山大学

決　勝　氷見ク23($\frac{8-5}{15-5}$)10射水ク

昭和４５年

○ 春季選手権大会兼北陸三県大会予選

5月10日・17日　小杉高校

高校男子

1回戦　氷　見　26－4　大沢野工

2回戦　氷　見　22－8　二上工

準決勝　氷　見　10－9　小杉高

決　勝　氷　見11(4－6 7－6)12八尾高

高校女子

1回戦　有　磯　4－8　小杉高

一般男子

1回戦　氷見ク　不戦勝　クレハ自動車

準決勝　氷見ク　15－8　高岡三日会

決　勝　氷見ク31(17－4 14－7)11富山大学

一般女子

準決勝　比美ク　12－1　富女高OG

決　勝　比美ク14(5－3 9－4) 7小杉高OG

○ 第21回全国高校総体県予選兼第6回北信越高校選手権大会県予選

6月7日・14日　小杉高校

男　子

1回戦　有　磯　7－20　二上工

1回戦　氷　見　25－6　高岡高

2回戦　氷　見　9－10　小杉高

女　子

1回戦　有　磯　8－0　富山北

準決勝　有　磯　3－14　高岡女

○ 第17回北陸三県総合体育大会

6月21日　兼六中学校

一般男子

リーグ戦　氷見ク　26－12　金沢市役所

リーグ戦　氷見ク　15－15　全福井

（氷見クラブ　第1位）

一般女子

リーグ戦　氷見ク　4－12　小松市女OG

リーグ戦　氷見ク　8－8　全福井

（氷見クラブ　第3位）

○ 第23回県民体育大会兼第25回国民体育大会県予選

8月8日～10日　大門中学校

高校男子

1回戦　氷　見　26－7　富山商

準決勝　氷　見　20－9　高岡東高

決　勝　氷　見10(6－2 4－3) 5小杉高

一般男子

準決勝　氷見ク　25－7　射水ク

決　勝　氷見ク19(9－5 10－4) 9全高岡

一般女子

準決勝　氷見ク　12－4　小杉高OG

決　勝　氷見ク　7(3－7 4－6)13高女高OG

○ 第25回国民体育大会北信越地区予選

8月29日・30日　石川県兼六中

一般男子

決　勝　氷見ク　13－16　金沢市民ク

高校男子

決　勝　全富山　13－11　石川選抜

高校女子

1回戦　全富山　12－4　羽咋高

○ 第25回国民体育大会

10月11日～15日　岩手県盛岡市

一般男子

1回戦　氷見ク　10－14　本田技研（三重）

高校男子

1回戦　全富山　13－15　全岩手

○ 秋季選手権大会

11月1日・3日　小杉高校

高校男子

1回戦　有　磯　2－20　二上工

2回戦　氷　見　19－15　八尾高

準決勝　氷　見　10－11　高岡商

高校女子

1回戦　有　磯　8－6　小杉高

準決勝　有　磯　3－1　高岡高

決　勝　有　磯　3－4　富山女

○第１０回県室内選手権大会

2月7日・14日　富山市体育館

高校男子

1回戦　氷　見　29－2　大沢野高

2回戦　氷　見　7－15　小杉高

高校女子

1回戦　有　磯　14－2　富山北部

準決勝　有　磯　4－7　小杉高

一般男子

準決勝　氷見ク　17－10　射水ク

決　勝　氷見ク22($\frac{10-4}{12-6}$)10 富山大学

昭和４６年

○春季選手権大会兼北陸三県大会県予選

5月5日・9日　小杉高校

高校男子

1回戦　氷　見　25－3　大沢野工

1回戦　有　磯　6－17　富山工

2回戦　氷　見　28－9　高岡商

準決勝　氷　見　11－12　小杉高

高校女子

1回戦　有　磯　9－0　高岡女

準決勝　有　磯　7－4　富山女

決　勝　有　磯　5－7　小杉高

一般男子

準決勝　氷見ク　20－2　富山大

決　勝　氷見ク30($\frac{11-2}{19-3}$) 5 高岡三日会

○第１８回北陸三県総合体育大会

6月13日　大門中学校

一般男子

リーグ戦　氷見ク　22－13　福井教員

リーグ戦　氷見ク　27－15　金沢工大

（氷見クラブ　第1位）

○全国高校総体県予選兼北信越高校選手権大会県予選

6月6日・12日・19日　小杉高校

男　子

1回戦　氷　見　28－3　大沢野工

1回戦　有　磯　1－9　富山商

2回戦　氷　見　14－19　高岡日大高

女　子

1回戦　有　磯　22－3　清光女

準決勝　有　磯　11－1　富山北部

決　勝　有　磯　6($\frac{2-3}{4-1}$) 4 小杉高

○第２２回全国高校選手権大会

8月1日～7日　愛媛県松山市

女　子

2回戦　有　磯　8－7　加納高（岐阜）

3回戦　有　磯　7－6　国学院栃木

準々決勝　有　磯　6－11　秋田和洋女

○第２４回県民体育大会

8月21日～23日　大門中学校

高校男子

1回戦　氷　見　23－7　富山工

準決勝　氷　見　11－18　小杉高

高校女子

準決勝　有　磯　10－4　富山女

決　勝　有　磯　5－4　小杉高

一般男子

準決勝　氷見ク　24－7　射水ク

決　勝　氷見ク28($\frac{14-4}{14-5}$) 9 高商ＯＢ

○第２６回国民体育大会北信越地区予選

9月4日・5日　長野県北佐久農業高校

高校女子

1回戦　有　磯　6－10　長野選抜

一般男子

1回戦　氷見ク　20－12　全石川

準決勝　氷見ク　33－14　自衛隊高田

決　勝　氷見ク27($\frac{17-13}{10-5}$)18 北陸電力（福井）

○第２６回国民体育大会

10月25日～29日　和歌山県

一般男子

1回戦　氷見ク　24－17　函館有斗ク

2回戦　氷見ク　11－25　AOK栃木

○秋季選手権大会

11月3日・7日　小杉高校

高校男子

1回戦　有　磯　6－7　高岡日大高

2回戦　氷　見　22－6　富　山　工

準決勝　氷　見　12－7　高　岡　商

決　勝　氷　見13($\frac{6}{7}-\frac{7}{7}$)14 小杉高

高校女子

1回戦　有　磯　13－0　富　山　女

準決勝　有　磯　10－5　高　岡　女

決　勝　有　磯13($\frac{7}{6}-\frac{2}{1}$) 3 富山北部

一般男子

準決勝　氷見ク　20－2　富　山　大

決　勝　氷見ク　30－5　高岡三日会

○第11回県室内選手権大会

2月5日・6日12日　富山市体育館

高校男子

1回戦　有　磯　6－5　高　岡　高

1回戦　氷　見　14－12　八尾高

2回戦　有　磯　7－10　高岡日大高

2回戦　氷　見　25－11　富山中部

準決勝　氷　見　19－18　高岡日大高

決　勝　氷　見16($\frac{8}{8}-\frac{10}{7}$)17 小杉高

高校女子

準決勝　有　磯　21－8　小　杉　高

決　勝　有　磯16($\frac{10}{6}-\frac{1}{2}$) 3 富山北部

一般男子

準決勝　氷見ク　22－8　高商OB

決　勝　氷見ク22($\frac{10}{12}-\frac{4}{4}$) 8 富山大

昭和47年

○春季選手権大会兼北陸三県大会県予選

4月29日・30日　小杉高校

高校男子

1回戦　有　磯　8－7　大沢野工

1回戦　氷　見　18－4　高　岡　高

2回戦　有　磯　8－13　八尾高

2回戦　氷　見　15－7　富山中部

準決勝　氷　見　27－15　高岡商

決　勝　氷　見19($\frac{9}{10}-\frac{7}{2}$) 9 八尾高

高校女子

準決勝　有　磯　11－3　高　岡　女

決　勝　有　磯11($\frac{7}{4}-\frac{1}{4}$) 5 小杉高

一般男子

決　勝　氷見ク19($\frac{11}{8}-\frac{3}{9}$)12 富山大

一般女子

決　勝　比美ク　6($\frac{3}{3}-\frac{9}{2}$)11 高岡女OG

○第19回北陸三県総合体育大会

6月11日　福井県羽水高校

高校男子

リーグ戦　氷　見　16－17　羽水高

リーグ戦　氷　見　20－19　石川選抜

（氷見高校　第2位）

高校女子

リーグ戦　有　磯　14－3　福　井　商

リーグ戦　有　磯　5－15　小松市女

（有磯高校　第2位）

一般男子

リーグ戦　氷見ク　23－6　福井教員

リーグ戦　氷見ク　22－17　金沢工大

（氷見クラブ　第1位）

○第23回全国高校総体予選兼北信越高校選手権大会県予選

6月3日・4日・17日・18日　小杉高校

高校男子

2回戦　有　磯　5－11　八尾高

2回戦　氷　見　20－6　二　上　工

3回戦　氷　見　12－13　高岡日大高

高校女子

準決勝　有　磯　10－3　高　岡　女

決　勝　有　磯12($\frac{4}{8}-\frac{2}{5}$) 7 小杉高

○第８回北信越高校選手権大会

６月２４日・２５日　柏崎高校

高校女子

２回戦　有　磯　１６－７　巻　高（新潟）

準決勝　有　磯　１１－１０　小諸商（長野）

決　勝　有　磯　8(5－7 / 3－2) ９小松市女(石川)

○第２３回全日本高校選手権大会

８月１日～７日　東根市

高校女子

１回戦　有　磯　１１－４　昭和学院

２回戦　有　磯　８－９　福　谷　高

○第２５回県民体育大会

８月１１日～１２日　大門中学校

高校男子

１回戦　氷　見　２２－７　富　山　商

準決勝　氷　見　４－２２　八尾高

高校女子

準決勝　有　磯　１１－０　高　岡　女

決　勝　有　磯　4(3－3 / 1－3) ６富山女

一般男子

準決勝　氷見ク　２３－５　富山想球会

決　勝　氷見ク26(13－7 / 13－10)17 射水ク

一般女子

準決勝　氷見ク　１０－６　富女高ＯＧ

決　勝　氷見ク　6(3－4 / 3－4) ８高女高ＯＧ

○第２７回国民体育大会北信越地区予選

９月９日・１０日　柏崎高校

一般男子

準決勝　氷見ク　２２－１０　金沢市役所

決　勝　氷見ク23(12－6 / 11－7)13 長野ＵＳＹ

少年男子

決　勝　全　富　山　１　位

少年女子

全　富　山　１回戦敗退

○第２７回国民体育大会

１０月２３日～２７日　鹿児島県

一般男子

１回戦　氷見ク　１４－１５　静水商ク

高校男子

準々決勝　全富山　１２－１９　下関中央工

○秋季選手権大会

１１月３日～６日　二上工・高岡商・経済学校

高校男子

１回戦　有　磯　６－１３　高岡商

１回戦　氷　見　１７－１　大沢野工

２回戦　氷　見　１０－１２　小杉高

高校女子

１回戦　有　磯　２４－４　富山北部

準決勝　有　磯　１１－２　富　山　女

決　勝　有　磯　6(1－2 / 5－2) ４高岡女

一般男子

準決勝　氷見ク　２９－１３　富山教員

準決勝　氷見ＯＢ　２１－７　想　球　会

決　勝　氷見ク16(6－5 / 10－5)10 氷見ＯＢ会

○第１２回県室内選手権大会

２月３日・４日・１０日　富山市体育館

高校男子

２回戦　氷　見　１８－１２　富山東高

２回戦　有　磯　３－６　二　上　工

３回戦　氷　見　８－２　八　尾　高

準決勝　氷　見　６－１０　高岡高

高校女子

準決勝　有　磯　８－２　小　杉　高

決　勝　有　磯　10(5－1 / 5－2) ３高岡女

一般男子

準決勝　氷見クＢ　２４－１１　富山教員

準決勝　氷見クＡ　不戦勝　想球会

決　勝　氷見クＡ13(6－3 / 7－7)10 氷見クＢ

昭和４８年

○春季選手権大会兼北陸三県大会県予選

５月３日・６日　小杉高校

高校男子

1回戦　有　磯　3－6　高岡日大高

2回戦　氷　見　23－7　富山工

3回戦　氷　見　11－7　小杉高

準決勝　氷　見　19－10　高岡日大高

決　勝　氷　見 13($\frac{5}{8}$ — $\frac{5}{3}$) 8 高岡商

高校女子

準決勝　有　磯　4－3　富山女

決　勝　有　磯 7($\frac{3}{4}$ — $\frac{2}{2}$) 4 小杉高

一般男子

決　勝　氷見ク 21($\frac{12}{9}$ — $\frac{6}{4}$)10 富山大

一般女子

有磯OG　1　位

○第20回北陸三県総合体育大会

6月10日　石川県泉六中学校

高校男子

リーグ戦　氷　見　8－7　北陸高（福井）

リーグ戦　氷　見　25－16　泉丘高（石川）

（氷見高校　第1位）

高校女子

リーグ戦　有　磯　9－9　福井商

リーグ戦　有　磯　5－13　小松市女

（有磯高校　第2位）

一般男子

リーグ戦　氷見ク　37－16　福井教員

リーグ戦　氷見ク　23－16　金沢市役所

（氷見クラブ　第1位）

一般女子

全　富　山　1回戦敗退

○第24回全国高校総体県予選兼北信越高校選手権大会県予選

6月2日～4日　小杉高校

高校男子

2回戦　氷　見　8－15　小杉高

2回戦　有　磯　13－9　富山工

3回戦　有　磯　7－11　八尾高

高校女子

準決勝　有　磯　14－3　富山女

決　勝　有　磯 3($\frac{2}{1}$ — $\frac{1}{4}$) 5 高岡女

○第9回北信越高校選手権大会

6月23日・24日　石川県立工業高校

高校女子

2回戦　有　磯　6－3　新潟女

準決勝　有　磯　4－6　小諸商（長野）

○第28回国民体育大会県予選

7月8日　高岡商業高校

一般男子

準決勝　氷見ク　33－12　高岡商OB

決　勝　氷見ク 28($\frac{15}{13}$ — $\frac{7}{8}$)15 想球会

一般女子

決　勝　氷見ク 13($\frac{7}{6}$ — $\frac{0}{4}$) 4 富女商OG

○第26回県民体育大会

8月11日～13日　高岡商業高校

高校男子

準決勝　氷　見　10－9　富山高

決　勝　氷　見 15($\frac{6}{9}$ — $\frac{6}{3}$) 9 小杉高

高校女子

準決勝　有　磯　5－4　富山女

決　勝　有　磯 5($\frac{1}{4}$ — $\frac{5}{4}$) 9 高岡女

一般男子

決　勝　氷見ク 33($\frac{17}{16}$ — $\frac{6}{9}$)15 想球会

一般女子

準決勝　氷見ク　10－4　富女高OG

決　勝　氷見ク 15($\frac{7}{8}$ — $\frac{4}{7}$)11 高女高OG

○第28回国民体育大会北信越地区予選

8月25日・26日　福井県羽水高校

一般男子

準決勝　氷見ク　22－20　北陸電力（福井）

決　勝　氷見ク　23－22　金沢市役所

高校男子

全　富　山　2回戦敗退

高校女子　全　富　山　1回戦敗退

一般女子

全　富　山　1回戦敗退

○第２８回国民体育大会

１０月１５日～１９日　千葉県

一般男子

１回戦　氷見ク　１６－１７　丸善石油下津

○秋季選手権大会

１１月３日・４日・１１日　二上工業高校

高校男子

２回戦　有　磯　７－１８　富山高

２回戦　氷　見　２３－２　大沢野工

３回戦　氷　見　２１－３　雄　山　高

準決勝　氷　見　１４－１３　高岡高

決　勝　氷　見 11($\frac{7}{4}$ $\frac{5}{4}$) ９　二上工

高校女子

１回戦　有　磯　５－４　富山北部

準決勝　有　磯　６－５　高　岡　女

決　勝　有　磯 7($\frac{5}{2}$ $\frac{3}{3}$) 6 富山女

一般男子

準決勝　氷見ク　１５－１４　富山大

決　勝　氷見ク 18($\frac{11}{7}$ $\frac{4}{7}$)11 想球会

○第１３回県室内選手権大会

２月２日・３日・９日　富山市体育館

高校男子

２回戦　氷　見　１６－１１　小杉高

３回戦　氷　見　１７－８　富　山　商

準決勝　氷　見　１９－６　富　山　高

決　勝　氷　見 10($\frac{3}{7}$ $\frac{2}{5}$) ７　八尾高

高校女子

準決勝　有　磯　３－１１　小杉高

一般男子

準決勝　氷見ク　１９－９　富　山　大

決　勝　氷見ク 27($\frac{22}{5}$ $\frac{6}{4}$)10 想球会

昭和４９年

○春季選手権大会兼北陸三県大会予選

４月２８日・２９日　５月３日　小杉高校

高校男子

２回戦　氷　見　２８－１１　富山高

３回戦　氷　見　１０－１４　高岡商

高校女子

１回戦　有　磯　１５－５　富山北部

準決勝　有　磯　５－７　小　杉　高

一般男子

準決勝　氷見ク　２２－１０　八尾ク

決　勝　氷見ク 11($\frac{4}{7}$ $\frac{7}{7}$)14 想球会

一般女子

決　勝　比美ク 11($\frac{6}{5}$ $\frac{1}{3}$) ４高女高ＯＧ

○第２１回北陸三県総合体育大会

６月９日　氷見高校

一般女子

リーグ戦　比　美　ク　８－７　全　福　井

リーグ戦　比　美　ク　２－１３　小松市女ＯＧ

（比美クラブ　第２位）

○第２５回全国高校総体県予選兼北信越高校選手権大会県予選

６月１日～３日　小杉高校

男　子

１回戦　有　磯　４－２１　伏木高

２回戦　氷　見　１６－８　八　尾　高

３回戦　氷　見　３６－３　大沢野工

準決勝　氷　見　１８－１４　高岡日大高

決　勝　氷　見 14($\frac{9}{5}$ $\frac{3}{5}$) ８　高岡商

女　子

１回戦　有　磯　９－８　富山女子

準決勝　有　磯　５－８　高　岡　女

○第１０回北信越高校選手権大会

６月２２日・２３日　福井県羽水高校

男　子

２回戦　氷　見　１７－８　屋代高（長野）

準決勝　氷　見　１８－１３　泉丘高（石川）

決　勝　氷　見 17($\frac{8}{9}$ $\frac{4}{5}$) ９　高岡商

○第２５回全日本高校選手権大会

８月１日～７日　北九州市

男　子

1回戦　氷　見　16－17　桃山学院(大阪)

○第27回県民体育大会兼国民体育大会県予選

7月29日・30日　8月11日

呉羽中学校

高校女子

準決勝　有　磯　10－7　高岡女

決　勝　有　磯　9(5－0, 4－1)1 清光女

一般男子

準決勝　氷見ク　20－6　八尾ク

決　勝　氷見ク 17(11－7, 6－5)12 HHC

一般女子

決　勝　氷見ク 10(3－3, 7－2) 5 高女高OG

○第29回国民体育大会北信越地区予選

8月24日・25日　氷見高校

一般男子

準決勝　氷見ク　34－11　柏崎ク

決　勝　氷見ク 26(13－5, 13－8)13 金沢市役所

一般女子

準決勝　氷見ク　12－13　小諸商ク

高校男子

全　富　山　1位

高校女子

全　富　山　1位

○第29回国民体育大会

10月21日～25日　茨城県

一般男子

1回戦　氷見ク　23－18　神戸製鋼(兵庫)

2回戦　氷見　ク　9－19　大崎電気(埼玉)

少年男子

全　富　山　1回戦敗退

○秋季選手権大会

11月2日～4日　二上工業高校

高校男子

2回戦　氷　見　17－8　小杉高

2回戦　有　磯　6－7　二上工

3回戦　氷　見　15－3　富山東

準決勝　氷　見　11－8　高岡日大高

決　勝　氷　見 23(10－10, 13－5)15 高岡商

高校女子

1回戦　有　磯　8－7　小杉高

準決勝　有　磯　5－2　高岡女

決　勝　有　磯 17(7－1, 10－0) 1 富山北部

○第14回県室内選手権大会

2月1日・2日・8日　富山市体育館

高校男子

1回戦　氷　見　15－7　富山東

1回戦　有　磯　7－10　富山北部

2回戦　氷　見　18－4　八尾高

準決勝　氷　見　27－5　富山北部

決　勝　氷　見　9(4－7, 5－7)14 高岡日大

高校女子

1回戦　有　磯　18－0　高岡高

準決勝　有　磯　16－2　富山女

決　勝　有　磯　4(2－2, 2－3) 5 小杉高

一般男子

準決勝　氷見クA　20－12　HHC

準決勝　氷見クB　11－12　想球会

決　勝　氷見クA　12－15　想球会

昭和50年

○春季選手権大会兼北陸三県大会県予選

4月29日　5月3日・4日　小杉高校

高校男子

2回戦　氷　見　18－8　高岡商

3回戦　氷　見　28－4　富山東

準決勝　氷　見　28－8　八尾高

決　勝　氷　見 17(9－5, 8－3) 8 高岡日大

高校女子

1回戦　有　磯　32－0　清光女

準決勝　有　磯　19－1　高岡商

決　勝　有　磯　8(5－3, 3－2) 5 高岡女

一般男子

準決勝　氷見ク　30－11　八尾ク

決　勝　　氷見ク13($\frac{7-12}{6-14}$)26 HHC

一般女子

有磯OG　　1位

○第２２回北陸三県総合体育大会

6月8日　福井市

高校男子

リーグ戦　氷　見　２２－１３　若狭高

リーグ戦　氷　見　１４－１４　小松工

（氷見高校　第1位）

高校女子

リーグ戦　有　磯　１６－１２　武生商

リーグ戦　有　磯　２－１３　小松市女

（有磯高校　第2位）

一般女子

リーグ戦　比美ク　１２－１６　全福井

リーグ戦　比美ク　１－１２　北国銀行

（比美クラブ　第3位）

○第２６回全国高校総体県予選兼北信越高校選手権大会県予選

5月31日　6月1日・2日　小杉高校

男　子

1回戦　有　磯　１１－１１　富山北部

（有磯高校　抽選勝）

2回戦　氷　見　２３－０　有　磯

3回戦　氷　見　３３－４　高岡高

準決勝　氷　見　２３－６　伏木高

決　勝　氷　見10($\frac{4-2}{6-7}$) 9高岡日大高

女　子

2回戦　有　磯　１４－２　高岡商

準決勝　有　磯　１７－１　富女短付

決　勝　有　磯5($\frac{2-4}{3-2}$) 6小杉高

○第１１回北信越高校選手権大会

6月21日・22日　氷見運動公園

男　子

1回戦　氷　見　２４－７　上田高（長野）

2回戦　氷　見　１８－５　柏崎工（新潟）

準決勝　氷　見　１７－８　若狭高（福井）

決　勝　氷　見12($\frac{6-4}{6-5}$) 9高岡日大

女　子

1回戦　有　磯　１４－２　巻　高（新潟）

2回戦　有　磯　１１－１０　小諸商（長野）

準決勝　有　磯　１２－３　武生商（福井）

決　勝　有　磯　2($\frac{1-4}{1-6}$)10 小松市女

○第２６回全日本高校選手権大会

8月1日～7日　山梨県塩山市

男　子

1回戦　氷　見　１４－８　岐阜商

2回戦　氷　見　１６－１７　久留米工大附

○第２８回県民体育大会

8月9日～11日　小杉高校

高校男子

準決勝　氷　見　１８－９　富山高

決　勝　氷　見13($\frac{7-2}{6-5}$)7 高岡日大

高校女子

準決勝　有　磯　７－６　高岡女

決　勝　有　磯　7($\frac{3-2}{4-2}$) 4小杉高

一般男子

準決勝　氷見ク　２６－１０　八尾ク

決　勝　氷見ク　第1位

○第３０回国民体育大会県予選

7月6日　高岡商業高校

一般男子

準決勝　氷見ク　２９－４　想球会

決　勝　氷見ク15($\frac{9-5}{6-7}$)12 HHC

○第３０回国民体育大会北信越地区予選

8月30日・31日　小松市芦城中学校

成年男子

1回戦　氷見ク　２０－１６　金沢市役所

準決勝　氷見ク　２６－９　北電福井

決　勝　氷見ク16($\frac{8-4}{8-7}$)11 全長野

成年女子

準決勝　比美ク　１－２２　北国銀行

高校男子

全富山　ベスト4

高校女子

全　富　山　　1回戦負

○第３０回国民体育大会

１０月２７日～３１日　三重県

成年男子

1回戦　　氷見ク　１３－１９　徳山ク

○秋季選手権大会

１１月2日・3日・9日　八尾中学校

八尾高校

高校男子

1回戦　　氷　　見　不戦勝　富山中部

2回戦　　有　　磯　６－１８　二上工

2回戦　　氷　見　２０－３　富山工

3回戦　　氷　見　１３－９　伏木高

準決勝　　氷　見　１４－６　二上工

決　勝　　氷　見 13($\frac{6}{7}-\frac{4}{6}$)10 高岡日大

高校女子

2回戦　　有　　磯　９－２　高岡商

準決勝　　有　磯　１７－２　富山女

決　勝　　有　磯　6($\frac{1}{5}-\frac{1}{4}$) 5 小杉高

一般男子

1回戦　氷見クB　２１－４　想球会

準決勝　氷見クA　１９－１４　八尾ク

準決勝　氷見クB　１３－７　ＨＨＣ

決　勝　氷見クA 18($\frac{8}{10}-\frac{9}{7}$)16 氷見クB

○第１５回県室内選手権大会

2月1日・8日 高岡高校 高岡工芸高体育館

高校男子

1回戦　　氷　見　１４－１１　富山高

2回戦　　氷　見　２８－１　雄山高

準決勝　　氷　見　１７－６　小杉高

決　勝　　氷　見 17($\frac{11}{6}-\frac{4}{8}$)12 高岡日大

高校女子

2回戦　　有　磯　１７－２　高岡商

準決勝　　有　　磯　８－３　高岡女

決　勝　　有　磯　8($\frac{4}{4}-\frac{2}{4}$) 6 小杉高

一般男子

1回戦　氷見クB　２１－１０　想球会

準決勝　氷見クA　２１－１４　八尾ク

準決勝　氷見クB　１３－２１　ＨＨＣ

決　勝　氷見クA 14($\frac{6}{8}-\frac{6}{6}$)12 ＨＨＣ

昭和５１年

○春季選手権大会兼全国高校総体県予選兼北信越高校選手権大会県予選

4月２９日　5月2日・3日　小杉高校

全国高校総体出場チーム　1位2位　決定戦

高校男子　氷　見　２０－８　高岡日大

高校女子　有　磯　１０－６　高岡女

一般男子　氷　見　ク　　1位

一般女子　有 磯 ＯＧ　　1位

○北陸三県大会県予選

5月２３日　氷見高校

一般男子

準決勝　　氷見ク　１９－７　八尾ク

決　勝　　氷見ク 30($\frac{15}{15}-\frac{8}{10}$)18 ＨＨＣ

○第２３回北陸三県総合体育大会

6月１３日　金美大体育館　森六中体育館

一般男子

リーグ戦　氷見ク　２２－１５　福井教員

リーグ戦　氷見ク　１８－１７　金沢市役所

（氷見クラブ　第1位）

一般女子

全　富　山　　3位

○第１２回北信越高校選手権大会

6月１９日・２０日　長野県戸倉小学校

高校男子

2回戦　　氷　見　２６－７　上田高（長野）

準決勝　　氷　見　１６－５　屋代高（長野）

決　勝　　氷　見 22($\frac{10}{12}-\frac{9}{7}$)16 坂城高（長野）

高校女子

2回戦　　有　磯　１２－７　北陸大谷高（福井）

準決勝　　有　磯　１２－３　高志高（福井）

決　勝　有　磯　9(4−3 5−3) 6 小松市女

○第２７回全日本高校選手権大会

8月1日～7日　氷見市

男　子

1回戦　氷　見　２１－１０　四日市工(三重)

2回戦　氷　見　２５－４　市立境港工

3回戦　氷　見　１６－１３　麻生高(茨城)

準々決勝　氷　見　１６－１４　大分東高

準決勝　氷　見　１９－１０　川口工(埼玉)

決　勝　氷　見11(4−7 7−9)16 下関中央工

女　子

1回戦　有　磯　１４－７　函館女商

2回戦　有　磯　８－４　佐世保商

3回戦　有　磯　９－９　水海道第二商

(抽　選　負)

○第２９回県民体育大会兼国民体育大会県予選

8月7日～9日　氷見運公園(中学・高校)

7月11日　高岡商業(一般)

高校男子

準決勝　氷　見　３１－５　八尾高

決　勝　氷　見27(14−6 13−8)14 高岡商

高校女子

準決勝　有　磯　２－８　小杉高

一般男子

準決勝　氷見ク　３２－１０　想球会

決　勝　氷見ク19(11−5 8−10)15 ＨＨＣ

○第３１回国民体育大会北信越地区予選

8月28日・29日　柏崎市第一中学校

少年男子

1回戦　氷　見　２０－９　新潟選抜

準決勝　氷　見　２３－１５　石川選抜

決　勝　氷　見16(10−6 6−6)12 坂城高(長野)

少年女子

準決勝　有　磯　８－３　福井選抜

決　勝　有　磯　5(3−4 2−5) 9 小松市女

成年男子

1回戦　氷見ク　２６－１１　光陽会(福井)

代表決定戦　氷見ク１７－２１金沢市役所

一般女子

全　富　山　1回戦敗退

○第３１回国民体育大会

10月25日～29日　佐賀県

少年男子

準々決勝　氷　見　８－１３　新居浜工

○秋季選手権大会

11月7日・14日　氷見高校　有磯高校

高校男子

2回戦　氷　見　２４－１　富山中部

3回戦　氷　見　２４－１　小杉高

準決勝　氷　見　３５－６　八尾高

決　勝　氷　見29(16−4 13−1) 5 高岡商

高校女子

2回戦　有　磯　２５－０　高岡高

準決勝　有　磯　５－４　小杉高

決　勝　有　磯11(9−4 2−2) 6 高岡女

○第１５回県室内選手権大会

1月29日・30　高岡市体育館

2月6日　富山市体育館

高校男子

2回戦　氷　見　２３－２　滑川高

3回戦　氷　見　３３－６　二上工

準決勝　氷　見　２３－２　高岡日大

決　勝　氷　見16(5−9 11−4)13 高岡商

高校女子

2回戦　有　磯　３７－０　清光女

3回戦　有　磯　１１－８　小杉高

決　勝　有　磯10(5−2 5−4) 6 高岡女

一般男子

準決勝　氷見ク　２３－１４　八尾ク

決　勝　氷見ク20(11−4 9−9)13 ＨＨＣ

昭和５２年

○春季選手権大会兼北陸三県大会県予選

5月1日・3日・5日　小杉高校

高校男子

2回戦　氷　見　28－5　富山中部

3回戦　氷　見　38－2　富山東

準決勝　氷　見　19－4　高岡日大

決　勝　氷　見 27($\frac{11-4}{16-2}$) 6 小杉高

高校女子

2回戦　有　磯　13－3　富山女

準決勝　有　磯　38－2　高岡高

決　勝　有　磯　4－3　小杉高

一般男子

準決勝　氷見ク　15－20　富山教員

一般女子

有　磯　O　G　1位

○第24回北陸三県総合体育大会

6月12日　氷見高校

高校男子

リーグ戦　氷　見　24－11　福井選抜

リーグ戦　氷　見　23－13　小松工

（氷見高校　第2位）

高校女子

リーグ戦　有　磯　6－5　福井選抜

リーグ戦　有　磯　7－12　小松市女

（有磯高校　第2位）

成年女子

リーグ戦　有磯OG　5－14　全福井

リーグ戦　有磯OG　2－13　北国銀行

（有磯OG　第3位）

○全国高校総体県予選兼北信越高校選手権大会県予選

6月4日～6日　小杉高校

男　子

2回戦　氷　見　33－9　高岡高

3回戦　氷　見　28－3　富山東

準決勝　氷　見　19－6　高岡商

決　勝　氷　見 21($\frac{7-2}{14-2}$) 4高岡日大

女　子

2回戦　有　磯　9－4　高岡女

準決勝　有　磯　29－2　富女短付

決　勝　有　磯 6($\frac{3-3}{3-2}$) 5 小杉高

○第13回北信越高校選手権大会

6月25日・26日　柏崎高校　柏崎工業高校

男　子

1回戦　氷　見　25－5　中条高（新潟）

2回戦　氷　見　22－11　小松工

準決勝　氷　見　23－2　坂城高（長野）

決　勝　氷　見 28($\frac{13-3}{15-4}$) 7 北陸高（福井）

女　子

2回戦　有　磯　13－6　松本美須々丘高

準決勝　有　磯　5－1　武生高（福井）

決　勝　有　磯 6($\frac{4-7}{2-4}$)11 小松市女

○国民体育大会県予選

7月10日　氷見高校

成年男子

準決勝　氷見ク　14－12　HHC

決　勝　氷見ク 18($\frac{8-7}{10-3}$)10 富山教員

○第28回全日本高校選手権大会

8月1日～7日　山口市

男　子

2回戦　氷　見　26－6　塩山商（山梨）

3回戦　氷　見　25－15　御坊商工（和歌山）

準々決勝　氷　見　18－14　小倉西高（福岡）

準決勝　氷　見　19－12　佐世保西（長崎）

決　勝　氷　見 16($\frac{10-9}{6-10}$)19 下関中央工(山口)

女　子

1回戦　有　磯　7－4　国分実業（鹿児島）

2回戦　有　磯　12－5　群馬女短附

3回戦　有　磯　3－15　山陽女（広島）

○第1回全国クラブ選手権大会

7月16日・17日　静岡市

男　子

2回戦　氷見ク　18－15　青森ク

3回戦　氷見ク　15－13　徳山ク

準決勝　氷見ク　16－21　高知ク

○第３０回県民体育大会

８月６日～８日　高岡商業高校

高校女子

準決勝　有　磯　１７－５　高岡商

決　勝　有　磯　6($\frac{2}{4}$—$\frac{2}{3}$)５小杉高

一般男子

準決勝　氷見ク　１７－７　想球会

決　勝　氷見ク 24($\frac{12}{12}$—$\frac{10}{6}$)16 HHC

○第３２回国民体育大会北信越地区予選

８月２０日・２１日　長野県戸倉町

少年男子

準決勝　氷　見　１８－１０　福井選抜

決　勝　氷　見 21($\frac{9}{12}$—$\frac{5}{6}$)11 長野選抜

成年女子

準決勝　有磯ＯＧ　１－２５　北国銀行

少年女子

準決勝　全富山　８－１１　小松市女

○第３２回国民体育大会

１０月４日～７日　青森県

少年男子

準々決勝　氷　見　２１－１０　愛知選抜

準決勝　氷　見　１８－３　青森選抜

決　勝　氷　見 18($\frac{9}{9}$—$\frac{8}{8}$)16 福岡選抜

（氷見高校１９年ぶり２回目の優勝）

成年男子

１回戦　氷見ク　１９－１４　徳山ク

２回戦　氷見ク　２７－２０　京都ク

３回戦　氷見ク　１７－３０　三　景

○秋季選手権大会兼第１回全国高校選抜大会県予選

１１月６日・１３日・２０日

氷見高校　有磯高校　富山市体育館

高校男子

１回戦　氷　見　２５－２　伏木高

２回戦　氷　見　１７－４　二上工

３回戦　氷　見　２３－１１　富山中部

準決勝　氷　見　２７－６　小杉高

決　勝　氷　見 15($\frac{7}{8}$—$\frac{5}{6}$)11 高岡商

高校女子

２回戦　有　磯　３０－５　清光女

準決勝　有　磯　２２－１　富山東

決　勝　有　磯　7($\frac{6}{1}$—$\frac{5}{3}$)８小杉高

一般男子

１回戦　氷見クＡ　不戦勝　氷見クＢ

準決勝　氷見クＡ　１９－１１　富山大

決　勝　氷見クＡ 27($\frac{10}{17}$—$\frac{10}{9}$)19 富山教員

○第１回北信越室内高校新人選手権大会兼第１回全国高校選抜大会北信越地区予選

１月１５日・１６日　金沢美術工芸大学

男　子

準決勝　氷　見　２０－１３　北陸高（福井）

決　勝　氷　見　１１－６　坂城高（長野）

○第１７回県室内選手権大会

１月２８日・２９日　２月５日

富山市体育館

高校男子

２回戦　氷　見　２４－７　富山商

３回戦　氷　見　２９－５　新湊高

準決勝　氷　見　２４－６　富工高専

決　勝　氷　見 18($\frac{11}{7}$—$\frac{6}{7}$)13 高岡商

高校女子

２回戦　有　磯　１０－４　高岡商

準決勝　有　磯　８－４　高岡日大

決　勝　有　磯　6($\frac{2}{4}$—$\frac{2}{1}$)３小杉高

一般男子

１回戦　氷見クＡ　２４－６　想球会

１回戦　氷見クＢ　１７－１０　高商ク

準決勝　氷見クＡ　１５－１３　氷見クＢ

決　勝　氷見クＡ 19($\frac{9}{10}$—$\frac{7}{6}$)13 八尾ク

○第１回全国高校選抜選手権大会

３月２６日～２８日　愛知県体育館

男　子

１回戦　氷　見　１９－１０　函館有斗

２回戦　氷　見　９－１２　久留米工大附

昭和５３年

○ 春季選手権大会兼北陸三県大会県予選

4月29日・30日　5月3日　富山高校

高校男子

2回戦　氷　見　19－5　八尾高

3回戦　氷　見　15－9　二上工

準決勝　氷　見　15－9　高岡日大

決　勝　氷　見 14($\frac{4}{10}$－$\frac{2}{5}$) 7 高岡商

高校女子

2回戦　有　磯　9－6　高岡日大

準決勝　有　磯　12－5　高岡女

決　勝　有　磯 5($\frac{2}{3}$－$\frac{1}{1}$) 2 小杉高

一般男子

氷　見　ク　1位

一般女子

有　磯　O　G　1位

○ 第25回北陸三県総合体育大会

6月11日　福井県羽水高

成年男子

リーグ戦　氷見ク　25－19　金沢市役所

リーグ戦　氷見ク　21－17　全福井

（氷見クラブ　第1位）

成年女子

リーグ戦　有磯OG　1－22　北国銀行

リーグ戦　有磯OG　11－13　全福井

（有磯OG　第3位）

○全国高校総体県予選兼北信越高校選手権大会県予選

6月3日～5日　小杉高校

男　子

2回戦　氷　見　36－6　富山高

3回戦　氷　見　33－7　高岡南

準決勝　氷　見　10－5　高岡日大

決　勝　氷　見 22($\frac{13}{9}$－$\frac{3}{4}$) 7 高岡商

女　子

2回戦　有　磯　8－4　高岡女

準決勝　有　磯　13－2　高岡日大

決　勝　有　磯 14($\frac{6}{8}$－$\frac{1}{2}$) 3 高岡商

○ 第14回北信越高校選手権大会

6月24日・25日　石川県実践倫理記念会館

男　子

2回戦　氷　見　21－13　北佐久農（長野）

準決勝　氷　見　23－18　北陸高（福井）

決　勝　氷　見 21($\frac{9}{12}$－$\frac{5}{5}$)10 小松工

（5連勝　6回目の優勝）

女　子

1回戦　有　磯　13－2　北陸大谷高（福井）

準決勝　有　磯　3－7　新潟江南

○ 第29回全日本高校選手権大会

8月1日～7日　福島県郡山市

男　子

2回戦　氷　見　19－8　花巻北高（岩手）

3回戦　氷　見　22－17　中大附（東京）

準々決勝　氷　見　19－13　熊本マリスト学園

準決勝　氷　見　14－15　久留米工大附（福岡）

（氷見高校　第3位）

女　子

1回戦　有　磯　5－4　水海道二（茨城）

2回戦　有　磯　8－10　新居浜市商

○ 第31回県民体育大会兼第33回国民体育大会県予選　8月5日～7日　呉羽中学校

成年男子

準決勝　氷見ク　11－10　富山教員

決　勝　氷見ク 24($\frac{12}{12}$－$\frac{8}{3}$)11 射水ク

（20連勝）

成年女子

1回戦　有磯OG　7－18　桜球会

○第33回国民体育大会北信越地区予選

8月26日・27日　福井県羽水高校

少年男子

準決勝　氷　見　31－10　中越高（新潟）

決　勝　氷　見　19－7　石川選抜

成年男子

リーグ戦　氷見ク　21－19　全福井

リーグ戦　氷見ク　11－12　金沢市役所

リーグ戦　氷見ク　42－12　新潟教員

（氷見クラブ　第2位）

少年女子

全　富　山　　2位

○第33回国民体育大会

10月16日～20日　長野県

少年男子

2回戦　氷　見　13－10　愛知選抜

準決勝　氷　見　22－14　山口選抜

決　勝　氷　見　12－11　富岡高（群馬）

（氷見高校3回目の優勝　2連覇）

成年男子

1回戦　氷見ク　24－29　湯沢ク

少年女子

1回戦　全富山　10－13　新居浜市商

○秋季選手権大会兼全国高校選抜大会県予選

11月5日・12日・19日

小杉高校　富山市体育館

高校男子

1回戦　氷　見　30－2　富山東

2回戦　氷　見　27－2　富山高

3回戦　氷　見　34－2　富山商

準決勝　氷　見　29－5　高岡商

決　勝　氷　見21（11－1／10－4）5高岡日大（15回目の優勝）

高校女子

1回戦　有　磯　11－3　富山北部

2回戦　有　磯　16－5　清光女

準決勝　有　磯　10－4　小杉高

決　勝　有　磯11（7－3／4－5）8富山女

（2年ぶり　13回目の優勝）

一般男子

準決勝　氷見ク　15－13　富山教員

決　勝　氷見ク　18－15　射水ク（7回目の優勝）

○第2回北信越室内高校新人選手権大会兼全国高校選抜大会北信越地区予選

1月14日・15日　柏崎高校

男　子

1回戦　氷　見　33－6　北陸高（福井）

準決勝　氷　見　15－8　小松高（石川）

決　勝　氷　見18（9－3／9－5）8坂城高（長野）

（2連勝）

女　子

1回戦　有　磯　8－3　新潟江南

準決勝　有　磯　6－7　仁愛女（福井）

○第18回県室内選手権大会

1月28日　2月4日・12日 富山市体育館

高校男子

2回戦　氷　見　20－2　二上工

3回戦　氷　見　37－3　富山商

準決勝　氷　見　25－7　新湊高

決　勝　氷　見18（9－3／9－6）9高岡日大

（9回目の優勝）

高校女子

2回戦　有　磯　16－1　小杉高

準決勝　有　磯　14－7　富女短付

決　勝　有　磯　9－8　高岡日大

（8回目の優勝）

一般男子

準決勝　氷見ク　14－12　富山教員

決　勝　氷見ク20（9－6／11－8）14射水ク（17回目の優勝）

○第2回全国高校選抜選手権大会

3月25日～27日　愛知県体育館

男　子

1回戦　氷　見　11－13　中京高（愛知）

昭和54年

○春季選手権大会兼北陸三県大会県予選

5月3日・5日・6日　高岡日大高校

高校男子

2回戦　氷　見　19－5　小杉高

3回戦　氷　見　24－4　伏木高

準決勝　氷　見　17－2　二上工

決　勝　氷　見 22(11－5 15－3) 8 高岡日大

（１５回目の優勝）

高校女子

2回戦　有　磯　１９－3　富 山 女

準決勝　有　磯　３１－4　清 光 女

決　勝　有　磯 14(8－0 6－1) 1 高岡日大

（１０回目の優勝）

一般男子

準決勝　氷見ク　１１－8　富山教員

決　勝　氷見ク 27(13－3 14－6) 9 富山大学

（１６回目　優勝）

一般女子

準決勝　有磯ＯＧ　７－１４　桜球会

○ 第２６回北信越三県総合体育大会

6月１０日　金沢美術工芸大学

成年男子

リーグ戦　氷見ク　２４－２４　金沢市役所

リーグ戦　氷見ク　１４－２１　全福井

（氷見クラブ　第3位）

○ 全国高校総体県予選兼北信越高校選手権大会県予選

6月2日～4日　小杉高校

男　子

2回戦　氷　見　３６－2　伏 木 高

3回戦　氷　見　２９－6　富 山 工

準決勝　氷　見　２９－5　高 岡 商

決　勝　氷　見 14(6－2 8－5) 7 高岡日大

（１８回目　優勝）

女　子

2回戦　有　磯　１１－5　富女短付

準決勝　有　磯　１４－3　高 岡 商

決　勝　有　磯　8(4－4 4－5) 9 高岡日大

○ 第１５回北信越高校選手権大会

6月２３日・２４日　氷見高校　有磯高校

男　子

2回戦　氷　見　１５－１４　坂城高（長野）

準決勝　氷　見　２２－8　小 松 工

決　勝　氷　見 20(9－7 11－6)13 北佐久農

（７回目の優勝）

女　子

1回戦　有　磯　１４－3　武 生 商

2回戦　有　磯　8－5　新潟江南

3回戦　有　磯　5－１０　小松市女

○ 第３０回全日本高校選手権大会

8月1日～１０日　神戸市

男　子

2回戦　氷　見　２３－１５　北佐久農（長野）

3回戦　氷　見　２５－１２　大曲農（秋田）

準々決勝　氷　見　１８－１１　桃山学院（大阪）

準決勝　氷　見　１８－１５　小林工（宮崎）

決　勝　氷　見 14(10－5 4－12)17 中京高（愛知）

（氷見高校　第2位）

○ 第３２回県民体育大会兼国民体育大会県予選

7月２１日・２２日　7月２８日・２９日

8月１１日・１２日　高岡日大高校

少年男子

2回戦　氷　見　２４－4　高 岡 高

3回戦　氷　見　２６－8　富 山 高

準決勝　氷　見　３１－１０　八尾高

決　勝　氷　見 24(10－5 14－5)10 高岡商（17回目の優勝）

少年女子

2回戦　有　磯　１３－2　富 山 女

準決勝　有　磯　１８－2　小 杉 高

決　勝　有　磯 24(12－3 12－2) 5 清光女（11回目の優勝）

成年男子

準決勝　氷見ク　３１－１２　射水ク

決　勝　氷見ク 12(6－7 6－8)15 富山教員

成年女子

準決勝　有磯ＯＧ　１８－5　想球会

決　勝　有磯ＯＧ 14(10－2 4－5) 7 桜球会（7回目の優勝）

○ 国民体育大会北信越地区予選

8月２５日・２６日　金沢美術工芸大学

少年男子

1回戦　氷　見　３４－１０　新潟選抜

準決勝　氷　見　２３－１２　小松高

決　勝　氷　見 27($\frac{11}{16}$—$\frac{2}{2}$) 4 福井選抜

少年女子

１回戦　有　磯　３－６　新潟江南

成年女子

準決勝　有磯ＯＧ　１－２４　北国銀行

○ 第３４回国民体育大会

１０月１５日～１９日 宮崎県

少年男子

２回戦　氷　見　１９－１２　大阪選抜

準決勝　氷　見　２５－１８　全宮崎

決　勝　氷　見26($\frac{13}{13}$—$\frac{11}{12}$)23 中大附（東京）

（氷見高校４回目の優勝　３連覇）

成年男子

２回戦　全富山　２２－１８　全神奈川

３回戦　全富山　１９－３６　大阪イーグルス

○ 秋季選手権大会兼全国高校選抜大会県予選

１１月４日・１８日　富山市体育館　氷見高校

２３日・２５日　有磯高校　高岡市体育館

高校男子

１回戦　氷　見　２２－７　新湊高

２回戦　氷　見　２９－６　二上工

３回戦　氷　見　３６－１０　八尾高

準決勝　氷　見　２８－１３　富山南

決　勝　氷　見20($\frac{9}{11}$—$\frac{3}{3}$) 6 高岡日大

（１６回目の優勝）

高校女子

２回戦　有　磯　１８－３　高岡日大

準決勝　有　磯　１５－５　富山女

決　勝　有　磯　9($\frac{5}{4}$—$\frac{4}{1}$) 5 小杉高

（１４回目の優勝）

成年男子

１回戦　氷見シニア２０－１０　射水ク

２回戦　氷見シニア１７－６　ＦＨＣ

２回戦　氷見ク　１７－８　桜樹クＢ

準決勝　氷見シニア１８－１４　桜樹クＡ

準決勝　氷見ク　１７－１０　想球会

決　勝　氷見シニア17($\frac{7}{10}$—$\frac{6}{10}$)16 氷見ク

（氷見シニア　初優勝）

○ 第１９回県室内選手権大会

２月３日・１０日　富山市体育館

高校男子

１回戦　氷　見　２４－７　八尾高

準決勝　氷　見　２１－１８　高岡商

決　勝　氷　見22($\frac{13}{9}$—$\frac{3}{11}$)14 高岡日大

高校女子

１回戦　有　磯　２０－６　富女短付

準決勝　有　磯　１２－４　高岡女

決　勝　有　磯 17($\frac{9}{8}$—$\frac{2}{0}$) 2 小杉高

一般男子

２回戦　氷見シニア２０－１７　富山教員

２回戦　氷見ク　２８－１８　想球会

準決勝　氷見シニア１６－２１　八尾ク

準決勝　氷見ク　１７－１４　桜樹クＢ

決　勝　氷見ク 20($\frac{8}{12}$—$\frac{7}{7}$)14 八尾ク

○ 第３回北信越室内高校新人大会兼全国高校選抜大会北信越地区予選

１月１４日・１５日　福井県営体育館

男　子

１回戦　氷　見　２０－１２　小松工

準決勝　氷　見　２５－１２　北陸高

決　勝　氷　見 29($\frac{13}{16}$—$\frac{5}{4}$) 9 坂城高

（３連勝）

女　子

準決勝　有　磯　１４－３　福井商

決　勝　有　磯　5($\frac{3}{2}$—$\frac{3}{4}$) 7 小松市女

○ 第３回全国高校選抜大会

３月２６日～２８日　山口県徳山市体育館

男　子

１回戦　氷　見　１０－８　釧路湖陵高（北海道）

２回戦　氷　見　１４－２０　大分電波高

（氷見高校　ベスト８）

昭和５５年

○春季選手権大会兼北陸三県大会県予選

4月27日・29日　5月3日　小杉高校

高校男子

2回戦　氷　見　34－7　高岡高

3回戦　氷　見　27－6　伏木高

準決勝　氷　見　33－8　富山南

決　勝　氷　見25(11－7, 14－5)12 高岡商

高校女子

2回戦　有　磯　21－5　富女短付

準決勝　有　磯　15－6　高岡日大

決　勝　有　磯19(11－2, 8－2) 4 小杉高

一般男子

2回戦　氷見ク　26－14　富山工専

準決勝　氷見ク　29－9　射水ク

決　勝　氷見ク19(7－5, 12－10)15 富山教員

一般女子

準決勝　有磯OG　13－4　想球会

決　勝　有磯OG　15－13　高岡女OG

○第27回北陸三県総合体育大会

6月15日　氷見高校

一般男子

リーグ戦　氷見ク　14－14　全福井

リーグ戦　氷見ク　21－19　金沢あすなろク

（氷見クラブ　第2位）

一般女子

リーグ戦　有磯OG16－12　全福井

リーグ戦　有磯OG　7－35　北国銀行

（有磯OG　第2位）

○全国高校総体県予選兼北信越高校選手権大会県予選

5月31日～6月2日　小杉高校

男　子

2回戦　氷　見　26－4　新湊高

3回戦　氷　見　29－4　富山高

準決勝　氷　見　35－8　富山南

決　勝　氷　見21(9－9, 12－2)11 高岡日大

女　子

2回戦　有　磯　13－5　高岡女

準決勝　有　磯　21－2　高岡商

決　勝　有　磯10(4－2, 6－1) 3 小杉高

○第16回北信越高校選手権大会

6月21日・22日　長野県屋代高校

男　子

2回戦　氷　見　17－8　小松高

準決勝　氷　見　13－8　上田高

決　勝　氷　見25(13－6, 12－13)19 小松工

（8回目　7連勝）

女　子

2回戦　有　磯　22－5　小諸商

準決勝　有　磯　15－5　小松商

決　勝　有　磯　9(3－5, 6－6)11 小松市女

○第31回全日本高校選手権大会

8月1日～7日　宇和島市

男　子

1回戦　氷　見　24－18　日川高（山梨）

2回戦　氷　見　30－15　八幡工（滋賀）

3回戦　氷　見　13－22　大分電波

女　子

1回戦　有　磯　6－9　昭和学院（千葉）

○第33回県民体育大会兼第35回国民体育大会県予選会

7月6日　富山工高専学校体育館　7月13日

氷見高校　8月10日・11日　高岡日大高

少年男子

準決勝　氷　見　32－9　高岡商

決　勝　氷　見32(17－6, 15－2) 8 富山南

（氷見高校18回目の優勝　2連勝）

少年女子

準決勝　有　磯　23－4　富山女

決　勝　有　磯14(6－1, 8－4) 5 小杉高

（有磯高校12回目の優勝　2連勝）

成年男子

2回戦　氷見ク　26－9　桜樹ク

2回戦　氷見シニア４０－８　高岡ク

準決勝　氷見ク　３０－１１　八尾ク

準決勝　氷見シニア２１－１７　富山教員

決　勝　氷見ク 24(8-8/16-5)13 氷見シニア

（氷見クラブ２１回目の優勝）

成年女子

準決勝　有磯ＯＧ　１５－１６　桜球会

○第１回北信越国民体育大会兼第３５回国民体育大会北信越地区予選

８月３０日・３１日　高岡市民体育館

少年男子

１回戦　氷　見　２６－４　新潟選抜

準決勝　氷　見　３６－１３　小諸商

決　勝　氷　見26(8-8/18-7)15 小松工

（氷見高校１３回目の優勝　５年連続）

少年女子

準決勝　有　磯　１１－９　全福井

決　勝　有　磯　6(3-7/3-7)14 小松市女

成年男子

準決勝　全富山　２２－９　全福井

決　勝　全富山 39(12-11/27-5)16 北農ク（長野）

（全富山7回目の優勝　２年連続）

○第３５回国民体育大会

１０月１３日～１７日　栃木県

少年男子

１回戦　氷　見　２４－２３　愛知選抜

２回戦　氷　見　３５－２４　小倉西高(福岡)

準決勝　氷　見　１８－１４　山口選抜

決　勝　氷　見　１３－１６　栃木選抜

（氷見高校　第2位）

成年男子

１回戦　全富山　２４－２６　千葉教員

成年女子

１回戦　全富山　２２－１４　あすなろクラブ（青森）

２回戦　全富山　１６－２１　ブリヂストン滋賀（滋賀）

○秋季選手権大会兼全国高校選抜大会県予選

１１月２日・２３日・２４日

富山市体育館　高岡市体育館

高校男子

２回戦　氷　見　２２－１０　小杉高

３回戦　氷　見　２６－１０　高岡商

準決勝　氷　見　３０－７　富山南

決　勝　氷　見31(15-7/16-3)10 高岡日大

（氷見高校１７回目の優勝　８連勝）

高校女子

１回戦　有　磯　１６－８　高岡商

２回戦　有　磯　２７－１　富山女

準決勝　有　磯　２０－３　高岡日大

決　勝　有　磯12(8-2/4-1) 3 高岡女

（有磯高校１５回目の優勝　３連勝）

一般男子

２回戦　氷見ク　４８－１３　八尾ク

２回戦　氷見シニア２７－１７　射水ク

準決勝　氷見ク　２２－１８　富山教員

準決勝　氷見シニア３０－１５　富工専

決　勝　氷見ク33(15-7/18-9)16 氷見シニア

（氷見クラブ８回目の優勝）

一般女子

準決勝　有磯ＯＧ　２３－８　高岡女ＯＧ

決　勝　有磯ＯＧ 15(9-9/6-16)25 桜球会

○第４回北信越室内高校新人大会兼全国高校選抜大会北信越地区予選

男　子

氷　見　１位

女　子

有　磯　２位

○第２０回県室内選手権大会

高校男子

氷　見　１位

高校女子

有　磯　１位

一般男子

氷見ク　1位

一般女子

有磯OG　1位

○第4回全国高校選抜大会

3月25日～27日　愛知県体育館

男子

1回戦　氷見　28－17　八幡工(滋賀)

2回戦　氷見　16－14　久留米工大付(福岡)

準決勝　氷見　16－19　中京高(愛知)

(氷見高校　第3位)

昭和56年

○春季選手権大会

4月29日・5月3日～5日　向陵高校

高校男子

2回戦　氷見　37－12　高岡

3回戦　氷見　28－3　伏木

準決勝　氷見　16－12　富山南

決勝　氷見19($\frac{9-6}{10-4}$)10向陵

(氷見高校18回目の優勝　7連勝)

高校女子

2回戦　有磯　14－3　高商

準決勝　有磯　21－4　富山女

決勝　有磯20($\frac{10-0}{10-5}$)5高岡女

(有磯高校13回目の優勝　7連勝)

一般男子

2回戦　氷見ク　15－13　富山教員

2回戦　氷見シニア26－18　八尾ク

準決勝　氷見ク　25－5　桜樹ク

準決勝　氷見シニア31－16　想球会

決勝　氷見ク　21－19　氷見シニア

(氷見クラブ18回目の優勝　4連勝)

一般女子

1回戦　有磯OG　17－9　桜球会

準決勝　有磯OG　17－9　小杉OG

決勝　有磯OG15($\frac{8-5}{7-4}$)9高女OG

(有磯OG7回目の優勝　2連勝)

○全国高校総体県予選兼北信越高校選手権大会県予選

6月6日～8日　向陵高校

男子

2回戦　氷見　30－2　二上工

3回戦　氷見　33－5　富山中部

準決勝　氷見　29－13　富山南

決勝　氷見22($\frac{11-4}{11-8}$)12向陵

(氷見高校20回目の優勝　8連勝)

女子

2回戦　有磯　18－3　富女短付

準決勝　有磯　15－8　高商

決勝　有磯17($\frac{6-4}{11-1}$)5向陵

(有磯高校14回目の優勝　2連勝)

○第17回北信越高校選手権大会

6月20日・21日　福井県羽水高校

男子

2回戦　氷見　20－17　上田

準決勝　氷見　26－10　北陸

決勝　氷見　19－15　小松工

(氷見高校9回目の優勝　8連勝)

女子

2回戦　有磯　24－3　松到美須々丘

準決勝　有磯　19－9　新潟江南

決勝　有磯　8－18　小松市女

○第32回全日本高校選手権大会

8月1日～7日　東京・中央大体育館

男子

2回戦　氷見　21－18　四日市高(三重)

3回戦　氷見　15－22　浦和実高(埼玉)

女子

1回戦　有磯　14－13　前原高(沖縄)

2回戦　有磯　10－9　山陽女(広島)

3回戦　有磯　15－13　昭和学院(千葉)

準決勝　有磯　14－17　熊本女商(熊本)

(有磯高校　ベスト8)

○第３４回県民体育大会兼第３６回国民体育大会県予選

８月９日～１０日・２３　新庄中学

少年男子

準決勝　氷　見　２３－８　小　杉

決　勝　氷　見 27($\frac{15}{12}$—$\frac{7}{4}$)11 向　陵

（氷見高校１９回目の優勝　３連勝）

少年女子

準決勝　有　磯　１５－９　高岡女子

決　勝　有　磯 16($\frac{8}{8}$—$\frac{3}{6}$) ９高　商

成年男子

１回戦　氷見ク　２３－１４　全高岡

準決勝　氷見ク　３０－１０　八尾ク

決　勝　氷見ク 21($\frac{10}{11}$—$\frac{7}{6}$)13 想球会

（氷見クラブ２１回目の優勝）

成年女子

準決勝　有磯ＯＧ　１１－９　高女ＯＧ

決　勝　有磯ＯＧ 11($\frac{4}{7}$—$\frac{4}{4}$) ８想球会

○第２回北信越国民体育大会兼第３５回国民体育大会北信越地区予選

８月２９日・３０日

長野県佐々市総合体育館

少年男子

１回戦　氷　見　２１－１４　福井選抜

準決勝　氷　見　２３－１０　新潟選抜

決　勝　氷　見 20($\frac{10}{10}$—$\frac{9}{8}$)17 上田（長野）

少年女子

１回戦　有　磯　１８－６　福井選抜

準決勝　有　磯　１９－４　長野選抜

決　勝　有　磯　６($\frac{4}{2}$—$\frac{8}{5}$)13 小松市女

成年女子

１回戦　全富山　１８－１０　新潟江南ＯＧ

準決勝　全富山　５－４０　北国銀行

○第３６回国民体育大会

１０月１３日～１８日　滋賀県

少年男子

２回戦　氷　見　２４－１４　兵庫選抜

準決勝　氷　見　２１－２０　北海道選抜

決　勝　氷　見　２２－３４　山口選抜

（氷見高校　第２位）

○第１回全国クラブ選手権大会

８月１４日～１６日　静岡・御殿場市体育館

男　子

予選リーグ氷見ク　１４－９　雪峻ク（大阪）

氷見ク　１２－１１　46Ｇ会（埼玉）

氷見ク　１５－８　日川ク（山梨）

準決勝リーグ氷見ク　２９－１９　蒔田ク（神奈川）

氷見ク　１９－１３　七戸ユニオン（青森）

準決勝　氷見ク　２０－２３　岩国ク（山口）

３位決定戦氷見ク　２６－２５　筑波振球会（茨城）

（氷見クラブ　第３位）

○秋季選手権大会兼全国高校選抜大会県予選

１１月１日・２３日　富山市体育館

１１月８日　氷見高校・有磯高校

高校男子

２回戦　氷　見　２５－３　富山南

３回戦　氷　見　２２－１０　小杉高

準決勝　氷　見　２５－９　高岡高

決　勝　氷　見 15($\frac{10}{5}$—$\frac{8}{8}$)16 向陵高

高校女子

１回戦　有　磯　３６－１　雄山高

２回戦　有　磯　３３－０　高岡高

準決勝　有　磯　１２－６　向陵高

決　勝　有　磯 11($\frac{6}{6}$—$\frac{5}{3}$) ８高岡高

（有磯高校１６回目の優勝　４連勝）

一般男子

氷見ク　２位

○第５回北信越室内高校選手権大会兼全国高校選抜大会北信越地区予選

１月１６日・１７日　戸倉町総合体育館

女　子

リーグ戦　有　磯　９－９　仁愛女子(福井)

リーグ戦　有　磯　１９－４　臼田高(長野)

リーグ戦　有　磯　４－２３　小松市女(石川)

リーグ戦　有　磯　２８－４　能生水産高(新潟)

（有磯高校　第３位）

○第２１回県室内選手権大会

2月６日・７日　富山市体育館

2月１１日　小杉町民体育館

高校男子

１回戦　氷　見　２８－７　富 山 商

２回戦　氷　見　２５－２０　高岡商

準決勝　氷　見　３６－８　雄 山 高

決　勝　氷　見 18(9−10 / 9− 7)17 向陵高

（氷見高校１１回目の優勝　６連勝）

高校女子

２回戦　有　磯　２１－７　向 陵 高

準決勝　有　磯　３５－１　高岡第一

決　勝　有　磯 11(7− 6 / 4− 4)10 高岡商

一般男子

１回戦　氷見ク　３０－１３　北嶺会

１回戦　氷見シニア１４－１３　射水ク

準決勝　氷見ク　１８－１５　想球会

準決勝　氷見シニア２４－１９　富山教員

決　勝　氷見ク 20(12− 8 / 8−11)19 氷見シニア

（氷見クラブ１９回目の優勝　７連勝）

一般女子

決　勝　有磯OG 14(6− 6 / 8− 2) 8 想球会

昭和５７年

○春季選手権大会

4月２８日・5月２日・３日・５日　向陵

高校男子

２回戦　氷　見　３１－１２　小杉高

３回戦　氷　見　３５－６　富工専高

準決勝　氷　見　　高岡高

決　勝　氷　見 10(6− 4 / 4−13)17 向陵高

高校女子

２回戦　有　磯　１７－５　富 山 女

準決勝　有　磯　１０－１２　向陵高

一般男子

２回戦　氷見ク　１７－２０　富山教員

２回戦　氷見シニア２６－１１　北嶺会

準決勝　氷見シニア２６－２１　向陵ク

決　勝　氷見シニア 22(11−13 / 11−12)25 富山教員

一般女子

準決勝　有磯OG　１７－９　桜 球 会

決　勝　有磯OG　１１－１４　想球会

○全国高校総体県予選兼北信越高校選手権大会県予選

6月５日～７日　向陵高校

男　子

２回戦　氷　見　３９－５　高 岡 高

３回戦　氷　見　２８－１０　富山工

準決勝　氷　見　１６－１４　八尾高

決　勝　氷　見 15(6−10 / 9− 8)18 向陵高

女　子

１回戦　有　磯　３１－４　高岡第一

２回戦　有　磯　１９－６　向 陵 高

準決勝　有　磯　２６－５　富山北部

決　勝　有　磯 10(4− 3 / 6− 5)8 高岡商

（有磯高校１５回目の優勝　３連勝）

○第１８回北信越高校選手権大会

6月１９日・２０日　柏崎高校　柏崎工業高校

男　子

１回戦　氷　見　２９－９　柏 崎 工

２回戦　氷　見　２６－１４　北陸高

準決勝　氷　見　１８－１４　小松工

決　勝　氷　見 15(6−12 / 9− 9)21 向陵高

女　子

２回戦　有　磯　１０－５　小 諸 高

準決勝　有　磯　１３－１１　小松商

決　勝　有　磯 5(1− 8 / 4− 9)17 小松市女

○第３３回全日本高校選手権大会

8月１日～７日　鹿児島隼人町運動公園

女　子

１回戦　有　磯　９－１８　熊本女商

○第２回全国クラブ選手権大会

○第３５回県民体育大会兼第３７回国民体育大大県予選

８月８日～１０日　大門中学校

少年男子

準決勝　氷　見　２２－１２　八尾高

決　勝　氷　見23($\frac{13}{10}$－$\frac{9}{8}$)17 向陵高

（氷見高校２０回目の優勝　４連勝）

少年女子

準決勝　有　磯　２１－４　富山北部

決　勝　有　磯18($\frac{9}{9}$－$\frac{1}{4}$)13 高岡商

（有磯高校１４回目の優勝　４連勝）

一般男子

準決勝　氷見ク　２４－１３　射水ク

決　勝　氷見ク24($\frac{10}{14}$－$\frac{9}{4}$)13 想球会

（氷見クラブ２３回目の優勝　３連勝）

一般女子

準決勝　有磯ＯＧ　２３－３　小杉ＯＧ

決　勝　有磯ＯＧ17($\frac{9}{8}$－$\frac{3}{4}$) ７想球会

（有磯ＯＧ９回目の優勝　２連勝）

○第３回北信越国民体育大会兼第３７回国民体育大会北信越地区予選

８月２８日・２９日　福井県羽水高校

少年男子

氷　見　高　１　位

成年男子

全　富　山　１　位

○第３７回国民体育大会

１０月３日～７日　島根県

少年男子

１回戦　氷　見　１８－１９　新居浜工(愛媛)

成年男子

１回戦　全富山　－

２回戦　全富山　－

成年女子

１回戦　有磯ＯＧ　－

２回戦　有磯ＯＧ　－

○秋季選手権大会兼全国高校選抜大会県予選

１１月３日・７日　富山市体育館

１１月２１日　小杉町民体育館

高校男子

２回戦　氷　見　３４－６　伏木高

３回戦　氷　見　２９－１０　八尾高

準決勝　氷　見　２０－１０　向陵高

決　勝　氷　見30($\frac{19}{11}$－$\frac{4}{3}$) ７富山南

（氷見高校１８回目の優勝）

高校女子

１回戦　有　磯　４２－５　清光女

２回戦　有　磯　１６－３　高岡女

準決勝　有　磯　１８－４　富山女

決　勝　有　磯12($\frac{6}{6}$－$\frac{6}{7}$)13 高岡商

一般男子

１回戦　氷見ク　３７－１２　八尾ク

２回戦　氷見ク　３６－１７　高商ＯＢ

２回戦　氷見シニア２５－１９　富山大

準決勝　氷見ク　１５－２３　富山教員

準決勝　氷見シニア２１－１８　向陵ク

決　勝　氷見シニア16($\frac{5}{11}$－$\frac{13}{9}$)22 富山教員

○第６回北信越室内高校選手権大会兼全国高校選抜大会北信越地区予選

男　子

リーグ戦　氷　見　２２－１９　星代高（長野）

〃　氷　見　３５－９　柏崎工（新潟）

〃　氷　見　１８－１３　小松高（石川）

〃　氷　見　１８－１８　北陸高（福井）

（氷見高校　第１位）

○第２２回県室内選手権大会

２月５日・６日　富山市体育館

２月１１日・１３日　小杉町民体育館

高校男子

２回戦　氷　見　２６－６　富山高

3回戦　氷　見　23－9　二上工

準決勝　氷　見　32－11　富山商

決　勝　氷　見17($\frac{8-10}{9-8}$)18 向陵高

高校女子

2回戦　有　磯　17－2　向陵高

準決勝　有　磯　23－2　小杉高

決　勝　有　磯11($\frac{6-2}{5-5}$) 7 高岡商

（有磯高校11回目の優勝　7連勝）

一般男子

氷　見　ク　1位

一般女子

有磯ＯＧ　1位

○第2回全国クラブ選手権大会県予選

6月13日・20日　大門町民体育館

男　子

1回戦　氷見ク　—　高商ク

準決勝　氷見ク　—　八尾シニア

決　勝　氷見ク　—　想球会

○第2回全国クラブ選手権大会北信越県予選

7月10日・11日　長野戸倉町総合体育館

男　子

2回戦　氷見ク　—　柏崎ク

決　勝　氷見ク　—　金沢あすなろク

○第2回全国クラブ選手権大会

8月13日～15日　滋賀県立体育館

男　子

予選リーグ氷見ク　18－14　生駒ク（奈良）

氷見ク　13－11　新居浜ク

氷見ク　15－13　筑波振球会

決勝トーナメント

1回戦　氷見ク　13－11　和歌山商ク

2回戦　氷見ク　16－14　岩国ク（山口）

準決勝　氷見ク　18－30　滋賀ク

3位決定戦氷見ク　20－26　七戸ユニオン(青森)

昭和５８年

○春季選手権大会

4月29日　5月1日・3日　向陵高校

5月8日　大門町民体育館

高校男子

2回戦　氷　見　24－2　新　湊

3回戦　氷　見　21－9　富山南

準決勝　氷　見　33－11　八　尾

決　勝　氷　見20($\frac{11-6}{9-5}$)11 向　陵

（氷見高校2年ぶり19回目の優勝）

一般男子

2回戦　氷見ク　28－13　富山大学

氷見シニア21－20　想球会

準決勝　氷見ク　高商ク

氷見シニア　教員A

決　勝　氷見ク19($\frac{8-13}{11-10}$)23 教員A

一般女子

準決勝　有磯ＯＧ　想球会

決　勝　有磯ＯＧ13($\frac{7-3}{6-4}$) 7 高岡女

（有磯ＯＧ10回目の優勝）

○全国高校総体県予選兼第19回北信越高校選手権大会県予選

6月4日～6日　向陵高校

男　子

2回戦　氷　見　21－9　高岡南

3回戦　氷　見　33－5　雄　山

準決勝　氷　見　29－12　八　尾

決　勝　氷　見　15－11　向　陵

（氷見高校21回目　優勝）

女　子

1回戦　有　磯　12－7　小　杉

2回戦　有　磯　17－5　富山北部

準決勝　有　磯　14－1　新　湊

決　勝　有　磯13($\frac{7-7}{6-7}$)14 向　陵

○第19回北信越高校選手権大会

6月18日・19日　氷見高校　有磯高校

男　子

2回戦　氷　見　22－9　小　松

準決勝　氷　見　18－12　上　田

決　勝　氷　見21($\frac{10-11}{11-6}$)17 小松工

（氷見高校10回目の優勝）

女　子

1回戦　有　磯　11－6　佐　久

2回戦　有　磯　12－11　新潟江南

準決勝　有　磯　12－21　小松商

○第34回全日本高校選手権大会

8月1日～7日　愛知県豊田市

男　子

1回戦　氷　見　21－19　花巻北（岩手）

2回戦　氷　見　15－13　川口工（埼玉）

3回戦　氷　見　24－15　九州学院（熊本）

準決勝　氷　見　15－19　桃山学院（大阪）

（氷見高校の第3位）

○第3回全国クラブ選手権大会県予選

6月24日　氷見高校

男　子

1回戦　氷見ク　－　高商ク

準決勝　氷見ク　－　想球会

決　勝　氷見ク　－　向陵ク

○第3回全国クラブ選手権大会北信越地区予選　7月9日・10日　高岡市民体育館

準決勝　氷見ク　42－17　光陽会（福井）

決　勝　氷見ク23($\frac{8-11}{15-11}$)22 小　松

○第3回全国クラブ選手権大会

7月22日～24日　岐阜県民体育館

予選リーグ

氷見ク　18－15　東山ク（京都）

氷見ク　18－13　七戸ユニオン（青森）

決勝トーナメント

1回戦　氷見ク　14－12　小松ク（石川）

2回戦　氷見ク　17－19　大同クラブ（愛知）

○第36回県民体育大会（置県100年記念大会）

7月25日～27日　向陵高校

少年男子

準決勝　氷　見　27－9　富山商

決　勝　氷　見18($\frac{11-9}{7-10}$)19 向　陵

少年女子

準決勝　有　磯　22－9　新　湊

決　勝　有　磯16($\frac{6-9}{10-10}$)19 向　陵

一般男子

準決勝　氷見ク　29－12　向　陵

決　勝　氷見ク14($\frac{8-5}{6-7}$)12 想球会

（氷見クラブ24回目の優勝　4連勝）

一般女子

準決勝　有　磯　11－2　高岡女

決　勝　有　磯20($\frac{11-5}{9-2}$) 7 桜球会

（有磯クラブ10回目の優勝　3連勝）

○第4回北信越国民体育大会

柏崎市

少年男子

1回戦　全富山　17－18　全長野

少年女子

準決勝　全富山　9－25　小松市女

成年女子

準決勝　全富山　5－41　北国銀行

○秋季選手権大会兼全国高校選抜大会県予選

11月3日・5日・6日　富山市体育館

11月13日・20日　小杉町民体育館

少年男子

1回戦　氷　見　28－9　高　岡

2回戦　氷　見　34－4　高岡南

3回戦　氷　見　24－15　小　杉

準決勝　氷　見　42－8　新　湊

決　勝　氷　見21($\frac{11-5}{10-10}$)15 向　陵

（氷見高校19回目の優勝　2連勝）

少年女子

1回戦　有　磯　11－5　小　杉

2回戦　有　磯　10－17　高岡商

一般男子

2回戦　氷見ク　18－17　想球会

氷見シニア29－13　八尾ク

準決勝　氷見ク　２０－２６　教員Ｂ

氷見シニア２２－１４　教員Ａ

決　勝　氷見シニア23($\frac{12-10}{11-11}$)21 教員Ｂ

（氷見シニア４年ぶり２回目　優勝）

○第７回北信越室内高校選手権大会兼全国高校選抜大会北信越地区予選

1月１５日・１６日　柏崎高校 柏崎工業高校

男　子

リーグ戦　氷　見　１６－１６　北陸（福井）

氷　見　１１－１５　小松工（石川）

氷　見　１４－１０　上田（長野）

氷　見　３８－１３　柏崎工（新潟）

（氷見高校　第２位）

○第２３回県室内選手権大会

2月５日・１２日　富山市体育館

2月１１日・１２日　小杉町民体育館

高校男子

２回戦　氷　見　３６－３　富　山

３回戦　氷　見　２５－６　富山中部

準決勝　氷　見　３７－８　富山工専

決　勝　氷　見26($\frac{14-6}{12-9}$)15 向　陵

（氷見高校２年ぶり１２回目　優勝）

高校女子

２回戦　有　磯　不戦勝　新　湊

準決勝　有　磯　１４－６　富山北部

決　勝　有　磯11($\frac{7-11}{4-8}$)19 高岡商

一般男子

２回戦　氷見シニア１９－１１　富山大学

２回戦　氷見ク　１７－１３　想球会

準決勝　氷見シニア２７－１９　射水ク

準決勝　氷見ク　１７－２５　教　員

決　勝　氷見シニア17($\frac{9-11}{9-15}$)26 教　員

一般女子

準決勝　有磯ＯＧ　７－１４　桜球会

○第７回全国高校選抜大会

3月２５日・２６日　愛知県体育館

男　子

１回戦　氷　見　２０－１８　大曲農（秋田）

２回戦　氷　見　２０－２６　浦和実業（埼玉）

昭和５９年

○春季選手権大会

4月２９日・３０日　5月３日　向陵高校

5月６日・１３日　小杉町民体育館

高校男子

２回戦　氷　見　２８－９　高岡商

３回戦　氷　見　４１－９　高岡南

準決勝　氷　見　３７－１９　高岡高

決　勝　氷　見25($\frac{12-11}{13-10}$)21 向陵高

（氷見高校２０回目の優勝　　２連勝）

高校女子

２回戦　有　磯　１６－１０　富山北部

準決勝　有　磯　１７－４　小杉高

決　勝　有　磯14($\frac{5-8}{9-9}$)17 高岡商

一般男子

１回戦　氷見ク　２９－２１　向陵ク

２回戦　氷見ク　１５－２０　富山教員

氷見シニア３０－１７　杉原ク

準決勝　氷見シニア１９－２６　想球会

一般女子

１回戦　有磯ク　２５－５　向陵ＯＧ

準決勝　有磯ク　１５－１９　桜球会

○全国高校総体県選兼第２０回北信越高校選手権大会県予選

6月２日～４日　高岡商業高校

男　子

２回戦　氷　見　３３－８　八尾高

３回戦　氷　見　３４－１２　富山高

準決勝　氷　見　３４－１２　小杉高

決　勝　氷　見21($\frac{10-7}{11-6}$)13 向陵高

（氷見高校２１回目の優勝　　３連勝）

女　子

2回戦　有　磯　15－7　富山北部

準決勝　有　磯　24－10　向陵高

決　勝　有　磯12(6－10 / 6－5)15 高岡商

○第20回北信越高校選手権大会

6月23日・24日

小松市末広体育館　小松明峰高校

男　子

1回戦　氷　見　29－8　柏崎工(新潟)

2回戦　氷　見　29－8　金津高(福井)

準決勝　氷　見　18－16　小松工(石川)

決　勝　氷　見22(10－7 / 12－11)18 向陵高

女　子

1回戦　有　磯　17－16　羽水高(福井)

2回戦　有　磯　11－18　小松商(石川)

○第35回全日本高校選手権大会

8月2日～7日　秋田県湯沢市

男　子

1回戦　氷　見　27－13　国学院栃木

2回戦　氷　見　30－17　高島高(滋賀)

3回戦　氷　見　39－19　羽後高(秋田)

準々決勝　氷　見　14－16　市川高(千葉)

○第4回全国クラブ選手権大会県予戦

6月10日　小杉町民体育館

6月17日　富山市体育館

男　子

1回戦　氷見ク　26－14　射水ク

準決勝　氷見ク　26－18　想球会

決　勝　氷見ク　32－16　向陵ク

○第4回全国クラブ選手権大会北信越地区予選

7月8日　金沢美術工芸大体育館

男　子

準決勝　氷見ク　34－16　若狭愛球会

決　勝　氷見ク　28－23　小松クラブ

○第4回全国クラブ選手権大会

徳山市営体育館

男　子

予選リーグ　氷見ク

氷見ク

決勝トーナメント

1回戦　氷見ク　敗退

○第37回国民体育大会

8月11日～13日　大門中学校

大門町民体育館

少年男子

準決勝　氷　見　39－8　富山南

決　勝　氷　見23(11－10 / 12－11)21 向陵高

(氷見高校2年ぶり21回目の優勝)

少年女子

準決勝　有　磯　11－8　高岡女

決　勝　有　磯18(9－3 / 9－5)8 高岡商

(有磯高校2年ぶり15回目の優勝)

一般男子

1回戦　氷見ク　33－21　全高岡

準決勝　氷見ク　17－15　射水ク

決　勝　氷見ク19(6－0 / 13－8) 8 想球会

(氷見クラブ25回目の優勝　5連勝)

一般女子

準決勝　有磯ク　20－9　想球会

決　勝　有磯ク22(13－1 / 9－4) 5 高岡女OG

(有磯クラブ9回目の優勝　3連勝)

○第5回北信越ミニ団体

8月28日・29日　福井県

少年男子　全富山　2位

少年女子　全富山　2位

成年男子　全富山　1位

○第39回国民体育大会

月　日～　日　奈良県

成年男子

1回戦　全富山　－　三陽商会(東京)

準々決勝　全富山　－　大同特殊鋼(愛知)

(全富山ベスト8)

成年女子

1回戦　全富山敗退

○秋季選手権大会兼全国高校選抜大会県予選

11月3日・4日　富山市体育館

11月11日　県総合体育センター

高校男子

1回戦　氷　見　32－18　富山商

2回戦　氷　見　32－14　雄山高

3回戦　氷　見　20－11　呉羽高

準決勝　氷　見　20－30　高岡高

高校女子

1回戦　有　磯　36－2　富山女

2回戦　有　磯　27－4　小杉高

準決勝　有　磯　29－3　高岡第一

決　勝　有　磯　12($\frac{6-3}{6-2}$)5　高岡商

（有磯高校3年ぶり17回目の優勝）

一般男子

1回戦　氷見クA　31－11　八尾ク

氷見クB　29－17　富山大

2回戦　氷見クA　21－13　想球会

氷見クB　不戦勝　北嶺会

準決勝　氷見クA　29－8　高岡商ク

氷見クB　26－35　富山教員

決　勝　氷見クA　29($\frac{14-10}{15-9}$)19　富山教員

（氷見クラブA2年連続11回目の優勝）

○第3回全国高校選抜大会北信越地区予選

2月10日・11日　福井県営体育館

女　子

リーグ戦　有　磯　21－7　新潟江南

有　磯　16－7　福井商

有　磯　24－8　塩尻高（長野）

有　磯　5－17　小松市女

（有磯高校　第2位）

○第24回県室内選手権大会

2月3日・10日　富山市体育館

2月11日　富山県総合体育センター

高校男子

1回戦　氷　見　29－12　高岡南

2回戦　氷　見　20－10　呉　羽

準決勝　氷　見　31－21　二上工

決　勝　氷　見　21－22　高岡高

一般男子

2回戦　氷見ク　24－21　二上工OB

準決勝　氷見ク　21－17　射水ク

決　勝　氷見ク　22－23　富山教員

大　会　記　録

(中 学 の 部)

昭和35年

○ 市民体育大会

男　子

1位　南部中　2位　八代中

昭和36年

○ 市民体育大会

男　子

1位　八代中　2位　南部中

○ 県民体育大会

8月19日～21日　高岡商業高校

男　子

決　勝　八代中　7－6　奥田中

（1位　八代中）

昭和37年

○ 市民体育大会

男　子

1位　八代中　2位　南部中

○ 県民体育大会

8月18日～20日　小杉高校

男　子

決　勝　八代中　10－10　奥田中

再試合　八代中　6－7　奥田中

（2位　八代中）

昭和38年

○ 市民体育大会

男　子

1位　八代中　2位　南部中

○ 県民体育大会

8月18日・19日　高岡商業高校

男　子

決　勝　八代中　14－10　岩瀬中

（1位　八代中）

○ 第1回県中学校選手権大会兼東西対抗大会

9月24日　小杉高校

男　子

決　勝　八代中　14－10　上滝中

（1位　八代中）

昭和39年

○ 市民体育大会

男　子

1位　八代中　2位　南部中

○ 県民体育大会

8月16日　小杉高校

男　子

決　勝　八代中　16－6　堀川中

（1位　八代中）

昭和40年

○ 市民体育大会

男　子

1位　八代中　2位　南部中

○ 県民体育大会

8月21日～23日　小杉高校

男　子

決　勝　八代中　13－15　堀川中

（2位　八代中）

○ 富山県東西対抗中学校選手権大会

9月26日　小杉高校

男　子

決　勝　　八代中　22－10　岩瀬中

（1位　八代中）

昭和42年

○ 氷見市民体育大会

7月22日　氷見南部中

男　子

リーグ戦　八代中　10－15　南部中

八代中　10－12　阿尾中

南部中　18－4　阿尾中

（1位　南部中　　2位　阿尾中）

○ 富山県民体育大会

8月26日・27日　大門中学校

男　子

1回戦　　南部中　21－5　志貴野中（高岡）

準決勝　　南部中　20－6　速星中（婦負）

決　勝　　南部中　8－10　堀川中（富山）

（2位　氷見南部中）

○ 第2回高岡地区大会

9月17日　氷見南部中

男　子

2回戦　　南部中　19－2　射北中（射水）

準決勝　　南部中　11－5　八代中（氷見）

決　勝　　南部中　13－5　志貴野中（高岡）

（1位　氷見南部中）

○ 第5回富山県中学校総合選手権大会

10月10日　呉羽中

男　子

1回戦　　八代中　9－10　堀川中

（延長）

〃　　南部中　19－6　出町中

準決勝　　南部中　8－7　呉羽中

決　勝　　南部中　6－11　堀川中

（2位　南部中）

○ 氷見新人大会

10月15日　氷見高校

男　子

リーグ戦　八代中　5－13　南部中

八代中　7－9　阿尾中

南部中　10－4　阿尾中

（1位　南部中）

昭和43年

○ 氷見市民体育大会

7月20日　氷見南部中

男　子

リーグ戦　阿尾中　9－13　八代中

南部中　24－5　八代中

南部中　12－9　阿尾中

（1位　南部中）

○ 富山県民体育大会

8月10日　大門中学校

男　子

1回戦　　南部中　15－3　南郷中

準決勝　　南部中　9－14　高陵中

○ 高岡地区大会

9月19日　氷見南部中

男　子

2回戦　　南部中　14－1　伏木中

〃　　八代中　10－9　新湊東部中

準決勝　　南部中　17－10　志貴野中

〃　　八代中　13－17　高陵中

決　勝　　南部中　16－10　高陵中

（1位　南部中）

○ 第6回富山県総合中学校選手権大会

10月10日　氷見高校

男　子

準決勝　　南部中　20－5　福野中

決　勝　　南部中　4－11　呉羽中

（2位　南部中）

○ 氷見市新人大会

11月9日　氷見高校

男　子

リーグ戦　阿尾中　6－12　南部中

阿尾中　9－11　八代中

南部中　9－6　八代中

（1位　南部中）

昭和44年

○ 氷見市民体育大会

7月19日　氷見高校

男　子

リーグ戦　南部中　13－6　八代中

八代中　13－12　阿尾中

阿尾中　（不　明）　南部中

（1位　南部中）

○ 富山県民体育大会

8月3日・9日・10日　大門中学校

男　子

1回戦　南部中　20－4　南郷中

2回戦　南部中　11－13　堀川中

○ 氷見市中学校選手権大会

8月31日　八代中学校

男　子

リーグ戦　八代中　11－13　南部中

八代中　17－11　阿尾中

南部中　22－9　阿尾中

（1位　南部中）

○ 高岡地区大会

9月18日　南部中学校

男　子

1回戦　南部中　12－7　志貴野中

〃　八代中　15－7　南郷中

〃　阿尾中　6－10　射北中

準決勝　南部中　26－9　射北中

〃　八代中　12－16　伏木中

決　勝　南部中　20－2　伏木中

（1位　南部中）

○ 第7回富山県中学校総合選手権大会

10月8日　南部中学校

男　子

1回戦　南部中　13－9　呉羽中

準決勝　南部中　13－9　伏木中

決　勝　南部中　12－13　堀川中

（延長）

（2位　南部中）

○ 氷見市新人大会

10月22日　八代中学校

男　子

リーグ戦　八代中　8－11　南部中

八代中　13－9　阿尾中

南部中　12－3　阿尾中

（1位　南部中）

昭和45年

○ 氷見市民体育大会

7月28日　氷見高校

男　子

リーグ戦　阿尾中　12－20　八代中

南部中　16－10　阿尾中

八代中　6－10　南部中

（1位　南部中）

○ 第23回県民体育大会兼第8回県選手権大会

8月8日・9日　大門中学校

男　子

2回戦　南部中　14－8　新湊東部中

準決勝　南部中　13－9　般若中

決　勝　南部中　15－10　大門中

（1位　南部中）

○ 第1回北陸三県中学選手権大会

8月17日　金沢兼六中学校

男　子

リーグ戦　南部中　7－8　紫錦台中（石川）
南部中　13－18　光陽中（福井）
（3位　南部中）

○ 高岡地区大会
9月24日　南部中学校
男　子
1回戦　八代中　6－9　新湊東部中
準決勝　南部中　10－15　高陵中

○ 氷見市選手権大会
8月31日　八代中学校
男　子
リーグ戦　南部中　13－12　八代中
八代中　10－9　阿尾中
阿尾中　8－12　南部中
（1位　南部中）

○ 氷見市新人大会
10月19日　八代中学校
男　子
リーグ戦　八代中　19－4　阿尾中
阿尾中　4－22　南部中
八代中　9－11　南部中
（1位　南部中）

昭和46年

○ 氷見市選手権大会
5月26日　八代中学校
男　子
リーグ戦　南部中　14－14　八代中
阿尾中　3－22　八代中
南部中　25－3　阿尾中
（1位　南部中）

○ 高岡地区大会
6月9日　南部中学校
男　子
1回戦　八代中　13－8　伏木中
〃　南部中　31－2　小杉中
準決勝　八代中　14－6　新湊東部中
〃　南部中　17－10　志貴野中
決勝　八代中　14－13　南部中
（1位　八代中　2位　南部中）

○ 第9回県中学校選手権大会
6月29日　大門中学校
男　子
1回戦　南部中　19－6　般若中
準決勝　南部中　13－8　富山西部中
八代中　11－9　呉羽中
決勝　八代中　17－14　南部中
（1位　八代中　2位　南部中）
女　子
リーグ戦　3位　南部中

○ 第2回北陸三県中学校選手権大会
8月17日　福井藤島高校
男　子
リーグ戦　八代中　10－9　紫錦台中（石川）
八代中　10－9　高浜中（福井）
（1位　八代中）

○ 氷見市民体育大会
7月25日　氷見高校
男　子
リーグ戦　八代中　9－9　南部中
南部中　28－7　阿尾中
阿尾中　3－27　八代中
（1位　八代中）

○ 第24回県民体育大会
8月21日　大門中学校
男　子
2回戦　八代中　17－1　大門中
準決勝　八代中　9－4　上滝中
決勝　八代中　6－10　呉羽中
（2位　八代中）

○ 氷見市新人大会
9月29日　阿尾中学校

男　子

リーグ戦　八代中　10－4　阿尾中

阿尾中　7－3　南部中

八代中　13－15　南部中

（1位　南部中）

○高岡地区新人大会

10月10日　南部中学校

男　子

1回戦　八代中　19－5　射北中

準決勝　南部中　12－7　新湊東部中

〃　八代中　19－4　伏木中

決勝　八代中　17－14　南部中

（1位　八代中　2位　南部中）

女　子

決勝　南部中　4－7　小杉中

昭和47年

○春季総合体育大会

6月2日　八代中学校

男　子

リーグ戦　八代中　14－6　阿尾中

八代中　13－13　南部中

阿尾中　8－15　南部中

（1位　八代中）

○高岡地区大会

6月10日　南部中学校

男　子

1回戦　南部中　15－4　射北中

〃　八代中　27－4　小杉中

準決勝　南部中　13－12　志貴野中

〃　八代中　15－4　伏木中

決勝　八代中　10－5　南部中

（1位　八代中　2位　南部中）

女　子

決勝　南部中　5－10　小杉中

○第10回県中学校総合選手権大会

6月28日　大門中学校

男　子

1回戦　南部中　15－7　般若中

準決勝　南部中　10－9　呉羽中

〃　八代中　26－2　福野中

決勝　八代中　4－6　南部中

（1位　南部中　2位　八代中）

○第3回北陸三県中学校選手権大会

8月8日　大門中学校

男　子

リーグ戦　南部中　7－10　光陽中

南部中　16－11　御幸中

（1位　南部中）

○第1回全国中学校選手権大会

8月17日～19日　愛知県青少年公園

男　子

準々決勝　南部中　9－4　呉二河中(広島)

準決勝　南部中　8－13　東港中(愛知)

（全国第3位　南部中学校）

○氷見市民体育大会

7月16日　氷見高校

男　子

リーグ戦　八代中　13－6　阿尾中

八代中　10－6　南部中

阿尾中　7－17　南部中

（1位　八代中）

○第25回県民体育大会

8月11日～12日　呉羽中学校

男　子

1回戦　八代中　15－2　大門中

準決勝　八代中　18－8　八尾中

決勝　八代中　14－5　呉羽中

（1位　八代中）

○氷見市新人大会

9月29日　八代中学校

男　子

リーグ戦　八代中　11－9　南部中

リーグ戦　八代中　11－6　阿尾中
南部中　11－6　阿尾中
（1位　八代中）

○高岡地区新人大会
10月8日　南部中学校
男子
1回戦　阿尾中　6－4　志貴野中
〃　八代中　17－4　新湊東部中
〃　南部中　14－6　射北中
準決勝　阿尾中　2－5　八代中
〃　南部中　11－7　高陵中
決勝　八代中　7－6　南部中
（1位　八代中　2位　南部中）
女子
1位　南部中学校

○第1回氷見市室内選手権大会
2月18日　氷見高校
男子
1位　八代中
2位　南部中
3位　阿尾中
3位　西部中（初出場）

昭和48年

○氷見市中学校総合選手権大会
5月30日　八代中学校
男子
準決勝　南部中　15－1　西部中
〃　八代中　10－7　阿尾中
決勝　八代中　14－13　南部中
（1位　八代中）

○高岡地区中学校総合選手権大会
6月9日　南部中学校
男子
1回戦　阿尾中　7－3　新東部中
〃　八代中　9－3　志貴野中
1回戦　南部中　17－2　小杉中
準決勝　八代中　8－5　阿尾中
〃　南部中　19－3　伏木中
決勝　南部中　11－9　八代中
（1位　南部中　2位　八代中）
女子
決勝　南部中　5－4　小杉中
（1位　南部中）

○県中学校総合選手権大会
6月27日　大門中学校
男子
1回戦　八代中　15－6　般若中
準決勝　南部中　8－7　富西部中
〃　八代中　10－8　呉羽中
決勝　南部中　12－12　八代中
（1位　南部中　2位　八代中）
女子
1回戦　南部中　9－8　八尾中
準決勝　南部中　2－25　岩尾滝中

○第3回北陸三県中学校選手権大会
8月7日　金沢兼六中学校
男子
リーグ戦　南部中　7－6　芦城中（石川）
南部中　9－10　大島中（福井）
（第3位　南部中）

○氷見市民体育大会
7月22日　氷見高校
男子
準決勝　南部中　14－8　阿尾中
〃　八代中　23－2　西部中
決勝　八代中　17－7　南部中
（1位　八代中）

○第26回県民体育大会
8月11日・12日　高岡商業高校
男子
準決勝　八代中　17－10　般若中
決勝　八代中　13－9　富山西部中

（1位　八代中）

女　子

1回戦　南部中　9－4　小杉中

準決勝　南部中　5－16　富山西部中

○ 氷見市新人大会

10月3日　八代中学校

男　子

準決勝　南部中　9－3　八代中

〃　西部中　14－6　阿尾中

決勝　南部中　9－6　西部中

（1位　南部中）

昭和49年

○ 氷見市中学校総合選手権大会

6月11日　八代中学校

男　子

リーグ戦　南部中　11－9　八代中

八代中　13－9　北部中

西部中　16－12　北部中

南部中　7－8　西部中

（1位　西部中初優勝）

○ 高岡地区中学校総合選手権大会

6月21日　北部中学校

男　子

1回戦　八代中　5－8　高慶中

西部中　12－3　小杉中

南部中　15－2　南星中

準決勝　西部中　11－4　八代中

南部中　24－4　射北中

決勝　西部中　9－5　南部中

（1位　西部中）

女　子

準決勝　南部中　6－4　大門中

決勝　南部中　11－0　小杉中

（1位　南部中）

○ 第12回県中学校選手権大会

7月3日　呉羽中学校

男　子

1回戦　南部中　21－6　福岡中

準決勝　西部中　11－5　般若中

〃　南部中　5－1　呉羽中

決勝　西部中　12－8　南部中

（1位　西部中　2位　南部中）

女　子

1回戦　南部中　9－6　般若中

準決勝　南部中　7－10　富西部中

○ 第4回北陸三県大会

8月6日　福井県藤島高校

男　子

リーグ戦　西部中　8－13　御幸中（石川）

西部中　11－11　高浜中（福井）

（3位　西部中）

○ 氷見市民体育大会

7月18日

男　子

リーグ戦　南部中　16－9　八代中

西部中　13－2　北部中

西部中　8－5　南部中

（1位　西部中）

○ 富山県民体育大会

8月7日　呉羽中学校

男　子

2回戦　西部中　20－3　福岡中

準決勝　西部中　12－6　小杉中

決勝　西部中　15－6　般若中

（1位　西部中）

女　子

1回戦　南部中　5－3　小杉中

準決勝　南部中　3－5　富西部中

（3位　南部中）

○ 市中学校新人大会

9月27日　北部中学校

男　子

リーグ戦　南部中　12－4　北部中

西部中　17－6　八代中

八代中　7－6　北部中

西部中　10－3　南部中

（1位　西部中）

○高岡地区中学校新人大会

10月6日　南部中学校

男　子

1回戦　南部中　12－3　射北中

〃　西部中　15－2　志貴野中

準決勝　西部中　23－6　八代中

〃　南部中　9－7　小杉中

決勝　西部中　9－8　南部中

（1位　西部中）

女　子

準決勝　南部中　12－4　小杉中

決勝　南部中　8－10　大門中

（2位　南部中）

○第2回氷見市中学校室内大会

2月16日　氷見高校

男　子

準決勝　西部中　15－5　八代中

〃　南部中　15－5　北部中

決勝　南部中　10－6　西部中

（1位　南部中）

昭和50年

○氷見市中学校総合選手権大会

6月11日　南部中学校

男　子

準決勝　西部中　14－7　八代中

〃　南部中　19－6　北部中

決勝　西部中　17－8　南部中

（1位　西部中）

○高岡地区中学校総合選手権大会

6月20日　南部中学校

男　子

1回戦　西部中　18－3　射北中

〃　南部中　13－4　大門中

〃　八代中　7－4　高西部中

準決勝　西部中　18－6　小杉中

〃　南部中　16－5　八代中

決勝　西部中　11－8　南部中

（1位　西部中　2位　南部中）

女　子

リーグ戦　南部中　8－1　小杉中

南部中　8－3　大門中

（1位　南部中）

○県中学校総合選手権大会

7月2日　石動中学校

男　子

1回戦　南部中　10－4　呉羽中

準決勝　南部中　8－9　般若中

〃　西部中　21－9　富西部中

決勝　西部中　9－7　般若中

（1位　西部中）

女　子

準決勝　南部中　5－14　般若中

○第4回北陸三県大会

8月6日　石動中学校

男　子

リーグ戦　西部中　16－2　高浜中（福井）

西部中　15－10　御幸中（石川）

（1位　西部中）

○北信越大会

8月7日　石動小学校

男　子

1位　西部中学校

○全国中学校選手権大会

8月17日　石川県芦城中学校

男　子

準決勝　西部中　11－　御桜クラブ(愛知)

○市民体育大会

7月20日　氷見高校

男　子

準決勝　南部中　15－9　八代中

〃　西部中　23－6　北部中

決勝　西部中　13－8　南部中

（1位　西部中）

○県民体育大会

8月9日～11日　小杉高校

男　子

準決勝　西部中　11－6　福岡中

決勝　西部中　12－11　般若中

（1位　西部中）

女　子

1回戦　南部中　6－2　八尾中

準決勝　南部中　3－10　般若中

○氷見市中学校新人大会

男　子

準決勝　八代中　10－8　北部中

〃　西部中　9－8　南部中

決勝　西部中　19－10　八代中

（1位　西部中）

昭和51年

○氷見市中学校総合選手権大会

6月12日　南部中学校

男　子

準決勝　北部中　16－10　八代中

〃　西部中　10－3　南部中

決勝　西部中　18－10　北部中

（1位　西部中）

女　子

決勝　南部中　6－3　北部中

（1位　南部中）

○高岡地区中学校総合選手権大会

6月18日　南部中学校

男　子

1回戦　西部中　20－2　南星中

〃　南部中　15－2　小杉中

〃　北部中　7－6　高陵中

準決勝　西部中　20－16　大門中

〃　南部中　9－1　北部中

決勝　西部中　13－4　南部中

（1位　西部中　2位　南部中）

女　子

準決勝　北部中　2－7　大門中

〃　南部中　9－4　小杉中

決勝　南部中　3－2　大門中

（1位　南部中）

○県中学校総合選手権大会

6月27日　呉羽中学校

男　子

1回戦　南部中　8－17　呉羽中

準決勝　西部中　19－8　八尾中

決勝　西部中　22－10　呉羽中

（1位　西部中）

女　子

1回戦　南部中　10－2　富

準決勝　南部中　3－9　般若中

○第5回北陸三県大会

8月5日　金沢美術大学

男　子

1位　西部中学校（1勝1分け）

○全国中学校総合選手権大会

8月16日・17日　大阪市中央体育館

男　子

1回戦　西部中　18－12　御東クラブ(愛知)

準々決勝　西部中　15－7　昭島スポーツ少年団（東京）

準決勝　西部中　11－13　岩倉中(和歌山)

（全国第3位　西部中）

○市民体育大会

男　子

準決勝　北部中　15－10　南部中
準決勝　西部中　30－5　八代中
決勝　西部中　8－6　北部中
（1位　西部中）
女子
決勝　南部中　3－2　北部中
（1位　南部中）

○県民体育大会
男子
準決勝　西部中　24－21　八尾中
決勝　西部中　16－7　呉羽中
（1位　西部中）
女子
1回戦　南部中　6－3　八尾中
準決勝　南部中　2－7　富西部中

○高岡地区中学校新人大会
10月17日　南部中学校
男子
1回戦　西部中　15－7　南星中
〃　八代中　13－5　高陵中
〃　北部中　3－8　大門中
〃　南部中　11－12　志貴野中
準決勝　西部中　15－2　八代中
決勝　西部中　25－6　志貴野中
（1位　西部中）
女子
準決勝　北部中　3－13　大門中
準決勝　南部中　3－9　小杉中

昭和52年

○春季大会
5月22日　北部中学校
男子
準決勝　八代中　14－13　北部中
準決勝　西部中　14－8　南部中
決勝　西部中　19－4　八代中
（1位　西部中）
女子
決勝　南部中　8－4　北部中
（1位　南部中）

○氷見市中学校総合選手権大会
6月23日　北部中学校
男子
準決勝　西部中　23－7　北部中
準決勝　南部中　11－8　八代中
決勝　西部中　17－4　南部中
（1位　西部中）
女子
決勝　北部中　12－1　南部中
（1位　北部中）

○高岡地区選手権大会
7月1日　北部中学校
男子
1回戦　八代中　10－9　南星中
2回戦　西部中　20－5　八代中
〃　南部中　14－6　高西部中
〃　北部中　10－13　志貴野中
準決勝　西部中　19－0　八代中
〃　南部中　7－10　志貴野中
決勝　西部中　19－5　志貴野中
（1位　西部中）
女子
1回戦　南部中　15－1　芳野中
準決勝　南部中　5－13　大門町中
〃　北部中　21－1　国吉中
決勝　北部中　7－8　大門中
（2位　北部中）

○市民体育大会
7月16日　氷見高校
男子
準決勝　西部中　17－3　北部中
〃　南部中　10－6　八代中
決勝　西部中　16－7　南部中

（1位　西部中）

女　子

決　勝　南部中　10－5　北部中

（1位　南部中）

○県総合選手権大会

7月24日　富山西部中学校

男　子

決　勝　西部中　17－7　志貴野中

（1位　西部中）

女　子

決　勝　北部中　2－2　般若中

（2位　北部中）

○県民体育大会

8月6日・7日　高岡商業高校

男　子

決　勝　西部中　12－6　志貴野中

（1位　西部中）

女　子

決　勝　南部中　8－13　国吉中

（2位　南部中）

○第6回北陸三県大会

8月4日　福井県成和中学校

男　子

リーグ戦　西部中　12－6　金津中（福井）

西部中　11－15　芦城中（石川）

（2位　西部中）

○全国中学校総合選手権大会

8月18日　茨城県麻生中学校

男　子

西部中　7－8　麻生選抜

○市新人大会

10月7日　北部中学校

男　子

準決勝　西部中　13－11　八代中

決　勝　西部中　12－8　南部中

（1位　西部中）

女　子

決　勝　南部中　11－5　北部中

（1位　南部中）

○高岡地区新人大会

10月16日　南部中学校

男　子

1回戦　八代中　9－3　志貴野中

〃　南部中　8－4　大門中

〃　北部中　9－2　南星中

〃　西部中　15－6　高陵中

準決勝　西部中　14－6　北部中

決　勝　西部中　12－10　南部中

（1位　西部中）

女　子

1回戦　北部中　7－6　芳野中

準決勝　南部中　3－8　国吉中

準決勝　北部中　7－3　小杉中

決　勝　北部中　7－8　国吉中

（2位　北部中）

○室内大会

2月19日　氷見高校

男　子

準決勝　西部中　19－6　北部中

準決勝　南部中　6－3　八代中

決　勝　西部中　14－10　南部中

（1位　西部中）

女　子

決　勝　北部中　8－2　南部中

（1位　北部中）

昭和53年

○市中学校春季大会

5月28日　北部中学校

男　子

準決勝　西部中　8－6　八代中

準決勝　南部中　14－8　北部中

決　勝　南部中　7－4　西部中

（1位　南部中）

女　子

決　勝　南部中　8－3　北部中

（1位　南部中）

○市選手権大会

6月22日　北部中学校

男　子

準決勝　西部中　16－8　北部中

〃　南部中　16－9　八代中

決　勝　西部中　13－12　南部中

（1位　西部中）

女　子

決　勝　北部中　7－4　南部中

（1位　北部中）

○高岡地区選手権大会

男　子

1回戦　八代中　18－2　高西部中

〃　北部中　14－7　伏木中

2回戦　西部中　13－4　八代中

〃　南部中　21－9　志貴野中

〃　北部中　18－4　高陵中

準決勝　西部中　23－5　南星中

〃　南部中　24－5　北部中

決　勝　南部中　14－7　西部中

（1位　南部中　2位　西部中）

女　子

1回戦　南部中　4－3　小杉中

準決勝　北部中　12－1　大門中

準決勝　南部中　4－8　国吉中

決　勝　北部中　7－5　国吉中

（1位　北部中）

○県選手権大会

7月25日　呉羽小学校

男　子

1回戦　西部中　6－5　般若中

準決勝　南部中　14－9　富西部中

準決勝　西部中　11－8　杉原中

決　勝　西部中　11－3　南部中

（1位　西部中）

女　子

準決勝　北部中　10－9　杉原中

決　勝　北部中　4－9　般若中

（2位　北部中）

○第7回北陸三県大会

8月3日　呉羽中学校

男　子

リーグ戦　西部中　11－6　金津中（福井）

西部中　7－15　芦城中（石川）

（2位　西部中）

○市民体育大会

7月16日　氷見高校

男　子

準決勝　北部中　11－7　八代中

〃　西部中　8－3　南部中

決　勝　西部中　17－10　北部中

（1位　西部中）

女　子

決　勝　北部中　11－4　南部中

（1位　北部中）

○県民体育大会

8月5日・6日　呉羽中学校

男　子

1回戦　西部中　13－5　上滝中

準決勝　西部中　16－9　富西部中

決　勝　西部中　12－11　杉原中

（1位　西部中）

女　子

準決勝　北部中　4－7　国吉中

○市新人大会

10月5日　南部中学校

男　子

準決勝　八代中　11－3　南部中

〃　西部中　16－5　北部中

決　勝　西部中　11－2　八代中
（1位　西部中）
女　子
決　勝　北部中　12－8　南部中
（1位　北部中）

○高岡地区新人大会
10月15日　南部中学校
男　子
1回戦　西部中　14－2　南星中
〃　南部中　2－10　大門中
〃　八代中　1－3　志貴野中
〃　北部中　5－13　高陵中
準決勝　西部中　11－8　大門中
決　勝　西部中　3－5　高陵中
（2位　西部中）
女　子
1回戦　南部中　4－3　大門中
準決勝　南部中　5－11　国吉中
準決勝　北部中　9－5　小杉中
決　勝　北部中　6－5　国吉中
（1位　北部中）

○市室内大会
2月18日　氷見高校
男　子
準決勝　西部中　17－6　南部中
〃　北部中　13－3　八代中
決　勝　西部中　14－9　北部中
（1位　西部中）
女　子
決　勝　北部中　11－5　南部中
（1位　北部中）

昭和54年

○市春季大会
5月6日　北部中学校
男　子
準決勝　西部中　17－8　八代中
〃　北部中　13－9　南部中
決　勝　西部中　15－12　北部中
（1位　西部中）
女　子
決　勝　北部中　20－1　南部中
（1位　北部中）

○市選手権大会
6月21日　北部中学校
男　子
準決勝　西部中　11－8　南部中
決　勝　北部中　11－9　西部中
（1位　北部中）

○高岡地区選手権大会
6月28日　北部中学校
男　子
1回戦　南部中　11－5　伏木中
〃　八代中　16－5　高西部中
2回戦　南部中　13－10　高陵中
〃　西部中　6－5　南星中
〃　北部中　13－5　八代中
準決勝　西部中　16－6　南部中
準決勝　北部中　18－14　大門中
決　勝　西部中　16－13　北部中
（1位　西部中　2位　北部中）
女　子
1回戦　南部中　5－2　大門中
準決勝　南部中　3－14　国吉中
準決勝　西部中　6－10　小杉中

○県選手権大会
7月25日・26日　呉羽中学校
男　子
1回戦　西部中　16－5　新庄中
〃　北部中　18－12　般若中
準決勝　西部中　14－4　杉原中
準決勝　北部中　10－8　呉羽中
決　勝　北部中　12－9　西部中

（1位　北部中　　2位　西部中）

女　子

1回戦　南部中　8－25　般若中

〃　北部中　16－4　杉原中

準決勝　北部中　9－10　国吉中

○第8回北信越三県大会

8月4日・5日　金沢実践倫理記念会館

男　子

リーグ戦　北部中　13－9　金津中（福井）

北部中　9－13　御幸中（石川）

西部中　12－9　芦城中（石川）

西部中　10－12　光陽中（福井）

（3位　西部中・北部中）

○市民体育大会

7月14日　氷見高校

男　子

準決勝　西部中　14－7　八代中

決勝　西部中　9－8　北部中

（1位　西部中）

女　子

1　位　北部中

○県民体育大会

7月28日・29日　高岡日大高校

男　子

1回戦　西部中　24－3　上滝中

準決勝　西部中　14－9　大門中

決勝　西部中　4－9　高陵中

（2位　西部中）

女　子

1回戦　北部中　17－6　富西部中

準決勝　北部中　10－9　国吉中

決勝　北部中　6－13　般若中

（2位　北部中）

○市新人大会

10月4日　北部中学校

男　子

準決勝　北部中　10－7　八代中

準決勝　西部中　11－7　八代中

決勝　西部中　12－4　北部中

（1位　西部中）

女　子

決勝　北部中　17－8　南部中

（1位　北部中）

○高岡地区新人大会

南部中学校

男　子

1回戦　西部中　11－6　伏木中

〃　南部中　6－4　大門中

〃　北部中　8－1　南星中

〃　八代中　7－5　高陵中

準決勝　西部中　11－7　南部中

〃　北部中　16－8　八代中

決勝　西部中　－　北部中

（1位　西部中）

女　子

1回戦　南部中　11－10　大門町

準決勝　北部中　5－9　小杉中

準決勝　南部中　11－19　国吉中

○県選抜新人大会

男　子

1回戦　北部中　15－16　般若中

準決勝　西部中　25－10　呉羽中

決勝　西部中　23－9　般若中

（1位　西部中）

○室内大会

2月17日　氷見高校

男　子

リーグ戦　西部中　8－6　北部中

西部中　17－3　南部中

北部中　9－8　南部中

（1位　西部中）

女　子

決勝　北部中　14－8　南部中

（1位　北部中）

昭和55年

○市春季大会

5月4日　北部中学校

男　子

準決勝　北部中　13－5　八代中

準決勝　西部中　15－4　南部中

決　勝　西部中　17－12　北部中

（1位　西部中）

女　子

決　勝　北部中　16－5　南部中

（1位　北部中）

○市選手権大会

6月19日　北部中学校

男　子

準決勝　西部中　18－9　八代中

準決勝　北部中　11－4　南部中

決　勝　西部中　14－2　北部中

（1位　西部中）

女　子

決　勝　北部中　15－0　南部中

（1位　北部中）

○高岡地区選手権大会

6月27日　北部中学校

男　子

1回戦　西部中　15－3　伏木中

〃　八代中　17－6　大門中

〃　南部中　9－6　南星中

〃　北部中　14－1　志貴野中

準決勝　西部中　16－3　八代中

準決勝　北部中　13－11　南部中

決　勝　西部中　11－5　北部中

（1位　西部中　2位　北部中）

女　子

準決勝　南部中　6－20　小杉中

準決勝　北部中　20－6　国吉中

決　勝　北部中　2－13　小杉中

（2位　北部中）

○県選手権大会

7月25日・26日　呉羽中学校

男　子

1回戦　西部中　20－5　福岡中

〃　八代中　10－8　杉原中

〃　北部中　9－16　新庄中

準決勝　西部中　19－4　八代中

決　勝　西部中　13－10　新庄中

（1位　西部中）

女　子

1回戦　北部中　12－5　呉羽中

準決勝　北部中　13－6　国吉中

決　勝　北部中　8－6　般若中

（1位　北部中）

○北信越選手権大会

8月4日・5日　福井県明倫中・成和中

男　子

1回戦　西部中　17－8　光陽中（福井）

準決勝　西部中　6－10　芦城中（石川）

女　子

1回戦　北部中　12－6　明倫中（福井）

準決勝　北部中　4－12　芦城中（石川）

○市民体育大会

7月6日　氷見高校

男　子

準決勝　西部中　18－9　八代中

準決勝　南部中　9－7　北部中

決　勝　西部中　18－10　南部中

（1位　西部中）

女　子

決　勝　北部中　24－4　南部中

（1位　北部中）

○県民体育大会

8月10日・11日　高岡日大高校

男　子

1回戦　西部中　18－4　杉原中

準決勝　西部中　17－7　福岡中

決　勝　　西部中　１９－１２　新庄中
（１位　西部中）
女　　子
１回戦　　北部中　１０－３　呉羽中
準決勝　　北部中　２－４　般若中

○市新人大会
１０月３日　北部中学校
男　　子
準決勝　　西部中　１７－５　南部中
準決勝　　北部中　２２－７　八代中
決　勝　　北部中　１０－８　西部中
（１位　北部中）
女　　子
決　勝　　北部中　９－８　南部中
（１位　北部中）

○高岡地区新人大会
１０月１２日・１８日　南部中・北部中
男　　子
１回戦　　南部中　１０－７　高西部中
２回戦　　南部中　８－９　志貴野中
〃　　西部中　２０－６　高陵中
〃　　北部中　２４－１０　八代中
準決勝　　西部中　１７－６　志貴野中
準決勝　　北部中　１９－７　南星中
決　勝　　西部中　１６－１４　北部中
（１位　西部中　　２位　北部中）
女　　子
１回戦　　南部中　８－７　大門中
準決勝　　南部中　１－８　小杉中
準決勝　　北部中　７－８　国吉中

○県新人選抜大会
１０月２６日・１１月３日
北部中・高岡市民体育館
男　　子
１回戦　　北部中　１８－７　般若中
準決勝　　西部中　２３－５　杉原中
準決勝　　北部中　１４－８　呉羽中
決　勝　　西部中　１６－１２　北部中
（１位　西部中　　２位　北部中）

○室内大会
２月２２日　氷見高校
男　　子
準決勝　　西部中　２１－１　南部中
準決勝　　北部中　２４－７　八代中
決　勝　　西部中　１６－１０　北部中
（１位　西部中）
女　　子
決　勝　　北部中　１０－５　南部中
（１位　北部中）

昭和56年

○市春季大会
５月３日　北部中学校
男　　子
準決勝　　北部中　２５－５　八代中
準決勝　　西部中　２１－８　南部中
決　勝　　西部中　１７－１６　北部中
（１位　西部中）
女　　子
決　勝　　北部中　１５－６　南部中
（１位　北部中）

○市選手権大会
６月１４日　北部中学校
男　　子
準決勝　　西部中　２６－７　八代中
準決勝　　北部中　２３－７　南部中
決　勝　　西部中　１８－１１　北部中
（１位　西部中）
女　　子
決　勝　　北部中　１５－８　南部中
（１位　北部中）

○高岡地区選手権大会
６月２６日　北部中学校

男　子

1回戦　八代中　8－6　南星中

〃　北部中　15－8　大門中

〃　南部中　6－14　志貴野中

〃　西部中　21－1　高西部中

準決勝　北部中　28－9　八代中

準決勝　西部中　18－3　志貴野中

決　勝　西部中　17－15　北部中

（1位　西部中　2位　北部中）

女　子

1回戦　南部中　2－17　小杉中

準決勝　北部中　10－7　大門中

決　勝　北部中　9－20　小杉中

（2位　北部中）

○ 市民体育大会

7月4日　北部中学校

男　子

準決勝　西部中　21－5　八代中

準決勝　北部中　32－6　南部中

決　勝　西部中　14－12　北部中

（1位　西部中）

女　子

決　勝　北部中　16－11　南部中

（1位　北部中）

○ 県選手権大会

7月25日・26日　呉羽中学校

男　子

1回戦　西部中　16－11　杉原中

〃　北部中　20－9　福岡中

準決勝　西部中　18－4　般若中

準決勝　北部中　16－12　呉羽中

決　勝　西部中　15－11　北部中

（1位　西部中　2位　北部中）

女　子

1回戦　北部中　8－6　杉原中

準決勝　北部中　9－14　般若中

○ 北信越大会

8月4日・5日　志貴野中学校

男　子

2回戦　西部中　13－9　潟東中（新潟）

2回戦　北部中　26－3　屋代中（長野）

準決勝　西部中　12－11　城南中（石川）

準決勝　北部中　12－13　芦城中（石川）

決　勝　西部中　16－14　芦城中（石川）

（1位　西部中　3位　北部中）

○ 県民体育大会

8月8日　新庄中学校

男　子

1　位　西部中学校

○ 市新人大会

10月1日　北部中学校

男　子

準決勝　北部中　26－4　南部中

準決勝　西部中　31－2　八代中

決　勝　西部中　20－8　北部中

（1位　北部中）

女　子

決　勝　北部中　9－5　南部中

（1位　北部中）

○ 高岡地区新人大会

10月11日　北部中学校

男　子

1回戦　西部中　20－10　高西部中

〃　南部中　9－18　大門中

〃　八代中　9－13　南星中

〃　北部中　13－9　志貴野中

準決勝　西部中　15－12　大門中

準決勝　北部中　13－11　南星中

決　勝　西部中　15－13　北部中

（1位　西部中　2位　北部中）

女　子

1回戦　南部中　4－2　国吉中

準決勝　南部中　4－18　小杉中

準決勝　北部中　15－7　大門中
決勝　北部中　8－12　小杉中
（2位　北部中）

○県新人選抜大会

10月25日　北部中学校

男子

1回戦　北部中　16－4　般若中
準決勝　西部中　19－12　新庄中
準決勝　北部中　21－22　呉羽中
決勝　西部中　18－6　呉羽中
（1位　西部中）

女子

1回戦　北部中　9－6　杉原中
準決勝　北部中　18－3　般若中
決勝　北部中　7－11　小杉中
（2位　北部中）

昭和57年

○春季大会

5月3日　北部中学校

男子

準決勝　北部中　31－10　八代中
準決勝　西部中　31－6　南部中
決勝　西部中　23－13　北部中
（1位　西部中）

女子

決勝　北部中　26－6　南部中
（1位　北部中）

○市選手権大会

6月18日　南部中学校

男子

1回戦　八代中　48－1　離浦中
準決勝　西部中　30－14　八代中
準決勝　北部中　24－7　南部中
決勝　西部中　23－15　北部中
（1位　西部中）

女子

決勝　北部中　18－5　南部中
（1位　北部中）

○高岡地区選手権大会

6月25日　南部中学校

男子

1回戦　西部中　25－6　志貴野中
〃　八代中　11－22　大門中
〃　北部中　29－7　高西部中
〃　南部中　12－20　南星中
準決勝　西部中　16－15　大門中
準決勝　北部中　19－16　南星中
決勝　西部中　19－14　北部中
（1位　西部中　2位　北部中）

女子

1回戦　南部中　20－17　伏木中
準決勝　南部中　2－32　小杉中
準決勝　北部中　23－4　大門中
決勝　北部中　5－11　小杉中
（2位　北部中）

○市民体育大会

7月4日　氷見高校

男子

1回戦　南部中　31－1　離浦中
準決勝　西部中　29－11　南部中
準決勝　北部中　22－12　八代中
決勝　西部中　23－17　北部中
（1位　西部中）

女子

決勝　北部中　32－2　南部中
（1位　北部中）

○県選手権大会

7月25日・26日　北部中学校

男子

1回戦　西部中　22－7　八尾中
〃　北部中　30－10　般若中
準決勝　西部中　18－11　新庄中

準決勝　北部中　２１－１４　大門町中
決　勝　西部中　２１－１７　北部中
（１位　西部中　　２位　北部中）
女　子
１回戦　北部中　２６－７　出町中
準決勝　北部中　２２－１２　呉羽中
決　勝　北部中　１０－１５　小杉中
（２位　北部中）

○ 全国中学ハンドボール大会
８月２２日～２４日　北部中学校
男　子
１回戦　北部中　２８－１６　郡山１中(福島)
〃　西部中　２４－７　那加中(岐阜)
２回戦　北部中　１１－１３　松橋中(熊本)
〃　西部中　１４－１０　高島中(滋賀)
準決勝　西部中　１３－１５　芦城中(石川)
（３位　西部中）
女　子
１回戦　北部中　２２－７　鳥取中(北海道)
２回戦　北部中　８－１８　芦城中(石川)

○ 市新人大会
１０月１日　北部中学校
男　子
１回戦　八代中　３３－０　離補中
準決勝　南部中　１５－１３　八代中
準決勝　北部中　２３－９　西部中
決　勝　北部中　２２－１５　南部中
（１位　北部中）
女　子
決　勝　北部中　２２－４　南部中
（１位　北部中）

○ 高岡地区新人大会
１０月１０日・１６日　南部中学校
男　子
１回戦　離補中　４－２６　高西部中
〃　西部中　１２－１３　志貴野中
２回戦　北部中　２４－９　高西部中
２回戦　八代中　１５－７　高陵中
〃　南部中　２０－６　大門中
準決勝　北部中　２１－１７　八代中
準決勝　南部中　１０－１４　南星中
決　勝　北部中　１９－１４　南星中
（１位　北部中）
女　子
１回戦　南部中　１２－１１　国吉中
〃　北部中　２５－２　芳野中
準決勝　南部中　２－２４　小杉中
準決勝　北部中　２７－４　伏木中
決　勝　北部中　９－１２　小杉中
（２位　北部中）

○ 第４回富山県中学校選抜大会
１１月１４日　呉羽中学校
男　子
１回戦　北部中　１９－９　新庄中
準決勝　北部中　１５－５　般若中
決　勝　北部中　１４－１４　呉羽中
P.T.C
６－５
（１位　北部中）
女　子
１回戦　北部中　２５－３　般若中
準決勝　北部中　１７－９　呉羽中
決　勝　北部中　９－１５　小杉中
（２位　北部中）

昭和58年

○ 春季大会
５月３日　北部中学校
男　子
１回戦　八代中　２１－６　離補中
準決勝　西部中　１９－１５　八代中
準決勝　北部中　１８－１６　南部中
決　勝　北部中　２２－１４　西部中
（１位　北部中）

女　子

決　勝　北部中　２５－７　南部中

（１位　北部中）

○市中学校総合選手権大会

6月１７日　北部中学校

男　子

１回戦　八代中　２７－５　離浦中

準決勝　北部中　１９－１８　八代中

準決勝　西部中　１８－１５　南部中

決　勝　北部中　２２－９　西部中

（１位　北部中）

女　子

決　勝　北部中　２３－１０　南部中

（１位　北部中）

○高岡地区中学校選手権大会

6月２４日　南部中学校

男　子

１回戦　北部中　１２－６　高陵中

〃　南部中　１２－９　大門中

〃　西部中　１２－８　志貴野中

〃　八代中　７－８　南星中

準決勝　北部中　２１－１１　南部中

準決勝　西　中　８－１０　南星中

決　勝　北部中　１０－１１　南星中

（２位　北部中）

女　子

１回戦　南部中　９－１１　伏木中

準決勝　北部中　１８－７　大門中

決　勝　北部中　１５－１８　小杉中

（２位　北部中）

○市民体育大会

7月３日　氷見高校

男　子

１位　八代中学校

女　子

１位　北部中学校

○県選手権大会

7月１６日・１７日　北部中学校

男　子

１回戦　北部中　２１－１６　般若中

〃　西部中　１３－１２　呉羽中

準決勝　北部中　１５－１４　西部中

決　勝　北部中　９－２３　南星中

（２位　北部中）

女　子

１回戦　北部中　２５－４　般若中

準決勝　北部中　１８－７　呉羽中

決　勝　北部中　７－１７　小杉中

（２位　北部中）

○県民体育大会（置県１００年記念大会）

7月２４日・２５日　向陵高校

男　子

１回戦　八代中　２６－６　上滝中

準決勝　八代中　２２－１３　般若中

決　勝　八代中　１８－１２　南星中

（１位　八代中）

女　子

準決勝　北部中　６－２０　小杉中

○北信越中学校総合選手権大会

8月２日～４日　石川県

男　子

１回戦　北部中　１８－８　裾花中（長野）

２回戦　北部中　２２－２０　為東中（新潟）

準決勝　北部中　１４－２５　芦城中（石川）

女　子

１回戦　北部中　１２－１８　寺井中（石川）

○市新人大会

9月３０日　北部中学校

男　子

１回戦　八代中　２０－１７　離浦中

準決勝　北部中　１２－９　八代中

準決勝　西部中　２１－２０　南部中

決　勝　西部中　１９－１０　北部中

（1位　西部中）

女　子

決　勝　北部中　17－7　南部中

（1位　北部中）

○高岡地区新人大会

10月9日・10日　南部中学校

男　子

1回戦　灘浦中　16－6　高西部中

〃　北部中　9－8　高陵中

2回戦　西部中　27－5　灘浦中

〃　八代中　7－13　志貴野中

〃　南部中　12－6　大門中

〃　北部中　7－17　南星中

準決勝　西部中　21－11　志貴野中

準決勝　南部中　8－15　南星中

決　勝　西部中　12－18　南星中

（2位　西部中）

女　子

準決勝　南部中　3－14　小杉中

準決勝　北部中　7－10　国吉中

○県新人選抜大会

10月23日　新庄中学校

男　子

1回戦　西部中　11－9　般若中

準決勝　西部中　13－19　呉羽中

○室内大会

2月19日　氷見高校

男　子

1回戦　南部中　17－11　灘浦中

準決勝　西部中　20－5　南部中

準決勝　八代中　14－8　北部中

決　勝　西部中　—　八代中

（1位　西部中）

女　子

決　勝　北部中　23－6　南部中

（1位　北部中）

昭和59年

○市春季大会

4月29日　北部中学校

男　子

1回戦　北部中　21－13　灘浦中

準決勝　西部中　15－12　北部中

準決勝　八代中　16－15　南部中

決　勝　八代中　18－16　西部中

（1位　八代中）

女　子

決　勝　北部中　22－15　南部中

（1位　北部中）

○市選手権大会

6月15日　北部中学校

男　子

1回戦　北部中　19－14　灘浦中

準決勝　北部中　21－10　八代中

準決勝　西部中　22－20　南部中

決　勝　北部中　18－16　西部中

（1位　北部中）

女　子

決　勝　南部中　19－11　北部中

（1位　南部中）

○高岡地区選手権大会

6月22日　南部中学校

男　子

1回戦　八代中　11－19　南星中

〃　西部中　13－10　高陵中

〃　南部中　24－7　大門中

〃　北部中　19－14　志貴野中

準決勝　西部中　15－10　南星中

準決勝　北部中　18－8　南部中

決　勝　西部中　22－13　北部中

（1位　西部中　2位　北部中）

女　子

1回戦　北部中　20－6　大門中

準決勝　北部中　5－9　国吉中

準決勝　南部中　6－24　小杉中

○市民体育大会

7月15日　氷見高校

男子

1回戦　西部中　14－12　八代中

準決勝　北部中　17－16　西部中

準決勝　南部中　21－9　灘浦中

決勝　北部中　22－10　南部中

（1位　北部中）

女子

決勝　北部中　18－10　南部中

（1位　北部中）

○県中学校選手権大会

7月25日・26日　向陵高校

男子

1回戦　北部中　22－15　福岡中

〃　西部中　13－11　八尾中

準決勝　北部中　12－20　呉羽中

準決勝　西部中　21－16　堀川中

決勝　西部中　13－26　呉羽中

（2位　西部中）

女子

1回戦　北部中　11－17　呉羽中

〃　南部中　16－6　出町中

準決勝　南部中　2－26　小杉中

○県民体育大会

8月11日　大門中学校

男子

1回戦　北部中　18－21　呉羽中

女子

1回戦　北部中　15－18　鵜坂中

○北信越中学校選手権大会

8月7日・8日　新潟県柏崎市

男子

1回戦　西部中　16－19　光陽中（福井）

○市新人大会

9月28日　北部中学校

男子

1回戦　西部中　17－9　灘浦中

準決勝　南部中　21－10　西部中

準決勝　八代中　18－9　北部中

決勝　南部中　17－10　八代中

（1位　南部中）

女子

決勝　南部中　15－8　北部中

○高岡地区新人大会

10月7日・13日　南部中学校

男子

1回戦　西部中　31－1　伏木中

〃　北部中　12－11　大門中

〃　八代中　24－10　高西部中

〃　灘浦中　18－11　志貴野中

〃　西条中　18－16　高陵中

2回戦　西部中　17－22　南星中

〃　北部中　17－11　八代中

〃　灘浦中　13－19　小杉南中

〃　南部中　22－14　西条中

準決勝　北部中　17－20　南星中

準決勝　南部中　30－13　小杉南中

決勝　南部中　14－15　南星中

（2位　南部中）

昭和59年氷見市ハンドボール協会役員名簿

事務局　氷見市北部中学校
電　　話　0766－74－1100(自宅72－5067)
事務責任者　地子英信

役員名	氏名	現住所	TEL	勤務先
会長	早崎幸一	氷見市間島2－4	0766－74－2244	早崎水産(自営)
副会長	金原至	氷見市朝日本町14－24	0766－72－3694	高岡商業高等学校
〃	桶家寛	氷見市幸町1－29	0766－72－0356	自営
〃	地子英信	氷見市加納1248	0766－72－5067	氷見市立北部中学校
理事長	稲積忠勝	氷見市朝日本町6－15	0766－72－0893	日本曹達高岡工場
副理事長	浦野修治	氷見市川尻601	0766－91－6184	氷見市役所
〃	伊勢利弘	氷見市朝日本町17－43	0766－74－2310	氷見市立西条中学校
監査	徳前啓人	氷見市幸町5－34	0766－72－2211	氷見高等学校
〃	山口吉弘	氷見市北大町12－20	0766－74－5850	有磯高等学校
顧問	嶋田新太郎	氷見市中村878	0766－72－4435	向陵高等学校
〃	角勉	氷見市伊勢大町1－4－22	0766－72－0316	経済連
〃	馳悟	氷見市朝日本町19－6	0766－72－2294	伏木高等学校
理事	池田信幸	氷見市幸町9－69	0766－72－0969	日本曹達高岡工場
〃	旅逸郎	氷見市鞍川1751	0766－72－3299	伏木高等学校
〃	中村憲右	氷見市朝日本町19－35	0766－72－0312	自営(ナカムラゾーイング)
〃	赤萩賢良	氷見市柳田1225－14	0766－91－6372	自営
〃	高橋善治	氷見市深原623	0766－91－0648	三協アルミ㈱
〃	沢武哲也	氷見市諏訪野3－28	0766－72－0628	自営
〃	宮崎正己	氷見市柳田2764	0766－91－1567	氷見市立窪小学校
〃	中山重一	氷見市柳田951	0766－91－1248	全日本検数協会伏木出張所
〃	上秋美	氷見市地蔵町10－15	0766－72－5601	三協アルミ㈱
〃	坂純子	氷見市十二町出合3－5	0766－91－6193	自営
〃	田嶋静江	氷見市泉2155	0766－72－5036	氷見市立北部中学校
県評議員	早崎幸一	氷見市間島2－4	0766－72－2244	早崎水産(自営)
(代行)	桶家寛	氷見市幸町1－29	0766－72－0356	ブンシンスポーツ(自営)
市体協選出理事	稲積忠勝	氷見市朝日本町6－15	0766－72－0893	日本曹達高岡工場
〃	地子英信	氷見市加納1248	0766－72－5067	氷見北部中学校

氷見市ハンドボール協会会員名簿(氷見高校卒業分)

氏　　名	〒	住　　所	TEL	勤　務　先
第1回（23年度卒業）				
四十住　利　昭	935	氷見市中央町8－10	0766－72－0483	公務員(県職)
朝　日　芳　次	935	氷見市幸町10－2	0766－72－1866	塗装業
久　保　治　二	935	氷見市地蔵町7－45	0766－74－3715	サウナ
小　境　　仁	935	氷見市比美町18－4	0766－72－3428	十条製紙㈱
出　村　秀　三(堂故)	935	氷見市間島2－39	0766－72－0441	鐘紡戸出㈱役員
古　田　俊　光	935	氷見市北大町20－23	0766－72－2470	富山県立二上工業高等学校
山　岸　　昭	462	名古屋市北区名城3－1－8－202	052－991－9868	名古屋地方検察庁
(故)栗　山　　隆(牛島)				
三　浦　　明	340	埼玉県草加市遊馬町830－2	0489－27－2690	ブリジストン㈱
目　谷　　登	171	東京都豊島区目白1－6－18	03－981－1586	
指　崎　敏　明	274	千葉県船橋市習志野台5－42－12	0474－63－2283	日本電信電話公社
浜　本　　茂	213	神奈川県川崎市高津区下作延1946－41	044－833－0930	慶応義塾大学
江　幡　　弘	569	大阪市高槻市大蔵司2－49－9	0726－87－1576	プリマハム㈱取締役近畿営業部長
(故)小　嶋　剛　良				
第2回（24年度卒業）				
早　崎　幸　一(沢武)	935	氷見市間島2－4	0766－74－2244	自営(早崎水産)
曽　根　久　雄	935-01	氷見市鞍骨673	0766－91－6667	会社員
杉　林　正　一(河原)	192-02	東京都多摩市桜ケ丘3－19－5	0423－75－8537	教　員
第3回（25年度卒業）				
青　野　省　作	272	千葉県市川市宮久保3－41－7		
越　前　晃　一	930-11	富山市布瀬町568 三井物産立山寮	0764－91－3695	三井物産㈱富山支店
海　津　　弘	791-41	松山市吉三津町1108－2	0894－52－4459	㈳日本貨物検数協会松山事務所
金　原　　至	935	氷見市朝日本町14－24	0766－72－3694	富山県立高岡商業高等学校
坂　井　哲　郎	935-03	氷見市森寺351	0766－74－0615	富山県市氷見高等学校
竹　岸　重　曹	935	氷見市本町17－1	0766－74－2266	自　営
浜　本　茂　雄	935	氷見市阿尾650	0766－74－6203	梶　組
松　井　嘉　男	935	氷見市南大町13－16	0766－72－4781	氷見土木事務所
矢　崎　峻　作	935	氷見市朝日丘4－31	0766－72－6684	富山県立有磯高等学校
木　村　隆　雄				
澤　田　英　夫	203	東京都東久留米市前沢5－14－11	0424－74－3002	日本導入種苗㈱

氏　　名	〒	住　　所	TEL	勤　務　先
牧　　正　己	650	神戸市中央区港島中町3－1 ポートアイランド住宅43－201	078－302－1924	笹原商店部長
南　條　国　弘	935	氷見市余川4193	0766－74－1458	中越リップス㈱
第4回（26年度卒業）				
桶　家　　寛	935	氷見市幸町1－29	0766－72－0356	ブンシンスポーツ（自営）
（故）堀　野　祐一郎				
第5回（27年度卒業）				
青　野　豊　作	270	千葉県松戸市常盤平団地1－27－303	0473－88－6635	著述業（自営）
尾　山　久　義	561	大阪府豊中市服部元町2－5－17 フェザマンション207	06－862－0148	マルマン
楠　　昭　次	939-03	富山県射水郡小杉町中太閤山2	0766－56－4628	会社役員（飲食店）
池　田　信　幸	935	氷見市幸町9－69	0766－72－0969	日本曹達㈱高岡工場
長谷川　富　久	935	氷見市比美町8－7	0766－72－0002	歯科医師
九　沢　　隆	003	札幌市白石区もみじ台南1丁目5－1	011－897－3495	北海道銀行
村　上　千　助	422	静岡市池田1943－40	0542－62－3662	㈱斉藤電気
早　瀬　　弘	177	東京都練馬区大泉学園町7－20－8	03－924－1275	㈱早瀬商会
第6回（28年度卒業）				
大　石　辰　夫	730	広島市東区戸坂山根1－2－37	082－220－1355	三井造船㈱広島支店課長
中　勢　直　之	590	大阪府堺市田出江町5－12	0722－27－2978	大阪刑務所
藤　澤　英　樹	272-01	千葉県市川市福栄4－30－19	0473－96－8315	プリマハム㈱関東ミートセンター
星　野　郁　夫	569	大阪府高槻市西町55－9	0726－95－7806	㈱大水
本　川　　豊	350	埼玉県狭山市南入曽302－20	0429－58－2223	㈱ロージェ
第7回（29年度卒業）				
四十住　恒　夫	933	高岡市五十里西町48	0766－24－1520	吉久木材
辻　本　　勉	935	氷見市北大町20－52	0766－72－1796	三協アルミニウム工業㈱社長室次長
吉　滝　栄　一	935	氷見市比美町12－18	0766－72－3180	富山県立伏木高等学校
三　国　龍　郎	935	氷見市中央町10－24	0766－72－0132	製菓販売三国屋（自営）
吉　田　　透	935	氷見市十二町4322－748	0766－91－2162	会社員（家具のやまと店長）
峰　　了　樹	935	氷見市上久津呂1931	0766－91－3922	氷見市役所
串　田　義　市	193	東京都八王子市散田町4－8－104	0426－65－4104	
矢　崎　和　夫	193	東京都八王子市狹間町1084－86	0426－61－6084	
清　水　健　治	245	横浜市戸塚区汲沢ハイツ1154 汲沢東ハイツ1－702	045－871－6135	日本鋼管㈱
（故）東　　隆（吉崎）				
第8回（30年度卒業）				
（故）塩　井　豊　治				

氏　　名	〒	住　　所	TEL	勤　務　先
第9回（31年度卒業）				
徳前啓人(越前)	935	氷見市幸町5－34	0766－72－2211	富山県立氷見高等学校
岡部信一	935	氷見市島尾1066－18	0766－91－4093	北陸自動車工業㈱取締役
旅　逸郎	935	氷見市鞍川1751	0766－72－3299	富山県立伏木高等学校
遠藤和秋(野手)	935	氷見市伊勢大町2－14－7	0766－72－1233	国鉄富山車掌区
浅野　昌(村田)	933	高岡市吉久3－5－11	0766－84－0583	大谷工業㈱
神埜健雄	931	富山市豊若町76	0764－37－8353	レントゲン検査官
第10回（32年度卒業）				
金田静夫	935	氷見市島尾1342	0766－91－0214	電々公社
沢武興順	360	埼玉県熊谷市大字上川上字会下後461	0485－23－3657	理研ヒストンリング㈱
中村憲右	935	氷見市朝日本町19－35	0766－72－0312	住吉興産㈱ナカムラソーイング代表取締役
松井佳三	274	千葉県船橋市大穴町233－15－E201	0474－57－4366	日米砿油㈱埼玉販売支社
第11回（33年度卒業）				
安平久信(河上)	935	氷見市朝日本町23－3	0766－72－5876	富山県立高岡南高等学校
坪之内　功	935-04	氷見市泊13	0766－72－2978	伏木海陸運送㈱
西田藤夫	935-02	氷見市中村1376	0766－74－3835	富山日立家電㈱
野村　進	156	東京都世田谷区桜上水4－22－9 日新2－B	03－303－0159	北海電機㈱
萩原秀作	935	氷見市朝日本町10－9	0766－72－0765	日本海油送㈱
久保　勉	569	大阪府高槻市前島1丁目宮有	0726－69－4080	宗形製作所㈱
小林平八	333	埼玉県川口市大字新宿字諏訪山1113－12		教　員
小谷内正信	939-11	高岡市戸出町6－1－39	0766－63－0089	富山県立高岡商業高等学校
近藤　昇	227	横浜市緑区霧ケ丘3－3－11－107	045－922－1184	㈱太陽美術
斉藤明郎	934	新湊市八幡町1－7－23	0766－82－5956	富山市役所
(故)飛田良一				
第12回（34年度卒業）				
村上秀且(池田)	933	高岡市五十里西町30	0766－24－5442	三建興業㈱
角谷　昇	939-02	富山県射水郡大門町大門19	0766－52－1252（連）	
関守繁実(木田)	933	高岡市南田93	0766－24－5127	自営
森谷　豊	275	千葉県習志野市大久保3－14－6	0474－76－0792	三菱電気㈱
栗沢清次	935	氷見市島尾1066－16	0766－91－3378	氷見電子製作所
第13回（35年度卒業）				
十二町孝三	930	富山市湊入船町7－5－5	0764－31－3963	国鉄職員(富山第二機関区)
谷野　洋	319-11	茨城県那珂郡東海村船場445	09928－2－1406	㈱日立製作所那珂工場資材部

氏名	〒	住所	TEL	勤務先
小島遼二(池永)	935	氷見市伊勢大町　小島吉蔵方		
稲積忠勝	935	氷見市朝日本町6－15	0766－72－0893	日本曹達㈱高岡工場
鏡宮豊志	910	福井市城東2丁目12－1 下北国鉄アパート	0776－21－5490	国鉄職員
角一郎	935	氷見市本町13－10	0766－72－0424	自営(飲食業かどや)
谷口健一	935	氷見市柳田2242－3	0766－91－0474	ホクセイアルミ㈱
(故)池田靖司				
(故)大川忠彦				
第14回（36年度卒業）				
岩見征一	935	氷見市本町18－20	0766－72－1086	自営(鍼灸業)
稲積修	320	宇都宮市峰町145－4 近藤ハイム201号	0286－37－3140	三協アルミ
中山圭三	930-11	富山市堀川町283－5	0764－91－0707	富山県教育委員会体育課
木谷宏	371	前橋市六供町1096	0272－51－8598	丸井デパート
山口武臣	935	氷見市北大町22－11	0766－72－4839	三協アルミニウム工業㈱
越田義昭	910	福井市木田町169－1	0776－35－2629	福井県立羽水高等学校
新井八郎	454	名古屋市中川区富田町包里字西川1060－2	052－301－4502	日本検数教会
第15回（37年度卒業）				
杉林政一(山下)	933-01	高岡市太田1405	0766－44－5566	行政書士・不動産業（自営）
針山光男	935	氷見市幸町21－70	0766－74－0617	ちどり製菓舗
田嶋靖夫	935	氷見市泉2155	0766－72－5036	富山県立高岡高等学校
古伏脇実	040	北海道函館市日の出町15－14	0138－54－8424	函館文学学校事務局長
能登良雄	144	東京都大田区西蒲田6－17－18	03－739－5740	居酒屋能登(自営)
柳田閒逸(室田)	935	氷見市南大町25－17	0766－72－1624	日重鋳鋼㈱
森田隆	935	氷見市本町11－8	0766－74－2050	自営(食品販売)
第16回（38年度卒業）				
赤萩賢良(釣井)	935	氷見市柳田1225－14	0766－91－5372	自営(住宅設備機器販売工事)
山本善博	935	氷見市北大町		国鉄職員
第17回（39年度卒業）				
圧地和則	930-11	富山市上袋216－1	0764－22－2875	青果仲卸業
福島憲	507	岐阜県多治見市陶元町65 東海銀行多治見寮	0572－22－1038	東海銀行
梶安太郎	930-11	富山市赤田43－3	0764－29－4833	㈲協和青果代表
菅沢正登	935-03	氷見市磯辺1100	0766－95－1374	ツヅキアルミ販売㈱北陸営業所
中尾新一	935	氷見市伊勢大町1－2－7	0766－74－3945	自営業
(故)姿善元				

氏　　名	〒	住　　所	TEL	勤　務　先
第18回（40年度卒業）				
平瀬元宣	615	京都市右京区川島玉頭町24－3		ムネタカ㈱
三国優	935	氷見市比美町12－7	0766－72－2392	自営
宝住文雄	935-02	氷見市坪池32－40	0766－76－2006	自営
関勝之	935-03	氷見市吉滝285	0766－95－1465	氷見電子製作所
解田重松(森)	939-01	富山県西砺波郡福岡町中島2318	0766－64－2103	大同産業㈱所長
高橋善治	935-01	氷見市深原623	0766－91－0648	三協アルミニウム工業㈱
第19回（41年度卒業）				
大浜文一	935	氷見市伊勢大町1－2－23	0766－72－0329	大和ハウス工業
中山重一	935	氷見市柳田951	0766－91－5171	全日本検数協会
沢武哲也	935	氷見市諏訪野3－28	0766－72－0628	自営(電気商)
第20回（42年度卒業）				
浦野修治	935	氷見市川尻58	0766－91－2522	氷見市役所
吉本伸	933-01	高岡市太田(雨晴中部)90－1	0766－44－4821	吉田力事務所
大野昭治	464	名古屋市千種区星ケ丘2－1	052－781－2750	㈱S．S
古野敏充	935-01	氷見市飯久保2761	0766－91－3506	氷見電子㈱
第21回（43年度卒業）				
高橋広治	935	氷見市幸町19－2	0766－72－5231	北陸コカコーラ㈱
釣井吉男		大阪府守口市東元町26－5		ミツウロコ㈱
矢田部秀夫	812	福岡市博多区山王1－8－5 秋山ビル301号	092－473－1233	松阪商事㈱
第22回（44年度卒業）				
池渕清	935	氷見市伊勢大町2－9－34	0766－72－0240	㈲池渕商店
大町稔	935	氷見市伊勢大町2－5－5	0766－72－1441	北陸自動車塗装工業㈱
高野志朗	935	氷見市北大町20－61	0766－72－4104	立山アルミニウム工業㈱
大野秀明	935	氷見市朝日本町23－12	0766－72－2822	会社員
第23回（45年度卒業）				
池田邦彦	630	奈良市南半田中町17		予備校講師
上野憲一	935	氷見市阿尾2886	0766－72－4757	氷見電子製作所
裏義一	935	氷見市窪2118－8	0766－91－2581	氷見電子製作所
海下雄二	935	氷見市十二町3－13	0766－91－5973	日曹㈱高岡工場
坪川貞明	935	氷見市南大町4－6	0766－72－5283	電々公社
第24回（46年度卒業）				
山貫克郎	935	氷見市柿谷3542	0766－72－3232	教員

氏　　名	〒	住　　所	TEL	勤　務　先
第25回（47年度卒業）				
姿　　豊　晴	935-01	氷見市大浦新田9	0766－91－5190	教員
角　　大　輔	935	氷見市伊勢大町1－4－22	0766－72－0316	くみあい飼料㈱
江　幡　多喜彦	935	氷見市窪3214－3		会社員
北　川　秀　一	933-01	高岡市伏木中央町1－13	0766－44－0537	自営
第26回（48年度卒業）				
南　　勇　樹	935-02	氷見市中村1892	0766－74－3855	氷見市農協藪田支所
谷内口　数　尚	935	氷見市泉142	0766－74－3890	教員
浜　野　瑞　緒	657	神戸市灘区鶴甲3－18	078－821－6296	神戸埠頭公社
第27回（49年度卒業）				
石　山　　隆	935-01	氷見市深原988－1	0766－91－0673	氷見伏木信用金庫
殿　畑　正　剛	935	氷見市余川1335	0766－74－1783	国家公務員（郵政省）
近　江　　勝	914	福井県敦賀市昭和町	07702－5－0232	ＹＫＫ福井営業所
吉　田　満　雄		相模原市相模原2－4－12－317	0427－55－5053	大鵬製薬㈱
堂　尻　　繁	935-02	氷見市新保1336	0766－76－2971	氷見消防署
前　田　隆　宏	935	氷見市味川2591	0766－74－5033	宮崎青果㈱
第28回（50年度卒業）				
秀　永　倫　明	935	氷見市伊勢大町１丁目11－34	0766－74－0899	呉羽高校
上　野　孝　之	935-02	氷見市小久米702	0766－76－2662	国鉄
菅　沢　剛　一	935-03	氷見市一刎1116	0766－74－4679	富山大学理学部化学科理学研究生
大　橋　　稔	174	東京都板橋区南常盤台2－27－1 常盤台ハウス202号	03－958－4496	東邦生命保険相互
中　野　浩　二	935	氷見市川尻54－1	0766－91－1335	ダイヤ建設㈱
指　崎　泰　利	935	氷見市北大町6－7－257	0766－72－1532	富山県労働金庫
第29回（51年度卒業）				
旅　　秀　介	935	氷見市丸の内2－23	0766－74－0525	料理旅館（自営）
船　木　昭　二	272-01	千葉県市川市相之川3－4－16 パークマンション102号	0473－58－3012	新光工業
笠　尾　　寛	615	京都市右京区西院東今田町5 コーポロイト302		志津屋四条店調理師
佐　伯　鉄　夫	935	氷見市阿尾527	0766－72－1431	民宿城山（自営）
吉　井　勝　則	933-01	高岡市太田4075	0766－44－5665	高岡市立戸出西部小学校
松　室　祐　一	935	氷見市北八代483	0766－74－6532	高岡郵便局郵便課
逸　目　　豊	935-03	氷見市角間	0766－95－1406	農業
上坊寺　勇　人	002	札幌市北区篠路町拓北78－85	011－771－6833	北陸銀行

氏　　名	〒	住　　所	TEL	勤　務　先
第30回（52年度卒業）				
西　山　　清	737	広島県呉市若葉町3－3 日新製鋼若葉寮407	0823－21－7129	日新製鋼㈱呉製鉄所
中　浦　　悟	935	氷見市川尻606	0766－91－0374	高志養護学校
川　辺　　功(狩野)	935-01	氷見市布施1913	0766－91－0853	団体職員
川　井　郁　雄	930-01	富山市北押川1022	0764－34－1525	双和産業㈱北陸営業所
第31回（53年度卒業）				
大　門　義　広	154	東京都世田谷区池尻4－27－3	03－410－7877	会社員
中　山　光　広	935	氷見市南大町5－11	0766－72－1626	二上青少年の家
糸　　正　明	935	氷見市地蔵町5－3	0766－74－1534	大塚製薬㈱
小久保　仁　嗣	935-02	氷見市日名田1429	0766－76－2986	法政大学法学部在学
裏　　孝　行	934	新湊市八幡3－16－17	0766－84－2847	
関　谷　健　治	935-02	氷見市日名田990		高木成機㈱
布　施　清　昭	935	氷見市地蔵町16－7	0766－72－4489	東京観光学校在学
第32回（54年度卒業）				
光　安　美津夫	935-02	氷見市触坂8	0766－76－2228	㈱小松製作所氷見第二工場
山　崎　祐　治	935-02	氷見市谷屋1983	0766－76－1187	富山食糧事務所高岡支所
沢　武　功三郎	935	氷見市北大町14－30	0766－72－5646	国鉄石動駅
浦　　正　信	332	埼玉県川口市飯原13－30 飯原郵政宿舎３号	0482－52－5626	神田郵便局
水　谷　一　仁	935	氷見市伊勢大町2－2－36	0766－74－0650	十条製紙伏木工場
前　　和　人	935	氷見市園19	0766－91－1958	立山アルミ㈱
松　田　雅　人	935-02	氷見市論田793	0766－76－1547	㈱小松製作所氷見窪工場
高　西　　功	935-03	氷見市森寺291－2	0766－72－4255	吉田工業㈱
第33回（55年度卒業）				
瀬　戸　　茂	935-02	氷見市論田813	0766－76－1532	㈱小松製作所氷見工場
瀬　戸　政　昭	935-02	氷見市論田840	0766－76－1545	金沢経済大学商学部在学
小　坪　新　一	935	氷見市鞍川1749	0766－72－3271	順天堂大学体育学部在学
金　原　理　博	935	氷見市朝日本町14－24	0766－72－3694	日本大学在学
矢　田　晃　章	935	氷見市朝日丘11－24	0766－72－1944	日本大学在学
中　原　昭　二	935-02	氷見市論田2113	0766－76－1625	東海大学体育学部在学
第34回（56年度卒業）				
森　　一　仁	935-03	氷見市磯辺1256	0766－95－1836	小松製作所
山　本　和　彦	935-02	氷見市論田4455	0766－76－1723	富山大学工学部在学
西　山　茂　二	935-02	氷見市熊無1487	0766－76－1352	小松製作所氷見工場

氏　　名	〒	住　　所	TEL	勤　務　先
川崎一志	935-02	氷見市触坂	0766－76－2081	富山県立技術短期大学在学
大森真二	935	氷見市鞍川1041	0766－74－0399	名古屋ビジネス専門学校在学
桜打繁	935	氷見市幸町26－53	0766－74－3371	㈱三栄
田中博	935	氷見市上久津呂730	0766－91－0093	タカギ成機㈱
第35回（57年度卒業）				
大石克哉	935	氷見市加納1453	0766－72－3610	北陸電力㈱
林誓信	933	高岡市東下関2－20	0766－21－8843	日本体育大学体育学部在学
彫栄宗	935-02	氷見市岩瀬1796	0766－76－1840	三協アルミニウム工業㈱
鳥内政成	935	氷見市指崎10	0766－74－6392	中央大学経営学部
杉木勝	935-02	氷見市桑ノ院975	0766－76－2261	富山県市技術短期大学在学
第36回（58年度卒業）				
吉木正治	935-02	氷見市熊無183	0766－76－1258	電々公社(魚津)
桜打佳浩	935	氷見市加納64－3	0766－72－1740	金沢大学教育学部
杉本孝司	933	高岡市大坪町1－4－7	0766－22－9226	富山大学
堀川健志	935	氷見市川尻597	0766－71－6230	日本大学
宮下毅	935	氷見市地蔵町15－3	0766－74－2948	慶応大学
大伴裕	935-02	氷見市久目968	0766－77－1219	
前山徳彦	935-02	氷見市新保1303	0766－77－1814	
北山和仁	935	氷見市余川松ノ木7656	0766－74－1558	高岡郵便局
水口紀孝	935	氷見市柳田1943－2	0766－91－1718	
山口弘夫	935	氷見市北大町12－20	0766－74－5850	

氷見市ハンドボール協会会員名簿（有磯高校卒業分）

氏　　名（旧姓）	〒	住　　所	TEL	勤　務　先
第1回（31年度卒業）				
岩　上　照　子	935	氷見市伊勢大町2－9－40	0766－44－0133	藤園女子高校
加　藤　敦　子（池永）	572	大阪府寝屋川市太泰第12ハイツ734の４ＤＡ衛区15号	0720－22－5409	
鎌　仲　登志子	935	氷見市万尾784	0766－91－1778	
林　　千恵子（石崎）	294	千葉県館山市長須賀3	0470－23－1586	レストラン．スカイラーク
箕　田　悦　子（川口）	921	金沢市泉野町2－13－14	0762－41－0373	
原　　富　子（小松）	939-05	富山市水橋花の井町1－1－16	0766－78－2862	サロンド．ジャン
白　木　千恵子（田中）	168	東京都杉並区方南町2－25－15方南マンション302号	03－316－5200	
上　田　富美代（中尾）	933-01	高岡市伏木一宮1－1－38	0766－44－2241	十条製紙伏木工場
(故)神　谷　桂　子				
第2回（32年度卒業）				
太　田　和　美（太田）	534	大阪市都島区善源寺町1－2－5	06－928－7164	
古　川　京　子（岩坪）	185	東京都国分寺市本町２－25－8	0423－21－0915	
伊　藤　洋　子（竹岸）	514-22	三重県津市高野尾町3006－158	0592－30－1258	
金　森　和　子（川野）	343	埼玉県越谷市蒲生3－2－16		
大　場　和　子（早川）	933	高岡市大町2－19	0766－23－4668	自営（菓子製造業）
猿　田　章　子（余川）	240	横浜市保土ケ谷区岩井町駅前ハイツ	045－742－3731	
第3回（33年度卒業）				
十　二　友　子（森田）	198-02	東京都西多摩郡福生町熊川139－1熊川団地839号	0425－53－3721	立川スプリング株式会社
高　木　澄　江（広瀬）	935	氷見市朝日丘12－26	0766－74－4134	
第4回（34年度卒業）				
明　石　優　子（宮崎）	939-03	射水郡小杉町太閤山15－16	0766－56－5097	広瀬電気
何　原　千津子（藪田）	933	高岡市末広町8－48	0766－22－3976	自営（化粧品販売）
谷　畑　美智子（北浜）	935	氷見市泉	0766－72－1261	自営（縫製業）
吉　国　房　子（的場）	933	高岡市中川栄町2－10	0766－25－3845	大和証券高岡支店
浅　井　安　子（小川）	536	大阪市城東区関目町5－2－12	06－931－4926	
第5回（35年度卒業）				
古　田　洋　子（塩井）	920	金沢市御添田町378－2	0762－37－1399	
長谷川　陽　子（宇波）	933-01	高岡市伏木矢田上町3－1	0766－25－2818	自営（自動車部品販売）
時　田　初　恵	247	鎌倉市関谷653－1－507	0467－47－4017	革細工教師
鷹　野　勝　子（清水）	555	大阪市西淀川区歌島2－7－9	0467－47－4017	自営（レストラン）

氏　　名（旧姓）	〒	住　　所	TEL	勤　務　先
第6回（36年度卒業）				
有　島　絹　子（高山）	935	氷見市島尾1367	0766－74－1787	
村　田　市　子（山井）	933-01	高岡市太田伊勢領1446－4	0766－44－5922	
林　　千恵子（竹本）	610-01	城陽市平川東広田5－14	07745－4－3457	
野　畑　久　枝（桐）	935	氷見市柳田2810	0766－91－3176	
中　川　冷　子（坂）	935	氷見市諏訪野2－58	0766－74－2048	
後　　節　子（高橋）	535	大阪市旭区新森1－7 クローバーハイツ森小路3号棟136	06－955－0722	
第7回（37年度卒業）				
桑　田　比呂子（能登）	324	栃木県大田原市紫塚2693－78	02872－3－3656	
久　保　喜代美（張田）	935	氷見市地蔵町12－3	0766－72－0853	
木　本　秀　子（小橋）	196	東京都昭島市松原町1－25－11	0425－43－0853	
稲　積　邦　代（矢方）	935	氷見市朝日本町6－15	0766－72－0893	
第8回（38年度卒業）				
宮　前　ヒフミ（吉岡）	935	氷見市栄町	0766－74－4508	くぼた精肉店
吉　田　律　子（金田）	933-01	高岡市太田辰の口4840	0766－44－5931	
第9回（39年度卒業）				
西　　京　子	462	名古屋市北区名城町2－1－1 城北荘2棟114		
畑　中　桂　子（北沢）	935	氷見市窪1787－1	0766－91－0294	
林　　美代乃（嶋田）	350	埼玉県川越市天沼新田269－11	0462－32－1398	
東　海　恵美子	935	氷見市窪1527	0766－91－5225	上庄保育園
久　保　範　子（宮崎）	935	氷見市上田子1067	0766－91－3773	三興土木㈱
南　條　絹　枝（佐野）	935	氷見市余川4212	0766－74－1417	㈱富山県人社
第10回（40年度卒業）				
飯久保　桂　子	935	氷見市伊勢大町2－18－8	0766－72－4504	厚生連高岡病院
船　場　登美子（谷畑）	935	氷見市矢崎2415	0766－74－6406	
久　保　智代子（扇）	935-01	氷見市堀田	0766－91－1208	藤田誠一郎事務所
第11回（41年度卒業）				
青　出　千枝子（早藤）	930-11	富山市東中野町3－1－1	0764－21－7316	
釣　谷　民　子（林）	934	新湊市港町10－10	0766－84－0151	清寿司
中　農　美名子（辻）	573	大阪府枚方市甲斐日新町14－1	0720－43－2422	
高　沢　道　子（新井）	935	氷見市十二町4322－670	0766－91－6788	荻山教厳事務所
青　木　萩　野（鎌仲）	933	高岡市清水町1－1－28	0766－21－6168	小島屋洋服店
村　上　よし子（紅谷）	561	大阪府豊中市西服部2－4－24	06－863－0307	

氏　　名（旧姓）	〒	住　　所	TEL	勤　務　先
第12回（42年度卒業）				
（故）東　海　敏　子（山下）				
林　　外　美	935-01	氷見市惣領2266－1	0766－91－3732	仏生寺小学校
岩　水　秋　子（村上）	363	埼玉県桶川市下日出966－7	0487－87－1043	
第13回（43年度卒業）				
嶋　田　ひろみ	935-02	氷見市中村878	0766－72－4435	氷見高校
扇　原　税　子	276	千葉県八千代市村上3128 ほしば団地201	0474－82－9606	高松商事
長　浜　節　子（三輪）	934	新湊市港町10－14	0766－82－2266	長浜時計店
宮　崎　清　美	532	大阪市淀川区田川2－5－15	06－308－5996	教員
上　　秋　美（普奈木）	935	氷見市地蔵町17－15	0766－72－5601	新日軽㈱
沢　村　麗　子（坂本）	193	東京都八王子市川口町1645－1	0426－54－2192	
第14回（44年度卒業）				
京　井　順　子（地家）	933	高岡市赤祖父356	0766－21－1873	
高　橋　玲　子（中村）	580	大阪府松原市天美南20－10	0723－34－6286	
青　木　たまき（坂尻）	454	名古屋市中川区中島新町2－901 第1鬼頭マンション1－A	052－352－4592	
第15回（45年度卒業）				
桂　木　直　美（久保）	876	大分県佐伯市田の浦355－27	09722－2－3402	
石　倉　節　子（新堂）	936	滑川市笠木181		
立　浪　知恵子	933	高岡市佐加野1364	0766－24－2334	立浪電器店
第16回（46年度卒業）				
上　田　真　純（岡部）	935	氷見市下田子80	0766－91－5562	自営業
奥　田　洋　子（東海）	939-01	西砺波郡福岡町赤丸6641	0766－31－3381	三和製作所
黒　川　悦　子（南）	920	金沢市二口町8の6 マサミハイツ406号	0762－23－7508	
坂　　純　子	935	氷見市十二町字出合3－5	0766－91－6193	
泊　　清　美（孫田）	935	氷見市北大町11－31	0766－72－1888	
豊　田　和　美（古邸）	431-04	静岡県湖西市入会地17－130	05357－7－2257	
山　田　洋　子（地家）	935-01	氷見市仏生寺1338	0766－91－6617	
第17回（47年度卒業）				
坂　下　育　美（瀬戸）	935-02	氷見市論田2327	0766－76－1649	
北　野　美穂子（中村）	933-01	高岡市伏木東一の宮14－22	0766－44－5584	
地　子　久　子	935	氷見市加納1300	0766－72－5771	氷見冷蔵
東　海　典　子（禅野）	935	氷見市窪1348	0766－91－3586	北陸ソビック
堀　尾　和　美（江添）	933	高岡市東海老坂1107	0766－21－8830	北陸ソビック

氏　　名（旧姓）	〒	住　　所	TEL	勤　務　先
湊　　ふじ子（間方）	935	氷見市伊勢大町1－8－12	0766－74－1174	
第18回（48年度卒業）				
上野春美（草村）	935	氷見市阿尾2886	0766－72－4757	㈱氷見電子製作所
金戸智子（西田）	932-02	東砺波郡井波町井波3234	0763－18－0099	
木元敬子（津田）	933-01	高岡市太田304－2	0766－44－3661	
田山啓子（尾崎）	935-02	氷見市触坂239	0766－76－2534	㈱氷見電子製作所
中尾みち子	935-03	氷見市磯辺1702	0766－95－1928	㈱タカギ成機
中川小和子（堀田）	939-01	西砺波郡福岡町沢川649	0766－65－1131	自営業
野口陽子	929-01	石川県能美郡根上町字大成町 雇用促進住宅２号306室	07615－5－2787	
第19回（49年度卒業）				
岩上由美子	935	氷見市伊勢大町２－16－23	0766－74－1340	坊歯科医院
嶋田喜代子（柳田）	935	氷見市中泊1673	0766－72－1780	㈱タカギ成機
品川郁美（新上）	939-02	射水郡大島町赤井17－6	0766－52－3720	
長久隆子（屋舗）	939-14	砺波市東保616－1	0763－37－0820	
吉田春美	153	東京都目黒区上目黒4－24－14 大塚七太郎様方　１号室	03－719－7708	野口美容院
第20回（50年度卒業）				
市橋久美	920	金沢市小立野２丁目　福井コーポ 301号	0762－62－4015	
井上喜美子（南）	933-03	高岡市柴野内島791－1	0766－31－2211	
川田妙子（北山）	935	氷見市上泉243	0766－91－0608	大和高岡店
喜多佐知子（南）	935	氷見市上田738	0766－72－3547	
守谷悦子（伊藤）	935-02	氷見市久目3122	0766－76－1846	
屋敷恵子（坂本）	935	氷見市十二町3357	0766－74－6329	姫野精工所
山田桂子	935	氷見市幸町7－6	0766－72－5095	嶋津ニット
余川清美	935	氷見市加納4－2	0766－74－5478	
第21回（51年度卒業）				
小田比呂美（谷内）	935	氷見市藪田968	0766－72－1716	㈱タカギ成機
鎌仲富美恵（大橋）	935	氷見市上田11	0766－74－3339	
草山千代美（瀬戸）	935	氷見市朝日本町25－21	0766－72－5864	
曽根永貢子	935-01	氷見市鞍骨673	0766－91－6667	橋本製作所
坂井真由美（寺田）	931	富山市蓮町565－6	0764－38－5274	
新宅真理子（清水）	630	奈良市桂木町18－207	0742－61－0630	
高坂久美（西川）	935-02	氷見市新保1107－1	0766－76－1747	美容師
高橋美智子（新堂）	932	小矢部市岡561	0766－67－0515	自営業

氏　　名（旧姓）	〒	住　　所	TEL	勤　務　先
荻沢妙美（中野）	933	高岡市四屋242	0766－23－0645	済生会病院
第22回（52年度卒業）				
北浜夏子（加納）	935	氷見市稲積1367－1	0766－74－1621	
坂下早苗	816	春日市王子町１番地４区111号	0568－84－7470	
杉谷美樹	935	氷見市余川5008	0766－72－4566	西条商会
前里美（田山）	935	氷見市大野新123	0766－74－0287	オダケスポーツ
南條真喜子（細川）	935	氷見市余川4193	0766－74－1458	㈱氷見電子製作所
第23回（53年度卒業）				
川田洋子（岡田）	935	氷見市上田子1161	0766－91－0499	
高木由美子	935	氷見市朝日ケ丘12－15	0766－74－5243	美容師 ニューオリリー
新森恵美子（水口）	920	金沢市三社町8－21	0762－21－8011	
越伊津子（辰野）	935-01	氷見市矢田部2603	0766－91－0758	姫野精工
山岸玲子	935-02	氷見市桑院945	0766－76－2204	伊藤整形
第24回（54年度卒業）				
坂下美雪	935-02	氷見市論田4610	0766－79－1656	大和高岡店
曽場富美子	935	氷見市泉2497	0766－72－3628	氷見市民病院
田口理恵（浜下）	935	氷見市本町15－1	0766－72－0478	
中山桂子（飯田）	615	京都市西京区牛ケ瀬奥ノ坊15－2 シーバル桂泉508号室	075－381－0984	
蓮間智子	935-01	氷見市鞍骨2913	0766－91－6732	小松製作所
堀江佐和子	935	氷見市幸町21－67	0766－72－1342	㈱氷見電子製作所
第25回（55年度卒業）				
磯辺成子	935	氷見市諏訪野2－16	0766－72－3952	㈱氷見電子製作所
沖西八志代（山本）	935	氷見市間島557	0766－72－2703	自営業
佐賀田菊枝（道端）	935	氷見市朝日ケ丘1－7	0766－72－5397	大和高岡店
中貴栄	935	氷見市加納1337	0766－72－6854	ファッションショップ 〝200〟
林昌代	935-01	氷見市堀田1335	0766－91－5049	小松製作所
森田なぎさ	935-02	氷見市早借2555	0766－76－2667	㈱オミ合金
谷内文代	935-02	氷見市日詰713	0766－76－2008	㈱ホクセイアルミ
山市智津子（川田）	935	氷見市伊勢大町２－３－41	0766－74－6142	四日歯科医院
第26回（56年度卒業）				
柿埜幸代	935	氷見市中央町2－37	0766－72－5263	
田中美樹代	935	氷見市柳田2269	0766－91－2464	日本体育大学
十丸江利子	935	氷見市鞍川206	0766－72－6020	四日市・ジャスコ

氏　　名（旧姓）	〒	住　　所	TEL	勤　務　先
中　村　清　美（舟金）	935-02	氷見市土倉1891	0766－76－1006	
星　場　正　美	935	氷見市鞍川317	0766－72－5123	番匠化粧品
丸　山　雅　代	935	氷見市鞍川284－1	0766－72－6529	小松・北国銀行
水　谷　伸　子	935	氷見市朝日本町15－7	0766－74－2606	ヨシエスポーツ
宮　本　加奈江	935-02	氷見市日詰7－8	0766－76－2665	四日市・ジャスコ
安　井　時　枝	935-02	氷見市触坂324	0766－76－2677	㈱氷見電子製作所
第27回（57年度卒業）				
東　　絹　子	935	氷見市鞍川1712	0766－74－1347	㈱日東製網
雨　池　端　子（高橋）	935-01	氷見市鞍骨3112	0766－91－6538	㈱オヤベ運送
網　　佑三子	935	氷見市幸町29－41	0766－74－3443	㈱水口化成
円　戸　敦　子	935	氷見市余川5589	0766－74－3001	増岡鉄工所
柿　谷　安通子	935	氷見市北大町3－37	0766－74－0025	金沢女子短期大学
砂　山　昌　美	935	氷見市北大町12－25	0766－72－4146	広上製作所
野　田　美紀子	935	氷見市稲積1068	0766－74－3237	嶋津ニット
南　　浩　美（山中）	935	氷見市加納422	0766－74－3682	
第28回（58年度卒業）				
荒　　和　代	935	氷見市沖布1735	0766－74－5938	小松・北国銀行

編集後記

氷見市ハンドボール協会も昭和29年に創立以来30年を迎えることになりました。この間，ご指導ご支援を賜りました市民の皆さまをはじめ関係各位、諸団体に深く感謝し、厚くお礼申し上げます。創立30周年の記念事業の一環として、記念誌「ひみとハンドボール」を発刊する運びとなりました。この事業に着手してからおよそ３カ月間、しかも少ないスタッフでございましたが、市当局加盟団体、関係各位や先輩諸氏から励ましやらご指導、絶大なるご協力を賜り、発刊の運びとなりましたことを深く感謝申し上げます。

創立30年、市制誕生以来、市民の皆さまと共に歩いてきた30年でございます。その間当協会は氷見高校の国連三連覇、ロス五輪代表・西山選手の出現をみるなど着実にあしあとを残して参りました。今後は先輩諸氏の残された輝かしい伝統と共に初期の目的を十分ふまえ、なお一層の努力を致す所存でございます。皆さま方のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

なお、編集上不備な点がございましたら何とぞご寛容の程をお願いします。終りになりましたが発刊にあたり関係各方面からお寄せ頂いた多大なご指導、ご協力に対して厚くお礼申し上げます。

昭和60年３月

編集委員

地子英信	稲積忠勝
赤萩賢良	浦野修治
山貫克郎	姿　豊晴
松室祐一	中山光広
山崎祐治	大石克哉
北山和仁	田嶋静江
南條絹枝	上　秋美

氷見市ハンドボール協会
「ひみとハンドボール」
昭和六十年三月発行
編集　氷見市ハンドボール協会
　　「ひみとハンドボール」編集委員会
発行　氷見市ハンドボール協会
印刷　藪下紙工印刷株式会社